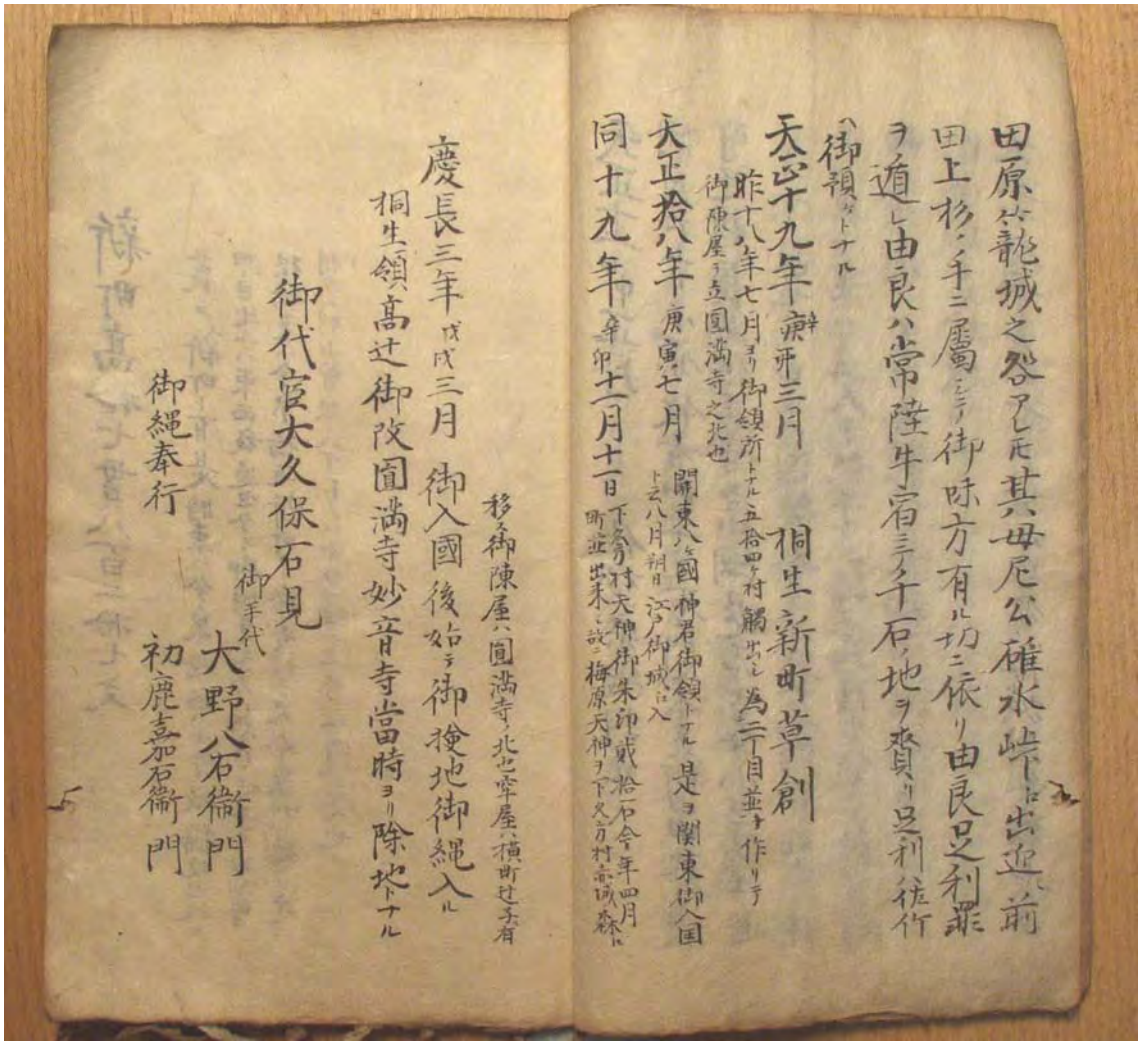
桐生市制施行８０周年・水道創設７０周年記念事業

桐生市歴史年表


田原笠懸城之砌アレハ其母尼公雄水峠ニ出迎ヘ前
田上杉ノ手ニ属シテ御味方有ル切ニ依リ由良足利ヘ
ヲ通ヒ由良ハ常陸牛宿ニテ千石地ヲ賜リ足利住ム
（御領ナトナル）
天正十九年辛卯三月　桐生新町草創
昨十八年七月ヨリ御領所トナル五拾四ヶ村編出シ為ニ一目並ヲ作リテ
御陣屋ヲ立圓満寺之北也
天正拾八年庚寅七月　關東八ヶ國神君御領トナル是ヲ關東御入国
トス八月朔日江戸御城ニ入
同十九年辛卯十一月十日　下今村天神御朱印戴拾石今年四月
町並出来ニ依リ梅原天神ヲ下久方村高城森ニ
移御陳屋八圓満寺ノ北ノ座屋横町辻ニ有
慶長三年戊戌三月　御入國後始テ御検地御縄入ル
桐生領高辻御改圓満寺妙音寺當時ヨリ除地ナル
御代官大久保石見
御縄奉行　御手代　大野八右衛門
初鹿嘉右衛門

写真は「天正年中桐生故事」　桐生市本町六丁目　新居宝氏所蔵

図書館ボランティアの会年表部会　編

桐　生　市　教　育　委　員　会

『桐生市歴史年表』の刊行によせて

『桐生市史』が、昭和 30 年代に故八木昌平氏を中心に発行され、その後『桐生市教育史』『桐生市議会史』が発行されました。

この度、発行の運びとなりました『桐生市歴史年表』は、既に発行されました上記三歴史書の活用の便に供するために編集したものであり、上記三歴史書と一体をなすものであります。

この『桐生市歴史年表』は、桐生市制施行 80 周年・水道創設 70 周年記念事業という記念すべき年に「図書館ボランティアの会」年表部会の皆さんの手によって編集されたものです。

発行にあたり、本来の職の合間をぬって独自の年表作成に取り組んでいただきました年表部会の皆さん、快く資料をご提供いただいた郷土史家など多大なご尽力、ご協力いただいた関係各位に対しまして深甚なる敬意と感謝を表し、ご挨拶といたします。

平成 14 年 3 月

桐生市教育委員会

教育長　中嶋三代支

凡　例

1　この年表は『群馬県史（年表・索引編)』（群馬県：平成 4 年 3 月 3 日発行）を基本に昭和 46 年 3 月 I 日発行市史別巻第 7 編年表（堀越靖久氏担当）を参考として、原始古代から近現代（平成 13 年 12 月）までに桐生市及び本市に関係の深い主な事項を現在、確認できる範囲で収録した。さらに、現代までの補完として、文献では『桐生市教育史（年表)』（桐生市教育委員会：平成 6 年 3 月発行）及び『桐生市議会史（年表編)』（桐生市議会：平成 8 年 10 月発行）を使用し、最新の事項としては上毛新聞及び桐生タイムスから逐次選択し、近世以前については、地元古文書等を引用しながら編集した。

2　年表の構成は、「西暦」「元号」「桐生市の出来事」「世の中の出来事」の 4 欄とした。

3　「西暦」欄には、算用数字を使用し、有史以前についてのみ県史年表に従った。

4　「元号」欄には、県史年表に準拠しながら編集したが、紙面の都合で改元年月日までは記載できなかった。このため、巻末の付録資料の中で補完した。南北朝期における年号は本市の多くが北朝に関係した事から、南朝年号のみを括弧の中に付した。

【例】建武 5（延元 3)

5　「桐生市の出来事」欄には、桐生市でおこった事項及び関係の深い事項を記し、年月日の特定できるものは順次配列し、年のみ特定できるものには◇印を付し、該当年月日の不詳のものや特定できないものについては、「この頃」という表現を用いた。

6　「世の中の出来事」欄には、本市に関連の深い群馬県内の事項と日本史上の主な事項を記し、あわせて世界史の動きを加えた。

7　年月日は、明治 5 年（1872）までは太陰暦を用い閏月は月の前に閏を付し、明治 6 年以後は太陽暦を用いた。

8　事項の記述は原則として常用漢字、現代仮名遣いによる表記を用いたが、固有名詞などの用語には旧字体を用いたものもある。よみかたのわかる範囲で括弧書きとして記した。

9　文書名などには「　」を、著作・刊行物などには『　』を付したが、『群馬県史』及び『桐生市史別巻』からの引用については一部省略した。

10　地名については、その時代に用いられた町村名などを記し、括弧で現在の町名などをできるだけ記した。

【例】仁田山村（川内町 5)

桐生新町については、荒戸新町と称した時期もあるが、桐生新町と表記した。古文書による場合もあるので、一定ではない。

11　人名には敬称を省略した没年齢については、わかる範囲で括弧内に算用数字で表記した。

【例】木村四郎兵衛が没す（73)

12　用語については、出典の根拠となった古文書や文献に使用されているものを、できるだけ現代用語に置き換えた。難解なものについては平仮名を括弧書きで表記した。

【例】買次＝買継。　　千網谷戸（ちあみがいと）

13　特記しておきたい事項については、当該事項に説明を付し、便宜を図った。

14　継続的に生起する事象及び事業については、わかる範囲内で表記した。

15　年表で参考とした典拠資料については、できるだけ当該資料名を記したが、一部省略をしたものがある。

【例】群馬県史（『県史』)。桐生地方史（『地方史』)。関東庭軍記（『庭軍記』)。関東行軍録（『行軍録』)。関八州古戦録（『古戦録』)。桐生老談記（『老談記』)。桐生織物史（『織物史』)。桐生市教育史（『教育史』)。桐生市地名考（『地名考』)。

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
50 万年前ごろ		・関東地方南部の隆起と東部の砂丘形成により、古東京湾が生まれる	
40 万年前ごろ		・箱根火山の活動により、関東ローム層の形成が始まる	
4 万 5 千年前ごろ		・大間々扇状地Ⅰ面の形成が始まる	
4 万年前ごろ		・赤城山が噴火し、県東南部にテフラ（赤城鹿沼軽石）が降下する ※テフラ(火山灰)は火山噴火による空気中の浮遊物が堆積した火砕堆積物の総称。または火山噴出物のうち、火山ガスなどの気体成分を除いたもの。	
3 万年前ごろ		・榛名山が噴火し、県東南部にテフラ（榛名八崎火山灰）が降下する **後期旧石器時代**	
2 万 2 千年前ごろ		・姶良（あいら）カルデラが噴火し、県内にもテフラ（姶良Ｔｎ火山灰）が降下する	
2 万年前ごろ		・浅間山が噴火し県内にテフラ（浅間板鼻褐色軽石群）が降下する ・大間々扇状地Ⅱ面の形成が始まる	
1 万 5 千年前ごろ		・浅間山が噴火し県内にテフラ（浅間白糸軽石）が降下する ・浅間山が噴火し、県内にテフラ（浅間板鼻黄色軽石）が降下する ○後期旧石器時代の遺跡（2 遺跡） ・富士見ヶ丘遺跡（広沢町 2） ・大雄院前遺跡（広沢町 3）	
1 万 3 千年前ごろ		**〔縄文草創期〕** ・浅間山が噴火し、県内にテフラ（浅間草津黄色軽石）が降下する ・浅間山が噴火し、県内にテフラ（浅間総社軽石）が降下する ○縄文草創期の遺跡（16 遺跡） ・不動穴遺跡（梅田町 5） ・岡平遺跡（梅田町 1）	
1 万年前ごろ		**〔縄文早期〕** ・鬼界カルデラが噴火し県内にテフラ（鬼界アカホヤ火山灰）が降下する ○縄文早期の遺跡（15 遺跡） ・普門寺遺跡（菱町 4） ・清水西遺跡（相生町 1）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
6 千年前ごろ		**〔縄文前期〕** ○縄文前期の遺跡（118 遺跡） ・金竜台遺跡（梅田町 1） ・三島台遺跡（川内町 3） ・童子原遺跡（川内町 2）	
5 千年前ごろ		**〔縄文中期〕** ・打製石器が大量につくられる ○縄文中期の遺跡（39 遺跡） ・三島台遺跡（川内町 3） ・大門遺跡（菱町 3） ・金竜台遺跡（梅田町 1）	
4 千年前ごろ		**〔縄文後期〕** ○縄文後期の遺跡（15 遺跡） ・千網谷戸遺跡（川内町 3） ・新屋敷前遺跡（川内町 3）	
2500 年前ごろ		**〔縄文晩期〕** このころ、浮線網状紋の施された千網式土器が制作される。 ○縄文晩期の遺跡（4 遺跡） ・千網谷戸遺跡（川内町 3） ・新屋敷前遺跡（川内町 3）	
BC2300 年前ごろ		**○弥生前期** このころ、水田耕作の技術が桐生市内に普及し、集落が定着していく	
BC300 年前ごろ		**〔弥生中期〕** ○弥生中期の遺跡（15 遺跡） ・千網谷戸遺跡（川内町 3） ・平井町 1 遺跡（平井町） ・大雄院前遺跡（広沢町 3）	
57			・倭国王、後漢に朝貢し光武帝から印綬（「漢委奴国王」金印）を賜る
100 年前ごろ		**〔弥生後期〕** ○弥生後期の遺跡（10 遺跡） ・中里後遺跡（広沢町 1） ・芳ヶ入遺跡（菱町 1）	
107			・倭国王帥升ら、後漢の安帝に使を遣わし、生口 160 人を献上する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
239			・邪馬台国女王卑弥呼、この年より4回魏に使を遣わす
250頃		**○古墳時代** 上毛野君・下毛野君の始祖といわれる豊城入彦命（崇神天皇皇子、垂仁天皇の兄）が、東国を治定すると伝えられる（『日本書紀』）	
350頃		**○古墳時代の遺跡** ・大雄院前遺跡（だいおういんまえ：広沢町3） ・童子原遺跡（川内町2） ・赤城神社(比呂佐和)前遺跡（広沢町3）	・大和朝廷の国内の統一が進む
		このころ、毛野国を上毛野国(かみつけのくに)と下毛野国(しもつけのくに)分ける（『先代旧事本紀』「国造本紀」下毛野国造条）	・大陸文化が伝わる
478			・倭王武（雄略天皇）が宋（南朝）に使いを送る
538			・仏教が百済から伝わる
		このころ、市内でも中小の古墳の築造が認められる（大半が宅地造成により消滅） ※古墳は「古代に営造された高い墳丘をもつ墓」を表わす	
588			・蘇我馬子によって飛鳥寺(法興寺)の建立が始まる
		○市内の主な古墳	
593	推古天皇元	・天王塚古墳（てんのうづか：川内町3） ・三ツ塚古墳（みつづか：錦町2） ・稲荷塚古墳（とうかづか：錦町1）	・4月10日　聖徳太子が摂政となる
603	11	・賀茂神社塚古墳（かもじんじゃづか：境野町3） ・長者塚古墳（ちょうじゃづか：境野町7） ・塚越古墳（つかごし：広沢町4）	・冠位十二階を制定する
604	12	・上人塚古墳（しょうにんづか：広沢町2） ・戦争稲荷塚古墳（せんそういなりづか；新宿3）など	・4月3日　聖徳太子憲法十七条を制定する
607	15		・7月3日　小野臣妹子らを隋に派遣する
620	28		・聖徳太子、法隆寺を建立 ・聖徳太子蘇我馬子ら『天皇記』『国記』などを造る
630	舒明天皇2		・唐に使を派遣する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
645			・大化の改新
667	天智 6		・3 月 19 日　都を近江国大津宮に移す
672	天武元		・壬申の乱
680	9		・このころ、本格寺院が建立される
681	10	10 月 3 日　上野国放光寺の僧、長利が建立した山上碑に、「新川臣」という豪族名が記される	
684	13	◇上毛野君、朝臣の姓を賜る	
701	大宝元	このころ、律令政治の地方支配が一段と整えられる	・大宝律令なる
708	和銅元		・和同開珎が発行される
710	3		・平城京に遷都
711	4	◇甘良・緑野・片岡郡内の六郷をさいて多胡郡を置く。上野国は 13 郡となる（『続日本紀』、多胡碑）	
712	5		『古事記』
713	6	このころ、国名を好字二字にする命が出され、上毛野国を上野国とする	『風土記』
718	養老 2	上野をはじめ東国の五国は、調として元来の布の外に絁（あしぎぬ）を認められる（『続日本記』）	・養老律令を定める
720	4		『日本書紀』完成
726	神亀 3	◇金井沢碑（群馬郡下賛郷高田里の三家（みやけ：屯倉）の子孫、先祖供養のため碑を建てる）	
740	天平 12		・恭仁京に遷都
742	14	◇参議、大野東人没す	
744	16		・灘波京を都と定める
745	17		・平城京に都を戻す

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
752	天平勝宝4	10月　新田郡淡甘郷（みどり市笠懸町阿左美付近）の戸主、矢田部根麻呂が朝廷へ黄絁一疋を調として納める（正倉院宝物黄絁銘文）	・東大寺大仏の開眼供養が行われる
756	8		・正倉院が創設される
757	天平宝字元		・養老律令が施行される
759	3		・鑑真、唐招提寺を建立
765	天平神護元	◇上野国の飢饉に対し賑給する（『続日本紀』）	
771	宝亀2	10月27日　武蔵国の所属を東山道から東海道に改め、上野国新田駅と下野国足利駅を順路とする（『続日本紀』）	
780	11		・東北で蝦夷の大反乱
784	延暦3		・長岡京に遷都
794	13		・平安京に遷都
796	15	8月16日　上野国山田郡の賀茂神・美和神が官社に昇格する（『日本後紀』）	
809	大同4	4月8日　奈良東大寺の僧定恵(じょうえ)小俣村に鶏足寺を建立（こんりゅう）する（「鶏足寺文書」）。創建時は一乗山世尊寺一乗坊。 このころ、大同堀（だいどうぼり）が開削される(現在は広沢用水という)	
816	弘仁7		・空海、高野山に金剛峯寺を創立（伽藍は没後完成）
820	11		・『弘仁格式』を施行
835	承和2	7月21日　道康親王へ空閑地（こかんのち：くうかんち）山田郡80町が下賜（かし）される（『続日本後紀』） ※空閑地とは無主の地。未墾の開発予定地。「大宝令」では既存の灌漑（かんがい）施設を用いて国司が開墾すべき土地を規定している。	
878	元慶2	4月　上野国押領使(おうりょうし)、南淵秋郷、奥州の蝦夷(えみし)叛乱せし時、出陣に際し美和神社に戦勝を祈り賊徒平定の後、美和山に松苗千株を寄植した。これが繁茂し全山松山となったので叢松山(むれまつやま)と呼ばれ後に村松山となって村名となった。	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
878	元慶 2	7 月　上野押領使、南淵秋郷ら蝦夷討伐の際、賀茂神社へ戦勝を祈願し、賊平定の後、松苗千株を寄植報祭する（「千松台縁起」） ※千松台とは彦部屋敷をいう。それより後、千松台と呼ばれるようになった。	
880	4	5 月 25 日　賀茂神・美和神が共に、従五位上から正五位下勲十二等に昇叙される（『三代実録』）	
887	仁和 3		・藤原基経が関白となる
899	昌泰 2		・碓氷坂および足柄坂の関を設ける
905	延喜 5		・『古今和歌集』撰進
927	延長 5		・『延喜式』が完成 ・『倭名類聚抄』が完成
935	承平 5		・平将門の乱が起こる
939	天慶 2	12 月 15 日　平将門、上野国府を襲撃して国司から印鎰（いんやく）を奪い新皇と称して除目を行う	・藤原純友の乱が起こる
940	3	6 月　渡良瀬川が洪水（『地方史』）	
1051	永承 6		・前九年の役が始まる（～62）
1053	天喜元		・平等院鳳凰堂建立
1058	6	3 月　源頼義・義家が、前九年の役のおり広沢郷賀茂神社に参詣し神楽（かぐら）を奏上する（「周東系図」） ◇広沢竹ヶ岡彦部屋敷の竹を源頼義・義家が旗竿とする（「竹ヶ岡八幡宮縁起」） ◇頼義・義家が凱旋のとき賀茂神社に参詣する（「竹ヶ岡八幡宮縁起」）	
1059	康平 2	◇渡良瀬川が洪水	
1073	延久 5	◇梅原天神（天神町 3）が建立される	
1083	永保 3		・後三年の役が始まる（～87）
1086	応徳 3		・白河上皇が院政を始める
1105	長治 2		・藤原清衡が中尊寺を建立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1108	嘉承 3	7 月 21 日　浅間山が大噴火。上野国の至る所に火山灰（浅間Ｂテフラ）が降下し、田畠の多くを埋める 9 月 5 日　上野国司、浅間山噴火の被害が甚大なことを報告する	
1117	永久 5	2 月 15 日　仁田山機（にたやまはた）神社が建立される（白瀧姫伝記略縁起）	
1132	長承元		・得長寿院（三十三間堂）が、平忠盛により造営される
1155	久寿 2	6 月 26 日　新田・足利両氏の祖、源義国が没す（『尊卑分脈』青蓮寺墓石）	
1156	3	◇薗田御厨（みくりや）が立庄（りっしょう）される（『神宮雑書』） ※薗田御厨は太田市吉沢から如来堂（相生町 1 丁目）付近まで	・保元の乱が起こる
1167	仁安 2		・平清盛が太政大臣となる
1172	承安 2	11 月 5 日　薗田御厨に関する文書を左少弁（さしょうべん）藤原兼光に再調査させる（『玉葉』） 11 月 29 日　新田庄司源(新田)義重が薗田御厨の支配を妨害したため、伊勢神宮の神官に訴えられる（『玉葉』）	
1180	治承 4	5 月 26 日　切宇（桐生）六郎が主君足利俊綱の子忠綱に従い、宇治川で源頼政の軍と交戦する（『源平盛衰記』） ※諸本による桐生六郎の表記については切宇ノ六郎（『源平盛衰記』）きりうの六郎（延慶本『平家物語』）喜里宇六郎（長門本『平家物語』）切宇六郎（米沢本『平家物語』）切生の六郎（覚一本『平家物語』）などがある	以仁王、平清盛追討の令旨を下す
1181	養和元	9 月 13 日　桐生六郎が主君足利俊綱を殺害し、和田義茂の陣に降伏する（『吾妻鏡』） 9 月 16 日　桐生六郎鎌倉へ足利俊綱の首を持参する(同上) 9 月 18 日　桐生六郎足利俊綱を討った功賞として御家人に列せられることを望むが認められず斬罪となる（同上）	
1183	寿永 2		・院宣により頼朝に東国支配権の付与
1185	元暦 2		・2 月　屋島の戦い ・3 月　壇ノ浦の戦いで平家滅亡

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1186	文治 2	**〇平安文化** 中国大陸（隋・唐）の影響を受け、畿内を中心に地方へ波及した制度・文化・生活様式はやがて日本独自のものを形成していく（国風文化） 市内の遺跡については祭祀関係を中心とした賀茂神社周辺（広沢町 6）に加え、最近、製鉄遺構を備えたものが、新たに菱町などで発見されている ・皿久保遺跡（さらくぼ：宮本町 4） ・上小友窯跡（かみおとも：菱町 1） ・小谷（津）窯跡（こやつ：菱町 3） ・宿ノ島窯跡（しゅくのしま：菱町 1） ・赤城神社前遺跡（広沢町 3） ・寄居廃寺址（よりいはいじし：広沢町 3） ・神籠石（こうごいし：別に「かわごいし」とも：広沢町 6） ・円台（えんだい：別に舞台（ぶたい）とも：広沢町 6） ※源頼義・義家の伝承あり ・注連尽（しめつくし：広沢町 6） ・山ノ神遺跡（やまのかみ：広沢町 6） ・童子原遺跡（どうじっぱら：川内町 2） ・後世、桐生市に移入されたものであるが、このころの仏像彫刻も市内に散見できる ・光性寺不動明王像（東 4） ・浄運寺観音菩薩像（本町 6） ・最勝寺地蔵菩薩像（錦町 2）	
1192	建久 3	このころ、須永御厨（川内町 3 丁目付近）が立庄される（『神宮雑書』） 8 月　上野国内の伊勢神宮御厨（薗田・須永・青柳・玉村・高山・邑楽）の供祭物などの注進がなされる	・源頼朝が鎌倉に幕府を開く
1193	4	4 月 28 日　源頼朝が新田義重館を遊覧する（『吾妻鏡』）	
1200	正治 2	10 月 11 日　薗田成家（そのだしげいえ、小倉村付近の領主）が京都大番役（おおばんやく）で在京中に法然上人の教えを受け出家し、智明（ちみょう）と号する（『法然上人絵伝』）	
1202	建仁 2	1 月 14 日　新田氏の祖、義重が没す（『吾妻鏡』）	
1203	3		・運慶・快慶ら東大寺仁王像を造る
1205	元久 2	このころ、薗田成家、家子・郎党など 20 余人を教化（きょうげ）出家させ、須永御厨小倉村に庵室（崇禅寺）を設け念仏三昧（さんまい）の生活に入る（「法然上人絵伝」）	
1210	承元 4	9 月 11 日　安達景盛、上野国内における足利忠綱の遺領を幕府に注進する（『吾妻鏡』）	
1212	建暦 2		『方丈記』成立
1213	3	2 月 16 日　信濃国住人泉親衡、前将軍源頼家の遺児を擁し幕府に反抗、薗田成朝（そのだしげとも）・渋河兼守ら与同の罪で逮捕される（泉親衡の乱）（『吾妻鏡』）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1213	建暦 3	2 月 18 日　薗田成朝、預人の上條時綱の家を逐電する(同上) 2 月 20 日　幕府、薗田成朝を恩赦（おんしゃ）する（同上） 5 月 3 日　薗田成朝・和田義盛に味方し、幕府軍と戦い敗死する（『佐野松田系図』） ◇薗田一族は和田義盛の乱に加担し家運衰微。系図では薗田成澄、一成基、一成家・俊基の名がみえる。(『尊卑文脈』)	
1221	承久 3	11 月 9 日　広沢村竜台（りゅうだい）に広沢義実(足利義清の子)次男戸賀崎三郎が阿弥陀堂を建立する(「広沢古事談」)	・承久の乱
1225	嘉禄元		・源氏に代わり北条氏が執権政治を始める
1227	安貞元	◇西方寺（梅田町 1）が草創される（「西方寺文書」）	
1248	宝治 2	9 月 16 日　須永御厨（小倉村）領主薗田成家（智明上人）が、往生を予言して入寂（75）(『法然上人絵伝』)	
1251	建長 3	◇赤城山焼ける	
1253	5		・建長寺建立
1260	文応元		・日蓮『立正安国論』を著し北条時頼に献上
1274	文永 11		・文永の役
1279	弘安 2		・阿仏尼『十六夜日記(いざよいにっき)』を著す
1281	4		・弘安の役
1282	5		・12 月 8 日　北条時宗円覚寺を建立
1297	永仁 5	4 月 30 日　上薗田御厨、綸旨（りんじ）により随心院の知行が承認される	・3 月 6 日　幕府徳政令発布（永仁の徳政令）
1331	元徳 3 (元弘元)	5 月 28 日　渡良瀬川が洪水（『地方史』） このころ、渡良瀬川が足利へ流路を変える **○鎌倉文化** 鎌倉武士を中心とした武家による政治体制は、質実剛健な気風が好まれ、特に社寺建築をはじめ彫刻、絵画などにその特徴が見出される この時期、旧来の仏教に対抗すべく、新興宗教の確立が見られる（鎌倉仏教） ・青蓮寺善光寺阿弥陀三尊像（西久方町 1　青蓮寺所蔵：国指定重要文化財） ・西方寺阿弥陀如来像（梅田町 1　西方寺所蔵：県指定重要文化財）	『平家物語』この頃成立 『徒然草』成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1331	元徳3 (元弘元)	・崇禅寺阿弥陀如来（川内町2　崇禅寺所蔵　智明上人が法然上人から頂いたものという：県指定重要文化財） このころ、浄土宗、臨済宗、曹洞宗などの寺院の建立が見られる	
1333	正慶2 (元弘3)	5月8日　新田義貞が生品神社前において挙兵する	・5月22日　鎌倉幕府滅亡
1334	建武元		・建武の新政 ・南北朝の対立
1336	3 (延元元)	2月　薗田秀澄が新田義貞に随従し、摂津国豊島で足利直義（あしかがただよし）の軍と交戦する（「薗田系図」）	
1338	暦応元 (延元3)	7月3日　東禅寺（川内町1）の六字名号角塔婆（かくとうば）が建立される(市指定重要文化財)	・北朝の足利尊氏が征夷大将軍となる
1349	貞和5 (正平4)	8月18日　足利尊氏が桐生又六郎法師行阿（国綱）あて利根川合戦（所在不明）の軍忠状（ぐんちゅうじょう）を出す（「新居文書」） 8月28日　桐生又六（法名行阿)、桐生郷堤村内の在家（ざいけ)・田地を、桐生国光、桐生郷前原村の在家・田地を、足利尊氏からそれぞれ宛行（あてがい）される このころには、堤村・前原村が成立（同上）	
1350	観応元 (正平5)	9月　初代桐生国綱が西方寺を建立する（『桐生故事』） ◇桐生国綱が桧杓山（ひしゃくやま）城を築城（同上）	
1351	2 (正平6)	5月3日　足利基氏が小俣の尊光へ足利庄の兵を発して凶徒鎮圧を命じる（「鵜足寺文書」） ◇桐生国綱が桧杓山城防御のため下瀞堀（しもとろぼり：新川）の開削を行う（『庭軍記』） ◇桐生国綱が高津戸城（城主山田則之）を攻略する。(『地方史』) 9月1日　足利基氏が世良田村に下向する（「鶴岡社務記録」）	
1360	延文5 (正平15)	このころ、広沢御厨(広沢村～如来堂村付近)が立庄される（『神鳳抄』）	
1362	貞治元 (正平16)	◇彗星が出現する（『赤城神社年代記』）	
1378	永和4 (天授4)	2月4日　賀茂神社（広沢町6）の石灯籠が建立される	・足利義満、花の御所を造営
1391	明徳2 (元中8)	9月12日　2代桐生元義が没す	
1392	明徳3 (元中9)	5月1日　武蔵国深谷の臨済宗国済寺（こくさいじ）開山の峻翁令山和尚が西方寺を浄土宗から臨済宗に改宗する（『広園開山行録』）	・南北朝の講和が成立
1397	応永4		・金閣寺改造に着手

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1400	応永 7	3 月 8 日　鎌倉公方（くぼう）足利満兼より桐生又六郎（国綱）あて伊達大膳太夫･芦名次郎左衛門を征討するよう下知状が出される（「新居家文書」）	『花伝書（風姿花伝）』初めの 3 編成立
1401	8		・明と国交を開く（勘合貿易）
1402	9	4 月 24 日　3 代桐生豊綱（西方寺殿一山天心）が没（「応仁武鑑」）	
1408	15	3 月 6 日　久方村西方寺住持の峻翁令山和尚が没す　（「広園寺世代過去帳」）	
1409	16	4 月 8 日　須永村（川内町 3）の石造地蔵菩薩像が建立される（市指定重要文化財）	
1412	19	◇細川丹後守が鎌倉公方足利氏満から下菱村（菱町 1～4）を拝領する（『庭軍記』）	
1420	27	8 月 19 日　鎌倉公方の足利持氏が桐生蔵人太郎を山田郡桐生 56 郷の地頭職（じとうしき）に補任（ぶにん）する（「新居家文書」）	
1427	34	◇渡良瀬川が洪水（「鶏足寺文書」）	
1428	正長元		・最初の大きな土一揆（つちいっき）がおこる（正長の土一揆）
1433	永享 5	3 月 21 日　4 代桐生三郎義綱（松根院殿一器徳玄）が没す（「西方寺文書」）	
1436	8	9 月 21 日　西方寺住持の万古梵旦和尚が没す（『上野国志』）	
1440	12	8 月 13 日　関東管領（かんれい）の上杉清方より桐生次郎左衛門あて穂積原合戦における軍忠状が出される（『山田郡誌』）	
1450	宝徳 2	このころ、5 代桐生太郎正綱、建長寺より仏印大光禅師を請じて開山として仁田山村（川内町 5 丁目）に宝徳寺を建立する	
1451	3	2 月 6 日　桐生正綱（宝徳菴殿順秀実山）が没す（「西方寺文書」）	
1454	享徳 3		・享徳の乱（～82）
1466	寛正 7	1 月　関東管領の上杉房顕と古河公方足利成氏（あしかがしげうじ）が武蔵国五十子（いかっこ）で対陣する（『新編武蔵風土記稿』 2 月　古河公方足利成氏の催促を受け、武蔵国五十子へと出陣した桐生氏家臣の谷近綱が討死（『地方史』）	
1467	応仁元		・応仁の乱（～77）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1471	文明 3	4 月 15 日　長尾景信・佐野大炊助ら下野国赤見・樺崎の両城を攻略する（「御内書符案」） ◇薗田成光、横瀬国繁に不義し領地没収のところ、古河公方足利成氏の仲介で、薗田庄のうち七郷を安堵される（「薗田系図」）	
1476	8	12 月 7 日　桐生二郎左衛門尉在義（長泉菴殿龍嵓松白）が没（「西方寺文書」） ※在義は在俊とも	
1479	11		・スペイン王国が成立
1480	12	8 月 19 日　須永（川内町 3）の石造弥陀三尊像が建立される（市指定重要文化財）	
1485	17		・8 月　山城・大和・河内国一揆
1487	長享元	12 月 14 日　長尾蔵人・佐野周防守が膳・山上を攻略し、赤堀上野介らと戦う（「赤堀文書」）	
1488	2	3 月 16 日　上杉顕定、赤堀上野介が葛塚要害（新里町山上の諏訪神社域）での佐野周防守の攻撃を防戦したことをたたえる（「赤堀文書」）	・加賀国の一向一揆
1492	明応元		・10 月 12 日　コロンブスがアメリカに到着
1498	7		・ヴァスコ＝ダ＝ガマがインドに着く（カリカット）
1500	9		・京都大火 2 万戸焼く
1506	永正 3	11 月 3 日　7 代桐生六郎親康（青岩寺殿蟠山龍松）が没す（「西方寺文書」）	
1510	7	7 月　桐生重綱の女婿、五覧田城城主松崎左衛門、名代として武蔵国権現山へ出陣し討死する（『庭軍記』） 12 月　連歌師宗長、東海・関東をまわり鎌倉に入る	
1512	9	3 月 5 日　観音寺（川内町 5）の石幢が建立される	
1518	15	2 月 15 日　周東式部丞が賀茂神社（広沢町 6）へ懸仏（御正体）を寄進する（背面墨書銘）	
1519	16		・マジェラン一行が世界周航に出発（～22）
1521	18	4 月　西方寺（梅田町 1）の天叟中樹和尚および佐野大炊助助綱が阿弥陀如来像を修復する（西方寺本尊仏胎内墨書銘）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1522	大永 2	3 月　栖松寺（せいしょうじ：梅田町 1）の石幢が建立される（市指定重要文化財） 12 月　由良(横瀬)泰繁、古河公方足利高基より桐生領広沢郷の渡良瀬川から取水し新田庄へ引水している広沢郷用水権を安堵される（「東大・由良文書」）	
1523	3	1 月 11 日　古河公方足利政氏より桐生左衛門尉重綱あて武蔵国須賀合戦の軍忠状が出される（『山田郡誌』） 3 月　小倉村（川内町 1）の石幢が建立される(市指定重要文化財)	
1526	6		・ムガール帝国がおこる ・幕府、分一(ぶいち)徳政令を出す
1528	享禄元	◇渡良瀬川が洪水（『足利文化史年表』）	
1533	天文 2	8 月 15 日　新居豊前守宗俊が本宿村放光原に、男山八幡宮を勧請する（「新居家文書」） 10 月 6 日　丸山砦（元宿町）の守将、新居重元が没す（同上）	・インカ帝国滅亡
1534	3	◇桐生助綱が里見勝広を赤萩城へ配置し、仁田山村を領有する（『庭軍記』）	
1541	10	◇庁鼻和（こばなわ：埼玉県深谷市国済寺の付近）の小塙乗賢、那波宗俊・厩橋の長野賢忠・成田下総守・佐野周防守らが金山城の由良（横瀬）泰繁を攻める（「龍得寺由緒書」） （注）「由良文書」では那波郡の那波宗俊・厩橋の長野賢忠・桐生の佐野助綱・武蔵深谷の上杉憲賢・同忍の成田親泰とある	
1543	12		・8 月 25 日　ポルトガル人の種子島漂着(鉄砲伝来) ・コペルニクスが地動説を発表
1544	13	3 月 2 日　桐生助綱が下菱村の細川内膳を攻略する(『庭軍記』) 7 月 15 日　桐生助綱が膳因幡守の軍勢を間ノ原（如来堂村と下新田との境で渡良瀬川右岸）で破り、膳城（勢多郡粕川村）まで進攻し、和睦する（同上）	
1547	16	8 月　重足寺(じゅうそくじ:天神町 3)の石幢が建立される(市指定重要文化財)	
1548	17	6 月　足利 13 代将軍義輝の侍女小侍従（こじじゅう）から、彦部雅楽頭晴直へ、生絹・白綾・仁田山紬注文書が出される（「彦部家文書」：市指定重要文化財） ※『桐生市の文化財』(2002）により 6 月に改める	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1549	天文 18		・7 月 22 日　フランシスコザビエル鹿児島にキリスト教を伝える
1553	22	5 月 26 日　横瀬(後の由良)成繁将軍義輝から鉄砲 1 挺を贈られ、馬 1 頭を所望される（由良文書）	・7 月 19 日　長尾景虎、武田晴信と川中島で戦う(以後 5 回、川中島の戦い)
1554	23	このころ、浄土宗の霊誉玉念上人が広沢村（広沢町 1）に庵室を建立し、教化活動を始める（「浄運寺文書」）	
1555	24	5 月 28 日　8 代桐生重綱（碧雲庵殿松嵓正眼）が没す（「西方寺文書」） 8 月 24 日　由良（横瀬から改姓）成繁は北条氏が擁立した古河公方足利義氏から広沢郷用水権を安堵される（「東大・由良文書」）	・毛利元就、陶晴賢を厳島に破る（厳島の戦）
1556	弘治 2	11 月 12 日　長沢次郎左衛門尉、山上郷室沢村の内 4 貫 100 文の土地を桐生佐野氏の某から充置される（「長沢家文書」）	
1558	永禄元	◇霊誉玉念上人が新宿村（新宿 3）へ哀愍寺（あいみんじ）を建立する（「浄運寺文書」） 8 月　上菱村（菱町 5）の小島氏が、屋敷神として塩竈の塩宮大明神を勧請する	・エリザベス 1 世が即位
1559	2	3 月 5 日　由良成繁、将軍足利義輝から刑部大輔の官途を与えられ、御供衆に加えられる	
1560	3	10 月　前関白の近衛前嗣が桧杓山城に逗留（とうりゅう）する（「彦部系図」） ◇彦部信勝が近衛前嗣（龍山）に随従し上久方村居館に移住する（同上）	・織田信長、今川義元を破る(桶狭間の戦)
1561	4	2 月 10 日　由良成繁から、彦部弥太郎(信勝)に広沢郷の内千疋の地(彦部屋敷)が宛行（あてがわ）れる（「彦部文書」） 3 月　このころまでに、関東幕注文が作られる（「上杉家文書」）幕注文の中に桐生衆として、桐生殿（かたくろとあるがかたばみ)、安威式部少輔（梶のは)、薗田左馬助（すはま)、佐野殿（かたくろ)、家風・津布久常陸守（すはま)、山越大膳亮（きっこう)、新居（鷹のは)、松崎（嶋）太（大）和守（根篠)、阿久澤対馬守（丸之内みつすはま）の名が見える。かたばみは片喰のこと 閏 3 月 16 日　長尾景虎、上杉憲政の譲を受けて関東管領となり上杉政虎と改名 8 月 25 日　久方村梅原天神（天神町 3）に神像が奉納される	
1562	5	2 月 17 日　上杉政虎、館林城の赤井氏を攻め滅ぼす 9 月 7 日　近衛前嗣より桐生氏へ感状が出される（「新居家文書」）	
1564	7	2月17日　9代桐生助綱が上杉輝虎(政虎改め)に降伏する(「上杉家文書」) 4 月 8 日　上杉謙信(輝虎改め)が佐野・桐生氏を服属させ、厩橋（うまやばし：現在の前橋）に帰城する（「上杉家文書」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1565	永禄 8	5 月 19 日　足利将軍家元家臣の彦部晴直と息輝信、将軍義輝の暗殺を知り、殉死する（「彦部家文書」）	
1567	10	◇渡良瀬川は毛里田村の大字只上小字三徳から現在の矢場川を流れていたが、足利市の中央を流れるようになった。	
1568	11		・10 月 8 日　織田信長、足利義昭征夷大将軍となる。足利義昭を奉じて京都にのぼる
1570	13	1 月 13 日　由良成繁が足利家国から忠節を賞され佐野大炊助一跡を与えられる（東大・由良文書」）	
	元亀元	5 月 28 日　9 代桐生助綱（龍睡軒殿明嵓道音）が没す（「西方寺文書」）	
1571	2	6 月 16 日　桐生家家臣の荒牧新蔵と由良家家臣の藤生紀伊守善久・高橋丹波守英元が渡良瀬川問題で水論を起こす（『庭軍記』） ◇渡良瀬川の洪水により本宿村（元宿町放光原）の民家が流失する（「新居家文書」）。このため、常見氏は新宿村（新宿・錦町三吉町付近）を開拓し男山八幡宮を移転・最勝寺を建立する（同上）	
1572	3	4 月 20 日　膳備中守が小俣へ侵攻したが、小俣城主渋川義勝の家臣石井尊空らの奮戦で敗退する（『古戦録』）	・閏 1 月 3 日　武田信玄、上野国石倉附近に出陣し上杉輝虎と利根川を挟み対峙
1573	4	3 月 12 日　由良成繁が桧杓山城を攻略する。家臣の山越出羽、谷丹後ら討死。城主桐生二郎親綱は佐野へ敗走する（『庭軍記』） 3 月　由良成繁が藤生善久、横瀬長繁に桧杓山城の守備を命ずる（同上） 6 月 9 日　由良成繁が旧桐生領を巡見する（同上） 6 月 11 日　由良成繁、上杉方による赤石（伊勢崎）城焼討を受け、藤生紀伊守・金谷因幡守に桧杓山在城を命じ元桐生家家臣の新居・茂木の動向を監視し、備えを厳重にさせる（「金谷家文書」）	・4 月 12 日　武田信玄没す ・7 月 18 日　信長槇島城を陥し、義昭を逐う（室町幕府滅亡）
	天正元	12 月 27 日　由良成繁、桧杓山を預かる藤生紀伊守に城の備えを厳重にすることを命じる	
		〇室町文化　本地垂迹説（ほんちすいじゃくせつ）の影響を受けた賀茂神社（広沢町 6）の本地仏（現在、法楽寺御正体：市指定重要文化財）や、法楽寺の千手観音像が造られる ・毘沙門天像（東禅寺：川内町 1） ・釈迦如来坐像（崇禅寺：川内町 2）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1574	天正 2	2 月 2 日　上杉謙信、沼田城に入る 3 月 13 日上杉謙信、膳・山上・女淵・深沢・五覧田の諸城を落とす 3 月 27 日　富岡重朝、北条氏政から上杉謙信が桐生から羽生口に向ったことにより出陣を求められる（「富岡家文書」） 4 月 25 日　北条氏政、由良国繁に桧杓山･金山両城における越後勢撃退の功を賞する（「東大・由良文書」） 4 月 27 日　由良成繁、藤生紀伊守に壁柱・小竹などの建築材を調達するよう命じる（「藤生家文書」） 5 月 1 日　由良成繁、桧杓山城へ隠居する（『行軍録』） 5 月 29 日　厩橋衆、上杉謙信に従い、広沢に張陣して用水を切り落とし金山城由良氏の兵と戦い 20 人余りを討ち捕らえる（「田中家文書」） ◇鳳仙寺が建立される（『天正遺事』） 5 月 30 日　上杉謙信、西庄（さいのしょう：赤堀町・東村・笠懸町西鹿田）・新田領等に進攻し、その後桐生領広沢へ引き返す（「田中家文書」） 10 月 13 日　謙信、仁田山城を攻撃し、15 日攻略する 11 月　上杉謙信、金山城を攻撃し由良方の猿窪砦（川内町 5 の皿久保の地を比定）を攻略。男女残らず討ち取る（「上杉家文書」）	「洛中洛外図屏風」
1575	3	4 月　由良成繁、大浜天神山の天神社を梅原へ遷座する 9 月 14 日　由良国繁、古河公方足利義氏より桐生領黒川谷寄居ほかを攻略した戦功を賞される（『集古文書』） 9 月　新田氏の軍神母衣輪権現社（ほろわごんげんしゃ：本町 3）が太田天神山東南山麓より勧請される（同上） ◇青蓮寺（しょうれんじ：西久方町 1）が新田郡岩松村より移転される。普門寺（菱町 4：開山は黙外寂曜）が建立される（同上） ◇泉龍院（菱町 2）が建立される（『老談記』）	
1576	4	◇由良成繁、桧杓山城で大海優婆口の茶釜を鋳造する（『新田金山記』） ◇由良成繁、入道して宗得と改名する（『上野人物志』）	・2 月 23 日　織田信長、安土城を築き移る
1577	5	2 月 15 日　藤生紀伊守・中里若狭守が堀越新内・荒井新助へ広沢寄居（広沢町 3）番所の武具類の請取書を発する（「藤生家文書」） 3 月 28 日　小田原北条氏（差出人、梶原政景）が金山・桧杓山・伊勢崎城の普請を命じる。桐生但馬守の名が所見される（『歴代古案一』） 9 月 28 日　彗星が出現する（『赤城神社年代記』） ◇鳳仙寺の黙之宗茁が、道円のために光林の二字を揮毫（きごう）する（「小林家文書」）	
1578	6	3 月　里見勝政・勝安兄弟が深沢郷の阿久沢能登守・松嶋式部の援助により高津戸城を修復し砦を構築する（『庭軍記』） 5 月 2 日　里見兄弟、養命（永明・用命とも）砦を夜襲し、守将の石原石見守を取り逃がす（同上） 6 月 8 日　由良成繁・国繁父子、上杉氏の動静を小田原の北条氏政に伝える	・3 月 13 日　上杉謙信没す

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1578	天正 6	6 月 12 日　由良成繁・国繁父子、北条高広（きたじょうたかひろ）・景広父子の動静を総社(前橋市内)の長尾憲景に伝える（『歴代古案一』） 6 月 29 日　桧杓山城主の由良成繁（鳳仙寺殿中山宗得）が没す（73） 9 月 17 日　由良国繁が高津戸城を攻略する。里見兄弟が戦死（『庭軍記』）	
1579	7	5月6日　北条氏政から由良国繁あて領地支配の下知状が出される（『集古文書 31』） 5 月 27 日　玉念ら近江国安土の浄厳院で日蓮宗の僧と法論に及び、折伏（しゃくぶく）させる（「浄運寺文書」） 8 月　由良国繁、黒川山中で阿久沢・松嶋の軍勢と交戦し和睦する（『古戦録』） 10 月 9 日　由良国繁から堀越上総入道へ武田勢撃退の感状が出される（「五宝院文書」）	
1580	8	3 月 9 日　武田勝頼、北条（きたじょう）長門守高政に仁田山（川内町 5）の宛行を約束する（「北条家文書」）	
1581	9	9 月 15 日　長沢丑之助、勝合戦の功により、5 貫文の土地を宛置される（「長沢文書」）	・オランダが独立宣言
1582	10	3 月 23 日　織田信長家臣滝川一益、箕輪城に進駐する（4 月、厩橋に移る） 6 月 19 日　由良国繁、厩橋から和田（高崎）へ到着。同日、神流川を押し渡り、金窪原で北条方と合戦（「和田記」） 11 月　桧杓山城代の藤生紀伊守が主君の由良国繁へ治政の道を説いた上表書を提出する（『日本教育文庫　家訓篇』）	・3 月 11 日　武田勝頼天目山で没す ・6 月 2 日　本能寺の変（織田信長没す）
1583	11	◇荒戸原に新町建設のため検地がなされる（『天正遺事』） 藤生紀伊守が栄春朔和尚を開山として大雄院（広沢町 3）を建立する	・8 月 28 日　秀吉、大阪城を起工
1584	12	2 月　由良国繁・長尾顕長兄弟が北条氏政・氏直の奸計（かんけい）に陥り小田原城中へ拘禁（こうきん）される（『古戦録』） 3 月　小田原北条軍、金山城へ進攻する（同上） 4 月　北条氏が桐生領深沢(現黒保根町宿廻)に侵攻する（『古今消息集』） 5 月 28 日　北条氏直、深沢城主阿久沢彦次郎に対し五覧田城攻略にあたり仁田山村所々の充行を約束する（「阿久沢家文書」） 7 月　由良国繁・長尾顕長兄弟、太田金龍寺・足利長林寺の二住持の和睦交渉により小田原から帰城が許される（同上） このころ深澤・五覧田合戦が続く	
1585	13	5 月 26 日　由良国繁、後北条氏に降伏し桧杓山城に退去する。鉢形(埼玉県寄居町)城主の北条氏邦、広沢用水の乱妨につき裁定する（「原家文書」）	・羽柴秀吉が関白となる姓を藤原と改める
1586	14	1 月 11 日　新宿村下宿の哀愍寺の開山霊誉玉念が没す	・12 月 19 日　羽柴秀吉が太政大臣となり豊臣姓を賜う
1587	15		・6 月　秀吉がキリスト教の布教を禁じる

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1588	天正 16	9 月　彦部信勝、憲俊和尚を開山として福厳寺を下広沢村（広沢町 5）に建立する 10 月　由良国繁、隣接する黒保根村阿久沢領に侵攻（『相州文書』）	・7 月　イギリスがスペインの無敵艦隊を破る ・7 月 8 日　秀吉の刀狩令
1589	17	11 月 26 日　由良国繁、北条氏政の命により林越中守・茂木右馬允・藤生紀伊守ら 360 騎の兵を率いて、小田原城へ籠城する（『地方史』）	
1590	18	4 月　由良成繁の妻妙印尼、孫の貞繁を伴い 300 騎の兵を率いて前田利家・上杉景勝の麾下（きか）となり松井田城を攻略する（『地方史』） 5 月　桧杓山城を豊臣方の前田利家に明け渡す。その際妙印尼が由良氏の存続のとりなしを懇請する（「金谷家文書」） 6 月 7 日　前田利家、由良妙印尼あて推挙状を出す（「金谷家文書」：市指定重要文化財） 7 月　豊臣秀吉、由良妙印尼へ碓氷口攻略の感状を出す 7 月 8 日　小田原落城 8 月 1 日　由良国繁が常陸国牛久へ転封となる。知行高 5000 石（「安川・由良文書」） ◇桐生領は江戸城主徳川家康の支配となる（寛文元年閏 8 月移封） 8 月 7 日　由良家臣の藤生紀伊守（高厳全玖）が没す 10 月　榊原康政が来桐する（「小島家文書」） ◇桐生領から徳川家康へ旗絹が献上される（口上書）	・徳川家康が井伊直政に命じ碓氷峠に関所を設置 ・秀吉が全国を統一 ・8 月　井伊直政、箕輪藩 12 万石 ・榊原康政、館林藩 10 万石 ・平岩新吉、厩橋藩 3 万 3 千石 ・奥平信昌、宮崎藩 3 万石 ・松平康真、藤岡藩 3 万石 ・真田信幸、沼田藩 2 万 7 千石 ・菅沼定利、吉井藩 2 万石 ・本田康重、白井藩 2 万石 ・松平家乗、那波藩 1 万石 ・里見義成、板鼻藩 1 万石の藩主となる
1591	19	1 月　榊原康政、領内の検地を行う この年、館林城城郭の拡張工事に着手し、城下町の移転や整備を始める 4 月　久方村梅原天神（天神町 3）を久方村赤城森（天神町 1）へ遷座する（『天正遺事』） 11 月　久方村鳳仙寺（梅田町 1）・久方村天満宮（天神町 1）が朱印地拝領となる。曹洞宗鳳仙寺に寺領 10 石、天満宮に社領 20 石を拝領 ◇大久保長安の手代大野八右衛門により桐生新町が創設される（天正 11 年、慶長 10 年、慶長 11 年説もある）	
1592	20 文禄元	◇高橋丹波守・新井土佐守らが境野村を開拓する（『境野の地理的研究』）	・3 月　朝鮮出兵（～97）（文禄の役・慶長の役）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1594	文禄 3	11 月 6 日　由良成繁妻妙印尼（得月院殿月海妙印大姉）、転封地の常陸国河内郡牛久村で没す（81） 墓石に「祖師再来意」とある	・8 月 1 日　伏見城竣工
1597	慶長 2	◇智叟玄格（ちそうげんかく）、長谷寺（ちょうこくじ：山地村津久原、梅田町 5）を建立する（「西方寺文書」）	
1598	3	1 月　高橋丹波守、上広沢村大雄院二世牛室香馨を開山として、祥雲寺を建立する 3 月　代官大久保長安、桐生領の検地を行う（『天正遺事』）	・8 月 18 日　秀吉没す（63 歳）
1599	4	11 月　彦部加賀守子孫の出雲守秀昌、臥竜伊天和尚を開山として下広沢村(広沢町 6)に東方寺を建立する（『山田郡誌』）	
1600	5	7 月　桐生領 54 か村、関ケ原の戦いの際、徳川方に旗絹 2410 疋および竿竹を献上する（「広沢八幡宮縁起」） **〇桃山文化** 桐生地方で桃山風を伝える建造物として、桐生天満宮末社春日社（正しくは境内社）がある（木造一間社流造）	・関ケ原の戦い ・イギリスが東インド会社をつくる
1602	7		・オランダが東インド会社をつくる
1603	8		・2 月 12 日　徳川家康が征夷大将軍となり江戸に幕府を開く
1604	9		・8 月　諸国道路に一里塚が設置される（「当代記」）
1605	10	4 月　大野八右衛門・初鹿嘉右衛門が新町を創設する（『岩下旧記』『天正遺事』） 11 月　天満宮境内で絹市開始（同上）	・11 月　浅間山噴火、翌年正月まで続く
1606	11	◇前原大蔵、久保村宮東(東久方町 1)に大蔵院を建立する（『今泉村古事談』） ◇周田喜右衛門が小間物店を開業する（「今泉村民家見聞録」） ◇榊原康勝、館林城主として 10 万石を襲封する	・5 月 25 日　東海道に大風雨
1609	14	7 月 11 日　境野村の祥雲寺を開基した高橋丹波守英元が没す	
1610	15	9月9日　大野八右衛門が天神宝殿を奉納する(「天満宮縁起」)	
1611	16	1 月 2 日　由良国繁（瑞源寺殿奇山良太）が牛久村で没す（62）	
1612	17	6 月　浄運寺、新宿村から桐生新町 6 丁目西側へ移転する（『天正遺事』）	・3 月 21 日　キリスト教の信仰を禁止
1613	18	9 月 13 日　小島摂津らが、常祇稲荷明神社を荒戸今泉村槻原より移転する（『今泉村古事談』）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1614	慶長 19	3 月 22 日　桐生新町創設者の大野八右衛門が没す（「金子太郎兵衛覚書写」）	
1615	20	4 月　桐生領 54 か村、大坂夏の陣に際し、徳川氏に旗絹を献上する（口上書） 5 月 9 日　絹市に集った商人が大坂での勝利を祝う（『桐生故事』）	・大阪夏の陣豊臣氏滅びる
1617	元和 3		・3 月　日光東照宮、社殿竣工
1622	8	8 月 7 日　門前住の百姓ら、鳳仙寺へ小作証文を提出する（「鳳仙寺文書」）	
1624	寛永元	◇太田大光院の然誉呑龍が、了(良)雲院殿（徳川家康側室。於竹の方。振姫母）より拝領の袈裟を、下新田村（相生町 2）の大善寺へ寄進する（同寺袈裟裏書） ◇久方村峯から、桐生新町 2 丁目西裏へ陣屋を移転する（『桐生故事』） ◇岩下雲碩が光明寺を建立する（「光明寺文書」） 8 月 5 日　由良氏元家老の金谷因幡守（露雲宗秋庵主）が没す（『新田老談記』『上野人物志』） ◇渡良瀬川の洪水により、境野村間ノ島が境野村より分断される（「高橋家文書」） このころ、桐生・江戸との運送が下野国の北猿田河岸経由で始まる（『足利織物業沿革誌』）	
1625	2	◇この年、日光杉並木の植樹が始まる ◇道故了的が定善寺(新宿村、新宿 3)を建立する	
1626	3	◇渡良瀬川が洪水	
1627	4	9 月　延暦寺の僧実呼法印が近江国大津から下向し、観音寺（下仁田山村、川内町 5）を再興する（「観音寺文書」）	
1629	6	10 月 21 日　天海大僧正の門弟覚盛法印、桐生新町横町南側に栄昌寺を建立する（「栄昌寺文書」）	
1631	8	12 月 4 日　下広沢村(広沢町 5・6)の領主が、名主百姓中へと年貢割付書を交付する ◇9 月 19 日渡良瀬川が洪水(関東地方大洪水)	・4 月 2 日　浅草寺焼失
1633	10		・2 月 28 日　最初の鎖国令が出る
1634	11	◇中観哲将法師が荒戸今泉村（東 4）に光性寺を建立する	
1635	12		・6 月 30 日　外様大名の参勤交代が定まる
1636	13		・4 月 10 日　日光東照宮の造替完成
1637	14		・11 月 9 日　島原の乱

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1639	寛永 16	8 月　桐生新町 6 丁目浄運寺の客殿・惣門が建立される	・7 月 4 日　ポルトガル船の来航を禁止(鎖国令)
1641	18	7 月　桐生又兵衛尉正吉が鳳仙寺へ梵鐘･鐘楼を寄進する(「鳳仙寺梵鐘銘」)	
1642	19		・イギリスで清教徒革命（～49）
1643	20	このころ、桐生新町 3 丁目東側 96 で佐羽孫兵衛が絹買商を開業する（「石原家文書」）	・ルイ十四世がフランス王となる
1645	正保 2	このころ、桐生紙・飛駒厚紙が知られるようになる ※同じ紙だが上州側と野州側で名称を異にした	
1646	3	◇桐生絹市が始まる（『足利織物史』） ◇桐生地方の旗絹上納が金納（旗絹代永納）となる（「高草木家文書」・明暦 2 年説もある）	
1648	慶安元	8 月 17 日　荒戸村の聖眼寺(元宿町)が朱印地拝領となる(「聖眼寺文書」)	
1649	2	5 月　上久方村(梅田町 1)西方寺の奇元太山和尚、幕府へ朱印地拝領願書を提出する（「西方寺文書」） 10 月 17 日　高沢村高園寺が朱印地拝領となる(「高園寺文書」) ◇足尾銅山街道の道筋が整備される	・慶安の御触書が出る ・6 月 20 日　江戸大地震
1652	承応元	このころ、上菱村(菱町 5)で紙漉（かみすき）開業「村岡文書」)	・2 月 28 日　江戸大火
1655	明暦元	8 月 15 日　清祐法印が上広沢村（広沢町 2）に普門院を建立する	・玉川上水を江戸に引く
1656	2	6 月　桐生新町で絹市と牛頭天王祭礼（ごずてんのうさいれい）が行われる（「新居家文書」） ◇天王祭礼で子供踊神事を始める（寛政 11 年 7 月廃止）	
1657	3		・1 月 18 日　江戸本郷本妙寺から出火し大火となる(江戸明暦の大火) ・徳川光圀『大日本史』編集に着手
1658	万治元	7 月 16 日　高園寺ほか 7 か寺が、本寺の鳳仙寺へ末寺誓約書を提出する（『地方史』） ◇大間々絹市が開設される	
1660	3	◇桐生新町検地（「吉田家文書」）	・1 月 20 日　江戸大風雨

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1661	寛文元	閏8月　桐生領が館林藩徳川綱吉の支配地となる（天和2年8月まで） ◇桐生領民、幕府へ天領継続を請願する（『温故録』） ◇桐生新町の各町内に、この年から火消役が2人任命される（新町1～6丁目は各2人・横町は1人の計13人）	・8月9日　徳川綱吉を館林25万石に封じる
1663	3	11月　上広沢（広沢町1～3）・中広沢（広沢町4）村が領主へ山水帳を差出す ◇永取の水帳石高制が実施される（「金子家文書」） ◇館林から来た竹本養意が、今泉村十本原金谷因幡屋敷を買い、医者を開業する（『地方史』） ◇桐生新町の検地で貫文表示が石高表示に改められる（『県史』）	
1664	4	◇各町村、館林藩へ旧臣取調書を提出（「天笠家文書」） ◇矢場堰水門組合、邑楽郡木戸村から同郡上早川田村の雷電神社裏まで新しく川を開削したため、矢場川と渡良瀬川が直結する（『県史』）	
1665	5	3月　大雄院3世桂山玖昌、中広沢村に宝珠院を建立する このころ、下菱村で宗門人別改が実施される（「鳳仙寺文書」）	・幕府、諸藩に宗門人別改めを命ずる
1666	6	8月　西方寺門前百姓ら西方寺へ朱印山立入に関する手形証文を提出する（「西方寺文書」） ◇山地・上菱・下菱・小友村検地（「小島家文書」）	
1667	7	2月25日　館林藩主徳川綱吉、桐生新町の検地を行う（「金子覚書」） 3月　新宿村検地（「横山家文書」） 8月14日　光明寺開基の岩下雲碩が没す	・安中藩主，水野元知除封、6月8日堀田正後入封
1668	8	◇須永・高津戸・上、中、下仁田山村・名久木村検地（『山田郡誌』）	・足利学校再興
1669	9	3月　境野村検地（「高橋家文書」） ◇東小倉・西小倉・下新田・如来堂・天王宿・蕪町村検地（『山田郡誌』） ◇応山牛喚が下久方村（天神町3）に久昌寺を建立する	・6月14日　勘定頭、岡上景能、笠懸野新田開発を視察
1672	12	3月　下久方村検地（「田村家文書」） ◇今泉・村松・堤・本宿・上久方・浅部・高沢・二渡村検地（同上） ◇岡登用水堀が開削される（『山田郡誌』） ◇足尾銅山街道の新田郡本町村に銅問屋が置かれ、上野国内の街道周辺の幕府領59か村が御用銅運搬の役郷に指定される	・12月11日　館林城下大火300戸焼失する
1673	13 延宝元	3月　新町・荒戸・上久方・下久方・浅部・高沢・二渡・山地・上菱・下菱・小友村再検地（「安蔵家文書」） ※安蔵氏は山地村（梅田町5丁目）の名主	・5月22日　京都大火
1674	2	◇上広沢・中広沢・下広沢・一本木村検地（「丹羽家文書」） このころ、上久方村（梅田町1）の西方寺が焼失する（「西方寺文書」）	・1月23日　江戸に暴風雨

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1674	延宝2		・2月　キリスト教禁制の高札が立つ
1676	4	8月　天満宮神主前原勝吉が、天満宮の鐘を鋳造する この頃から足尾銅山の年間採掘量が35万～40万貫目となる	
1679	7	2月5日　神主前原勝吉、天満宮奉納句集『苧くそ頭巾（ほくそずきん)』を発刊する（上州における俳諧資料の初見） 4月5日　雷電山に石宮雷電社が建立される（「金子太郎兵衛覚書写」）	
1681	9 天和元	3月25日　医師の竹本養意が没す ◇上菱村で桑永を上納する（「村岡家文書」）	・3月　諸国巡見使を派遣
1682	2	5月　新宿村で切支丹禁制の高札が掲示される（「横山家文書」） 7月　桐生領民、幕府へ天領復活を請願する（『温故録』） 8月　桐生領、旗本分給支配となる（桐生新町は神尾元清領）	・井原西鶴著『好色一代男』 ・江戸駒込大円寺から出火し大火となる(八百屋お七の大火) ・ロシアでピョートル1世が即位
1683	3	閏5月　三峯山（旧名久木と上久方・高沢村の山境で金沢峠から三峯山付近一帯）入会地紛争がおこる（『山田郡誌』） ◇新宿村雷電神社が錦町に移転する	・6月28日　館林城破却に着手
1684	貞享元	6月　桐生新町2丁目西側266の絹買商書上家、江戸の絹問屋大塚屋庄右衛門に日野絹・桐生絹を出荷する（『県史』） 7月　源安信、浄運寺へ大絵馬を寄進する	・12月20日　日光山大火、市街も焼失
1685	2	8月　三峯山入会地紛争の裁許状がくだる	・この年、前橋藩、社倉法を実施する
1686	3	10月　中広沢村(広沢町4)の宝珠院に涅槃図が寄進される	・5月24日　江戸大地震
1687	4		・ニュートンが万有引力の法則を発見
1688	元禄元		・イギリスの名誉革命 ・井原西鶴著『日本永代蔵』
1689	2	12月22日　幕府、山田郡堤村と同郡本宿村との秣場（まぐさば）をめぐる境界を裁定する（「新居家文書」）	・松尾芭蕉「奥の細道」の旅に出る

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1689	元禄2	◇桐生新町3丁目東側98～100の母衣輪社境内に市神社造営	
1690	3	12月　上久方村（梅田町1）の渭雲寺本堂再建につき、本寺の西方寺へ資金の借用を申し出る（「西方寺文書」）	
1692	5	8月　天満宮神主の前原与右衛門、幕府へ天満宮の流鏑馬神事の再興を願い出る（「新居家文書」） このころ、境野村の詩人で絹買の下山五郎左衛門藍斎、京都との絹糸取引を始める（『絹市故事』）	・1月20日　小犬憐れみの令を出す
1693	6	1月16日　鳳仙寺、寺社奉行へ常法幢免許を願い出る（「鳳仙寺文書」） 9月　山地村（梅田町5）の長谷寺（ちょうこくじ）が本寺の西方寺へ本山からの命令書の請書を提出する（「西方寺文書」） ◇延命寺(中仁田山村、川内町5)の梵鐘が鋳造される	・9月9日　鷹狩を廃止
1694	7	◇桐生新町名主小林平右衛門の排斥訴訟がおこる（『天正遺事』）	・10月12日　芭蕉没す(51)
1695	8		・8月11日　幕府貨幣の改鋳を始める
1696	9	5月16日　西方寺と門前百姓との山出入がおこる（「西方寺文書」） このころ、新町の書上三郎左衛門が京都と絹取引を始める（「書上家文書」）	・10月6日　鳥見役を廃止
1697	10	閏2月15日　堤村の領主、村役人へ子年皆済目録を交付する（「大沢家文書」） 8月　甘露（かんろ）降る（『赤城神社年代記』） ※甘露とは天から与えられる甘い不老不死の霊薬。中国古来の伝説では天子が仁政を行うめでたい前兆として天から降るといわれている。 ◇如来堂村（相生町1）の報身寺、奥州巻雲寺住持に縁起書作成を依頼する（「報身寺文書」）	
1698	11	2月　下広沢村(広沢町6)の彦部弥三郎信毗が機屋（はたや）年季奉公人を雇用する（「彦部家文書」） 4月　桐生領54か村総代と江戸本石町紀伊国屋伊右衛門が上州産絹の運上金徴収請負をめぐり争う（『岩下旧記』） ◇鳳仙寺、納税延期を願い出る	・9月6日　江戸大火
1700	13	3月　今泉村の東勝寺住職の某が、本寺の西方寺竜臥祖呑へ不調法の始末を詫状にて提出する（「西方寺文書」） ◇伊勢屋八之丞が質屋を始める（『織物史』）	・幕府、金1両＝銀60匁＝銭4貫文とする ・9月11日　日光奉行を設置

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1701	元禄 14	8 月 18 日　渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』）	
1702	15	5 月　上広沢村（広沢町 3）の大雄院の梵鐘が鋳造される ◇渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』）	・12 月 14 日　赤穂浪士吉良邸に討ち入る
1703	16	4 月 11 日　中広沢村の周藤次左衛門、八王子山へ籠山満願碑を建立する 7 月 16 日　藤原保信が普門寺へ大絵馬を寄進する	・1 月 11 日　若年寄本多正永、5 千石加増で沼田城再築を命じられ藩主となる
1704	宝永元	1 月 1 日　浅間山が噴火する 6 月 25 日　渡良瀬川が洪水（『天正遺事』） このころ、近江国、日野・八幡町などの商人が上州各地に出店し始める（『県史』）	・1 月Ｉ日　浅間山噴火江戸に地震頻発
1705	2	6 月　渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』） 8 月 6 日　上久方村の西方寺の梵鐘が鋳造される（同上） 8 月 24 日　下新田村の薬王寺の梵鐘が鋳造される（同上） 12 月　縫師の五郎兵衛が上広沢村の大雄院刺繍涅槃図（ししゅうねはんず）を調製する（涅槃図背銘、県重要文化財）	
1706	3		・ロシアがカムチャッカを占領
1707	4	1 月　松平清武館林に入封、翌年築城に着手 7 月 4 日　前橋藩 15 万石となる	・11 月 23 日　富士山噴火、宝永山できる
1709	6		・徳川家宣に間部詮房・新井白石登用される(正徳の治)
1711	8 正徳元	3 月　東小倉村の東禅寺の梵鐘が鋳造される	・この年、しばしば江戸で大火
1712	2	◇桐生新町に 2 代目御輿が出来る（『岩下旧記』） ※世話人岩下三郎右衛門が江戸富沢町のかざり職人八兵衛の世話で制作する	・2 月 8 日・2 月 23 日　江戸で大火
1713	3	2 月　上仁田山村の百姓が領主へ五人組帳を提出する（「高野家文書」） ◇渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』）	
1716	享保元	6 月　西荒戸本宿村・堤村・村松村の番水が開始される（「金子覚書」） このころ、今泉村の小林右兵衛が地黒（上絹黒染）を製造する（『市機（いちはた）の記』） このころ、京都糸絹問屋の近江屋新十郎手代が桐生新町で染問屋の取り立てを願い出る	・8 月 13 日　徳川吉宗 8 代将軍となり、享保の改革始まる

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1717	享保 2	8 月　渡良瀬川が洪水（『境野の地理的研究』）	・徳川吉宗、大岡忠相を江戸の町奉行に登用
1718	3	このころ、飛脚十七屋が桐生店を開業する（『織物史』）	
1719	4	3 月 7 日　絹買商の書上三郎左衛門が没す	
1720	5	6 月　玉上甚左衛門が越後屋絹代買を請負う（『三井文庫』） 6 月　京都の飛脚問屋、近江屋五兵衛、三井越後屋の上州絹の輸送を請負う（『県史』）	・江戸町火消いろは 47 組を創設
1721	6	6 月　三井越後屋、桐生新町の玉上甚左衛門家を絹買宿に指定する（『県史』） 6 月　浅間山が噴火する ◇渡良瀬川が洪水（「浄運寺文書」） ◇この年の上野国の人口　56 万 9550 人	
1722	7	◇越後屋桐生店が開業する（『三井文庫』）	・新田開発を奨励 ・小石川養生所を設ける（12 月 7 日）
1723	8	8 月 10 日　渡良瀬川が洪水（『天正遺事』） ◇京都の張物師（はりものし）、久兵衛が桐生地方に白張法（しらはりほう）（吟手張：ぎんしゅばり）（吟手染：ぎんしゅぞめ）の技法を伝える（「吉田家文書」） ※張屋には、布張と紅染の 2 つがある。紅染は享保 18 年に伝来する	
1727	12	6 月 29 日　横瀬貞顕・貞国が由良成繁 150 回忌追善菩提のため鳳仙寺へ妙法蓮華経普門品を奉納する ◇桐生新町の新居峯章が佐野在田沼方面へ織物国売を始める（『絹市故事』） このころ、西小倉村（川内町 2）の崇禅寺の表門が新築される（「崇禅寺過去帳」）	
1728	13	4 月　桐生領、日光東照宮社参につき加助郷を命じられる（『織物史』） 9 月 2 日　渡良瀬川が洪水（『天正遺事』）	
1729	14	8 月　島屋佐七、桐生新町の買継商の世話により伊勢崎町に飛脚屋を開店する ◇新居藤右衛門・次兵衛兄弟が越後屋から絹代を借用する（『三井文庫』）	
1730	15	12 月 14 日　上広沢村の中里四郎兵衛、大間々市（いち）で規則違反に問われ絹を没収される（『絹市故事』）	
1731	16	1 月　絹買仲間が成立する（「新居家文書」） 2 月 13 日　桐生絹市が 5･9 の絹市日を大間々絹市の前日の 3･7 の日に変更する（『絹市故事』）（享保 13 年説もある） 7 月 7 日　渡良瀬川が洪水（「高橋家文書」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1731	享保 16	7 月　桐生市場規則が成立する（「新居家文書」） ◇高橋光吉・守行が『今泉村民家見聞録』を著わす ◇高橋五大夫が『関東庭軍記』を著わす ◇甘露降る（『赤城神社年代記』） このころ、高橋守行が『今泉村古事談』を著わす	
1732	17	5 月　下菱・小友・今泉・新宿・境野村の入会地をめぐって訴訟がおこる（『山田郡誌』） ◇二渡村（梅田町 4）下の原入会地をめぐって訴訟がおこる（「星野家文書」） ※下の原は安永 5 年（1776）までは上の原と一緒で原と呼ばれていた（『地名考』） ◇桐生新町の長沢正往が酒造を始める（「長沢家文書」）	・享保の大飢饉
1733	18	◇京都の太郎兵衛が桐生へ紅染を伝える（『絹市故事』）	
1736	元文元	◇近江屋喜兵衛が荒物店始める	
1737	2	◇渡良瀬川が洪水（「彦部家文書」）	
1738	3	6月　桐生新町3丁目の衆生院境内(母衣輪社境内)に御輿蔵が建立される（『天正遺事』） ◇京都西陣の織物師弥兵衛・吉兵衛が桐生新町へ高機（たかはた）技術を伝え本格的な絹生産が始まる（『絹市故事』）	
1739	4	9 月　下菱村に機神社が勧請される ◇渡良瀬川が洪水	・青木昆陽幕府に登用される
1740	5	4 月 16 日　桐生新町 4 丁目で火事 5 月 31 日　歌人の安蔵仲福が没す 8 月　西小倉村（川内町 2）の崇禅寺の梵鐘が鋳造される	
1741	寛保元	3 月　下広沢村の百姓らが領主へ前年（申年）の村入用帳を提出する（「彦部家文書」） ◇桐生の高機 40 台余（『市機の記』）	
1742	2	8 月 1 日　渡良瀬川が洪水・境野村の堤防が決壊（「高橋家文書」） ◇小友村（菱町 1）甚左衛門、はじめて邑楽郡川俣から女子機織り奉公人を雇用すると伝える（『絹市故事』） ◇寛保 2 年 10 月現在桐生新町戸数 278 戸、内借家 95 戸質屋 4 人・指物屋 3 人・餅屋 7 人・医者 6 人・馬喰 3 人造酒屋 1 人・建具屋 1 人・仕立屋 1 人・傘屋 2 人・飛脚屋 1 人・紺屋 8 人・鍛冶屋 3 人・桶屋 1 人・木挽 1 人・大工 5 人 この年、桐生新町は幕府直轄領となる	・4 月 6 日　公事方(くじかた)御定書を制定
1743	3	10 月　桐生新町 1 丁目の中村弥兵衛、京都西陣の職工佐兵衛の指導で縮緬（ちりめん）を製造（『絹市故事』） このころ、新居峯章が『桐生故事』・『桐生絹市故事』を著わす	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1744	延享元	3月5日　京都西陣の高機織屋仲間が桐生新町の新規紋織差し止めを幕府に願い出る。(『西陣史』) 10月2日　幕府、絹の京都登せ高を桐生飛紗綾9千反、丹後縮緬3万9千反に制限する	
1745	2	1月　桐生新町3丁目火事で7戸が焼失(「森口家文書の日記」) 2月　下広沢・中広沢村の秣山（まぐさやま）の入会地をめぐって訴訟がおこる（「彦部家文書」） 10月　西方寺・末寺一同、本山の建長寺へ寺領・除地の石高面積を報告する（「西方寺文書」） ◇桐生新町で絽織製造が始まる（『絹市故事』） ◇天沼新田（相生町5）で検地（『山田郡誌』） ◇京都西陣で高機仲間が成立する	
1746	3	8月　高沢村（梅田町3）の高園寺の梵鐘が鋳造される ◇桐生新町2丁目で20戸が焼失 ◇桐生地方の紗綾の生産量10万5千反	
1748	寛延元	8月　関東大風雨 11月22日　桐生新町2丁目で火事が発生 11月　凶作のため内見(ないけん)あり（「書上家文書」	
1749	2	11月　凶作のため内見あり	
1750	3	4月　菱村、大沢宿（今市市大沢町、日光道中、江戸から19番目の宿場）の加助郷を命じられる（「星野家文書」） 11月16日　長沢仁右衛門紀卿生まれる	
1752	宝暦2		・琉球使節、将軍家重に謁す
1753	3	7月　下菱村､大沢宿への加助郷を命じられる(「星野家文書」) 12月　桐生新町の百姓総代、町役人へ奉公人請宿の取締を請願する（「新居家文書」） このころ、西小倉村（川内町2）の崇禅寺の鐘楼が新築される（「崇禅寺過去帳」）	
1754	4	4月　大堰普請（「金子太郎兵衛覚書写」） 9月6日　桐生新町の百姓、大間々町2・6の絹市禁止を請願する 11月　石鴨の道祖神（どうそじん）が建立される	
1755	5		・9月　足利学校、落雷により焼失
1756	6	2月8日　絹買商の新居藤右衛門が没す（79） 3月8日　下新田村で23戸が焼失 ◇上州紗綾の京都登せ高31,352.5疋	
1757	7	4月9日　絹買商の玉上甚左衛門が没す ◇境野村の山崎・新井両家が尾張徳川家御用を請負う（「山崎家文書」） ◇桐生新町の機屋奉公人331人（「金子太郎兵衛覚書写」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1757	宝暦 7	◇桐生新町人口 1,482 人 奉公人 331 人（男 212 人、女 119 人） 家数 324 戸（内借家 135 戸） 男 853 人・女 629 人　僧 11 人・侍 5 人・医者 6 人（「粟田家文書」）	
1760	10	4 月　桐生領内 36 か村、武蔵国本庄宿伊左衛門らによる糸絹口銭徴収計画の中止を幕府に願い出る（『県史』） 11 月 11 日　鳳仙寺の第 16 世乙堂喚丑が没す	・江戸大火
1762	12	3 月 2 日　新居峯章が日光・常陸・房総旅行へ出発する（6 月 1 日帰桐） 3 月 5 日　中仁田山村（川内町 5）の延命寺が焼失 3 月　俳人の建部涼袋が来桐する（「片歌道のはじめ」） 6 月　桐生新町の造酒屋 20 石造は長沢新助と江州日野屋出店の喜兵衛の 2 人、質屋 3 軒は長沢新助・矢野喜兵衛・粟田儀兵衛の 3 人とある（書上家文書「村鑑帳」） 10 月 17 日　絹買商の玉上宗右衛門が没す ◇天満宮開帳 この年、桐生新町が旗本神尾領に戻る	・産業革命が始まる(イギリス)
1763	13	9 月　鳳仙寺・西方寺・雲祥寺ら地頭役人へ朱印拝領のため出府旅費を一か寺につき 1 両 1 分宛（あて）支給の請書を提出する（「西方寺文書」） ◇機業家の飯塚兵助が没す（73） このころ、今泉村の木村三郎兵衛、仙台に織物販売出張所を設ける（『織物史』） ◇桐生新町の新居峯章が紋絽織の製造を始める（「新居家文書」） ◇境野村の儒者、物部副雄が物部塾を始める（鹿沼塾ともいう。明和 7 廃業）（『教育史』）	
1764	明和元	閏 12 月 2 日　如来堂村（相生町 1）で火事 閏 12 月　桐生領の百姓ら幕府へ日光東照宮法会加助郷（かすけごう）の軽減を請願する（『織物史』）	
1765	2	1 月　日光法会加助郷の軽減を愁訴（「森口家文書」） 2 月 6 日　加助郷の軽減が申渡される（「長沢家文書」） 3 月　下菱村、日光法会（ほうえ）につき鹿沼宿の助郷を命ぜられる（「星野家文書」） ◇渡良瀬川の洪水（「高橋家文書」） ◇桐生織物業の発達により鳳仙寺付近の田畑が荒廃する（「鳳仙寺文書」） ◇初代佐羽吉右衛門が絹買店を始める（「佐羽家文書」）	
1766	3	9 月 20 日　史家の高橋守行が没す 9 月 23 日　下新田村（相生町 2）で火事 11 月 4 日　浅部村（梅田町 2）で火事 11 月　俳人の建部涼袋が再度来桐する（「三野日記」） ◇西方寺が黄檗山宝蔵院一切経印房から蔵経 1460 巻を購入する（「西方寺文書」） ◇渡良瀬川が洪水（「高橋家文書」）境野天神台東側大川となる（『山田郡誌』）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1766	明和 3	このころ、上菱村(菱町 5)で朝鮮人参の栽培が始まる(「星野家文書」)	
1768	5	4 月 20 日　金打堰が修繕される（「長沢家文書」） 5 月 4 日　荻野権兵衛(下広沢村に権兵衛堀を作った)が没す（61） ◇桐生新町の新居時傳が三河・尾張・美濃方面へ織物国売を始める（『織物史』）	・上田秋成『雨月物語』を著す
1769	6	◇桐生織物不況（『桐生市機の記』） ◇春から夏まで雨降り、稲半作とある（『赤城神社年代記』）	
1770	7	4 月　大旱（「長沢家文書」） 6 月 15 日　教育家の物部副雄が没す（37） 8 月 7 日　機業家の周藤平蔵が没す 10 月　桐生新町の新居峯章が『養蚕極意伝』を著す	
1771	8	4 月　大旱（「長沢家文書」） ◇三井越後屋江戸本店、桐生織物の直仕入れに先立ち、買い方仕法を定める ◇新居峯章が『桐生市機の記』を著す ◇新居峯章が没す（71） このころ、清水屋市左衛門が雑貨店を始める ※明和年間京都出身の国学者西野常竜（矢幹）が山田郡下久方村（天神町 1）に西野塾を開設する 8 月 17 日　女俳諧師諸九尼、桐生新町に一泊する（『秋かぜの記』）	
1772	9	8 月 29 日　絹買商の長沢正往が没す（77）	・1 月 15 日　田沼意次が老中となる
1773	安永 2	10 月　新宿村新田検地（「横山家文書」） ◇俳人の建部涼袋が 3 度目の来桐（『寒葉斉道ゆきぶり』）	・11 月 14 日～19 日　高山彦九郎赤城・伊香保神社参拝（「赤城行」）
1774	3	3 月　下野国南猿田川岸の問屋左次右衛門、桐生新町へ運賃規定を送付する 12 月 4 日　新町で火事 ◇張屋仲間一同染料暴騰のため絹買仲間へ染賃値上げを請求する（「長沢家文書」） ◇桐生染張屋仲間が結成される	・8 月　前野良沢･杉田玄白の『解体新書』が刊行される
1775	4	7 月 24 日　渡良瀬川が洪水　（「長沢家文書」） 7 月 29 日　勤皇家の高山彦九郎が忍山鉱泉に宿泊する（『忍山湯旅（おしやまゆたび）の記』）	・4 月　アメリカの独立戦争始まる（～83）
1776	5	2 月　桐生新町組合村役人、諸職人の日雇手間代を議定する（「長沢家文書」） 4 月　下菱村、日光（道中）矢来内（文挟宿？）助郷を命じられる（「星野家文書」）	・アダム・スミス『国富論』を著す

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1776	安永5	10月6日　境野村分給領主の中根日向守が孝子新井八右衛門を褒賞する（『新井八右衛門伝』）	
1777	6	11月7日　上久方村（梅田町1）で18戸焼失 11月27日　新宿村で火事 11月29日　幕府火付盗賊改の土屋帯刀ほか与力・同心5人が来桐する（「長沢家文書」） ◇玉上甚右衛門が小紋白張店を開業する ◇5・6月より雨降り風吹き稲不熟	・10月30日～11月3日　高山彦九郎赤城神社参拝（『赤城縦行』）
1778	7	閏7月10日　京都の糸絹問屋、桐生絹買商へ京呉服商との直取引の拒絶を通告する（「長沢家文書」） 閏7月28日　高山彦九郎が忍山入湯の帰途、境野村の孝子八右衛門宅へ宿泊し激励する（『新井八右衛門伝』） ◇岩瀬吉兵衛が織物織機の製造を開業する ◇天満宮の社殿造営が始まる	
1779	8	10月16日　下仁田山村（川内町5）の観音寺が焼失する 12月15日　桐生新町が、出羽国松山藩主酒井大学頭忠休（さかいだいがくのかみただよし）築城のための加増地として酒井氏の領地となる（慶応3年10月奉還）	・7月7日　高山彦九郎小俣鶏足寺と石尊山登山（『小股行』）
1780	9	1月　渡良瀬川赤岩渡船、山田郡桐生新町・本宿村・下新田村の村請となる（『県史』） 5月　下久方村の永山熊蔵が勢多郡下長磯村の式三番の人形頭を作る 6月　渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』）。　境野村へ水押込む 7月15日　旗本の神尾元篤、山田郡内の知行所を上総国内に移す 10月　桐生新町絵図面が調製される（「長沢家文書」） ◇飛脚島屋が桐生店を開店する このころ、錦織始まる（『織物史』）	
1781	10 天明元	1月14日　絹買商佐羽清右衛門が没す（85） 2月　桐生領54か村の高機の独占を図り領外での機取立禁止を申し合わせる（「関口家文書」） 7月　端物・糸・真綿貫目改所の設置に反対し、桐生絹買仲間は糸絹類の不買を、江戸呉服問屋仲間は桐生への出市休止を取り決める 8月16日　桐生領民、緑野郡新町の源左衛門・五左衛門・半兵衛の糸・絹・綿貫目改所設置請願に反対する（『織物史』） 8月　桐生領のうち35か村が改判料の免除を幕府に願い出る 10月　桐生新町5人組判頭を設置する（「新居家文書」） このころ、出羽国松山藩主酒井忠休、上野国内領地を治めるため桐生新町に陣屋を設置する（現たちばな保育園付近） ◇渡良瀬川が洪水（「彦部家文書」） ◇降雹のため麦作皆無（「荻野家文書」） ◇長沢紀卿が仙台・日光旅行へ出発する（9月8日帰桐） このころ、質屋仲間が成立する（『織物史』） ◇上野国内20か所に絹市が立ち、約20万疋の生絹・太織が売買される（『県史』）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1782	天明2	2月3日　大風害 3月10日　桐生新町の領主酒井石見守領国の松山築城のため臨時賦課を行う（「長沢家文書」） 3月28日　天満宮の鐘楼堂屋根葺き1件（「同上」） 4月1日　桐生新町2丁目秋月庵で華の会が開催される（「同上」） 4月2日　横町の栄昌寺で軽業（かるわざ）が行われる（「同上」） 11月　江戸の飛脚問屋9人､定飛脚問屋として公認される(『県史』) ◇天候不順のため秋毛不作（「荻野家文書」） ◇今日庵連中、新町3丁目の母衣輪社（八坂神社）境内に芭蕉句碑を建立する このころ､桐生新町で竜紋･精巧平織の製造が始まる（「長沢家文書」） ◇酒屋仲間が成立する（同上）	・天明の大飢饉(～87) ・6月　高山彦九郎勢多郡荒砥村産泰神社参拝(『子安神社道能紀』)
1783	3	2月21日　大原宿（藪塚本町）で大火事100戸焼失（「長沢家文書」） 3月18日　桐生新町4丁目で人形芝居が催される（同上） 5月27日　浅間山の灰降り草木の葉が真白になる（同上） 7月6日　浅間山が噴火し、降灰する（同上） 7月7日　浅間山が噴火し、南木山（なぎやま：浅間の東側と北側の広大な高原､古くは源頼朝が巻狩りをしたと伝えられ､近世には数か村の入会地であった）の御林が焼失する（同上） 7月15日　江戸の須原屋市兵衛より江戸での米高値の状況が伝えられる 9月25日　桐生新町百姓ら領主へ物価騰貴防止を請願する(同上) 9月　上久方村の惣百姓より村役人に年貢減免の嘆願が出される（「青木家文書」） 10月　桐生新町に打毀（うちこわし）の張札がなされる（同上） 12月　桐生新町生活緊粛の申合せをする（「新居家文書」） ◇下広沢村外4か村が幕府へ救荒工事を願い出る（「荻野家文書」） ◇養蚕不作（同上） ◇秋毛不作（同上） ◇下総国結城郡中村出身で桐生新町に寄食中の岩瀬吉兵衛が水力を利用した八丁撚糸機を考案する。	・伊勢漁民、大黒屋光太夫がカムチャッカに漂着 ・7月8日　浅間山が大噴火(死者約2万人)
1784	4	◇飢饉　春諸穀高値、この年旱魃（『太田市史』） 銭相場1両＝正月5500～5700文が12月は6100～6200文になる（「下山家文書」）	・諸国大飢饉（「下山家文書」）（小友村名主）
1785	5	1月　桐生新町の領主松山築城のため2回目の臨時賦課を行う（「長沢家文書」） 9月29日　桐生陣屋（西久方町2）が新築される（「金子家文書」） ◇玉上甚左衛門が冥加金（みょうがきん）上納につき組頭を拝命する（「長沢家文書」） ◇火消役制度が設置される ◇1月から旱魃、晩霜（『太田市史』）	・7月13日～18日高山彦九郎大間々から老神ノ湯へ旅する（『北上旅中日記』）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1786	天明6	1月27日　桐生新町に打毀（うちこわし）がおそう 5月　国学者の奈佐勝皐（なさかつたけ）が来桐する 6月29日　勢多郡新川村・山田郡天沼新田の百姓が開発願いに反対し、秣場の存続を願い出る 7月15日　渡良瀬・桐生川が洪水（『山田郡誌』） 7月　桐生新町の領主、松山築城のため3回目の臨時賦課を行う（「長沢家文書」） 9月　赤岩渡船の打立を奉加する ◇上菱村領主、渡良瀬・大谷川の普請のため国役賦課を負う（「星野家文書」） ◇上久方村凶作、年貢減免のため検見願い（「長沢家文書」） ※検見（けみ）は、米の収穫前に領主などを派遣して豊凶の検査をし、年貢高を定めること ◇上野国の人口52万2869人となる（『県史』） ◇京都西陣の紋工小坂半兵衛が足利郡栗谷村の金井繁之丞に先染紋織技法を伝える	
1787	7	1月25日　桐生新町に打毀しがおそう（「長沢家文書」） 3月21日　桐生新町の長沢仁右衛門（紀卿）が高山彦九郎の服喪見舞を行う（同上） 9月　桐生新町の困窮者に施米（「書上家文書」） 11月20日　出羽国松山藩主の酒井忠崇（ただたか）、新町の飛脚を十七屋と島屋に許可する（『県史』） 12月　銭相場　1両＝5900文（「村岡家文書」）	・松平定信の寛政の改革（～93）
1788	8	1月　上菱村、虚無僧（こむそう）の留場を請願する（「星野家文書」） 5月　下旬より40日間雨（「下山家文書」） 6月8日　桐生新町へ巡見使倉橋長右衛門・本田平八郎が来る（「長沢家文書」） 8月15日　絹買商の長沢正命（まさのぶ）が没す（76） 11月　桐生新町の湯屋4戸 ◇桐生新町の買継商長沢家の取引先である江戸・上方・前橋・高崎など130店のうち約半分が江戸で占める 11月15日　桐生新町3丁目で火事 ◇新居貞勝が『天正遺事』を著わす（「新居文書」） このころ、如来堂村（相生町1）僧侶竜笛と弁我が報身寺塾を始める（天保8廃業『山田郡誌』） ◇桐生新町の竈数464戸、男女合計2,035人（「下山家文書」）	・1月　京都大火、御所・西陣が燃える
1789	寛政元	2月　桐生新町の領主、松山築城のため4回目の臨時賦課を行う（「長沢家文書」） 4月　桐生新町の領主、蔵米先納用金の納入を申付ける（同上） ◇渡良瀬川が洪水 11月15日　下久方村（天神町1）の桐生天満宮の社殿の棟札を挙げる	・フランス革命が始まる
1790	2	4月　桐生新町の絹買仲間が領主へ織物相場書を提出する 12月1日　常祇稲荷神社の本殿が建立される（「新居家文書」） 12月13日　大間々村で大火村内ほぼ焼失する 12月　江戸呉服問屋が桐生絹買仲間一同へ織物価格の値引きを通達する（『織物史』） ◇小坂半兵衛が桐生新町機屋大森金右衛門方で東雲緞子（しののめどんす）を織る ◇この年、旱魃（『太田市史』）	・異学の禁 ・幕府諸物価引下げ令

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1791	寛政 3	3 月 10 日　近江屋喜兵衛が桐生新町 3 丁目の夷屋（えびすや）清次郎より酒株を譲り受ける（「長沢家文書」） 4 月 1 日　桐生新町の織屋ら幕府へ桐生織物の相場書を提出する（「長沢家文書」） 4 月　御溜金講初回（御陣屋無尽）の開始（「書上家文書」） ◇鬼子母神堂（きしもじん：下久方村押出）が建立される（文政 11 年寂光庵、明治 2 年寂光院、明治 12 年現在地、峯に移転する） このころ、下久方村の天満宮境内に長沢紀卿が私設図書館である潺湲舎（せんかんしゃ）を建てる ◇桐生絹買商人仲間規程を定める 8 月 13 日　書上三郎左衛門勝知が没す	
1792	4	4 月 9 日　桐生新町 2 丁目から出火し同町で 207 戸・今泉村で 68 戸が焼失(桐生新町最大の火事である)（「彦部家文書」） 5 月 25 日　下久方村で火事 10 月　桐生新町領主、関東筋河川普請につき国役賦課を負う（「長沢家文書」） ◇飛脚屋近江屋喜平治、十七屋を引き継ぎ桐生新町に出店する	・ロシア使節ラクスマン根室に来る ・幕府、海防強化を諸藩に命ずる
1793	5	4 月　浅部村（梅田町 2)・上菱村（菱町 5)、秣山死馬捨場を決定する（「星野家文書」） 5 月 14 日　今泉村で火事 6 月 23 日　桐生新町で火事 11 月 8 日　桐生新町で火事 ◇渡良瀬川が洪水	･6 月 27 日　高山彦九郎が久留米で自刃(47) ･7 月 23 日　松平定信が老中を辞職
1794	6	4 月 28 日　華道師匠の秋月庵宗野が没（61） 4 月　桐生新町、年貢納期協定が成立する（「新居家文書」） ◇桐生新町組合村役人諸職人が日雇手間代を議定する（『地方史』） 10 月　聖眼寺(元宿町)の梵鐘が鋳造される ◇儒者吉田芝渓著『養蚕須知』刊行される ◇桐生新町の織屋、はじめて越後国の機織り奉公人を雇い入れると伝える（『県史』）	
1795	7	11 月 30 日　絹取引が金・銀両立てとなる（「書上家文書」） 11 月　下久方村の甚四郎が関東郡代付貸付方役所から 30 両を借用する（「新居家文書」）	
1796	8	11 月 20 日　桐生新町 4 丁目で 32 戸が焼失（「長沢家文書」）	
1797	9	1 月 25 日　上広沢村の丹羽佐七が四国・西国旅行へ出発（4 月 29 日帰桐） 2 月 13 日　桐生新町 6 丁目で 31 戸が焼失（「長沢家文書」） 3 月 23 日　桐生新町 4 丁目で火事（同上） 8 月　桐生領の織物長久繁昌趣法書が成立する（『織物史』） ◇織屋・小紋紺屋仲間が成立する ◇結髪職の小川屋新七が没す	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1797	寛政　9	このころ、桐生新町名主、総百姓による入札（選出制度）が実施される（「新居家文書」） ◇桐生織屋仲間、機株を設定して織屋数の制限や織物生産量の調節を図る（『県史』） 11 月 26 日　長沢治右衛門が息子是水（文右衛門）の出奔届を出す	
1798	10	1 月 1 日　桐生新町 2 丁目で 30 戸が焼失する（「長沢家文書」） ◇上野国の人口 51 万 4172 人となる（『県史』）	・寛政暦に改める（「長沢文書」）
1799	11	4 月　下広沢村領主、高齢者の表彰を行う（「荻野文書」） 6 月 10 日　陸奥岩城(いわしろ)の石川利兵衛が飛脚便にて潺湲舎より本を借りる（「長沢家文書」）9 月 25 日も同様に本を借りる 7 月　桐生新町の牛頭天王祭礼の子供屋台手踊りが中断する（「書上家文書」） 11 月 4 日　桐生新町の人口　男 1405 人女 1207 人計 2612 人 当町竈数 593 戸うち借家 358 戸、馬 23 匹 男奉公人 373 人女奉公人 214 人 僧 9 人盲人 5 人医師 6 人 12 月 10 日　岩鼻代官所の薄井宗七が潺湲舎より『明律国字解』16 冊を借りる 12 月 24 日　桐生新町 1 丁目で火事	
1800	12	4 月 23 日　大間々村上町の須永宗右衛門宅裏から出火 8 月　蘇方（すおう：染色の材料となる植物）高値につき染賃の値上げ（「長沢家文書」） 12 月 10 日　漢学者の長沢仁右衛門紀卿が没す（51） ◇三浦無窮が来桐する	・伊能忠敬、蝦夷地の測量を開始
1801	13 享和元	1 月　下久方村の妙音寺内に栄螺堂（さざえどう）を建立する（天保 13 年 1 月 19 日焼失） 4 月 5 日　新居甚兵衛が杉苗 600 本を植樹する（「新居家文書」） 4 月 10 日　茶碗大の降雹のため麦・桑に被害が出る（同上） 6 月　三井越後屋江戸呉服店、桐生機屋への前渡金を禁止する 9 月 5 日　詩人の田村金兵衛が没す 12 月　桐生新町の善左衛門ほか 4 人が官林伐出しの損失弁済に困り、陣屋備金 72 両 2 分を借用する（「新居文書」） 儒学者の亀田鵬斎が来桐する（『菁莪堂集』）	
1802	2	2 月 14 日　一本木村で 14 戸が焼失（「長沢家文書」） 3 月 15 日　天満宮 950 年祭開帳（3 月 25 日まで実施）（「下山政右衛門日記」） 4 月　根本山神宮の鐘が鋳造される 6 月 27 日　渡良瀬・桐生川が洪水（「長沢家文書」） ◇堤村三給領主の石川忠房が天津沢・峠・田ノ入の荒地開墾を奨励する（「石川家文書」） ※石川忠房は幕臣。勘定奉行・道中奉行を歴任、駅制を改革し、生き神様と尊ばれた ◇佐羽淡斎が『桐郷風雅集』を著す ◇初代奥山昌庵が医者を開業する	・十返舎一九著『東海道中膝栗毛』初編発行

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1803	享和 3	1 月　桐生新町の酒造人、領主(酒井忠禮 : ただのり)へ酒造高役米免除を請願する（「長沢家文書」） 8 月 1 日　下菱村（菱町 4）の普門寺で大般若経勧化（かんげ）が行われる 10 月 27 日　桐生新町 3 丁目で火事（「長沢家文書」） ◇新町 6 丁目の浄土宗浄運寺の表門・本堂東南縁側が建立される	
1804	文化元	5 月 7 日　俳人の丹羽佐七が没（67） 7 月　新居甚兵衛が小寺応斎（こでらおうさい）に「機神白瀧姫御神影」と「御伝記」の作成を依頼する ◇白瀧姫が京から仁田山村へ下向し織物技術を伝える（『白瀧姫伝記略縁起』）	･5 月 18 日　ナポレオンが皇帝となる ･華岡青洲、日本初の麻酔剤による乳癌手術を行う
1805	2	6 月　藤岡・高崎・桐生の飛脚島屋・近江屋出店の支配人ら、飛脚荷物や賃銭の協定を結ぶ(『県史』)	
1806	3	1 月　新居甚兵衛が尾張家の御用機屋を請負う（「新居家文書」） ◇新居甚兵衛、尾張家納戸役へ年賀の贈物として高沢海苔を献上する（同上） 6 月　桐生新町の領主、佐羽清右衛門・長沢新助・玉上甚左衛門へ江戸屋敷が類焼のため用金を申付ける（「長沢家文書」） 7 月　書上文左衛門勝房が桐生新町名主となる（「書上家文書」） 10 月 2 日　夜 4 ツ過ぎ(10 時)より無提灯にての通行の禁止とくわえ煙管（きせる）は堅く禁止の回状が出される（「一番日記」） 10 月　大蔵院が再建される（「長沢家文書」） 12 月 15 日　諸職人御役銀を上納する（大工・桶屋 22 人分）（「書上家文書」） 12 月　銭相場　1 両＝6600 文（「村岡家文書」）	･神聖ローマ帝国滅亡
1807	4	2 月 3 日　如来堂村(相生町 1)で 62 戸が焼失 2 月 17 日　谷(やつ)の宝珠院が燃える（「一番日記」） 4 月　渡良瀬川･桐生川の漁猟請負人と下野国足利町の藤蔵が焼印札配布の触れを願い出る 4 月　長沢新助、江戸浅草七軒町の御屋敷類焼につき金 450 両献金する（「長沢家文書」） 5 月　桐生新町牛頭天王祭礼の子供屋台手踊の復活を領主に願い出る（『県史』） このころ、打上げ花火が流行する 6 月　桐生新町火消一同、陣屋へ天王祭礼子供屋台手踊り神事復活を請願（「新居家文書」）するも子供屋台手踊り禁止の継続となる	
1808	5	2 月 1 日　下久方村の医師の田村右門が、同心の菅原勘九郎を暮 6 ツ時(午後 6 時)横町の治右衛門宅前で刺殺する（「金谷家文書」） 3 月 10 日　松木屋において「光明寺略縁起」の版木が作られる（「金谷家文書」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1808	文化 5	3 月 29 日　京橋へ綿花兵児（めんかへこ）帯を持参する（「金谷家文書」） ◇新居甚兵衛が『桐生市立替並織物記』（きりゅういちたてかえならびにおりもののき）を著わす（「新居家文書」）	・間宮林蔵、樺太（サハリン）を探険
1809	6	3 月 12 日　絹買商の初代岩本茂兵衛が没す（63） 3 月 21 日　仁田山川橋の奉加願（「六番日記」） 4 月　光照院様(松山藩 3 代酒井忠休)23 回忌につき恩赦（「同上」） 6月8日　伊勢大神宮御遷宮寄付金の取り集めがなされる(「書上家文書」） 8 月 2 日　御領主(酒井忠方 : ただみち)入部御手当金が仰付けられる（佐羽清右衛門をはじめ 11 人で 450 両）（「六番日記」） 8 月 21 日　桐生新町の名主、大豆安値のため豆腐の値下げを豆腐屋 14 人に指示する（同上） 11 月 18 日　桐生買次仲間が関東問屋呉服仲間へ買口銭（かいこうせん）の値上げを請願する（「書上家文書」） ◇佐羽淡斎が『淡斎百絶』を著わす	・江戸日本橋本所大火(1 月） ・7 月 2 日　間宮林蔵、間宮海峡を発見
1810	7	2 月　佐羽淡斎、浄運寺へ紺紙金泥浄土三部経を奉納する（「浄運寺文書」） 8 月 19 日　近年にない大水で村松川が大出水（「書上家文書」） 9 月 17 日　堤村の領民、荒地開墾に尽力した幕府道中奉行で領主の石川忠房を祀る石川三社大明神の生祠を建てる（「石川家文書」・『県史』） ◇近江屋がもつ飛脚十七屋の株、京屋弥兵衛に引き継がれる	・水戸藩『大日本史紀伝』を朝廷と幕府に献上
1811	8	2 月　上久方村（梅田町 1）の西方寺門前の百姓が同寺朱印山地を年賦 7 両で 30 か年借用する（「西方寺文書」） 2 月　長福寺(桐生新町 5)境内の三宝荒神堂が再建される(「長沢家文書」） 閏 2 月 9 日　世良田村の満徳寺より桐生新町 1 丁目喜兵衛娘とよ離縁のため当寺かけ込み 1 件（「九番日記」） 閏 2 月 26 日　代官の五十嵐兵太が奥沢村の林を検見する(「九番日記」） 3 月 13 日　赤岩船頭が船賃を多分に取り、取締りを受ける賃下げとなる（「書上家文書」） 7 月 9 日　国学者の西野常竜が没す（74） 7 月 27 日　桐生新町 6 丁目善兵衛の娘が世良田の満徳寺へ駈け込みする（「書上家文書」） 8 月 14 日　市河寛斉、津久井雨亭宅訪問（『市河寛斉先生』） 8 月　大風雨（『市河寛斎と上州旧事』） 8 月　甘楽郡塩沢村出身の儒者、市河寛斎が桐生新町の翠屏詩社（主宰佐羽淡斎、吟社とも）を訪れる（『県史』） ※このころ、詩人の館天籟(たちてんらい)が桐生に水屏吟社を設ける(天籟は斎藤氏、豹海庵とも号す)海庵の客居を翠屏詩屋といい、その社を翠屏吟社といった。武家詩人は一人もなく商家農民の分藻であった ◇彗星出現（『赤城神社年代記』） 10 月 27 日　医師の津久井松宅が没す	・2 月　江戸市ヶ谷大火

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1811	文化 8	11 月 25 日　上久方村（梅田町 1）で火事（「長沢家文書」） 11 月 28 日　如来堂村（相生町 1）で火事（同上） 12 月　境野村の領主、勝手向不如意につき用金を申付ける（「真井家文書」） ◇詩人の大窪詩仏が来桐する	
1812	9	2 月 19 日　佐羽淡齋の兄竹翁が没す 2 月　桐生新町の火消役・百姓代ら地借・店借人の町入用金負担を願い出る（「『県史』） 3 月 24 日　領主、親孝行者を表彰する（「十一番日記」） 4 月 9 日　書家の長沢是水が没す（79） 6 月 28 日　渡良瀬川の洪水で、広沢用水取水口が破壊されたため、下新田村（相生町 2）富士山下に新たに取水口を設ける（『山田郡誌』） 8 月 3 日　渡良瀬川の洪水で、中広沢村(広沢町 4)で堤防 300 間が決壊する 12 月　桐生新町の奉公人が払底（ふってい）し、口入仕法が乱れる 12 月 5 日　奉公人宿取締り（「書上家文書」） 12 月 7 日　書家の玉上玉江（甚左衛門）が没す ◇佐羽淡斎が『惜花帖』を著す	・ナポレオンのロシア遠征 ・11 月 4 日　東海道大地震
1813	10	3 月 28 日　江戸呉服問屋が桐生新町の絹買仲間へ無株の商人との直取引（じかとりひき）停止を通告する（「長沢家文書」） 3 月　円満寺の梵鐘が鋳造される 4 月　米穀下落（「書上家文書」） 5 月　新宿村の領主、勝手向不如意につき先納金を下知する ◇佐羽淡斎が小倉峠に十山亭を建てる ◇雷神嶽神社の鐘が鋳造される(鳴神山山頂) ◇佐羽淡斎が『淡斎百律』を著す 6 月　造酒屋 2 軒・質屋 3 軒・飛脚 2 軒・穀屋 14 人・医師 11 人・大工 9 人・張屋 23 人・紺屋 18 人（「桐生新町、町鑑帳」） ◇国定貞が新宿村に桐花堂（安政年間閉塾）を始める	
1814	11	6 月　渡良瀬川の洪水で赤岩の渡の茶屋が流失される（「長沢家文書」） 9 月 11 日　天籟書画会あり書上林司、又左衛文集まる（「十二番日記」） 10月　桐生新町ほか10か村が無宿狼籍取締について議定する（『地方史』） ◇長寿者長沢ゆう 90 歳に米 1 俵が下される「長沢家文書」） 11 月 23 日　歌人の津久井儀右衛門が没す（63） 11 月　御屋敷類焼のため冥加金 755 両を献金する 12 月 16 日　上久方村（梅田町 1）で火事（「長沢家文書」） ◇漢詩人の柏木如亭が来桐する ◇栗田逸斎が『逸斎百絶』を刊行し、江戸池の端で頒布会を開く（『県史』）	・ウイーン会議（～15） ・滝沢馬琴著『南総里見八犬伝』第一輯刊行される
1815	12	2 月　浅部(梅田町 2)・上菱村(菱町 5)で 25 戸が焼失する（「長沢家文書」） 4 月 16 日　日光御法会につき例幣使街道金崎宿の加助郷を命ぜられる。百石につき人足 2 人（「十三番日記」）	・杉田玄白・前野良沢・中川淳庵著『蘭学事始』

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1815	文化 12	5 月 14 日　館天籟方より土御門家の柏木如亭が大原へ向けて出立する（「十三番日記」） 7 月　邑楽郡出身の漢詩人、亀田鵬斎（ぼうさい）が来桐する（『菁我堂集』） ※鵬斎は、ほうさいともいう ◇佐羽淡斎著『菁我堂集』が刊行される ◇この年、常盤堂が閉塾となる	
1816	13	5 月 14 日　佐羽清右衛門、佐羽吉右衛門が草津へ旅する（「十五番日記」） 6 月 25 日　買継商の佐羽家初代の佐羽吉右衛門が没す（80） 7 月 7 日　染物業の玉上甚右衛門(重義。竹本音羽太夫)が没す（79） 8 月 28 日　紋工の小阪半兵衛が没す（55） 8 月 30 日　松平伊豆守卒去につき鳴物が停止される（「十五番日記」）	
1817	14	3 月 3 日　百万遍念仏の行者で、浄土宗の僧、徳本上人が来桐し、浄運寺に滞留し、1 万 3 千人に教化する 4 月 11 日　二渡村（梅田町 4）で火事（「長沢家文書」） 9 月　郡方奉行（中村・小林）が勢多郡内を検見する（「十六番日記」） 10 月　上久方村（梅田町 1）西方寺の総代が不況のため、本山の鎌倉建長寺から祠堂金を借用する（「西方寺文書」） 10 月　飛脚京屋桐生店、荷物の取り扱い心得方規定を定める（『県史』） 11 月 2 日　小友村(菱町 1)の 13 戸が焼失する(「十六番日記」) 11 月 15 日　如来堂村（相生町 1）で焼失（「十六番日記」） ◇中広沢村(広沢町 4)の八王子山に籠山千日満行所の碑が建立される ◇下野国七石村の僧、妙宏良湛が正教院から今泉村の光性寺へ転住する このころ、桐生新町の吉田源兵衛が奥羽・蝦夷地方へ織物の国売を始める（『織物史』） ◇修験者の堀越光道が境野村に五宝院塾（明治 7 年閉塾）を僧の綜誉・経誉が下新田村（相生町 2）に大善寺塾を始める（天保 13 年閉塾） ◇桐生新町の飛脚京屋、島屋と武蔵国幡羅郡妻沼村、荷物の取扱い方法を協定する（『県史』）	・イギリス船、浦賀に来航
1818	15 文政元	3 月 19 日　大堰普請, 桐生新町 3 丁目負担 12 貫 700 文（「十七番日記」） 5 月 1 日　書上又左衛門、妙義・榛名行き 7 月 10 日　桐生新町各丁ごと 10 人、吾妻山・雷電山にて雨乞い（「十七番日記」） 9 月 17 日　当町旧方検見 9 月 22 日　角力（すもう）の秀乃山伝次郎ほか力士が大間々村へ遊山する（「十八番日記」） 10 月　上広沢村の観音堂(広沢町 3)へ養蚕良果祈願の絵馬が奉納される 12 月 11 日　長沢家、店を閉める（「十九番日記」） ◇廻国修行者 223 人が来桐する（「新居家文書」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1819	文政 2	1 月 25 日　天王宿村(相生町 3)で火事 1 月　中沢宏粲（こうさん）が白瀧姫伝記を作成する 3 月 5 日　狂歌師の石田長持が没す（58） 3 月 19 日　堤村で山火事 10 月 16 日　俳人の前原伊通が没す（69） 12 月　買次仲間が桐生陣屋へ市場以外の取引の取締まりを出願する（「書上家文書」）	
1820	3	1 月 15 日　桐生新町の績屋（つむぎや）仲間一同絹市開始時刻（午前 8 時）の励行を申合せる（「長沢家文書」） 2 月　三井越後屋江戸呉服店、桐生新町の紺屋・張屋・織屋への内貸金を細工高調査の上行うように定める 2 月 20 日　新居甚兵衛が本宿村へ桐の木を 100 本植樹する（「新居家文書」） 7 月 9 日　昼 8 ツ時（午後 2 時）関東取締出役、大貫治右衛門手代増田小右衛門手先が、博打容疑で宿ノ島(小友村)の勝次郎らを多数召捕らえる（「二番日記」） 7 月　桐生新町の髪結渡世 6 人、夫役免除を願い出る このころ、出羽松山藩分領の勢多郡内 12 か村の年貢米が桐生新町で地払いされる（『県史』） ◇吉田清助、京都より紋天鵞絨(紋ビロード)を学ぶ。当時広沢村の彦部五兵衛の黒繻子、小俣村の山藤政八の金襴織と共に世に並び称した逸品であった	
1821	4	2 月 11 日　江戸屋敷（松山藩酒井家)、金子入用のため 300 両を差し出す（「一番日記」） 10 月 2 日　国役として関東の河川の普請が命じられる（「五番日記」） 10 月 12 日　郡方奉行の長坂味右衛門らが凶作のため、勢多郡内を検見（けみ）する（「五番日記」） 11 月 15 日　桐生新町役人、市場仕法遵守の町触れを出す(『県史』) 12 月 15 日　医師の初代奥山昌庵が没す 12 月 17 日　禅学一件。桜井裕之が逮捕され目篭にて江戸送りとなる（「五番日記」） 12 月 25 日　俳人の星野蘭皐が没す（70）	・伊能忠敬の『大日本沿海輿地全図』が完成し、幕府に献上
1822	5	閏 1 月 10 日　桐生新町の名主の入札が行われる。入札の結果、粟田安兵衛が 46 枚、新町 2 丁目の玉上善右衛門が 35 枚を獲得した。（「書上家文書」） ◇安兵衛旅商人のため入札結果却下される ※桐生新町名主の最初の入札は、名主、新井甚五右衛門の時と思われるが記録は見当たらない 閏 1 月 14 日　桐生新町の名主と組頭太郎左衛門の後役を決める入札の結果、又左衛門が 107 枚、太郎兵衛(金子)が 63 枚を獲得した。しかし又左衛門が隠居の身で高持（家屋敷等を所有する意）でない理由から認められず弟の書上林治が高を譲渡する旨決める（同上） 閏 1 月 18 日　入札の結果を江戸屋敷へ報告し、裁許を願い出た結果又左衛門が名主に再任される	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1822	文政 5	3 月 19 日　若殿御乗出上金（春宮進から大学頭となる）として近江屋久次郎・張屋峰蔵が各々10 両ずつ差し上げる（「書上家文書」） 3 月 26 日　機具師の岩瀬吉兵衛が没す（77） 5 月　禅学一件裁許講状（「新居家文書」） 7 月 10 日　虚無僧（こむそう）の桐生新町止宿（ししゅく）修業が禁止される（「書上家文書」）	
1823	6	1 月 28 日　伊勢講の初会取り立てがなされる。会所は山口屋。世話人は書上林治（「書上家文書」） 2 月 17 日　上久方村（梅田町 1）の西方寺が焼失する（「西方寺文書」） 8 月 24 日　桐生新町 6 丁目加賀屋熊次郎宅に焼き払い予告の張札（はりふだ）がなされる（「六番日記」） 10 月 1 日　新宿村で火事 10 月 7 日　凶作のため郡方奉行の小川権之助、代官（渡辺・村田）による勢多郡内の検見がなされる 11 月 3 日　天王宿村（相生町 3）で火事 ◇渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』） ◇最上徳内が来桐する 12 月 1 日　九ツ時（午後 12 時）新宿村の江原惣助宅より出火折からの大風にて一面に火が回り新宿下、その上南側残らず焼失。殿林にて 2 戸。境野村まで飛び火する（七番日記」）	・江戸湾で海苔の養殖が始まる
1824	7	2 月 12 日　桐生新町 5 丁目の長福寺（宮本町 2 に移転）で松森稲荷奉納のため寄合角力がなされる（「七番日記」） 2 月　織屋仲間規約が議定される ◇天候不順（「長沢家文書」） 4 月 25 日　岩松満次郎が桐生新町名主の書上又左衛門方に宿泊する（「八番日記」） 5 月 27 日　寛政 11 年より禁止されていた子供屋台手踊りが、公儀御触書により改めて禁止となる（「十八番日記」） 7 月 25 日　渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』） 7 月　米穀高値のため、窮民救助がなされる 7 月　山田郡新宿村と桐生新町との新市立てをめぐっての争いが今泉村の名主の仲裁により和解する（『県史』） 8 月　渡良瀬川が洪水（「石井家文書」） ◇佐羽淡斎が十山亭に詩碑を建立する ※十山亭（赤城・三国・妙義・榛名・浅間・日光・碓井・破風・三峰・富士を一望できる小倉山にあった亭が風で壊れたため、詩碑を要害山（大間々町）へ移す（『毛武游記』） ◇佐位郡下淵名村の棟梁新七が西方寺客殿の建築を 40 両で請負う（「西方寺文書」） 10 月 9 日　凶作のため奉行の長坂味右衛門代官（村田・佐藤）が桐生新町へ着く 11 月 26 日　二渡村（梅田町 4）で火事 11 月 27 日　桐生新町 5 丁目で 73 戸が焼失する（「長沢家文書」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1825	文政 8	1 月　絹買継商佐羽家、経営立て直しのため家政改革を行う（「佐羽家家定」・『織物史』） 5 月 13 日　桐生新町横町の栄昌寺においてラクダ見世物興行が催され、1500 人ばかりの見物客でにぎわう（「長沢家文書」）（～14 日） 7 月 4 日　絹買商の 2 代佐羽吉右衛門が没す（54） 10 月 2 日　新町 3 丁目の新田屋吉兵衛方にて浄瑠璃（じょうるり）が興行される（～7 日）（「十二番日記」） 10 月 10 日　郡方奉行ら勢多郡へ検見のため桐生新町へ着く（「十二番日記」） 11 月 7 日　桐生新町 3 丁目の御制札場が立替（「十二番日記」） 12 月 21 日　夜子の刻(12 時)桐生新町 5 丁目石井五右衛門より出火（「十二番日記」）	・外国船打払令
1826	9	4 月 20 日名主入札がなされる書上又左衛門が再選される（「長沢家日記」） 5 月 22 日　人家の床下に毛髪が発生（松崎慊堂『慊堂日暦』） 7 月 5 日　桐生新町では 10 匹で七百文以上の高値鮎不買令が触れ出される（『県史』） 8 月　桐生新町の穀相場が高騰し、町役人への訴状投げ込み事件が起こる（『県史』） 8 月　桐生新町で古道具屋仲間が結成される 11 月 23 日　絹買商の新居甚兵衛が没す（88） ◇彦部五兵衛が黒繻子(くろしゅす)を製造する（『織物史』）	
1827	10	2 月　国学者の橘守部が来桐する（「吉田家文書」） 3 月 24 日　陣屋より桐生新町 5 丁目孫兵衛・組頭弥兵衛両人が親孝行で賞される（「十一番日記」） 4 月 25 日　町内・旅屋・酒屋・湯屋が呼び出され、長脇差渡世の者、女芸者等は泊り、酒出し、入湯を禁止される（「十七番日記」） 8 月 9 日　美和神社祭礼が例年 9 月 21 日のところ農繁期をさけて 9 月朔日に行うことに決まる（「十七番日記」） 8 月 28 日　歌人の長沢春江が没す（23） 9 月 2 日　松葺御改役人佐藤忠右衛門手付の堀口五郎が市場見回りのため新町へ来る（「十八番日記」） 10 月　桐生新町の買継商書上家、経営に行き詰まり家政改革を行う 11 月 29 日　桐生新町名主,関東取締出役ほか 13 人に山葵（わさび）を歳暮とする（「十八番日記」） ◇三峯神社の鐘が鋳造される ◇買継商書上家、過去 3 か年の平均商高約 3 万両となる（『県史』） ◇歌人の星野貞暉が『くちはなの物語』を刊行する 12 月 13 日　七ツ時(4 時)頃下菱村の天光院（菱町 2）が焼失する（「十八番日記」） 12 月 14 日　富くじを売る者がいるため禁止となる（「十八番日記」）	・頼山陽「日本外史」を著す
1828	11	1 月 4 日　名主の跡役は郷例を以って定めとする（「十八番日記」） 1 月 11 日　江戸御屋敷表長屋が 5・6 戸類焼をうける（「十八番日記」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1828	文政 11	7 月 1 日　渡良瀬川が洪水（「長沢文書」） 7 月 6 日　桐生新町で高値鮎不買令が再度触れ出される（「十九番日記」） 8 月 17 日　下久方村谷(やつ)の田村勝蔵長屋門並びに下屋が焼失（「二十番日記」） このころ、医師の新居玄圃が新町に孩児園塾を始める（天保 4 年閉塾）	・長崎奉行所、シーボルトの帰国用持物から持出禁止の品を発見（シーボルト事件）
1829	12	4 月 16 日　横町の栄昌寺において手品の興行がなされる（「二十一番日記」） 4 月　桐生新町 3 丁目平兵衛店（だな）の田村かぢ（梶子）が松声堂を始める(文久元年閉塾) 7 月 18 日　丹羽文右衛門が出羽三山の旅行に出発する（8 月 13 日帰桐） 12 月 4 日　新居善左衛門が没す（「二番日記」） 12 月 5 日　絹買商の木村四郎兵衛が没す（73） 12 月 26 日　桐生新町 3 丁目において火事（「二番日記」） ◇医師の下山勝伯が没す（67） このころ、玉上善右衛門が輪奈天織を製造する（『織物史』） ◇橘守部の国学が商人の間で流行する ◇橘守部が来桐する	・江戸神田から出火し大火となる（己丑の大火） ・葛飾北斎『富嶽三十六景』を描く
1830	13 天保元	1 月 6 日　丹羽幸三郎が四国・伊勢・近江の旅に出発する（3 月 25 日帰桐） 2 月 24 日　天王宿北側より出火。両側へ火が移り家数 30 戸焼火する（「二番日記」） 4 月 10 日　普門寺橋（現在の稲荷橋）が完成（「二番日記」） ◇天王宿村(相生町 3)で火事 30 戸ほど焼失（「二番日記」） 6 月 25 日　新町 3 丁目火消仲間が争い刃傷事件を起こす（「三番日記」） 7 月 13 日　詩人の役宗載が没す（境野村修験法性院九世、今井氏） ◇糸紺屋仲間が成立する（『織物史』） ◇百姓の新井廉斎が下仁田山村（川内町 5）に新井塾（明治 2 閉塾）を始める 10 月　酒屋煮売渡世仲間 43 人、冥加金上納を出羽国松山藩桐生陣屋へ願い出る このころ、織屋仲間、奉公人の休日と洗濯日を定める ◇機屋の就業時間は午前 6 時から午後 10 時まで労働となる（『織物史』） ◇天保年間に僧山田霧渓により今泉村に東勝寺塾（嘉永 4 年閉塾）が、桜井鉄衛により蕪町村に桜井塾が開かれる	・フランスで 7 月革命がおこる
1831	2	4 月 12 日　医師の津久井雨亭が没す 4 月　桐生新町の紺屋 14 戸、仲間の結成を町役人へ願い出る（『県史』） 4 月　桐生新町の穀屋仲間 16 戸（同上） 6 月　桐生新町の牛頭天王祭礼の子供手踊番組届書が桐生陣屋に提出される(同上) 8 月 10 日　教育家の新井幸右衛門が没す 10 月　渡辺崋山、上野国を訪れる（『毛武游記』） ※『毛武游記』は渡辺崋山が天保 2 年秋、門人の高木梧庵と共に桐生新町の岩本家へ嫁した妹を訪問した時の見聞録 ◇桐生新町不景気	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1832	天保 3	3 月　上菱村、御用炭焼を請負う（「村岡家文書」） 11 月 11 日　医師の彦部信有が没す（67） ※彦部信有は、『桐生の里ぶり』の著述がある ◇下野国足利町の織物市場が再興され足利町の仲買が独自の販売活動を始める	・イギリスの選挙法が改正される
1833	4	2 月 25 日　大窪宗休、松平周防守に駕籠訴（「七番日記」） 4 月 19 日　同赦免（同上） 5 月 14 日　宗休、栄昌寺にて書画会（同上） 6 月 20 日　古鉄買改めが町内 31 戸（同上） 9 月 22 日　凶作のため郡方奉行関甚太夫代官（村田其治・原田新吾）が勢多郡検見 9 月　飢饉 10 月 8 日　狂歌師の栗原文守が没す（55） 10 月 15 日　遊行上人が下久方村六反谷戸（西久方町 1）の青蓮寺へ来る（供回り 50 人ばかりを連れる） 11 月 19 日　今泉村の穀物屋、貧窮民に 1 人白米 2 升ずつ 60 俵限り売り出す 11 月　西方寺（梅田町 1）・東禅寺（川内町 1）・宝徳寺（川内町 5）ら本山へ崇禅寺（川内町 2）の文邦和尚の隠居願を出す（「西方寺文書」） 11 月 29 日　桐生陣屋、桐生新町の貧窮民に救金として 1 人金 2 分。無宿の者に 1 分を与える（「新居家文書・新居東市日記」） ◇歌人の星野貞暉が『大師河原紀行』を著す	・天保の大飢饉 ・安藤広重『東海道五十三次』を描く
1834	5	1 月 9 日　佐羽吉右衛門、落合小兵衛同伴にて伊勢参宮（「八番日記」） 4 月 16 日　安兵衛妻きよ、満徳寺へ駈込む（「八番日記」） 5 月 2 日　上広沢村の俳人・丹羽魯水が没す 5 月 11 日　渡良瀬川、桐生川鵜漁打納（「八番日記」） 9月9日　天満宮に手踊りがあり群集が集まる(「長沢家日記」) 9 月 21 日　夜、美和神社で芝居が興行される（同上） 10 月　渡辺崋山が二度目の来桐、「桐生町遠望之図」を描く（『桐生商工案内』） ◇山地村(梅田町 5)の石島長右衛門が山葵を栽培する（『山田郡誌』） ◇橘冬照が来桐する	・2 月　江戸大火
1835	6	2 月　下菱村の久左衛門が機株設置の請願を出す（「吉田家文書」） 3 月 4 日　史家新居貞勝が没す（77） 8 月　渡辺崋山が来桐する（「錦心図譜」） 9 月 7 日　桐生新町横町の栄昌寺で染太夫寄席が興行される（「長沢家日記」） 9 月 21 日　医師の二世奥山昌庵が没す 9 月 25 日　定飛脚嶋屋佐右衛門方権八、高林向井野にて 1500 両奪い取られる（「十二番日記」） 10 月 4 日　老中松平和泉守（乗寛）へ文右衛門駕籠訴（同上） 10 月 5 日　陣屋の籾倉の棟上げがなされる 10 月 28 日　桐生新町 2 丁目常吉浄瑠璃会開催（同上） 11 月 4 日　国学者で歌人の星野貞暉が没す（68） 11 月　桐生新町領主、凶作のため升屋安兵衛へ借財の下知をする（「長沢家文書」）	・仙台大地震

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1835	天保 6	◇桐生新町の豆腐屋 8 戸、原料高騰の為、油揚げの値上げを出羽国松山藩桐生陣屋に願い出る	
1836	7	1 月 18 日　堤村三給領主の石川忠房が没す（82） 2 月　天候不順（「長沢家文書」） 3 月　下広沢村の彦部五兵衛、大間々の豊吉へ時計の修繕を依頼する（「彦部家文書」） 4 月　疫病流行（同上） 6 月　毛髪降下（『赤城神社年代記』） 7 月 3 日　江戸の大伝馬町、白子両組、木綿問屋仲間の要請により、桐生木綿買継仲間が結成される（『県史』） 8 月　桐生木綿買継仲間、江戸両組、木綿問屋仲間との取引を 3 年間認められる 8 月 13 日　大風雨（「長沢家文書」） 8 月 16 日　詩人の佐羽蘭渓が没す（38） 9 月 25 日　何者とも相分らず西裏柳橋、小曾根、本宿裏辺で時声、竹貝吹きならす（「十四番日記」） 9 月 29 日　町内貧民相改めがなされる 10 月 7 日　桐生新町上三町借家へ施米 10 月 8 日　桐生新町下三町借家へ施米 10 月 18 日　施米（「十四番日記」） 10 月 23 日　山上村 140 戸中 100 戸許り暮しの助成を求める 10 月 27 日　近年にない大風が吹く（「十四番日記」） 11 月 6 日　桐生新町横町の清右衛門宅から出火、火消ら纏を持って喧嘩（「十四番日記」）	・諸国飢餓となり奥羽地方では死者 10 万人に及ぶ（天保の大飢饉）
		11 月 11 日　大間々町の小林武兵衛・富津与次郎から桐生新町の陣屋に加勢の依頼があり陣屋役人はじめ町役人が大間々へ出向く（「長沢家日記」） 11 月 21 日　桐生新町 2 丁目に窮民救場所が設置される（「長沢家文書」） 11 月 22 日　町内の窮民救助のため新町 2 丁目にしつらい白粥焚、施しがなされる（「十四番日記」） （11 月 23 日ころには町内救い場所の張札がなされる） 11 月 28 日　新町町内不穏につき陣屋役人・町内役人が金倉持ちを巡回する（「長沢家文書」） ◇桐生新町付近の機織が休業状態となる（『赤城神社年代記』） ◇秋毛三分作	・11 月 11 日　大間々騒動
1837	8	1 月 19 日　桐生新町 3 丁目大丸屋が火事 2 月 12 日　会所入用不足に付、備品質入（「十五番日記」） 3 月 3 日　詩人の役宗海が没す（境野村修験宝蔵院 7 世。新井氏） 3 月 15 日　旅篭屋米高値につき旅篭代、値上げ願いが出される（「十五番日記」） 3 月 17 日　公事宿に郡方奉行が 3 軒を指定する、但し個人の泊まりは自由の事（「十五番日記」） 4 月 1 日　将軍御譲世に付町内一統休日となる（「十五番日記」） 4 月　天候不順、家出人、捨て子、多し（「十五番日記」） 6 月 21 日　生糸商の星野直右衛門（須永村）が没す（63） 6 月 26 日　上野国絵図改め（「十五番日記」） 6 月　桐生新町 5 丁目の吉田清助が尾張家の御用機屋を請負う（「吉田家文書」） 7 月 13 日　桐生川出水（「長沢家日記」） 7 月 29 日　俳人の田島投玉が没す（境野村間ノ島の人。中根大隅守に仕える）	・2 月 19 日　大塩平八郎の乱

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1837	天保 8	8 月 11 日　俳人の愚発庵志剛が没す(如来堂村報身寺 24 世住職) 8 月 29 日　小友村（菱町 1）の農民が不穏な動きをみせる（「彦部家文書」） 9 月 1 日　境野村の農民が不穏な動きをみせる（同上） 9 月 4 日　新町 4 丁目で火事 50 戸焼失（「長沢家文書」） 9 月 18 日　「書上日記」の筆者である書上文左衛門勝智（又左衛門）が没す 10 月 3 日　凶作のため代官（相馬多三郎・五十嵐兵太）が勢多郡内を検見する 11 月 23 日　桐生新町 2 丁目に窮民救場所が設置（「長沢家文書」） 11 月　桐生地方の織屋数 593 戸となる（『県史』） 11 月　桐生新町の百姓、絹買仲間・織屋仲間、下野国足利市場へ出市差し止めを取り決める（『織物史』） 12 月 7 日　織屋吉田家、尾張藩の御召服御用達商人となる 12 月 10 日　下広沢村(広沢町 5・6)に火事（「彦部家文書」）	
1838	9	4 月　上菱村（菱町 5）疲弊村立直仕法が請願される（「村岡家文書」） 4 月　桐生新町竈数 637 戸　男 1442 人　女 1448 人 計 2,890 人（「書上家文書」） 閏 4 月　吉田清助が尾張家へ縞縮緬を献上する（『織物史』） 7 月 7 日　上久方村(梅田町 1)の朽津伊兵衛が、出羽三山詣でに出発する（8 月 12 日帰桐） 8 月　桐生絹買仲間、下野国足利市場での織物買入禁止を再確認する 8 月 20 日　領主の酒井忠方が桐生新町を巡見し高齢者・孝子・篤農者を表彰し困窮者を救助する（「長沢家文書」） 9 月　桐生新町の飛脚京屋・島屋の宰領・馬子ら、飛脚賃銭を取り決める（「村岡家文書」） 9 月　勘定奉行より江戸城西の丸普請につき木槻が召し出される（同上） 11 月　下久方村（天神町 3）の木島源蔵ら機株の設置を請願する（『織物史』） 11 月　猟師の鉄炮継続所持許可願が出される（「村岡家文書」）	
1839	10	5 月　桐生買次仲間と江戸呉服屋仲間、問屋仲間外取引について取り決める 8 月 15 日　桐生新町木綿買次仲間、江戸両組、木綿問屋仲間外への販売を 3 年間延長される 8 月 21 日　歌人の長沢元緒が没す 8 月　桐生新町買次仲間、新組結成の動きが起こる ◇勢多郡二之宮村の馬持総代、荷物駄賃銭の値上げを桐生新町の定飛脚京屋に申し入れる ◇蚕悪く生糸相場上がる	・5 月 14 日　高野長英・渡辺崋山が捕らえられる（蛮社の獄）
1840	11	2 月 5 日　地震（「佐羽家文書」） 3 月 3 日　今泉村の観音院境内で芝居が興行される（同上） 3 月 6 日　佐羽清右衛門が議定破りをしたため休市となる 3 月　村松村松立に溜池新設を嘆願する（「大沢家文書」） 4 月 21 日　美和神社境内に祭礼飾り物が出来る（「佐羽家文書」） 4 月　堤・本宿・今泉村の年貢納方を議定し不納者分は給々立替が完納となる（「大沢家文書」） 5 月　桐生新町領主、勝手向不如意のため近江屋喜兵衛へ借財を下知する（「長沢家文書」）	・アヘン戦争（～42）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1840	天保 11	6 月 23 日　渡良瀬川が洪水（「佐羽家文書」） 7 月 12 日　新町百姓ら幕府へ足利出市差止を請願する（『織物史』） 7 月　績屋(つむぎや)仲間、細糸出回り撚糸難渋につき績代値上げを申合せる（「新居家文書」） 9 月 8 日　天満宮境内で芝居が興行される（「佐羽家文書」） 10 月　桐生新町 5 丁目の百姓ら、絹買仲間の足利出市禁止を再度、桐生陣屋に出願する（『県史』） 10 月 26 日　雹害（「佐羽家文書」） 11 月 3 日　新町の百姓らが足利出市差止を幕府へ請願する（同上） 11 月　幕府は足利出市差止を厳達する（同上） 12 月　桐生新町荒地起返百姓生活維持のため日光役所から 250 両を借用する ◇績屋仲間が成立する ◇前原照子が下久方村（天神町 1）に梅花堂塾を始める（明治 4 年閉塾）	
1841	12	1 月 8 日　大雪（「佐羽家文書」） 3 月　桐生新町火消一同陣屋役所へ天満宮開帳飾り物の出来を請願する 6 月 10 日　絹買商の吉田源兵衛が没す（67） 11 月　菜種の蒔付が奨励される ◇桐生商人の織物取引高 70 万両（「長沢家文書」） ◇桐生陣屋役人、絹札の乱用や過剰発行に伴う倒産防止を絹買仲間に警告する	・5 月 15 日　天保の改革令を発する ・8 月Ｉ日　水戸藩水戸弘道館開設
1842	13	1 月 19 日　妙音寺栄螺堂（さざえどう）から出火焼失する（「佐羽家文書」） 3 月 29 日　織物の値段が下がる 12 月　境野村の職人怠業取締 ◇境野村の橋本直香（はしもとただか）、江戸の国学者黒川春村の門下となり、ついで橘守部の門下となる ◇桐生新町の 3 代目御輿（みこし）が完成する	・清がイギリスと南京条約を結ぶ（香港割譲）
1843	14	2 月　彗星出現（「真井家文書」） 3 月 3 日　東小倉村（川内町 1）で火事 3 月 8 日　天王宿村（相生町 3）で火事 3 月 12 日　下久方村荒神山から出火し下菱村・小友村・米沢村などに類焼し 160 戸が焼失する（「久昌寺文書」） 3 月 17 日　下菱村小友村大火につき今市宿助郷を他村へ組替えして欲しい旨願い出る（「村岡家文書」） 4 月 25 日　詩人の栗田逸斎が没す（54） 5 月　寒露降下（「真井家文書」） 5 月 29 日　高沢村（梅田町 3）の高園寺領内の砥山試掘願いが出される（『県史』） ◇小野重世（前原美春、明治 8 年天満宮神主）が下久方村に春贋亭塾を始める（明治 5 年閉塾） ◇詩人玉上政美（甚左衛門充資）、伊香保温泉を訪れ『伊香保日記』を著す	・小田原大地震
1844	15	2 月 19 日　境野村で火事 2 月　浅部・上菱村往来橋の普請をめぐって紛争（「糸井家文書」）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1844	弘化元	◇掘越養拙斎が新宿村絵図を調製する（「横山家文書」） 12月24日　紋工の小阪佐兵衛が没す ◇漢学者高木耕水が下広沢村に松広舎塾を始める（安政5年閉塾）	
1845	2	2月15日　医師の新居繁謙が没す（69） 4月19日　境野村で火事 8月19日　出羽国松山藩領の勢多郡の村々に桐生新町への出市と米の升売が許可される 8月　桐生陣屋、勢多郡内の幕府領村々に桐生新町での市で穀物販売を許可する ◇医者の八木橋愿恭（元恭）が桐生新町に松齢堂塾を始める（文久二年閉塾） ◇百姓の落合忠右衛門が二渡村（梅田町4）に落合塾を始める（明治元年閉塾）	・5月9日　江戸城本丸焼失
1846	3	2月1日　桐生新町6丁目で火事 4月17日　桐生領織屋総代幕府へ糸機の衰微緩和を歎願する（『織物史』） 4月　境野村の新井弥市・高橋善右衛門ら桐生領外での高機全部禁止を請願する（同上） 4月　桐生・足利地方の機屋、前橋の糸巻紙取締りを前橋陣屋に訴える 5月　飛脚京屋桐生店、江戸本店が火災のため、臨時手伝金40両の上納を命じられる 5月　足軽浅間鉄蔵、親の敵討が始末（「新居家文書」） 12月　下新田村広沢用水路における地代未納通水差止訴訟が起きる ◇渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』） ◇桐生地方の織機台数5000台～6000台（『県史』）	・1月15日　江戸本郷の阿部伊勢守下屋敷より出火し大火となる（「佐羽店日記」） ・閏5月27日　浦賀沖へアメリカ船渡来（アメリカ東インド艦隊司令長官ビッドル）（同上）
1847	4	2月7日　秀の山雷五郎の追善相撲が興行される 3月24日　大地震（「佐羽家文書」） 9月1日　狂歌師の前原鳴保が没す（71） 9月17日　詩人の下山藍斎が没す（境野村名主下山五郎左衛門の子。中根大隅守に仕える）	
1848	嘉永元	1月21日　歌人の稲垣妙智尼（諏訪子）が伊勢参宮旅行へ出発する（4月17日帰桐） 1月22日　桐生新町6丁目で火事（「新居家文書」） 1月23日　桐生新町4丁目で火事（「佐羽家文書」） 4月　太子講（職人仲間）が成立 11月28日　円満寺の時の鐘が始まる（「新居家文書」） ◇多田立観（釈立観法師）が重恩寺を建立する ◇稲垣妙智尼が『伊勢参宮紀行』を著す 嘉永年間に僧の弘円と鳳霊が下久方村（西久方町）に妙音寺塾（明治元年閉塾）を、百姓の青木善右衛門が下新田村（相生町2）に青木塾（明治7年閉塾）を、百姓の森田宇平が下新田村（相生町2）に森田塾（明治3年閉塾）を開いた	・フランスの2月革命がおこる
1849	2	2月15日　吉田清助夫妻が伊勢参宮旅行へ出発する（7月25日帰桐）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1849	嘉永 2	3 月　桐生新町の人口　惣竈数　地持 234 戸　借地 22 戸 借家 755 戸　寺５ケ寺　惣人数　4106 人　内男 2042 人 女 2064 人（「長沢家文書」） 10 月 13 日　歌人の玉上政美が没す（68） 11 月 3 日　下新田村(相生町 2)で火事（「新居家文書」） ◇境野村出身の国学者橘本直香が『紐鏡とき言』を刊行	
1850	嘉永 3	3 月 1 日　桐生新町、御用金 2055 両を仰せ付けられる（「書上日記」） 12 月　桐生新町ほか 3 か村役人総代幕府へ日光道中における加助郷の賦課軽減を請願する（『県史』） ◇桐生新町領主(酒井忠良)勝手向不如意につき用金を申付ける（「長沢家文書」） ◇新宿村・堤村が境界をめぐって紛争する（『地方史』）	・12 月 21 日　大戸の関所で国定忠治処刑
1851	4	1 月 22 日　新宿村で火事。11 戸が焼失（「新居家文書」） 2 月 20 日　東小倉村（川内町 1）で火事 3 月 9 日　株仲間が再興される 4 月 4 日　桐生新町、日光道中板橋文挟両宿助郷の件につき嘆願書を五街道取締役人へ出す（「長沢家文書」） 12 月 7 日　教育家の山田霧渓が没す 12 月 27 日　桐生新町 5 丁目で火事。78 戸焼失(「新居家文書」) ◇歌人の二渡茂矩が没す（60） ◇画家の椿椿山が来桐する（「稲垣家文書」） このころ、御召縮緬の機屋仲間が成立する	・太平天国の乱（～64）
1852	5	3 月 11 日　天満宮開帳（「佐羽家文書」） 3 月 14 日　天満宮境内の石造大鼓橋の渡り初め（「佐羽日記」） 4 月　天満宮境内に桐生菅廟の碑が建立される 6 月 28 日　華道師匠の石井一美が没す（57）（境野村三ツ堀の人。絹買継商） ◇山田郡下広沢村の彦部家の奉公人中 12 人が工程別に分かれて織物生産に従事する ◇和算家の丹羽弥太郎ら算額を山田郡下久方村の桐生天満宮に奉納する	
1853	6	3 月　前橋糸仲間と桐生機屋仲間、不正糸取引防止を協定する（『県史』） 4 月　出羽国松山藩主酒井忠良、上野国内領の窮民に救い米を与える 4 月　江戸の儒者、藤森天山が今泉村の漢学者石原泉村を訪れ『把翠楼記』を著す（「藤森天山伝」） 7 月　不況のため桐生絹市が休業となる（「新居家文書」） 8 月 13 日　桐生新町 6 丁目で四ツ（午前 10 時）ごろ、騒動が起こる（「新居家日記」） 9 月 29 日　土屋半渓・金子輝長による根本山清遊 9 月　焔硝製造に転業する機屋が続出する（「新居家日記」） ◇大旱 ◇賀茂神社に気楽流柔術額が奉納される	・ペリーが浦賀に来る ・クリミア戦争（～56） ・東海道地震（2 月 2 日巳之刻箱根町小田原で大地震「佐羽店日記」）
1854	安政元	11 月　頓成上人が境野村（殿林）に本然寺を建立する 11 月 27 日　山田郡境野村出身の国学者橘本直香『歌仙部類抄』を刊行する 12 月 1 日　紋工の荻原真平が没す（72） このころ、機拵仲間が成立する（『織物史』）	・日米和親条約（神奈川条約）を調印し下田・箱館を開港する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1854	安政元		・7月9日　日章旗を日本国総船印と定める ・8月29日　日英和親条約を調印し長崎・箱館を開港する ・12月21日　日露和親条約を調印し択捉・得撫(エトロフ・ウルップ)島間を国境とし、樺太(カラフト)を両国雑居地とする ・12月23日　オランダに下田・箱館を開港する （箱館は1869年に函館と改称）
1855	2	2月4日　桐生新町竈数（戸数）　989戸 男2062人　女2030人　計4092人 2月7日　松原渡船遭難。金3115両が流される(「長沢家文書」) 2月　桐生領、幕府へ旗絹由緒補強のため縮緬250反を献上する（「新居家文書」） 3月　桐生新町本通りの旅籠屋、東側に21戸、西側に16戸(『県史』) 5月　江戸呉服問屋仲間、桐生買次仲間の販売取締りを願い出る 6月4日　渡良瀬川が洪水（『藤森天山伝』） 6月　江戸の儒者藤森天山が来桐する（同上） 7月26日　渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』） 8月7日　絹買商の岩本茂兵衛(3代)が没す（71） 10月16日　堤村領主江戸大地震につき用金申付（「大沢家文書」） 10月　桐生新町領主、江戸大地震につき急場才覚用金申付（「長沢家文書」）	・10月2日　安政大地震
1856	3	4月17日　桐生新町江戸屋敷才覚金として1640両を差し出す（「長沢家文書」） 5月29日　画人の栗田桐雨が没す（64） 8月25日　大風（「佐羽日記」） 8月　歌舞伎手踊りの禁制（きんぜい）が出される（「長沢家文書」）	
1857	4	2月　桐生新町の張屋と召仕職人、給金増額と休日をめぐり争う 4月　田中佐兵衛日本廻国供養塔を建立する 7月24日　渡良瀬川が洪水（「長沢家文書」） 9月22日　機業家の吉田清助が没す（64） 10月　岩本一僊ら渡辺崋山の17回忌追慕会を開催する（「岩本家文書」）	・インドでセポイが決起（～59）（シバーヒーの乱）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1857	安政 4	11 月　円満寺境内に鷲の峯妙見宮が建立される（「円満寺文書」） このころ、白糸機屋仲間が成立する	
1858	5	4 月 9 日　本宿村と新宿村が不明の村境（秣場：まぐさば）を取り決める（「新居家文書」） 5 月　桐生新町足利出市差止請願（「金谷家文書」） 6 月 27 日　桐生新町絹市不況（「佐羽家文書」） 7 月 27 日　渡良瀬川が洪水（『山田郡誌』） 7 月　桐生新町ほか 24 か村組合が幕府へ醤油造人名前・造高書上を提出する 8 月 10 日　金子金翁が没す（84） 8 月　彗星出現（「真井家文書」） 10 月 11 日　生糸商常見儀助（高山彦九郎の子）が没す（76） ◇コレラ流行 12 月 28 日　桐生新町 6 丁目浄運寺住職が盗賊と組み打ちする 1 件（「佐羽家日記」） ◇桐生新町 3 丁目屋台が完成する	・イギリスがインドを併合（ムガル帝国滅亡） ・9 月 7 日　安政の大獄始まる
1859	6	1 月 5 日　教育家の高木耕水が没す（70） 2 月 21 日　大蔵院（東久方町 1）が焼失する（「新居家文書」） 4 月 19 日　須永村の生糸商 2 代星野直右衛門が没す（51） 5 月　桐生足利絹市紛争が再燃する 5 月　下野国安蘇郡上彦間村入彦間の本山派修験大正院永信、江戸出開帳を許される 7 月 8 日　桐生領織屋一同幕府へ生糸輸出禁止を愁訴する（『地方史』） 7 月 25 日　渡良瀬川・桐生川が洪水。兎堰が切れ養泉寺を迂回し流れ、今泉村観音堂槐原（さいかちはら）へ大水が流れる（「岩崎勘七家文書」「新居家文書」） ◇寛政以来の大水、洪水となり本宿村 3 人、新田村 6～7 人如来堂村 3 人の水死人（「新居家文書」） 8 月　桐生新町、小俣村買継商の木村半兵衛他 2 人と下野国足利町仲買 13 人、足利出市差し止めを幕府に訴える 9 月　桐生新町の下職者一同が桐生新町名主へ桐生新町付近生糸密輸出者弾劾書を提出する（『地方史』） 9 月 10 日　桐生地方の織物下職人、買継商 3 人による輸出向け生糸の買占め禁止を町役人に願い出る（『県史』） 9 月 16 日　今泉村において百万遍念仏あり（「岩崎家文書」） 9 月 27 日　桐生領 35 か村、生糸輸出停止を幕府に嘆願する（『地方史』） 9 月　桐生新町の絹買・織屋一同が江戸呉服問屋へ生糸輸出禁止運動協力を依頼する（同上） 10 月 16 日　桐生新町で生糸買占め商人打ちこわしの張訴事件が起こる 10 月 24 日　桐生領総代幕府へ生糸輸出禁止を愁訴する（『地方史』） 11 月 9 日　総代古木四郎兵衛（茂慶）が大老井伊掃部頭直弼に、津久井儀右衛門が老中間部下総守詮勝に、それぞれ単身で生糸輸出禁止を直訴（駕籠訴）する（同上） ※訴訟の手段として代官を飛び越して行う越訴（おっそ）があるが門前に訴状を張る張訴（はりそ）。捨てる捨訴（すてそ）。そして駈け込みなどがある。幕府公認のものとしては 8 代将軍徳川吉宗の発案による目安箱に訴状を投入して直訴する箱訴（はこそ）がある	・ダーウィン『種の起原』

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1859	安政 6	11 月　桐生絹買総代江戸呉服問屋へ生糸輸出禁止協力を依頼（『地方史』） 12 月 8 日　桐生領総代幕府へ生糸輸出禁止を愁訴（古木家文書） 12 月 24 日　桐生新町で生糸輸出商人打ちこわしの張訴事件が起こる ◇下新田村の橋本弥作、横浜居留地に進出して生糸の売買を始める ◇橋本直香が『上野歌解』『根本山参詣路飛渡里案内』を刊行 ◇糸価暴騰し桐生機業中絶（『織物史』） ◇桐生新町窮民騒動（長沢家文書） ◇詩人の小野湖山来桐 ◇桐生新町 5 丁目の屋台が完成する このころ、修験者荻原万蔵が天王宿村に天王院塾（相生町 3）を始める	
1860	7 万延元	2 月　出羽松山藩桐生陣屋、町方不穏取締り強化を触れる 3 月 20 日　土屋半渓・岩本一僊が新川村（新里町新川）の藤生沢阿角桜を清遊する（「岩本家文書」、『阿角遊興図』） 閏 3 月 7 日　桐生新町で裏店住まいの店借人らの飢餓を訴える張訴事件が起こる 4 月 8 日　出羽国松山藩桐生陣屋、桐生新町の貧窮民救助として農家 1 戸に銭 2 貫 5 百文、店借 1 戸に銭 5 百文を与える 4 月 29 日　機業家の大沢四郎兵衛が没す 4 月　新町ほか 19 か村・本宿村赤岩渡舟場難渋訴訟（金谷家文書） 7 月　桐生新町の張屋、諸色高騰のため、染張代の節季払いから月払いへの変更を願い出る ◇桐生新町の染張屋、開港後の原料高騰による染張賃の値上げを絹買継仲間に要求する ◇橋本直香が『題林和歌復葉集』を刊行 ◇桐生織物休業（「長沢家文書」） ◇僧朴道が高沢村に高園寺塾（梅田町 3）を開設する（明治 6 年閉塾）	・桜田門外の変
1861	2 文久元	1 月 20 日　医師の津久井祐斎が没す（51） 1 月 25 日　下広沢村の農民が蜂起し、名主 2 人が救米 150 俵を与える（「荻野文書」『県史』） 1 月　桐生新町窮民不穏（「新居家文書」） 1 月　桐生新町陣屋修復の寸志金として 300 両を差し出す（「書上家文書」） 2 月 5 日　陣屋役人から窮民へ救助米 233 俵が支給される（同上） 3 月 3 日　桐生新町百姓・借家人に救米を与える 3 月 8 日　陣屋役人から窮民へ救助米 253 俵が支給される（「書上家文書」） 3 月　桐生新町買継商木村半兵衛らの足利出市が認められる 4 月　上久方村の西方寺領内の黒仁田山で石灰岩の焼立て開始 5 月 25 日　彗星出現（『赤城神社年代記』） 10 月 12 日　図案家の石田九野が没す（55） 11 月　皇女和宮下向し桐生新町周辺でも武州深谷宿へ助郷として割り当てられる（「金谷家文書」）	・ロシアで農奴解放令を公布 ・イタリアの統一 ・アメリカの南北戦争始まる（～65）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1861	文久 1	文久年間に、百姓加藤忠作が如来堂村（相生町 1）に加藤塾を開く	
1862	2	1 月 9 日　俳人の丹羽雅晁が没す（84） 2 月 1 日　小野川・大鳴門一門による相撲興行（「金谷家文書」） 2 月　桐生新町買次仲間、桐生新町に、毎年 100 両納入し、10 年間の足利出市を認められる 4 月 11 日　医師の八木橋元恭が没す（67） 4 月 22 日　桐生新町 4 丁目で火事（「金谷家文書」） 4 月　桐生新町の島屋・京屋の出店 7 軒が飛脚荷物や賃銭の協定を結ぶ 6 月　麻疹が流行する（「森口日記」） 閏 8 月 26 日　遊行上人五十八世尊澄、廻国のため上野を訪れ来桐する（「金谷文書」『県史』） 9 月 15 日　教育家の田村梶子が没す（77） 11 月 28 日　天王宿村で火事 12 月 13 日　機業家の玉上善右衛門が没す（73） このころ、謡曲が桐生新町へ伝来する（「金谷家文書」） ◇桐生新町 3 丁目の翁鉾が完成する	・生麦事件
1863	3	2 月　下広沢村新田堀橋普請奉加（「前原家文書」） 2 月　桐生新町の染張屋、原料の高騰などによる染張屋の値上げを再度絹買次仲間に要求する 5 月 28 日　桐生川が氾濫する（「長沢家文書」） 9 月　山田郡天王宿・下新田両村、および山田郡大間々村地内の笠懸野古用水路を借り受ける 10 月 11 日　岩本一僊らが渡辺崋山 23 回忌追慕会を行う（「岩本家文書」） 10 月 6 日　俳人の丹羽木公が没す（84） ◇百姓中林伴蔵が如来堂村に中林塾（相生町 1）を開く（明治 6 年閉塾） ◇桐生新町不穏（「新居家文書」） ◇桐生新町の歌人稲垣妙智尼が『川端の日記』を著す	・薩英戦争
1864	元治元	4 月　新宿村代官が農兵取立につき差出金を申し付ける（「暮田家文書」） 5 月 10 日　水戸浪士一行（猿田忠夫・田中愿蔵・藤田芳之助）軍用金を徴発する（『地方史』） 7 月 15 日　岩本一僊、観音院へ涅槃図を寄進する（「観音院文書」）〔市指定重要文化財〕 7 月　下久方村ほかの百姓、鳳仙寺沢用水（梅田町 1）の水元役人に仮樋試行を願い出る 8 月　渡良瀬川が氾濫（「金子家文書」） 8 月　関東地方が暴風雨となり、渡良瀬川が氾濫し水害が起こる 11 月 4 日　桐生新町 3～6 丁目 360 戸余が焼失する（「稲垣家文書」） ◇小野里喜左衛門絹地ハンカチを輸出する（『織物史』） ◇水戸浪士来桐につき桐生新町百姓が陣屋出張の役人へ餞別を出す（「長沢家文書」） このころ、旗本落合用人が新宿村に用人塾（新宿）を開く	・池田屋事件 ・禁門の変 ・第 1 次長州征討令 ・四か国（英・仏・米・蘭）の軍艦が下関を砲撃

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1865	慶応元	11月25日　華道師匠の藤生一渓が没す（67） 11月　新町穀屋・旅籠屋・煮売屋・畳刺・髪結床・湯屋六営業者の冥加金を町納に決定（『地方史』） ◇桐生新町で西洋染料を使用し、納戸・紺・紫染を始める（「新居家文書」）	・第二次長州征討令
1866	2	2月　本宿村新居屋敷（元宿町）に、松20本、櫟180本植樹する（「田畑家文書」） 2月　幕府、蚕種改印令を触れ、上野・武蔵・相模・信濃の4国に16人の蚕種改め、運上取立役肝煎を任命する 3月　石原泉村が今泉村（東）に梅花書屋を建造する（『織物史』） 6月　下菱村で八給騒動が起こる（「小堀家文書」） 6月　飛脚京屋桐生店、営業不振のため江戸本店への上納金延期を願い出る 7月22日　歌人の土屋半渓が没す 8月　大風雨 10月13日　桐生新町6丁目で火事（「新居家文書」） 11月　桐生新町領主へ献金並びに町方への施し金として300両差し出す（「書上家文書」） 12月1日　機業家の木島源蔵が没す（76） このころ、上仁田山村（川内町5）で石灰岩採掘（『山田郡誌』）	・薩長同盟成立
1867	3	2月　桐生新町、出羽国松山藩桐生陣屋に救米の払下げを願い出る 3月　下菱村幕府へ間々田宿（栃木県小山市）加助郷免除を愁訴する（「小堀家文書」） 7月26日　絹買商岩本茂登（渡辺崋山妹・三代目岩本茂兵衛の妻）が没す（73） 9月13日　白髭神社の祭礼に伊勢海・雷一行相撲興行（3日間） 9月　下菱村、間々田宿（栃木県小山市）加助郷免除を愁訴する（「小堀家文書」） 11月　下菱村間々田宿加助郷免除を愁訴する（同上） このころ、百姓岩瀬徳三郎が新宿村に鳳凰堂、百姓片桐ていが如来堂村に片桐塾を開く ◇慶応年間、飛脚京屋桐生店、営業不振に陥り、高崎・藤岡店から援助を受ける ◇桐生新町6丁目の屋台が完成する	・大政奉還 ・マルクス『資本論』 ・オーストリア・ハンガリー帝国成立
1868	4	1月9日　桐生新町5丁目湯屋平治から出火し45戸焼失（『新居喜左衛門役用日記』） 1月15日　御軍用のため急場の才覚金として2240両を上納する（「書上家文書」） 1月　上彦間村の広福寺総代ら本寺の西方寺へ住僧入寺延期の願書を提出する 2月11日　西大風本宿村長屋が倒壊 2月　下菱村間々田宿加助郷免除を愁訴する 3月10日　梁田村において新政府軍と足利勢が交戦（『新居喜左衛門役用日記』） 3月13日　今朝打ち毀し始まる（同上）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1868	慶応 4	3 月 14 日　桐生新町暴徒 1000 人が町内商家の打ち毀しを行う 佐羽吉右衛門・近江屋出店(新町 2 丁目)・森宗五郎・万屋(新町 1)・茶屋宗五郎・佐羽孫兵衛（新町 3 丁目）宅が打ち毀しとなる（『新居喜左衛門役用日記』） 3 月 16 日　下広沢村で県民棄損強要騒動が起こる ◇神奈川開港で生業を奪われた織屋・下職者らが雷電山（堤村）へ立て籠り火を焚く 3 月晦日　桐生新町の村役人ら、1 丁目から 6 丁目までの困窮者に施し金を配布（『新居喜左衛門役用日記』） 4 月 7 日　不穏のため土地の産業一切止む（『新居喜左衛門役用日記』） 4 月 8 日　美和神社神主の小島行楚が没す（61） 4 月 21 日　新政府軍（宇都宮残党）が根本山を越え桐生新町を通過する 4 月　松山藩領が出羽国松嶺県の管轄になる 閏 4 月 1 日　新政府軍先鋒の足利藩戸田長門守忠行隊が桐生新町へ宿泊する 閏 4 月 2 日　戸田長門守隊、大間々町へ向い出発。新政府軍（東山道鎮撫総督府内参謀）祖式金八郎隊（329 人）が来桐する ※祖式金八郎は長州藩士。外国人に対し、謝罪としての最初の切腹事件となった神戸事件に関与し、さらに下総国葛飾郡流山村において新撰組隊長近藤勇の捕ばくに参加、前橋城に騎馬のまま押入るなどの乱行があり、後に内参謀を罷免される 閏 4 月 3 日　祖式金八郎隊、桐生新町で陣屋囚人 4 人、反抗者 1 人を斬罪に処する 閏 4 月 4 日　祖式金八郎隊、大間々町へ向い出発する。新政府軍大間々町の笹屋へ陣屋囚人 6 人を拉致する。囚人の観寿が笹屋から脱走する 閏 4 月 5 日　新政府軍、陣屋役人を大間々町へ呼び出し、観寿の捜索を厳命する ◇佐野藩堀田摂津守正頌隊（104 人）が桐生新町へ宿泊する 閏 4 月 6 日　堀田摂津守隊、大間々町へ向い出発する 閏 4 月 7 日　脱走者観寿が潜伏先の天沼新田の百姓藤江粂太郎方から自首する。2 人は群馬郡白井村で打首となる 閏 4 月 9 日　桐生陣屋役人(物頭屋代織衛、代官澁谷要助ら)が釈放され帰桐する 暴徒頭取の者 8 人、打首獄門 6 人、桐生新町高札の前に首 2 つをさらす（『新居喜左衛門役用日記』） 閏 4 月 11 日　新町役人が人馬の往来頻繁のため問屋(継立所)を増設する（『新居喜左衛門役用日記』） 閏 4 月 14 日　新町使者佐羽孫兵衛・森口重郎左衛門が参謀祖式金八郎へ小柳縮二反を進呈する 閏 4 月 15 日　陣屋役人の屋代織衛、町役人一同を招待する 5 月　下菱村に盗賊が横行する 5 月 21 日　銭相場下落、湯屋・髪結・床屋・豆腐屋の料金が値上げとなる（『新居喜左衛門役用日記』） 6 月 17 日　山田郡が岩鼻県の管轄となる（明治 4 年 11 月 14 日栃木県の管轄となる） 6 月 23 日　画人の岩本一僊が没す（49）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1868	慶応 4	7 月 11 日　1 両が銭 10,000 文になる 7 月 12 日　松山藩が上の山（かみのやま）で新政府軍と戦う（『松山藩の戊辰戦争』） 7 月 16 日　岩鼻県執事谷口驍(たける）ほか 7 人が来桐する 7 月 18 日　渡良瀬・桐生川が洪水 7 月 19 日　谷口驍が桐生新町で博徒 4 人を斬罪する 7 月 20 日　谷口驍ら太田へ向い出発する 8 月 9 日　出羽国松山藩が奥羽越列藩同盟に加盟したため、桐生陣屋は伊勢崎藩預けとなり、陣屋役人は桐生新町の浄運寺に押し込められる 8 月 24 日　下新田村（相生町 2 丁目）愛宕神社祭礼で相撲興行が行われる 8 月　大風雨 8 月　機業家で医師の彦部五兵衛が没す	
	明治元	9 月 10 日　桐生新町役人、火消役を百姓代と改称する（「新居家文書」） 9 月 19 日　新政府軍の谷口驍が伊勢崎町へ陣屋役人を拉致護送する 10 月 20 日　絹買商の佐羽吉右衛門(3 代)が没す（60） 10 月下旬　世上景気立直り桐生機値段引上げ近来にない景気なり（『新居喜左衛門役用日記』」） 12 月 6 日　大音龍太郎（おおどりゅうたろう）が来桐する ※大音龍太郎は厚竜といい旧彦根藩士。上野巡察使として、世直し一揆を根絶するため弾圧政策をとる。このため「首切り龍太郎」と言われたが、明治元年 12 月罷免となる 12 月 8 日　旧松山藩酒井忠良の所領が没収。同日、書上林治が岩鼻県郷中取締となる 12 月 9 日　大音龍太郎が桐生新町を出発 12 月 14 日　桐生新町の浄運寺に押し込めの出羽国松山藩桐生陣屋役人 22 人釈放される 12 月 19 日　陣屋役人を伊勢崎町からつれもどし浄運寺に押し込める 12 月 24 日　桐生新町の浄運寺に押し込めの出羽国松山藩桐生陣屋役人屋代織衛ら 23 人が出羽国松山へ帰国する（『県史』） ◇高木善造が平井鉱泉を開業する ◇境野村の有志が窮民へ救米・助金する	・11 月 3 日　江戸を東京と改称する
1869	2	1 月 6 日　堤村名主源右衛門ら旧地頭餞別相談会を開催する 2 月 9 日　各町村、岩鼻県へ水帳・割付帳・村絵図などの民政資料を提出する 2 月　桐生新町が岩鼻県の管轄になる 3 月 10 日　桐生新町 3 丁目より出火 8 軒燃える（新町史話会） 3 月 13 日　陣屋の家作・立木・石垣・石橋など払下げとなり入札の結果、金 100 両で桐生新町 4 丁目の岩下才助が落札する 4 月 20 日　名主入札の結果名主跡役に書上荘左衛門がなる 4 月　境野村出身の国学者橘本直香、東京府赤坂大沢に移住する 4 月　桐生新町出身の国学者黒川眞頼、府県学校取調御用掛となる	・3 月 13 日　府県に小学校を設置する ・6 月 17 日　公卿・諸大名を華族と称する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1869	明治　2	5月14日　金札、正金同様通用致すべく布令が公布される 7月13日　渡良瀬・桐生川が洪水 この洪水で浄運寺南側の道路が流されたので北側へ新道を設けた 7月　桐生織物業者が官服地を献上する 8月　桐生織物業者、生糸機屋仲間議定書を締結する 10月1日　歌人の稲垣妙智尼が没す（75） 12月1日　佐羽吉太郎が桐生新町組合村肝煎名主に就任する ◇織物買継商小野里商店が開業する ◇漢学者の海上香厓が桐生新町に桐生学堂を開く（明治6年閉塾） ◇桐生新町4丁目屋台が完成する このころ、濁酒仲間が成立する	・12月25日　東京・横浜間に電信が開通する ・版籍奉還、廃藩置県 ・スエズ運河が開港
1870	3	1月28日　夜12時頃押出(おんだ)し鬼子母神(きしもじん)様入口向長屋より出火。5、6戸燃える（「長沢家文書」） 1月29日　朝4時頃町屋より出火3戸燃える（「長沢家文書」） 3月10日　教育家の森田宇平が没す（58） 4月8日　市内に3.5cmの積雪 7月18日　渡良瀬川の洪水により赤岩から新川が分流、6丁目がけ下20戸ばかりが押し流される（「長沢家文書」） 9月10日　歌人の長沢包佳が没す（69） 10月8日　画人の前原亙瀬（こうらい）が没す（54） 10月10日　華道師匠の新井一鳳が没す（77） 11月13日　下久方村で火事 ◇赤岩口締切騒動 ◇赤岩板橋奉加 ◇衆生院廃寺となり牛頭天王社は八坂神社と改められる	・『横浜毎日新聞』が創刊される ・普仏戦争（～71） ・12月4日　郵便を開設する
1871	4	1月9日　画人の福田乾外が没す（64） 2月24日　画人の堀越養拙斎が没す（68） 5月19日　機業家の石原泉村が没す（67） 7月　管内神社氏子帳を作成し、守札を交付する 9月15日　教育家の前原照子が没す（47） 11月14日　館林県が廃され、邑楽・新田・山田3郡が栃木県（第1次）の管轄となる（明治9年8月群馬県へ移管） 12月　栃木県足利郡名草村の津久井某が石灰岩採掘のため西方寺山を借用する（「西方寺文書」） ◇買継商佐羽吉右衛門(4代)がサンフランシスコの工業博覧会を視察するためアメリカへ渡航する このころ、医師の小林義雄が上広沢村(広沢町2)に神泉寺塾を開く	・ドイツの統一 ・郵便制度を制定 ・4月24日　戸籍法を定める。住宅の各戸に番号を付す ・新貨条例を定める（円・銭・厘を貨幣単位とする：一両一円とする） ・群馬県（第一次）が発足する ・8月　岩鼻県、『神社明細帳』を作成する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1871	明治4		・10月28日　館林県を除く8県がまとめられ第1次群馬県が発足する
1872	5	1月9日　人形遣いの林琳斎が没す（83） 1月19日　医師の下山昌伯が没す（67） 1月　桐生新町の人口4,354人　1,107戸　日本の人口3,311万人 4月9日　桐生新町が第十三大区第五小区に編入される ◇桐生新町戸長に金谷九十郎が当選する 4月　桐生新町戸長、栃木県へ桐生産織物近来相場取調書を提出する 6月　桐生新町戸長、栃木県へ壬申戸籍を提出する 7月1日　桐生新町郵便取扱所（桐生郵便局の前身）が創設される（本町1） 7月　壬申地券が交付される 8月1日　吹上御苑の機織御用奉仕に桐生新町から8人が上京する 8月9日　古木四郎兵衛が没す（58） 9月9日　渡良瀬川が洪水 10月11日　機業家の岩下有邦（初代才助）が没す（56） 11月　新宿村の機屋江原貞蔵が外国製力織機を購入し、水車を動力として織物製造を始めるが失敗におわる 11月　機業家の森山芳平らが染織研究のため上京し、桐原真節の門をたたく ◇桐生新町1,103戸のうち、480戸を織物関係渡世で占める（全体の約43.5パーセント） ◇桐生新町の八坂祭典4代目御輿(みこし)が完成する	・4月9日　名主・庄屋を廃し戸長を置く ・5月15日　師範学校を設置する ・9月15日　官営富岡製糸場が開業する ・福沢諭吉著『学問のすすめ』（初編） ・12月3日を新暦(太陽暦)の明治6年(1873)1月1日とする(詔勅)
1873	6	1月10日　今泉・本宿・堤・村松村が合併し、安楽土村が誕生する 1月　桐生種痘所が設置される 3月20日　微兵令により桐生から、東京鎮台へ2人が入隊する 5月11日　ウイーン万国博覧会へ桐生織物が出品される（11月1日まで実施） 6月23日　歌人の青木誠翁が没す（73） 7月25日　桐生新町に助教養成所が開校する（10月閉校） 8月29日　教育家の巌瀬如淵（徳三郎）が没す（59） 9月　桐生学校第4分校（菱小学校）が開校する 10月5日　広教舎（広沢小学絞）が開校する 10月7日　桐生学校（北小学校）が開校する （『桐生郷土誌』） 10月19日　新宿学校（南小学校）が開校する（同上） 10月30日　歌人の彦部数馬が没す（50） 11月15日　桐生学校第三分校（梅田北小学校）が開校する 11月27日　桐生学校第二分校（梅田南小学校）が開校する 11月　芝居小屋梅田座が開館する（明治8年4月28日焼失） ◇下広沢村の彦部忠吉郎が人力車を購入する ◇赤岩口締切工事が完成する ◇買継商の小野里喜左衛門、欧米視察の椎野賢三に依頼し羽二重の見本を入手する	・1月4日　祝日の制を設く ・1月10日　徴兵令を公布 ・1月　府県に令して勝地・旧跡を公園とさせる ・6月15日　群馬と入間の両県が廃され、熊谷県が設置される ・7月20日　第一国立銀行が開業 ・7月28日　地租改正令を制定 ・12月1日　郵便はがきを初めて発行

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1874	明治7	1月7日　境野学絞（境野小学校）が開校する 1月8日　桐生新町の市日を3・7から3・8に改める 1月16日　今泉校（東小学校）が開校する 1月17日　安楽土校(西小学校)・小倉学校（川内南小学校）が開校する ※明治12年3月、今泉校は安楽土分校に、13年3月に安楽土校は安楽土西校となる 3月25日　桐生陣屋跡に桐生屯所（警察署）が設置される（明治9年9月廃止。群馬県管轄となり警察仮出張所となる） 3月　真伝学校（相生小学校）が開校する 4月17日　大間々学校第一分校（川内北小学校）が開校する 11月2日　桐生新町で昔話・音曲夜興行 ◇桐生新町に医員17人、鍼医2人、産婆2人、按摩7人、薬屋6店が散見	・4月1日　京都四条の鴨川に鉄橋の四条大橋が落成 ・5月4日　台湾出兵 ・5月11日　大阪～神戸間に鉄道開通 ・7月3日　三宅島噴火
1875	8	3月　能役者の沢井貞右衛門が千葉県成田町から新町へ移住し謡曲を伝授する ◇通運会社出張所開設される 4月13日　教育家の中林伴蔵が没す（70） 4月28日　桐生新町1丁目・下久方村で117戸が焼失する 8月　渡良瀬川が洪水 12月24日　俳人の横山見左が没す（35） 12月　安楽土・下久方村合併を提案（明治9年2月否決） ◇山田郡における織物、絹綿交織物の生産量が最も多くなる ◇桐生新町4丁目の鉾が完成する	・1月8日　学齢を定める（6歳から14歳） ・3月25日　大阪府立図書館が開館 ・11月17日　東京蔵前に浅草文庫を開設 ・12月25日　本県最初の上野国地誌・概略が出版される
1876	9	1月17日　教育家の桜井金兵衛が没す（78） 4月　桐生新町が第4大区第6小区に改まる 4月16日　機業家の関口周平が没す（61） 6月23日　渡良瀬川が洪水 8月　第4大区第6小区議員決定 ◇議事罰則約定書が成立する 8月21日　群馬県(第2次)が成立し、山田・新田・邑楽の3郡は栃木県から分割され群馬県管轄となり(県庁は高崎・県令は楫取素彦)第23大区第2小区となる 10月　小友・下菱村が合併し黒川村が誕生する 11月　桐生医学講習所が開設する ◇桐生染色講習会（講師長野三郎）が開設されるが、約1年で閉鎖される 12月19日　桐生新町、消防演習を実施する ◇桐生新町・東安楽土・西安楽土・新宿・下久方村の切絵図が測量調製される	・ベルが電話を発明
1877	10	3月　桐生新町に馬車会社が開業する 8月21日　内国勧業博覧会へ桐生織物が出品される（11月30日まで実施） 8月　森山芳平（今泉村）・星野伝七郎（山田村）・園田倉十郎（西小倉村）が京都の荒木製のジャカードを購入する 10月10日　東京築地教会の牧師小川義綏（おがわよしやす）が境野村でキリスト教（新教）を講義する 11月　境野村の成就院（境野町1）が焼失する	・2月15日　西南戦争の開始 ・東京上野で第1回内国勧業博覧会を開く

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1877	明治 10	◇桐生新町に第八生産会社（金融）が設立される ◇新宿村に第八生産会社第二分社が設立される ◇ロシア・ハリスト正教会のニコライが函館から本州への伝導の途中、桐生など渡良瀬川の沿岸地を訪れる	・10 月 4 日　県内各地に大雹害が起こる ・10 月　群馬県地租改正終了し「新税施行ノ儀ニ付伺」を政府に提出する
1878	11	2 月　山田郡警察署が桐生新町 3 丁目に新築移転 3 月　下久方村の青蓮寺に岩鼻已決檻仮出張所が設置される 4 月　天満宮開帳　（10～30 日） ◇南条てるが桐生天神裏に鉱泉を開業する 4 月　桐生学校、洋風の新校舎が落成する 4 月　北越の神山弥三郎らが算額を桐生天満宮に奉納する 6 月　桐生新町、地租改正が実施される ◇渡良瀬川が洪水 7 月 18 日　津久井儀右衛門が没す（64、如来堂村名主） 7 月　桐生会社（後の桐生織物同業組合）が設立される（昭和 17 年 6 月 7 日解散） ※桐生会社の変遷は以下の通り。桐生会社（明治 12～15 年）、桐生物産会社（同 15～23 年）、桐生商工業組合（同 26～27 年）、桐生商工組合（同 27～30 年）桐生物産同業組合（同 31～38 年）、桐生織物同業組合（明治 38 年 9 月～） 7 月　桐生の洋糸商（輸入綿糸商）が結社し議定書を作成する 8 月 26 日　桐生織物関連業者が団結して桐生会社を設立し、認可される ◇浄運寺墓地内に開山玉念和尚の供養碑が建立される 9 月 25 日　機具師の笠原吉郎が没す（69） 9 月　明治天皇、前橋行幸の際に桐生織物を天覧する 10 月 15 日　俳人の小島竹麿が没す（78） 11 月 9 日　一致教会の桐生教会が設立される（タムソン・小川義綏・湯浅治郎らが出席する） 12 月 17 日　桐生新町に山田郡役所が設置される（現永楽町、大正 15 年 6 月 30 日廃止） ◇星野伝七郎、フランス向紋縮緬織を製造する ◇楫取素彦が桐生機業を視察するため来桐する ◇輸出向き羽二重の製造始まる	・7 月 5 日　勢多郡を南北 2 部　群馬郡を東西 2 部　甘楽郡を南北 2 郡に分ける ・8 月 30 日　群馬県衛生所と群馬県医学校が県庁前に新築される
1879	12	3 月 31 日　桐生新町、町会規則（議員 20 人）を制定する 4 月 14 日　桐生新町、伍長・伍長委員を決定する 4 月 30 日　南勢多・山田郡地方で大凍霜害、被害面積 2081 町歩 5 月 12 日　報知新聞記者の末広鉄腸が来桐する 7 月　桐生の佐羽吉右衛門ら、第八生産会社を設立する（明治 17 年 6 月　第四十国立銀行に吸収される） 7 月　県内にコレラが流行し、患者 3112 人に上る 10 月　大川栄貞門人向田暁昌ほか、算額を日枝神社に奉納する 11 月　法制学者で元老院議官の細川潤次郎が来桐する 12 月　第四十国立銀行桐生支店（第一銀行桐生支店）が設置される ◇機業家の桑原佐吉、小野里商店の依頼で輸出向羽二重を創織する ◇機業家の森山芳平、医学校教師から化学染色法を学び、舎蜜染を宣伝する	・5 月 2 日　第 1 回群馬県会が群馬師範学校で開会する（～6 月 5 日） ・エジソンが電球を発明 ・琉球藩を廃止し沖縄県をおく ・パナマ運河会社設立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1880	明治 13	2 月 4 日　桐生新町 3 丁目で 70 戸が焼失する 7 月　渡良瀬川が洪水 ◇『上野国村誌』が編さんされる 8 月 17 日　新地券交付（明治 20 年 10 月 5 日まで実施） 10 月 20 日　宗教家の前原美春が没す（77） ◇佐羽商店横浜に輸出部を設置する 12 月 28 日　桐生地方の本格的織物マニュファクチュア成愛社が設立される（山田郡上久方村(梅田町 1)：明治 35 年 3 月 16 日解散）	・県内の人力車 4,923 台　馬車 150 台となる
1881	14	1 月上菱学校（上菱小学校）が開校する（昭和 57 年 3 月 29 日閉校） 1 月　第四十国立銀行、士族南條新六郎が頭取、桐生織物商小野里喜左衛門が取締役に就任する ◇青木熊太郎が上久方村(梅田町 1)でハリストス教（旧教）を講義する 6 月　共立盈科義塾（漢学）開塾（～明治 17 年 7 月） 9 月 20 日　桐生電信分局が電信業務を開始する 11 月 7 日　東京の嚶鳴社員沼間守一の演説会が桐生新町の浄運寺で開催される 11 月 17 日　歌人の吉田錦所が没す（63） 11 月 23 日　機業家の大沢佐兵衛が没す	・2 月 16 日　群馬県庁を前橋に決定する旨の太政官令布告が出る ・国会開設の勅諭
1882	15	4 月　下仁田山村(川内村 5)に縮緬機業会社が設立される(明治 17 年 5 月移転) 7 月 30 日　桐生新町の岩井田粂蔵ほか 22 人が自由党に入党する 7 月　コレラ流行 8 月 1 日　盛運橋が開通する 8 月 18 日　医師の新居甚助が没す（78） 8 月 23 日　買継商の丹羽長右衛門が没す（77） 9 月 1 日　桐生新町 1 丁目(現買場市場通り)で神奈川・埼玉・群馬・栃木・山梨・長野・福島七県連合繭・生糸・織物共進会開催される（11 月 20 日まで実施） 11 月 17 日　各県有志蚕業集談会（会長速水堅曹）が桐生新町で開かれる	・三国同盟（ドイツ・オーストリア・イタリア） ・10 月 10 日　日本銀行開業
1883	16	1 月 15 日　機工師の新井為蔵が没す（72） 1 月　新町 1 丁目に桐生物産売買所（上市場）が設立する 5 月 1 日　アムステルダム万国博覧会へ桐生織物が出品される（10 月 30 日まで実施） 5 月　今泉村の光性寺境内に明治 15 年 7 月流行のコレラ死亡者大施餓鬼供養塔が建立される 6 月　元老院権大書記官の金子堅太郎が来桐する ◇京都から軽便織込バッタン機を移入する	・立憲政治始まる ・鹿鳴館開館式
1884	17	4 月 17 日　桐生新町 1 丁目の森宗五郎が群馬県会議員として当選する 5 月　安楽土村に桐生縮緬会社が設立される（明治 32 年 6 月 25 日解散） 7 月 11 日　町会規則議員が定数 10 人に改正される 7 月 17 日　明倫講社桐生分社が設立される	・5 月 1 日　日本鉄道、新町～高崎間開通により上野～高崎間が全通する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1884	明治 17	7 月 28 日　新町・新宿・境野・広沢・上久方・山田・下新田村に戸長役場が設置される 9 月　桐生新町戸長に田中要一郎が就任する 11 月　山田・東小倉・西小倉・須永・高津戸村・桐生新町間に小倉峠下の道路が新設される ◇織物不況 ◇この年から桐生の輸出羽二重の生産が始まる	･8 月 20 日　日本鉄道、高崎～前橋(現新前橋)間開通
1885	18	2 月　楫取素彦、森山芳平へ桐生縑歌を揮亳する 3 月　下久方村（西久方町 1）法経寺が建立される 8 月 20 日　内閣編修副長官重野安繹一行が史料採訪のため来桐する 8 月　桐生新町･安楽土･下久方村連合戸長役場が設置される。後に、新宿村が加わる ◇成愛社蒸気力応用の織物整理の機械運転を始める	・フランスがベトナムを征服 ・インド国民会議派の結成 ・12 月 22 日　内閣制度を定める
1886	19	4 月 12 日　桐生新町 6 丁目浄運寺内に山田第一高等小学校が開校する（明治 41 年 3 月 31 日閉校） 7 月　桐生私立英語学校開校 8 月 11 日　桐生幼稚園（西幼稚園）を桐生山田第一小学校（桐生北小学校）内に設置する 8 月 18 日　教育家の青木義基が没す（81） 11 月 26 日　桐生織物講習所が設置される 12 月　佐羽喜六がヨーロッパ・アメリカへ渡航し外国製ジャカード・ピヤノマシンを輸入する ◇高力直寛が京都からドビーを移入する ◇星野伝七郎、石川県へ羽二重製織法を伝習する このころ、住谷活版所が開業する	・イギリスがビルマを併合 ･12 月 2 日　県内 22 ヵ所の登記所を設置する
1887	20	2 月 20 日　高力直寛、福井県に羽二重製織法を伝習する 2 月　書上商店輸出部が設置される ◇両毛鉄道、小山～足利間が設立される 5 月　桐生漢学私塾開塾 9 月 1 日　桐生織物品評会が開催される（9 月 7 日まで実施） 11 月 7 日　群馬県最初の機械制織物工場日本織物株式会社の設立が認可される 12 月　森卯平が福島県へ羽二重製織法を伝習する ◇北澄国蔵が桐生新町 5 丁目に鉱泉を開業する 12 月 11 日　政談演説会が桐生新町 3 丁目桐座で翌 12 日の両日開催され、愛知県の吉田某が演説する 12 月 15 日　日本織物会社、創立総会開催（資本金 50 万円、本社桐生新町、社長佐羽吉右衛門、輸入力織機を据え付ける明治 23 年 10 月 23 日開業） ◇新宿村の大工、出口宇之吉が仏米折衷式のジャカードを製作する	・二葉亭四迷『浮雲』第一遍刊 ・日刊紙『上毛新聞』が創刊される
1888	21	1 月 4 日　政談演説会。桐生新町で桑原静一・多賀恒信らが演説する 2 月 8 日　機業家の小林治平が没す（59） 7 月 25 日　山田郡下で大雷雨、桐生川氾濫し、家屋 12 戸流出などの被害が出る　上久方村、二渡村など梅田地区(22 年 4 月 1 日より梅田村)で山崩れ・渡良瀬・桐生川洪水 8 月 14 日　生糸商の橋本弥作が没す（58） 8 月 18 日　境野村民、桐生新町合併反対を陳情する 8 月 29 日　宗教家の新居日薩が没す（58）	・市町村制が公布される(明治 22 年 4 月 1 日から施行)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1888	明治 21	9 月　太田治安裁判所桐生出張所（前橋地方法務局桐生支局）が新町 1 丁目に設置される 10 月 18 日　桐生機業家 77 人元老院議長へ条約改正建白書を提出する 10 月　藤生佐吉郎（広沢村）・森山芳平（安楽土村）・横山嘉兵衛（新宿村）の 3 人、皇室御用織物の注文を受ける（窓掛用織物） ◇佐羽吉右衛門(6 代目)、織物業視察のためアメリカ・イギリス・フランス・支那へ渡航する 11 月 15 日　両毛鉄道、足利～桐生新町間が開通する 11 月 28 日　群馬県会で安楽戸村赤岩新川口締切問題紛争 12 月 25 日　両毛鉄道桐生停車場が設置される 12 月　佐羽喜六、アメリカ製撚糸機を輸入する ◇藤生佐吉郎・高力直寛が木製紋彫機を製作する ◇駅前・新町 5 丁目間、駅前・小曽根町間の道路が新設される このころ、愛隣堂（愛隣堂印刷株式会社）が開業する	
1889	22	4 月 1 日　桐生新町・安楽土・下久方・新宿村・上久方村字平井を合併し桐生町が成立する ◇初代町長に小内孫一郎が就任する(明治 24 年 4 月退任) ◇広沢・梅田・川内・相生・菱村が成立する 4 月 18 日　第 1 期町会議員二級（12 人）選挙 4 月 19 日　町会議員一級（12 人）選挙	･2 月 11 日　大日本帝国憲法の発布 ・物価・株価の下落始まる（日本最初の経済恐慌）
		5 月 5 日　桐生物産会社で稲葉正邦などを講師に神道演説会が開催される（桐生物産会社の跡地は県立桐生織物学校になり、その後山田郡立桐生高等女学校、群馬県立桐生女子高等学校を経て桐生市立青年の家となる） 5 月 10 日　浄運寺で、尊皇奉仏大同団の仏教演説会が開かれ、大内青巒らが演説する 6 月 1 日　桐生郵便局と桐生電信局が合併し、桐生郵便電信局と改称する 7 月 27 日　国学者の橘本直香が没す（83） 7 月 29 日　日本織物株式会社が設立される（明治 35 年 3 月 2 日解散） 9 月　渡良瀬川が洪水 10 月 9 日　条約改正政談演説会が浄運寺で開催され、河野広中・井上角五郎・吉田正春らが演説する 10 月 16 日　群馬公議会政談演説会が桐生町の千歳亭で開催される 10 月 22 日　桐生機業家総代森山芳平ら、条約改正中止の建白書を元老院に提出する 10 月　菱村で種痘所を設置する 11 月 20 日　両毛鉄道、桐生―前橋間が開通し、小山―前橋間が全線開通する 11 月 25 日　芝居小屋桐座（後のオリオン座、平成 15 年閉館）が桐生町大字安楽土（現宮本町 1）に開業する ◇小説家の幸田露伴が来桐する	・4 月 1 日　県内 206 町村に町村制が施行される
		12 月 24 日　自由政談演説会が桐生町物産会社で開催され、桧皮彦四郎が「国家哀原論・代議士責任論」と題して演説する	・12 月 20 日　両毛鉄道の利根川橋梁が完成する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1890	明治 23	3 月　山田高等小学校へ天皇皇后の御真影が下賜される 8 月 9 日　政談演説会が桐生町で開催される 8 月 23 日　渡良瀬川が洪水（足尾鉱毒事件の端緒） ◇日本織物株式会社がリボン・壁糸織を製造する ◇フランス製金筬（かなおさ）を輸入する ◇桐生町で滅灸講習会開催 ◇上毛訓盲院桐生支部が開設される ◇桐生物産会社が解散す	・7 月 1 日　第 1 回総選挙 ・11 月 25 日　第 1 回帝国議会が開かれる ・「教育勅語」発布
1891	24	2 月　『山田郡教育会雑誌』が創刊される 4 月　加藤義質が町長に就任する（2 代。明治 26 年 6 月退任） 7 月　渡良瀬川が洪水 11 月　新町学校開校 12 月　『桐生商工同盟会々誌』が創刊される ◇日本織物株式会社、織姫繻子を製造する ◇境野村、石井涛吉が絹紡績織（富士絹）を製造する ◇金融恐慌 ◇県内で最初の街燈が灯った（日本織物会社の水車タービン発電が作動する） 12 月 8 日　田中正造、衆議院に初めて足尾鉱毒事件に関する質問書を提出する	・8 月 27 日　露仏同盟が成立
1892	25	1 月　新町学校が開校する 2 月 28 日　教育家の片桐ていが没す（54） 2 月　西安楽土に桐生町物産市場会社（下市場）が認可される（現永楽町、昭和 5 年 6 月解散） 3 月 21 日　俳人の大沢李亭が没す（66） 4 月　町会議員無級制に改正される 5 月 23 日　教育家の新井法山が没す（75） 8 月　新宿定善寺、太田大光院呑竜上人の分霊を安置する（別名「呑竜様」といわれ始める） 10 月 19 日　森山芳平・藤生佐吉郎、織物業の発展に貢献した功績により緑綬褒章を受章する 12 月 7 日　一本木村（広沢町 7）で火事 このころ、桐生町でランプが使用される	・4 月 1 日　官設鉄道横川―軽井沢間開通し、高崎―直江津間が全通する
1893	26	2 月 10 日　桐生商工業組合（織物組合の前身）が設立認可される（～明治 27 年） 5 月 1 日　シカゴ万国博覧会に森山芳平作の『四季草花模様卓被』などが出品される（10 月 30 日まで実施） 6 月　桐生電燈合資会社が設立される。桐生町に電燈が点灯 6 月　小島春比古が町長に就任する（明治 30 年 6 月退任） ◇横浜ローゼンソール商会、佐羽商店への注文品を取消す 9 月 23 日　井上毅（いのうえこわし：文部大臣）が来桐する 10 月　明治天皇前橋行幸の際、桐生織物を天覧する 11 月 1 日　自由党栗原亮一・片岡健吉が来桐する 12 月 15 日　郡立山田第一高等小学校に付属実業補習学校が付設される 12 月　桐生商工業組合、国会へ絹織物直輸出奨励を請願する ◇岩崎民三郎が勾配甲斐絹織製造する ◇桐生料理店組合が設立される	・9 月 11 日　官営富岡製糸場を三井に払い下げ

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1893	明治 26	◇吉野屋が開業する ◇山田郡医会が設立される	
1894	27	1 月 9 日　桐生商工業組合、ローゼンソール商会との取引拒絶を決議する（4 月 10 日解決） 2 月 26 日　『桐生商工業雑誌』第 2 号で治安を害する記事を掲載して発行停止を命じられる　（明治 28 年 1 月廃刊） 4 月　日本織物株式会社、東京明治座で市川左団次一座に宣伝劇織姫繻子緑色糸の上演を約定 ◇大出東皐（おおでとうこう）が天満宮に紗綾市の図を奉納する 4 月　天満宮開帳 5 月 29 日　県内の国幣社や県・郷・村社の大祭・公式祭祀を定める 8 月　日清戦争従軍のため、桐生町民 81 人が出征する 9 月 15 日　歌人の二渡信経が没す（70） 9 月　第二国立銀行桐生支店が設置される（明治 36 年閉店） 11 月 4 日　金子堅太郎（農商務次官）が来桐する 11 月 23 日　桐生織物直輸出組合が設立される 11 月　桐生町消防組が発足する	・条約改正 ・日清戦争（～95） ・東学農民の反乱 ・北里柴三郎ペスト菌を発見
1895	28	1 月 22 日　佐羽吉右衛門(5 代)が没す（45） 5 月　桐生町、日清戦争従軍者の凱旋が行われる 7 月 31 日　機業家の青木熊太郎が没す（44） 11 月 17 日　俳人の周東優美が没す（46） 12 月　能役者の沢井貞右衛門が没す（67） ◇桐生伝染病院が設置される ◇『桐生物価新報』が創刊される（明治 31 年 5 月廃刊）	・下関条約・台湾出兵、三国干渉 ・マルコーニの無線電信
1896	29	1 月 8 日　桐生織物学校の設立が許可される（4・1 開校） 3 月　相生村大字天王宿村（相生町 3）で火事 4 月 1 日　桐生織物学校が開校する（大正 2 年 3 月 31 日閉校） 4 月 19 日　桐生町で『上毛青年評論』（編集人蛭間幸三郎）が創刊される 5 月 5 日　山田郡連合農会が設立される 5 月　岡公園に日清戦争凱旋記念碑が建立される 6 月 20 日　新宿堰（しんしゅくせき）用水堰紛争が起こる 7 月 21 日　渡良瀬川が洪水により鉱毒問題が再燃し、田中正造、この日から群馬・栃木県で被害調査のため奔走する（8 月 17 日、9 月 8 日も大洪水） 7 月　県内全域に赤痢が大流行し、2,000 人余が死亡 8 月 1 日　山田郡会が成立し、桐生町から 2 人の議員を選出する（大正 12 年 3 月 31 日廃止） 8 月　農商務大臣の榎本武揚（えのもとたけあき）が来桐する（東 4 丁目旧森山芳平屋敷跡地に碑文有り） ◇雑誌『桐生の里』が創刊される 10 月　買継商佐羽商店が倒産し、両毛の織物界に恐慌を招く 11 月　桐生税署（税務署）が設置される 12 月　菱村農林会が設立される	・4 月 6 日　第一回オリンピックがアテネで開催される ・産業革命が波及する（産業革命は 1760 年代イギリスに始まり 1830 年代以降、欧州諸国に波及） ・8 月 1 日　本県に「群制」が施行される

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1896	明治 29	◇飯塚春太郎が輸出向タフタ織を製造する ◇桐生談話会が設立される ◇桐生育英学校が開校する ◇三地合資会社が設立される	
1897	30	1 月 1 日　両毛鉄道を日本鉄道へ譲渡する 3 月 4 日　相生村ほか 2 か村が国会へ足尾銅山鉱毒排除を請願する 4 月 1 日　桐生町議員、足尾銅山鉱毒事件の余波をうけて総辞職する 4 月　桐生商工業組合、群馬県知事へ公娼設置反対を陳情する ◇新居喜三次が丸山へ葡萄苗 300 本植え付ける 5 月 23 日　医師の桑原鼎美が没す（82） 5 月　田中正造らを招き足尾銅山鉱業停止大演説会を開催する 6 月 20 日　山下篤愛が町長に就任する（明治 34 年 6 月 19 日退任） 9 月 8 日　渡良瀬川・桐生川が洪水 9 月 14 日　境野村が政府に鉱毒被害地復旧を政府に請願する 9 月 30 日　歌人の書上守雄が没す（71） 11 月 2 日　教育家の真井宗周が没す（80） 11 月 4 日　足利銀行、桐生支店が開設される 11 月　桐生実業青年義団が設立される ◇桐生町消防手の制服を決定する ◇桐生キリスト教青年会が桐生町基督教会堂に設立される（会員 30 人） ◇能役者の波吉宮門が来桐する	
1898	31	4 月 24 日　俳人の大沢梧谷が没す（25） 5 月 12 日　桐生町大字桐生新町 3 丁目で大火 7 月 1 日　第四十国立銀行を引継ぎ、本店を館林町から桐生町へ移して、四十銀行発足（払込資本金 84 万円、頭取南條新六郎） 9 月 6 日　県内全域で台風による水害が起こり、特に渡良瀬川流域に鉱毒被害（～7 日） 10 月　桐生物産同業組合の設立が認可される（明治 32 年から輸出品検査が始まる） 11 月 18 日　桐生町大字新宿村小字稲荷塚 996 番地附近の一区画が貸座敷営業地に指定される（11 月 24 日取消） ◇能役者の宝生九郎が来桐する ◇産業運動指導者の前田正名が来桐する	・フィリピンがアメリカ領になる ・徳冨蘆花伊香保で小説『不如帰』を著す ・船津伝次平が没す（天保 3 年生まれ明治三老農の 1 人）
1899	32	2 月 22 日　桐生町大字新宿村の三ツ塚古墳出土品を、帝室博物館（後の東京国立博物館）へ寄付する 3 月 18 日　農商務大臣の曾禰荒助が鉱毒被害地視察のため利桐する 7 月 22 日　桐生川が洪水 8 月 29 日　岡登堰水利組合が設置される 9 月 11 日　桐生川が洪水 ◇桐生町で紋絣織が製造される ◇桐生町、衛生組合を設立する このころ、梅田村大字高沢村小字寺裏で砥石を採掘する	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1900	明治 33	3 月 1 日　小島見竜が没す（73） 3 月　芝居小屋新松座が開館する 3 月　山田郡役所が新築される(建物 150 坪の洋風庁舎) ◇新居喜三次が丸山へ松 500 本を植樹する 4 月 1 日　佐羽喜六が清国で没す(43：安政 5 年生まれ日本織物株式会社の常務取締役　機業家) 5 月 18 日　桐生町の三織物買継商支払停止 7 月 1 日　四十銀行、臨時株主総会で、南條新六郎に代わって桐生町の金融業者、森宗作が頭取に就任する 7 月 10 日　桐生川が洪水 9 月　桐生倶楽部の前身となる桐生懇話会が設立される(大正 9 年 2 月 14 日解散) ◇飯塚春太郎、ドイツ製整経・繰返・管巻機を輸入する ◇桐生猟友会が設立される ◇桐生芸妓取締所が設置される ◇桐生館が開業する	
1901	34	1 月　菱青年協和会が設立される 4 月　町会議員の定員を 30 人に改正する 6 月 28 日　甲斐信夫が町長に就任する（明治 42 年 6 月 27 日退任) 7 月 6 日　桐生川が洪水 8 月 1 日　俳人の岸豊湖が没す（53） 10 月　摂津国西宮神社の分霊を勧請し桐生西宮神社が建立される 11 月　桐生町役場（後の桐生市役所）が安楽土（現永楽町）に新築される ◇相生村報国会が設立される 12 月 1 日　番（長沢）幹子により、桐生裁縫専門女学館（現私立桐生第一高校）が創立される ◇桐生愛国婦人会が設立される ◇金融恐慌	・11 月 18 日　八幡製鉄所の完成
1902	35	3 月 5 日　新居喜三次が丸山へ桃苗 200 本を植付けする 4 月 21 日　歌人の橘道守が没す（51） 4 月　天満宮開帳 ◇山田郡第 1 区乙種学事会が設立される 5 月 1 日　桐生町の田辺善次が貸自転車業を開業する 5 月 11 日　桐生町大字桐生新町 1 丁目で 50 戸が焼失する 6 月 3 日　皇太子殿下（大正天皇）が来桐する 8 月 5 日　教育家の山下雪窓が没す（64） 9 月 26 日　救世軍桐生小隊が発足する 9 月 28 日　渡良瀬川が洪水 9 月　日本織物株式会社が桐生織物株式会社に名義変更 11 月 16 日　新宿郵便受取所（錦町郵便局）が開業する 12 月 4 日　模範工場桐生撚糸合資会社（後の日本絹燃）創業社員総会が開催される（専務取締役に前原悠一郎） ◇桐生町・郡役所間の道路が改修される。 ◇桐生・前橋線道路新設 ◇赤岩橋が開通する(12 月 4 日) ◇桐生青果市場（大桐青果市場）が設置される ◇桐生町内 5 か所に公共便所が新築される ◇山田第一高等小学校に野球部が新設される このころ、桐生町付近の機屋の就業時間が午前 5 時 30 分から午後 11 時までとなる	・1 月 30 日　日英同盟

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1902	明治 35	◇活動写真が映写される ◇大字桐生新町 2 丁目の屋台が完成する	
1903	36	1 月 16 日　『桐生商工案内』が発刊される 8 月 10 日　大出東皐の百画会が開催される 11 月 30 日　桐生警察署が焼失 ◇輸出向タンタンピース織が製造される	
1904	37	1 月 15 日　桐生町有志が政府へ電話設置を請願する 1 月 29 日　自由民権運動家の板垣退助が来桐する 2 月　桐生・伊勢崎・足利織物同業組合、第 20 議会で「非常特別税法案」の否決を群馬・栃木両県選出代議士に依頼する 5 月 3 日　模範工場桐生撚糸合資会社(後の日本絹撚株式会社)が設立される 5 月　森合資会社創立（森宗作、資本金 30,000 円、金銭貸付、有価証券売） 6 月 25 日　桐生教会で「対時局基督教演説会」が開かれ海老名弾正・島田三郎が演説する 7 月　桐生織物研究会が設立される 9 月　境野鉄工合資会社が設立される 12 月　桐生裁縫専門女学館を桐生裁縫女学校と改称する ◇職工子弟の修養を目的とする桐生職工義会が開会する ◇桐生彰徳婦人会が桐生町の浄運寺内に設立	・日露戦争（～05）
1905	38	1 月　菱村森林保全会が設立される 3 月 14 日　画人の大出東皐が没す（65） 3 月 31 日　伊勢崎染織学校を桐生織物学校に合併し、群馬県立織物学校となる 5 月　清浦奎吾が来桐する 6 月 27 日　械具師の出口宇之吉が没す（75） 9 月 26 日　桐生物産同業組合が定款を改正し桐生織物同業組合と改称する ◇大凶作 このころ、森秀織物工場開業する	・ポーツマス講和会議
1906	39	1 月　元桐生町長の小島春比古が没す（65：岡公園の建設に尽力） 2 月 1 日　桐生・伊勢崎・足利・西陣・八王子・米沢織物同業組合、織物消費税に関する陳情書を政府および第 22 議会に提出する（織物消費税、明治 37 年毛織物に課す税率 15%。昭和 25 年廃止） 3 月　森宗作の援助を受け、広田孝五郎が私立桐生育英学校を大字桐生新町 5 丁目に開校する（大正 5 年頃閉校） 5 月 17 日　桐生町大字安楽土村に渡良瀬水力電気株式会社が創立される（初代社長森宗作） 5 月 24 日　桐生町大字桐生新町 4 丁目で 22 戸が焼失 6 月 16 日　図案家の彦部忠吉郎が没す（65） 6 月 18 日　閑院宮載仁殿下が産業視察のため来桐する 7 月 19 日　渡良瀬川・桐生川が洪水 7 月　私立桐生裁縫補習学校開校 8 月 29 日　黒川眞頼が没す（78：文政 12 年生まれ国学者・歌人・和算家）	・鉄道幹線国有化

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1906	明治 39	12 月 10 日　本格的な織物準備機械メーカー、合資会社桐生製作所（後の桐生機械株式会社、現㈱キリウ）が設立される 12 月 24 日　海軍元帥（げんすい）の伊東祐亨（いとうすけゆき）・海軍軍人上村彦之丞（かみむらひこのじょう）一行が産業視察のため来桐する	
1907	40	1 月 12 日　政府援助による製織・整理の本格的機械工場、両毛整織株式合資会社が設立される（明治 45 年、株式会社に変更） 2 月 25 日　東京大相撲が興行される 3 月 9 日　桐生製作所が営業を開始する 3 月 10 日　桐生郵便局電話開通（3 月 21 日電話事務開始） 3 月 21 日　桐生・伊勢崎両郵便局、電信業務を開始する 3 月 23 日　桐生・伊勢崎両織物同業組合、大日本織物連合会理事堀越常七の指示で第 10 回総選挙に非増税の立場から細野次郎を推薦する 3 月 26 日　山田郡医師会が設立される（会長藤江良作） 4 月 5 日　桐生尋常高等小学校御真影奉置所（奉安殿）が建設される（昭和 21 年 7 月撤去） 5 月　両毛織物買継商 18 人得意先へ買継口銭引上を通告する 8 月 4 日　能楽館（能舞台が）開館する（後の能楽館、平成 15 年閉館） ◇能小鼓役者の幸清次郎が来桐する 8 月 25 日　渡良瀬川が洪水 10 月 16 日　京都市で開催された全国織物税廃止同盟会大会に桐生織物同業組合から飯塚春太郎・金子竹太郎が参加する 11 月 1 日　桐生壮丁夜学会が開設される 11 月 26 日　絹買商の佐羽吉右衛門(4 代)が没す（62） ◇機屋堀祐平、リボンの横糸に人絹糸を使用する（人絹糸使用の最初） ◇食肉商坂田為之助が新宿に私設屠場（大字新宿村小字浜ノ原）を設立する（昭和 22 年 9 月流失） ◇恵比須通り新設 このころ、足踏自動織機バッタンが使用される	・三国協商が成立（英・仏・露） ・6 年制義務教育
1908	41	2 月 11 日　広沢村の普門院が焼失する 2 月　渡良瀬水力電気株式会社電燈点火規定・電力供給規定発表 3 月　元川内村長の高草木兼太（たかくさぎかねた）が没す（77） 4 月 1 日　桐生尋常高等小学校へ天皇・皇后陛下の御真影が下付される（昭和 21 年返還） 4 月 4 日　山田郡立桐生高等女学校（現群馬県立桐生女子高等学校）、桐生町大字安楽土村に設立される 4 月 8 日　大雪 5 月 4 日　山田郡立桐生高等女学校が開校する 5 月 19 日　赤岩堰普通水利組合が設立される（昭和 24 年 8 月 4 日解散） ◇桐生町農会が設立される（昭和 19 年 3 月解散） 7 月　輸出織物販売共益商会が設立される ◇桐生織物同業組合事務所棟が新築される ◇シャム国公使一行が来桐する ◇八坂神社が境内社とともに美和神社境内に移転、御興倉新築される	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1909	明治 42	2 月 1 日　桐生織物同業組合、織物消費税廃止の全国織物同業者大会に参加する 2 月 22 日　桐生織物同業組合、織物消費税に反対しアラスカユーコン太平洋博覧会（シャトル市）への出品拒絶を決定する 2 月　桐生町、出獄人保護会が設立される 3 月 2 日　桐生織物同業組合、織物消費税全廃を決議する 3 月 3 日　桐生・伊勢崎両織物同業組合、神山閏次郎知事に織物消費税撤廃を陳情する 3 月 3 日　桐生・伊勢崎両織物同業組合、織物消費税全廃のための全国織物業者臨時大会（神田錦輝会館）に参加し、帝国議会などに陳情する 3 月 17 日　機業家の森卯平が没す（71） 5 月 21 日　浅間山が大噴火する 7 月 2 日　桐生青年会興風会が桐生町 1 丁目小島勘一宅にて設立 7 月 12 日　前原良太郎が町長に就任(大正 8 年 8 月 20 日退任) 7 月 13 日　渡良瀬川が洪水 7 月　松井仙太郎が高柳式力織機を購入する ◇近藤源造が桐生町でカトリック教（旧教）を講義する 9 月　桐生町の森林保全会が設立される 10 月 23 日　俳人の奈良繁弘が没す（72） 10 月 26 日　教育家の望月福子が没す（71） 11 月　桐生青年交友会が設立（会員 45 人） 12 月 7 日　浅間山が大噴火する ◇元内務大臣の平田東助が来桐する ◇韓国特使の李鳳来一行が来桐する ◇桐生図案展覧会が開催される ◇本多七九郎が岡公園に桜を植樹する ◇相生村に猩紅熱が流行する ◇華道師匠の新島完三が来桐する ◇岡公園が開園する	・新劇運動おこる ・実業家の野間清治東京で「大日本雄弁会」（講談社の前身）を創立する
1910	43	1 月 24 日　彗星出現 1 月　塩谷亀次郎がドイツ・シエロル製力織機を輸入する 1 月　桐生下久方青年親睦会が桐生町下久方 168 に設立（会員 40 人） 2 月　桐生町で火防組合が発足する 3 月 5 日　『黒川眞頼全集』が発行される 4 月 1 日　桐生産婆看護婦養成所(准看護婦学校)が設立される 4 月　桐生町近隣 38 か寺院の住職により、慈善博愛事業の実施を目的とする桐生積善会が設立される 6 月 2 日　実業家の渋沢栄一が来桐する 7 月 3 日　生糸商の星野直右衛門（3 代）が没す（65） 8 月 2 日　渡良瀬川が洪水 9 月 21 日　機業家の後藤定吉が没す（63） 2 月 25 日　境野村が模範自治村として表彰される 12 月 1 日　下広沢耕地整理組合が設立される 12 月 25 日　浅間山が大噴火する ◇第 26 回帝国議会に「桐生高等染織学校設置ニ関スル建議案」が提出され、衆議院で可決される	・野間清治雑誌『雄弁』を刊行する ・大逆事件、韓国を併合
1911	44	1 月 4 日　教育家の加藤忠作が没す（85） 1 月 10 日　元群馬県会議員の今泉健次郎が没す（63：桐生撚糸合資会社設立に尽力） 1 月　買継商、書上文左衛門、業界情報誌『書上タイムス』を創刊する	・関税の自主権をえる ・辛亥革命

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1911	明治 44	2 月 9 日　桐生町大字桐生新町 2 丁目で火事 4 月 15 日　足尾鉄道、下新田～大間々間が開通する 5月　岩下才助により桐生町大字桐生新町 4 丁目と西安楽土を結ぶ岩下新道が新設される 5 月 8 日　浅間山が大噴火する 6 月 28 日　森宗久（2 代目宗作）が地方産業に貢献した功績により藍綬褒章を受章する 6 月　菱信用組合が設立される ◇桐生町大字桐生新町・大字安楽土村線が新設される 12 月 3 日　浅間山が大噴火する 12 月 31 日　足尾鉄道、沢入・足尾間の開通により、下新田・足尾間が全通する	
1912	45	1 月 1 日　機業家の岩崎民三郎が没す（61） 3 月 23 日　桐生御召縮緬鑑賞会が東京帝国ホテルで開催される 4 月 22 日　桐生倶楽部の前身となる無名会が設立される	・第一次護憲運動（～13）
	大正元	7 月 7 日　日露戦争彰忠碑（金銅製獅子奮迅像）が岡公園に建立される（昭和 18 年 2 月供出） 8 月 7 日　画人の江原六石が没す（41） 9 月 21 日　利根発電株式会社が渡良瀬水力電気株式会社を合併する	・7 月 30 日　明治天皇崩御
1913	2	1 月 1 日　電気館（映画上映）が開館する 1 月 27 日　憲政擁護の山田郡民大会が開催される 2 月 11 日　桐生実業研究会が設立される 2 月 21 日　桐生町内小学校児童へ『郷土の華』を配布する（昭和 17 年中止） ※『郷土の華』は桐生の小学校児童に国の祝日ごとに配られた郷土の偉人や文化財などを開設する冊子。執筆は小学校の教師があたった 2 月 23 日　機業家の横山菊崖が没す（62．嘉兵衛、嘉永 5 年生まれ・俳人） 3 月 19 日　東武鉄道、太田―相老間が開通　新桐生駅新設 ◇両毛整織株式会社が貨客兼用自動車を購入する 3 月　県立桐生織物学校が廃止される 5 月 9 日　県人口 100 万人突破と発表される 9 月 4 日　田中正造が没す（73：天保 12 年生、栃木県出身）	
1914	3	2 月　教育家の井岡大造が没す（65） 2 月　桐生尋常高等小学校、「我が自治的教育」と題して大正新教育を主唱する 4 月 15 日　両毛織物新聞が創刊される（昭和 15 年 9 月廃刊） 4 月　樹徳裁縫伝習所（私立樹徳高校の前身）が開校される 4 月 8 日　豊国義孝主宰の郷土誌『上毛及上毛人』が創刊される(3 号で一担休刊、大正 5 年復刊し以後 297 号まで刊行) 5 月　絹買商書上文左衛門(11 代)没す（50） 5 月 31 日　小野里喜左衛門（4 代）没す（65） ◇桐生町大字新宿小字稲荷塚 1009 に火葬場が建設される 6 月 22 日　桐生懇話会、営業税金廃止を決議する 6 月 25 日　梨本宮安正殿下が産業視察のため来桐 8 月 13 日　渡良瀬川が洪水 9 月 18 日　樹徳裁縫伝習所が樹徳裁縫女学校と改名し、浄運寺境内に移転する（『桐生市教育史』）	・第一次世界大戦に参戦（～18） ・パナマ運河が開通

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1914	大正 3	11 月　桐生買継商が京・阪・名織物問屋連合会から口銭支払い停止を通告される 11 月 27 日　梅田村で火事 ◇小松普助・西尾末雄が南支那・南洋方面を視察する ◇桐生鉾・屋台雑子・木遣のレコードが発売される	
1915	4	1 月 18 日　機業家の藤生佐吉郎(2 代)が没す（65） 1 月 20 日　中耳（なかみみ）織で政府より織機借用（リボン織出機の一種）(『織物史』) 1 月　桐生キリスト教講義所（現東部教会）が設置される 2 月 1 日　桐生買継商が織物問屋連合会から買継口銭支払廃止を通告される 2 月 27 日　機業家の森山芳平(初代)が没す（安政元年生、桐生織物の功労者） 2 月　東洋織布株式会社桐生工場が設置される ◇村田兵作（桐生織物の職工）村田式力織機を完成する 4 月 1 日　明照保育園が開園する 4 月　岡公園に遊鳳舎が設置される 5 月　東洋宣教会桐生支部（現泉町教会）が設置される 7 月 2 日　明治商業銀行桐生支店（後の富士銀行桐生支店（平成 7 年閉店)）が開業する 8 月 7 日　足利銀行貯蓄部新宿代理店（足利銀行新宿支店）が開業する 9 月 1 日　群馬県輸出織物検査所が設置される ◇桐生・伊勢崎線道路が新設される ◇錦桜橋が開通する（式典で完成は前年か） ◇小川組桐生出張所（小川建設桐生営業所）が開業する	・第 1 回全国中等学校野球大会開催 ・1 月 18 日　中国に二十一か条の要求を出す
1916	5	4 月　官立桐生高等染織学校が設立される（群馬大学工学部の前身、初代校長は大竹多気） 4 月　天満宮開帳 5 月　丸生桐生魚菜市場（丸生桐生魚市場）が設置される 5 月　私立織姫裁縫女学校開校（～大正 10 年 11 月） 6 月 19 日　岡公園、桐生町の管理となる 6 月　観音院日限地蔵尊堂が建立される 7 月 17 日　二州橋が開通する ※二州橋は幸橋と稲荷橋の間の桐生川に架けられた橋 7 月 29 日　渡良瀬川が洪水 7 月　飯塚春太郎、オーストラリヤ向けのスパン・クレープ織を製造する 8 月 5 日　機業家の横山久四郎が没す（76） 8 月 17 日　暮田柳圃（平八郎）が没す（87：文政 12 年生まれ、俳人） 9 月 8 日　県内にコレラが発生する ◇桐生地方に八木節が流行する	・12 月 9 日　夏目漱石没す（50）
1917	6	4 月 11 日　桐生町立桐生中学絞（現群馬県立桐生高等学校）が設立される 6 月　群馬貯蓄無尽株式会社桐生代理店（後の大生相互銀行桐生支店、東和銀行桐生支店）が開業する 7 月 17 日　相老駅付近（20,000 坪）でアメリカ人アート・スミスの曲芸飛行が行われる 12 月 9 日　機業家の江原貞蔵が没す（76）	・3 月主婦の友創刊
1918	7	4 月 1 日　桐生町細民救助規程が実施される（昭和 6 年 12 月 31 日廃止）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1918	大正 7	4 月 8 日　桐生織物同業組合、工場就業時間を 1 日 12 時間に短縮する 6 月 1 日　足尾鉄道会社の下新田～足尾本山間鉄道を買収、国有化される 6 月 10 日　桐生町、市制施行調査委員 45 人を嘱託する 8 月 16 日　前橋・高崎・桐生などの米穀商組合、米廉売を始める 8 月 26 日　書家の望月快三が没す（61） 9 月 1 日　群馬県米穀検査所桐生支所（群馬食糧事務所桐生支所）が設置される 10 月　桐生染布工業株式会社が設立される ◇桐生製材株式会社が設立される ◇江原辰之助、アメリカ・カナダ方面を視察する ◇共立機業株式会社（共立織物）が設立される ◇桐生聖書研究会が設立される ◇市立病院が改築移転する	・9 月 29 日　原敬の政党内閣が成立 ・鈴木三重吉『赤い鳥』創刊
1919	8	4 月 25 日　天理教が桐生町宣教所を開設する 5 月 11 日　桐生工業会が設立される 10 月 7 日　桐生芸者の箱丁、ストライキを起こす 10 月 29 日　桐生織物同業組合、織物取引の市日制を廃止、連日取引となる 11 月 8 日　沢田荘太郎が町長に就任する（大正 10 年 2 月 28 日退任） 12 月　桐生倶楽部が発足する ◇小曾根勘助が高沢川に発電所を設置する ◇茶話会（歯科医師会）が設立される	・普通選挙運動が盛んになる ・3・1 事件（朝鮮） ・5・4 運動（中国）
1920	9	1 月　中野善次郎が歌御会始勅題朝晴雪に選ばれる（後に歌碑建立する） ◇桐生倶楽部敷地内に桐葉軒が開業する 3 月　下広沢耕地整理組合開墾工事が完成する 3 月　私立日本絹撚工業補習学校開校 4 月 1 日　桐生積善会、職業紹介所（公共職業安定所）を設置する ◇県道に前橋・宇都宮線、伊勢崎・桐生線、太田・桐生線、桐生・彦間線、桐生停車場線、桐生・新桐生停車場線が認定される ◇桐生高等染織学校が桐生高等工業学校（群馬大学理工学部の前身）となる 4 月 18 日　両毛織物、恐慌対策として、5 月 1 日まで生産、取引を休止する 4 月　群馬県繊椎工業原料検定所桐生支所（桐生機業補導所）設置される（昭和 19 年 7 月廃止） 5 月 10 日　飯塚春太郎が桐生初の衆議院議員に当選する 5 月 16 日　稲荷橋が開通する 7 月　織物市日は七曜制が採用される ◇図案家長沢時基が没す（55） 8 月　私立桐生産婆看護婦学校開校 12 月　機業家星野伝七郎が没す 12 月 2 日　高崎歩兵第 15 連隊、シベリア出兵から帰還する ◇中野書次郎の歌碑が建立される ◇両毛回進社が開業する	・1 月 16 日　日本が国際連盟に加盟 ・3 月 28 日　市川房枝らが新婦人協会を結成する ・最初のメーデー

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1920	大正 9	◇10 月 1 日第 1 回国勢調査実施 総人口 76,988,379 人 うち内地 55,963,053 人 桐生町人口 37,674 人 世帯数 7,160 世帯	
1921	10	3 月 1 日 桐生町に市制が施行される。市長就任まで沢田荘太郎町長が市長臨時代理として任にあたる 3 月 7 日 桐生中学校、県立に移管される 4 月 1 日 桐生高等工業学校付属工業補習学校開校する(認可、5 月 1 日開校) 4 月 30 日 桐生市医師会が設立される（会長小内養蔵） 4 月 桐生市連合青年会が設立される ◇桐生訓盲所設置（昭和 3 年 3 月廃所） 5 月 10 日 帝国在郷軍人会桐生市連合分会が設立される ◇桐生市会議員（3 級）選挙 5 月 11 日 桐生市会議員（2 級）選挙 5 月 12 日 桐生市会議員（1 級）選挙 5 月 23 日 第 1 回桐生市会が開会 ◇前原悠一郎が議長就任（大正 14 年 5 月 9 日退任） 7 月 2 日 前原良太郎が市長に就任する（大正 14 年 7 月 1 日退任） 7 月 15 日 桐生市教育会が設立される 9 月 16 日 俳人の周東錦渓が没す（41） 9 月 内村鑑三の弟子金沢常雄が住谷天来の斡旋で桐生基督教会（組合）の牧師に就任する 10 月 常磐館（映画館）が開館する 11 月 9 日 織物整理業の佐々木元四郎が没す（63） 11 月 桐生写真研究会が設立される ◇飯塚茂平・加藤金一・松本光二が糸に絹・綿糸、緯に人絹糸を使用し女帯地製造する ◇納税組合が設立される ◇薬剤師会が設立される ◇市内循環乗合自動車が開業する ◇レンガ造りの藤江醫院が竣工する このころ、サイドカー付オートバイが流行する	・ワシントン会議 ・原首相が東京駅頭で刺殺される（65）
1922	11	3 月 9 日 有限責任桐生高等工業学校職員住宅組合が設立する 3 月 31 日 活動館が開館する（昭和 46 年 1 月 26 日閉館） 4 月 1 日 桐生土木管区（桐生土木出張所）が設立される 5 月 毛武自動車、桐生―太田間など、乗合バス営業を開始する 5 月 相生村大字下新田（相生町 2）に桐生製氷凍化工業株式会社が設立される ◇桐生キネマ（映画館）が開館する（大正 15 年 12 月 5 日焼失） 7 月 14 日 桐生・菱線が県道に認定される 8 月 25 日 渡良瀬川が洪水 10 月 11 日 機業家の青木保蔵が没す（82） 11 月 13 日 和田正秀が公益のために私財を寄付した功績により紺綬褒章を受章する 11 月 市内の小学校に後援会が発足する	・全国水平社の創立 ・日本農民組合の結成 ・イタリアにファシスト内閣が成立 ・ソビエト連邦が成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1922	大正 11	11 月 23 日　市庁舎落成 12 月 2 日　俳人の岡本照云が没す（83） ◇内村鑑三の推薦により、金沢常雄は桐生市を離れ、札幌独立教会の牧師に就任する	・日本共産党の結成 ・第二次護憲運動（～24）
1923	12	1 月　市内各小学校に休日文庫（図書館）が開設される 2 月　桐生盲学校開校 3 月 11 日　元京都帝大総長の沢柳政太郎（さわやなぎまさたろう）が来桐する 3 月　桐生人造絹糸株式会社が設立される 3 月 12 日　有限責任桐生文化住宅組合が設立する 4 月 1 日　石山・桐生線、桐生・深谷線、駒形・大間々線が県道に認定される 4 月 1 日　郡制が廃止される（大正 15 年 7 月まで郡長・郡役所は存続） 5 月　『桐生市報』が創刊される 8 月 12 日　国粋会桐生支部員と東毛立憲同志会員が対立した国粋会事件が起こる 8 月　林間学校が開設される 9月2日　朝鮮人暴動の飛語により桐生市の朝鮮人が警察署へ保護される 10 月 4 日　岩下才助（3 代）が没す（72） 12 月　羽鳥織物工場で労働争議が発生し、以後、東洋織布・両毛整織などでストライキが起こる	・9 月 1 日　関東大震災 死者 91,802 人 行方不明 42,257 人
1924	13	1 月 14 日　軍人の森邦武が没す（57） 2 月 19 日　機業家の森田福太郎が没す（78） 3 月 16 日　織物労働者による桐生労働組合が結成される 4月1日　桐生積善会による職業紹介所が無料宿泊所を設置する 5 月 30 日　機具師の村田兵作が没す（57） 8 月 13 日　渡良瀬川が洪水 9 月 19 日　桐生市女教員会が設立される 27 日　市内各尋常小学校に少年赤十字団が設立される 9 月　勤倹奨励桐生市委員会が設立される 10 月 6 日　納税組合功労者表彰	・イギリスで労働党内閣が成立
1925	14	2 月 14 日　桐生信用組合（現桐生信用金庫）が設立される 3 月 27 日　結核予防日が実施される 4 月 19 日　錦桜橋（鋼鉄ワーレントラス構造）が開通する 4 月 14 日　桐生積善会、桐生市大字桐生 77 番地に訓盲所を設立する ◇東武線道路新設 5 月 24 日　増山作次郎が市会議長に就任する（昭和 8 年 5 月 9 日退任） 5 月　市会議員二級制に改正される 8 月 12 日　関口義慶二が市長に就任する（昭和 15 年 5 月 15 日退任） 8 月 17 日　能楽師匠の徳永恒弥が没す（66） 9月1日　桐生市方面委員制度が実施される(大正 14 年 3 月県令第 19 号) 10 月 14 日　桐生ガス（瓦斯）株式会社が創立される ◇ラジオが普及 ◇『桐生商工時報』が創刊される	・治安維持法公布 ・男子の普通選挙制成立 ・ラジオ放送開始 ・社団法人日本放送協会設立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1926	大正 15	3 月 30 日　桐生駅前の 42 戸が焼失（『日本の大火』） 4 月 27 日　県内各地に霜害が起こる（～5 月 16 日） 5 月　市内各家庭に石油乳剤が撒布される 7 月 1 日　市内各小学校に青年訓練所が開設される（昭和 10 年 3 月青年学校に統合） 7 月 4 日　桐生市方面事業助成会が設立される 7 月　工場法が改正され織物業の年季制度に影響を与える 8 月 22 日　桐生郷土史料展覧会が開催される 8 月　上広沢潅漑水改良組合が設立する 9 月 1 日　桐生末広町郵便局が開局する（昭和 6 年 7 月廃止） 10 月 3 日　政治活動家の中島徳蔵が来桐する 10 月 21 日　童話作家・俳人の巌谷小波（いわやさざなみ）が来桐する 11 月 4 日　桐生中学校で武道大会出場禁止に反対するストライキが起こる 11 月 21 日　新川橋が開通する 11 月 26 日　梅田郵便局が開局する	・第 2 回国際女子陸上競技大会で人見絹枝が走幅跳びで優勝
	昭和元	12 月 26 日　元桐生町長の沢田荘太郎が没す（63） ◇医療救助が実施される このころ、桐生郷土史研究会が設立される	・12 月 25 日　大正天皇崩御
1927	2	3 月 24 日　桐生工場会連合会が設立される 4 月 1 日　常備消防が開設される 4 月 1 日　職業紹介所が桐生積善会から桐生市へ移管される（本町 5） ◇公設代書が設置される 4 月 2 日　桐生産業振興調査会が設立される 4 月 24 日　両毛織物組合連合会、金融恐慌のため極度の生産制限を決議する 4 月　家屋税が新設される 5 月　上毛貯蓄銀行桐生支店（現群馬銀行桐生支店）が設置される 6 月 23 日　桐生織物同業組合長ら朝鮮の織物状況を視察する 8 月 19 日　桐生・西桐生停車場線、相老停車場・下新田線が県道に認定される 9 月 9 日　桐生ガスがガスの供給を始める。 9 月 19 日　私立昭和幼児園（現昭和こども園）が芳町（現東 2 丁目）に開園する 10 月 22 日　群馬県農工銀行桐生支店が設置される（昭和 8 年 2 月 19 日廃止） 12 月 4 日　桐生市連合女子青年団が設立される ◇桐生市体育協会が設立される ◇この年桐生織物の力織機率 50％を超える ◇桐生北尋常小学校（北小学校）に青い目の人形ウォヘロちゃんが到着	・青い目の人形が本県に 142 体が到着する（米国の国際児童親善使節人形） ・南京事件 ・徳冨蘆花没（明治元年生、作家）
1928	3	1 月 15 日　商工省輸出織物桐生検査所が設置される（昭和 19 年 3 月 31 日廃止） 2 月 19 日　江原芳平が没す（嘉永元年生まれ生糸商・銀行家） 3 月 1 日　東武鉄道、太田－相老間が電化される 3 月 9 日　元海軍少将の丸橋彦三郎が没す（62） 4 月 10 日　天満宮開帳（～25 日） ◇常備消防(本町 3)に望楼が建設される（昭和 45 年 6 月解体撤去）	・第 16 回総選挙（最初の普通選挙） ・関東軍の川本参謀ら張作霖を爆殺する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1928	昭和 3	5 月 16 日　桐生物産信用販売組合が設立される 6 月 24 日　俳人の福田笠野（ふくだりつや）が没す（76） 10 月 2 日　桐生市紋章が制定される ◇岡部赤峰により『桐生地方史』が発行される 11 月 3 日　堀祐平らの尽力により新川運動場が完成する 11 月 10 日　上毛電気鉄道、中央前橋～西桐生間が開通する ◇西桐生駅舎が新設される ◇県内にジフテリアが流行する 12 月 6 日　藤江・新井医院が代用花柳病診療所に指定される 12 月 7 日　公益質屋が設置される（昭和 43 年 7 月 31 日廃止） 12 月 7 日　有限責任桐生睦住宅組合が設立される ◇チフス予防注射が実施される ◇塵芥焼却場（浜松町 1）が建設される	・治安維持法改正案緊急指令により公布
1929	4	2 月 4 日　人造絹糸織物消費税撤廃期成同盟会が設立される 3 月 7 日　宗教家の飯塚二葉が没す（88：賀茂神社宮司） 3 月 12 日　宮本町で 18 戸が焼失 ◇群馬県農会建物（明治 11 年新築の洋風建築）相生村役場として移築される（現桐生明治館：重要文化財） 4 月 8 日　昭和尋常高等小学校が開校する 4 月 21 日　民謡「桐生音頭」が試演される ◇桐生産婆会が設立される 5 月 10 日　市会議員普通選挙に改正 8 月 1 日　区制・町名改正が実施される（大字を廃止、61 町を新設） 9 月　群馬県細菌検査所桐生出張所が設置される 11 月 3 日　桐生市で初めての体育祭が新川グラウンドで開催される 12 月　教科動員・公私経済緊縮桐生市委員会が設立される ◇農業調査が実施される（耕地） ◇桐生市の人絹織物の生産額は福井市に次いで第 2 位となる ◇前原寛臣の歌碑が賀茂神社に建立される	・ドイツ飛行船ツェッペリン号霞ヶ浦に着く ・ニューヨーク株式市場大暴落し世界大恐慌に拡大
1930	5	2 月 1 日　南幼児園（南幼稚園）が開園する 2 月 11 日　帝国在郷軍人会桐生市連合分会海軍班が設立される 2 月 13 日　上水道布設の認可を受け臨時水道部が設置される 3 月 5 日　桐生市に関東無尽株式会社が設立される（後に群馬無尽株式会社に合併、現東和銀行） 4 月　桐生共栄会が設立される（昭和 15 年廃止） ◇菱村に霜害 6 月 15 日　『桐織ジャーナル』が創刊される（昭和 10 年 2 月廃刊） 6 月 29 日　桐生婦人会が設立される（昭和 9 年 1 月連合婦人会に統合） 6 月　青木藤太郎が絹洋服地を製造する ◇新町名による桐生市地図が作成される 7 月 30 日　渡良瀬川が洪水 10 月　聖トマス教会が設置される 11 月　健康週間が実施される ◇市内小学校野球競技会が開催される ◇幸橋が開通する ◇阿左美遊園地が開園する ◇国勢調査 群馬県人口 1,186,080 人　　世帯数 217,058 世帯 桐生市の人口 52,906 人　　世帯数 10,255 世帯	・ロンドン軍縮会議 ・内村鑑三没す（文久元年生、宗教家、思想家） ・田山花袋没す（明治 10 年生、作家） ・株式・商品相場暴落（昭和恐慌） ・米価暴落 ・東京～神戸間に特急「燕」運転開始 ・浜口首相、狙撃され重傷

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1931	昭和 6	1 月 5 日　桐生織物取引所が開設される 1 月　『両毛毎夕新聞』が創刊される（昭和 15 年 9 月廃刊） 3 月 1 日　市制施行 10 周年 3 月　境橋（鉄筋コンクリート丁型橋）が開通する ◇市内小学校で珠算講習会が開催される ◇上広沢養鶏組合が設立される 4 月 3 日　末広町 3 丁目・宮前町 2 丁目で 73 戸が焼失する(『日本の大火』) 4 月　桐生市職業紹介所が市役所敷地内に移転する 5 月　桐生市看護婦会が設立される 7 月 1 日　高崎地方専売局桐生煙草販売所（日本専売公社桐生出張所）が設置される 7 月 12 日　桐生郵便局が末広町 1 丁目に移転する 7 月 19 日　桐生末広町郵便局が本町 4 丁目へ移転して本町郵便局となる 9 月　桐生信用組合南営業所が設置される 10 月 10 日　視力保存日が実施される 10 月 16 日　機具師の新橋兼吉が没す 11 月　桐生市教員会が発足する 12 月 6 日　教育家の長沢幹子が没す（65） 12 月 26 日　浜松町郵便局が開局する ◇桐生西部購買組合が設立される（昭和 19 年 3 月解散） ◇トーキー映画が上映される ◇福田笠野の句碑が建立される（定善寺境内）	・満州事変 ・稲の農林一号が完成
1932	7	2 月 24 日　上海事変従軍のため宇都宮第 14 師団から動員が下命される 3 月 8 日　元桐生市長の前原良太郎が没す（64） 3 月 10 日　出征軍人家族の後援会が発足する（昭和 8 年 7 月解散） 3 月 18 日　東武鉄道、相老－新大間々間開通により太田－新大間々間が全通する 3 月　桐生簡易保険所が設置される 4 月 1 日　桐生市の上水道給水が開始される。水道山記念館が建築される 4 月 21 日　殉国者の市葬が執行される 5 月 12 日　実業家の 2 代目森宗作が没す（70） 6 月　桐生輸出絹織物工業組合が設立される ◇彦部駒雄ほか 5 人、満州方面を視察する 9 月 7 日　全桐生織物宣伝大会を京都で開催し余興に八木節が公演される 9 月 16 日　満州国承認祝賀提灯行列が実施される 9 月 21 日　桐生市梅田猟区が設定される 10 月　貧民救助のため政府米 700 俵が払い下げられる 11 月 6 日　帝国飛行協会桐生支部が設立される 11 月 7 日　元陸軍中将の新井亀太郎が没す（58） ◇桐生市の商業戸数が工業戸数を凌駕する ◇本町 1～6 丁目の道路へ舗装工事が施工される	・海軍将校ら犬養毅首相を射殺する（5.15 事件） ・大日本国防婦人会創立 ・国立の癩療養所、草津町に施工し第二国立療養所栗生楽泉園が開園する
1933	8	4 月 1 日　山田郡境野村が合併する 4 月 3 日　火葬場従事人による死体遺棄事件が発覚する。屍体・白骨 266 体（昭和 9 年 3 月結末） 4 月 22 日　火葬場慰霊祭が執行される 5 月 22 日　田島覚太郎が市会議長に就任する（昭和 17 年 5 月 20 日退任）	・国際連盟を脱退 ・ドイツでナチスが政権をとる

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1933	昭和 8	5 月　盛運橋（鉄筋コンクリート拱橋）が開通する 8 月　織物同業組合、宣伝映画「弥次喜多道中膝栗毛桐生織物訪問記」が制作される 8 月 27 日　桐生電話局、先進都市に率先して電話自動改式となる 9 月 18 日　桐生市国防議会が設立される 10 月 16 日　浄運寺境内に共生図書館が開館される 11 月 2 日　桐生輸出織物整染工業組合が設立される 11 月 2 日　県道に天王宿・相老停車場線が認定される このころ、桐生織物の需要が西陣を凌駕する ◇アフリカ向マフラーのヘム縫製が開始される	・アメリカでニューディール政策が開始 ・前橋放送局が開局する
1934	9	1 月 21 日　桐生市連合婦人会が設立される 1 月　桐生市自作農互助組合が設立される 2 月 11 日　桐生医療利用組合病院（厚生病院）が設立される 3 月 3 日　機業家の青木倉蔵が没す（77） 3 月　桐生酒類小売商業組合・群馬県東部化粧品商業組合が設立される 4 月 10 日　北幼児園（現北保育園）が開園する 4 月 15 日　岡公園内に軍事参考館が開館する 4 月 19 日　医師の藤江良作が没す（73） 4 月　桐生桜木町教会が設置される 5 月 1 日　群馬県立桐生工業学校（現県立桐生工業高校）が開校する（学校設立は 4 月 19 日） 5 月 11 日　群馬県工場協会桐生支部が設立される 6 月 29 日　桐生福音伝道教会（キリスト教会）が設置される 7 月 1 日　桐生本町 2 丁目郵便局が開局する 8 月 10 日　桐生内地織物商業組合が設立される 8 月　歴史学者の中村孝也が来桐する 9 月 10 日　梨本宮殿下が産業視察のため来桐される 10 月 8 日　桐生市葬儀礼改善申合せが決定される 11 月 1 日　桐生市斎場が、境野町間ノ島に開設される ◇桐生輸出人絹織物工業組合が設立される 11 月 8 日　陸軍特別大演習参加部隊が桐生市に宿営する（11 日まで実施） 11 月 16 日　昭和天皇の桐生巡幸に際し誤導事件がおこる（鹵簿誤導事件（ろぼごどうじけん）） 11 月 22 日　鹵簿誤導黙禱（もくとう） 12 月 9 日　前橋、高崎、桐生，伊勢崎―アメリカ間の電話が可能になる 12 月 21 日　桐生市都市計画区域が決定される ◇市内小学校でエクラ 16 ミリ映写機を購入する ◇納税標語募集 ◇文芸雑誌『桐の華』創刊される ◇帝冠様式風の桐生織物会館が竣工する ※帝冠様＝洋風ビルに城郭風の屋根を載せ、日本や東洋の伝統的形象を採用している建築 ◇県内全域に冷害が起こる	・中国共産党の大長征 ・関西地方大暴風雨死者 2500 人（室戸台風）
1935	10	1 月 14 日　斎場敷地に慰霊塔が建立される 2 月 11 日　建国祭が挙行される 3 月 9 日　元桐生織物同業組合長の彦部駒雄が没す（58） 3 月 15 日　『桐生織物史』上巻が発刊される	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1935	昭和 10	3 月 26 日　オノサトトシノブが野原隆平、山本直武らとグループ「黒色」洋画展を結成 4 月 1 日　高砂幼児園（現高砂保育園）が開園する 4 月　市内小学校に青年学校が開校する 6 月 15 日　桐生消毒所が設置される 6 月　桐生輸出織物商業組合が設立される 7 月 29 日　桐生市選挙粛正会が設立される 7 月　有限責任桐生共同栄養食購買組合が設立される 8 月　県内の古墳悉皆調査の一環で市内古墳実状調査が実施される 9 月 2 日　境野幼児園が開園する（昭和 22 年 3 月 25 日廃止） 9 月 6 日　桐生境野町郵便局が開局する 10 月 14 日　桐生輸出織物糸染工業組合が設立される 11 月 3 日　桐生市立図書館が開館する 11 月 17 日　実業家の大沢福太郎が没す（70） 12 月 7 日　桐生織物懇話会が設立される 12 月 15 日　桐生郷土文化史談会（後の桐生文化史談会）が設立される 12 月 25 日　俳人の岩崎楽石が没す（50） ◇国勢調査 群馬県人口 1,242,453 人 世帯数 225,223 世帯 桐生市の人口 76,145 人 世帯数 13,478 世帯	・赤城山公園、県立公園に指定される ・日活映画『国定忠治』が大河内伝次郎主演で制作される ・新田郡笠懸村に大旋風が起こり大被害となる
1936	11	3 月 1 日　桐生共同栄養食購買組合が共同炊さんを開始する（昭和 19 年、千葉県の津田沼鉄道部隊の炊事本部として設備一切徴発され解散） 3 月 6 日　桐生輸出練絹工業組合が設立される 4 月 1 日　桐生織物振興調査会が設立される ◇相生郵便局が開局する 4 月 6 日　全国選抜中等学校野球大会で桐生中学校チームが準優勝する（決勝：愛知商 2-1 桐生中） 4 月　群馬県国防婦人会桐生支部が設立される 6 月 2 日　『桐生織物書上商店週報』（『書上タイムス』）が創刊される 6 月 7 日　高松宮殿下が産業視察のため来桐する 6 月　桐生市洪水防御措置が実施される 8 月　松立寮（救護施設）が設立される（昭和 23 年 7 月解散） 9 月 8 日　桐生医院・矢島医院が代用花柳病診療所に指定される 9 月 13 日　桐生市防護団が結成される 9 月 18 日　桐生市防空演習が実施される 9 月 22 日　桐生市商工懇話会が設立される（昭和 15 年 4 月解散） 10 月　桐生射撃場が設置される（平井町） 11 月　桐生内地織物買継商組合が設立される ◇西尋常小学校で学校給食が実施される ◇結核予防国民運動振興週間が実施される ◇俳人の水原秋桜子（しゅうおうし）が来桐する 12 月 1 日　川内郵便局が開局する ◇内鮮融和会（明朗会）が設立される ◇豚コレラ流行する	・皇道派青年将校ら斎藤内大臣、高橋蔵相らを殺害（2.26 事件） ・白衣（びゃくえ）大観音像が高崎観音山に建立される ・オリンピックベルリン大会開催

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1937	昭和 12	2 月　桐生織物試織場・撚糸研究所が設置される 4 月 1 日　山田郡広沢村が合併する 5 月 25 日『桐生市制 15 年誌』が発行される 6 月 2 日　桐生都市計画街路が決定される 6 月 8 日　教育家の長島織吉が没す（67） 6 月 11 日　実業教育家の高力直寛が没す（73） 8 月 24 日　出征将士武運長久祈願祭が執行される 10 月 22 日　国民精神総動員桐生市実行会が設立される ◇阿左美沼東貯水池が完成する ◇鹿村菱川（しかむらりょうせん）の句碑が織姫神社に建立される ◇桐生織物業、人絹織物生産の隆盛で明治以後最大の生産額を上げる	・盧講橋で日中両軍が衝突（日中戦争始まる） ・草津白根山が大噴火する ・日本亜鉛製錬株式会社安中工場が設立される
1938	13	1 月 9 日　飯塚春太郎が没す（74：慶応元年生まれ　機業家・政治家） 2 月 9 日　スフ加工技術講習会が開催される 4 月 16 日　桐生内地織物工業組合が設立される 4 月 19 日　桐生産業更生合同協議会が設立される 5 月 1 日　文芸雑誌『赤城嶺』が創刊される 5 月 5 日　桐生市土地区画整理区域が決定される 6 月 13 日　渡良瀬川改修群馬期成同盟会が設立される 9 月 1 日　渡良瀬・桐生川が洪水 10 月 5 日　銃後後援強化週間実施事項が決定される 10 月 11 日　皇軍将兵感謝大会が開催される 10 月 16 日　出版業の野間清治が没す（61：明治 11 年生まれ講談社の設立者） 10 月 30 日　武漢三鎮陥落に伴う祝賀提灯行列が実施される 11 月 1 日　桐生市臨時産業委員会が設立される 11 月　桐生鉄工機械工業組合が設立される ◇桐生天主公教会（カトリック教会）が設置される ◇桐生市の人口 100,469 人 ◇本町 1 丁目の屋台が再建される 12 月 1 日　桐生市にあった父性愛の美談を映画化した『チョコレートと兵隊』が封切られる（桐生市でロケ） 12 月 25 日　『桐生織物史』中巻が発刊される	・国家総動員法が成立
1939	14	1 月 24 日　桐生市警防団が発足する 2 月 24 日　桐生国民職業紹介所機械工補導所（職業訓練所）が設置される 3 月 10 日　『山田郡誌』が発行される 3 月 15 日　『桐生市郷土読本』が発行される 5 月　農山村経済更生桐生市委員会が設立される 8 月 23 日　選挙粛正国民精神総動員懇話会が設立される 9 月 1 日　興亜奉公日市役所実践事項が決定される 12 月 11 日　新桐生駅前郵便局が開局する 12 月 17 日　桐生商工会議所創立総会が桐生織物同業組合で開催される	・第二次世界大戦 ・国民徴用令（10 月朝鮮にも施行され強制連行開始）
1940	15	2 月 25 日　松風寮（精神病者収容施設）が設置される（昭和 23 年 7 月解散） 3 月 31 日　桐生市立実践女子青年学校（現桐生市立商業高校）が創立される 4 月 1 日　桐生市風致地区が指定される ◇桐生市中央常会が設立される 4 月 3 日　桐生商工会議所が発足する（昭和 18 年 10 月解散）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1940	昭和 15	4 月 24 日　町会が設置される 5 月 16 日　荻野欽司が市長に就任する（昭和 19 年 5 月 15 日退任） 6 月 25 日　『桐生織物史』下巻が発刊される 6 月　桐生臨時食糧需給調整実行委員会が発足する ◇桐生消費配給調整会が設立される 7 月 28 日　桐生市で飯米の配給が開始される 8 月 22 日　満州国綿業視察団が来桐する 9 月 27 日　冠婚葬祭の簡易化が実行される 11 月 10 日　紀元 2600 年奉祝桐生市式典が挙行される ◇県、甘藷・馬鈴薯・麻類の増産計画を立てる ◇国勢調査 群馬県人口 1,299,027 人 世帯数 234,332 世帯 桐生市人口 86,086 人 世帯数 15,819 世帯	・日独伊三国条約、日ソ中立条約 ・県内全域に台風の被害 ・県内各小学校で「紀元 2600 年式典」が行われ旗行列が実施される
1941	16	2 月 11 日　市旗・町会旗の入魂式が執行される 3 月 1 日　市制施行 20 周年 3 月 17 日　市内に各区長就任 3 月 24 日　闇取引防止座談会が開催される 3 月 27 日　織物業者企業合同に関する座談会が開催される 3 月 28 日　市内小学校校名を国民学校と改称する 3 月 28 日　桐生市立実践女子青年学校が高等実践女学校となる 4 月 1 日　桐生市青年・商業青年学校が設置される 4 月 5 日　大政翼賛会桐生市支部が結成される 7 月 1 日　桐生商工会議所、機関誌『所報』第 1 号を発刊する 7 月 6 日　新川プールが開設される 11 月 8 日　戦勝祈願市民大会が開催される 11 月 20 日　織機の登録が実施される 12 月 7 日　昭和橋が開通する	・4 月 1 日　国民学校が発足する ・12 月 8 日　日本軍、ハワイ空襲、マレー半島上陸、対米英宣戦布告の詔書放送がなされる
1942	17	1 月 8 日　大詔奉戴必勝祈願祭が実施される 1 月 21 日　桐生宮前町郵便局が開局する 1 月 26 日　高額所得者国民貯蓄組合が結成される 6 月 3 日　桐生市会議員、翼賛選挙となる 6 月 6 日　群馬県織物工業組合が設立される 6 月 16 日　佐々木元吉が市会議長に就任する（昭和 22 年 4 月 29 日退任） 7 月 1 日　山田地方事務所（桐生財務事務所）が設置される このころ、ヒマ（唐胡麻）の栽培が奨励される 9 月 1 日　新宿郵便局が桐生錦町郵便局と改称される	・2 月 1 日　衣料切符制実施 ・食料管理法公布 ・米軍機、日本本土初空襲
1943	18	1 月 6 日　桐生市中小企業再編成協議会が設立される 1 月 25 日　両毛通運株式会社が設立される 1 月 26 日　桐生広沢町郵便局が開局する 2 月 13 日　大陸帰農桐生郷開拓団先遣隊が結成される 2 月　兵器資材として梵鐘・鉄灯籠などが強制供出される 3 月　銅像の供出が始まる 4 月 7 日　ホーリネス教団桐生泉町教会、高崎南町教会が結社禁止処分により解散する	・モスクワ、スターリングラード攻防戦で独軍、ソ連に降伏 ・連合艦隊司令長官山本五十六、ソロモン上空で戦死

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1943	昭和 18	4 月 23 日　桐生防空監視哨舎が広沢町 2 丁目に設置される 4 月　桐生市方面事業結婚相談所が開設される 8 月 6 日　ミノリ文化服装学院が開院する 9 月　東京富士航空計器株式会社桐生工場が設立する（昭和 24 年 6 月解散） 11 月 23 日　ビルマ国全権大使一行が来桐する 11 月　鉄製力織機の供出が始まる ◇株式会社森農場（森産業株式会社）が設立される	・アッツ島日本守備隊全滅 ・イタリア、無条件降伏声明 ・神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会
1944	19	2 月　小説家の南川潤が東京から宮本町へ疎開する 3 月 3 日　桐生農業会が発足する 3 月 8 日　桐生市戦力増強小売業企業整備委員会が設立される 4 月 1 日　桐生市独立青年学校が開校する 4 月 1 日　桐生高等工業学校が桐生工業専門学校と改称する 4 月 1 日　桐生郵便局、電話自動式から共電式（手動式）に改式される 4 月 13 日　桐生市救護隊が結成される 4 月 24 日　雷電山に桐生市忠霊塔が建設される 4 月 3 日　機業家の丹羽平助が没す（62） 5 月 8 日　群馬県織物工業統制組合桐生支部が設立される（昭和 21 年 1 月 29 日解散） ◇野生食用植物試食会が開催される 5 月 16 日　広瀬勝滋が市長に就任（昭和 20 年 11 月 2 日退任） 6 月 5 日　耐乏食胃腸錬成会が開催される 6 月 21 日　考古学者の岩沢正作(大間々町)が没す（67） 6 月 25 日　桐生市繊維製品配給委員会が設立される 10 月 28 日　戦勝感謝市民大会が開催される 10 月　桐生保健所が設置される（小曽根町） 11 月　金属の非常回収が実施される	・米軍、サイパン島に上陸（7.7 日本軍全滅） ・大都市の学童集団疎開決定（8 月実施） ・神風特別攻撃隊が編成される
1945	20	1 月 22 日　主婦による工場挺身隊が結成される 1 月 28 日　教育家の岩下竜太郎が没す（75） 2 月 3 日　元桐生市長の関口義慶二が没す（64） 2 月 5 日　歴史家の岡部福蔵が没す（74） 3 月　防空壕が強化される。地下壕工事が開始される 4 月 2 日　帝国座で井上正夫劇団が公演する 5 月 1 日　境野・広沢出張所設置　図書館舎が陸軍被服本廠に徴用される 5 月 25 日　桐生市国民義勇隊が結成される 6 月　松根が供出される ◇末広町 1 丁目桐生郵便局周辺 30m の範囲 31 世帯に建物強制疎開が適用される 7 月 18 日　アメリカ艦載機の機銃掃射により末広町 2 丁目地内で横倉平八郎が被弾し死亡する(小林製氷側) 7 月 24 日　人と物の疎開が激増する 7 月　防衛体勢の強化がなされる　安全な待避路が完成する 8 月 15 日　戦争終結の詔書が放送される 8 月 18 日　桐生市緊急協議会が開催される ◇市内駐屯部隊が解散する 8 月 28 日　円満寺が焼失する 8 月　企業転換指導委員会が設立される 8 月　桐生織物業、残存力織機 5,500 台で生産を再開する（昭和 11 年 21,000 台）	・ソ連が日本に宣戦 ・B29 東京を夜間大空襲 ・米軍、沖縄本島に上陸(6.23 日本軍全滅) ・原子爆弾が広島と長崎に投下される ・ヤルタ会談、ドイツが降伏 ・ポツダム宣言を受諾、戦争終わる

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1945	昭和 20	9 月 13 日　本土進駐のアメリカ兵が桐生市で帰国の土産として美術織物を購入する ◇軍人の和田義雄が没す（40） 9 月 17 日　桐生戦後対策委員会が設立する 9 月　桐生駅、買出部隊で大混雑となる 10 月 4 日　機業家の境野源八郎が没す（85） 10 月 5 日　巴町の元日本絹撚株式会社建物にアメリカ兵 33 人が進駐する 10 月 13 日　画人の田村春荘が没す（83） 10 月 29 日　第二水源地が新設される. 11 月 8 日　大沢菊太郎が市長に就任する（昭和 21 年 11 月 20 日退任） 12 月 1 日　全日本金属労働組合桐生機械分会が設立される 12 月 3 日　桐生市織物業者大会が開催される 12 月 7 日　軍人の山崎米三が没す（78） 12 月 10 日　『新日本タイムス』（後の『桐生タイムス』）が創刊される ◇日本革新党桐生支部が結成される 12 月 12 日　桐生工業専門学校演劇部の公演 12 月 19 日　日本社会党桐生支部が結成される 12 月 25 日　両毛華僑連合会が結成される 12 月 26 日　桐生清肥株式会社が設立される 12 月 30 日　帝国座が焼失する 12 月　徳田球一が来桐する ◇桐生の失業者 9,034 人 このころ、末広・本町通りで露店が活況を呈する	・ポツダム会談、国際連合発足 ・民主化への歩みがおし進められる ・治安維持法の廃止・政治犯の釈放 ・財閥解体、農地改革が指令される ・選挙法の改正（婦人参政権） ・高崎市民オーケストラ（群馬交響楽団の前身）結成される
1946	21	1 月 14 日　桐生市教員組合が結成される 1 月 25 日　桐生織物転廃業者復興大会が開催される 2 月 1 日　桐生高砂町郵便局（仲町郵便局）が開局する 2 月 5 日　桐生縫製従業員組合が設立される 2 月 9 日　群馬県工業倶楽部桐生支部が設立される 2 月 25 日　市内金融機関で新円引換が開始される 2 月 27 日　桐生市婦人会が結成される 3 月 3 日　桐生地区木工従業員組合が設立される 3 月 8 日　社会事業家の大島宗太郎が没す（71：金融業経営） ◇三ツ葉電機製作所（現㈱ミツバ）が設立される 4 月 1 日　短歌研究雑誌『遠天』が創刊される 4 月 4 日　桐生織物工業統制組合（のち桐生織物協同組合と改称）が設立される 4 月 10 日　新選挙法による衆議院議員総選挙が実施される 5 月 4 日　桐生市吏員組合（市役所職員組合）が設立される 5 月 5 日　桐生織物輸出振興組合が結成される 5 月 21 日　画人の牧島菊園が没す（82） 5 月 27 日　桐生市連合青年団（青年団体連絡協議会）が結成される 5 月　桐生水産物荷受株式会社が設立される ◇榎本健一一行が「人生とんぼ返り」ロケーションのため来桐する ◇同胞援護会群馬県支部桐生支会が設立される 6 月 7 日　桐生地区官公職員労働組合会議が設立される 6 月 20 日　桐生地区労働組合会議が設立される 7 月 1 日　繊維貿易公団桐生駐在員事務所が設置される（昭和 25 年 9 月 30 日廃止） 7 月 13 日　日本労働組合総同盟桐生地区協議会が設立される	・アジア諸国の独立（(～50） ・メーデー復活（第 17 回）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1946	昭和 21	7 月　桐生商店街の復興 8 月 9 日　稲川東一郎監督に率いられた全(オール)桐生チームが都市対抗野球大会で準優勝する 9 月 23 日　桐生市社会教育本部（現社会教育協会）が設立される 9 月　創価学会理事長戸田城聖が桐生市を中心に布教活動を行う 10 月 1 日　桐生市選挙管理委員会が発足する 10 月　群馬県遺族の会桐生支部が設立される 11 月 30 日桐生電力危機突破協議会が設立される 12 月 5 日　セントラル洋画劇場が開業する 12 月 10 日　桐生市農地委員会（後の農業委員会）が設立される 12 月 21 日　農地委員選挙 12 月 31 日　両毛劇場（桐生東映）開業する ◇相沢忠洋が岩宿の関東ローム層の中から槍先形尖頭器(旧石器)を発見。後に「岩宿遺跡」となる	・中等学校野球大会が再開される（参加 15 校） ・県、民生委員を発足させる ・第 1 回国民体育大会（秋季大会）が京都を中心に開催される ・11 月 3 日　日本国憲法公布 (22 年 5 月 3 日施行)
1947	22	2 月 11 日　両毛劇場で田中絹代一行が公演する 2 月 13 日　桐生織物商工協同組合が設立される 2 月　産業人体育連盟が設立される 3 月 8 日　一本木公民館（現広沢公民館）が設置される 3 月 13 日　群馬県復員引揚促進家族連盟桐生支部が設立される 3 月 21 日　進歩党桐生支部が結成される 3 月 31 日　新学制実施準備協議会が設立される 4 月 1 日　新制小・中学校発足。西・南・広沢・川内中学校が開校する 4 月 6 日　前原一治が初の公選市長として就任する（昭和 38 年 5 月 1 日退任) 4 月 8 日　桐生労政事務所（商工労働事務所）が設置される 4 月 16 日　桐生区検察庁が設置される 4 月 19 日　東・北・昭和・境野・相生・梅田・菱の各中学校が開校する 4 月 22 日　桐生市轆轤(ろくろ)旋盤授産所が設立される（昭和 23 年 9 月廃止) 4 月　自由党桐生支部が結成される 5 月 3 日　桐生簡易裁判所が設置される 5 月 22 日　生活相談所が設置される 5 月 23 日　市議会議長に森口順四郎が就任する（昭和 30 年 4 月 3 日退任) 5 月 27 日　桐生地区中立労働組合連合会が設立される 5 月 28 日　群馬軍政部フォード大佐が来桐する 6 月 2 日　桐生商店連盟が結成される 6 月 8 日　ミス桐生選出会が開催される 7 月 12 日　東宝劇場で松本幸四郎一座が公演する 7 月　野菜不足が深刻となる 7 月　群馬県社会教育研究大会が高崎と桐生で開催される 8 月　アメリカ貿易使節団一行が来桐する ◇図書館内に CIE 図書室が開設される（昭和 33 年 10 月閉室) ※CIE は連合軍総司令部民間情報教育局の略で、戦後、アメリカの文化・思想の宣伝普及を目的に活動する 9 月 1 日　桐生労働基準監督署が設置される	・2.1 ゼネスト中止を指令される ・3 月 31 日　教育基本法・学校教育法 6.3.3 制制定 ・浅間山大噴火、以後頻発に噴火 ・4 月 17 日　地方自治法公布

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1947	昭和 22	9 月 12 日　横浜興信銀行前橋支店桐生出張所（現横浜銀行桐生支店）が設置される 9 月 15 日　カスリーン台風により渡良瀬川・桐生川・新川が洪水になり大被害が出る（死傷者 280 人、家屋浸水 11,534 戸、り災者 58,075 人、橋梁流出 15 か所） 9 月 26 日　高松宮殿下、水害状況視察のため来桐する 10 月 1 日　興国化学工業株式会社桐生作業所が設置される 10 月 14 日　群馬統計調査事務所桐生出張所が設置される 11 月 1 日　群馬県工業会桐生支部が設立される 12 月 30 日　市営住宅の建設が始まる 12 月　恩給受給者連盟支部が設立される ◇桐生邦楽舞踊協会が設立される ◇夏以降、各地にＰＴＡが結成される ◇『上毛カルタ』が作成される ◇国勢調査 群馬県人口 1,546,081 人 世帯数　286,904 世帯 桐生市人口 91,482 人 世帯数 19,309 世帯	
1948	23	1 月 12 日　泉機械製作所で賃金値上の労働争議がおこる 2 月 1 日　大日本無尽熊谷支店桐生出張所（後のさくら銀行桐生支店）が設置される 2 月 10 日　桐生市農業共済組合が設立される 2 月　桐生市役所職員組合が争議 3 月 7 日　桐生市警察署が発足する（昭和 29 年 6 月 30 日廃止） ◇元総理の幣原喜重郎が来桐する 3 月　セントラル・ダンスホールが開場する（昭和 45 年 6 月西堤町へ移転） ◇定善寺境内に昭和 22 年 9 月のカスリーン台風水害殉難者供養塔が建立される 3 月　桐生のレーヨンマフラー、戦後始めてアフリカへ輸出される 4 月 1 日　桐生女子高等学校に通信教育課程が設置される 4 月 3 日　桐生市成年祝が実施される 4 月 6 日　機業家の福田常吉が没す（88） 4 月 10 日　桐生輸出織物振興会が設立される 4 月　桐生市役所東・南・北出張所設置（南出張所は昭和 40 年 5 月 31 日、東・北出張所は昭和 43 年 6 月 1 日廃止） ◇群馬県共同募金委員会桐生支会が設立される ◇桐丘中学校が開校する 5 月 7 日　社会事業功労者の静谷暢純が没す（72） 6 月 7 日　皇太后陛下が産業視察のため来桐する 7 月 11 日　政治家の尾崎行雄が来桐する 7 月 29 日　桐生市民生委員が決定される 8 月 14 日　群馬県信用農業協同組合連合会山田支所が設立される 9 月 10 日　群馬県皮革産業労働組合協議会が設立される 9 月 15 日　桐生市造林促進委員会が設立される 9 月 16 日　アイオン台風により渡良瀬川が洪水 10 月 24 日　元総理の片山哲が来桐する 10 月　『テキスタイル・ウイクリー』が創刊される ◇桐生俳句親交会が設立される 11 月 1 日　渡良瀬川上流工事事務所桐生出張所が設置される	・4 月 1 日　新制高等学校（全日・定時制）が発足する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1948	昭和 23	11 月 3 日　桐生市体育祭が実施される 12 月 3 日　桐生ユネスコ協会、本県初のユネスコ協会として発足する 12 月 7 日　機業家の福田兼吉が没す（82） 12 月 25 日　桐生市音楽協会が結成される ◇俳人の高浜虚子が来桐する ◇両毛考古学研究会が設立される ◇日本脳炎患者、県内で 80 人を超える ◇県人口 160 万人を突破する ◇政府の「絹人絹織機 1 万台復元」に沿って、桐生は 3000 台余の織機を復元する	・帝銀事件 ・インド、ガンジーが暗殺される
1949	24	1 月 13 日　赤岩鉄橋下流中島渡渠工事が着工される 2 月 21 日　桐生電信電話局が設立される 4 月 3 日　桐生市文化祭が開催される 5 月 10 日　桐生市婦人大会が開催される 5 月 19 日　桐生市 PTA 連絡協議会が結成される 6 月 1 日　前橋医科大学、前橋医学専門学校、桐生工業専門学校、群馬師範学校、群馬青年師範学校を合わせ群馬大学医学部、工学部、学芸学部が開学する 7 月 1 日　桐生織物同業会が設立される 8 月 2 日　桐生結婚改善委員会（厚生福祉会館）が発足する 8 月 15 日　児童福祉審議会が設立される 9 月 1 日　キティ台風により渡良瀬川が洪水 9 月 5 日　桐生母子会が結成される 9 月 11 日　明治大学考古学研究室の杉原荘介等が相沢忠洋発見の岩宿遺跡試掘のため来桐する 9 月 25 日　ガールスカウト桐生団が結成される 10 月 15 日　前橋地方裁判所桐生支部・前橋家庭裁判所桐生支部・前橋地方検察庁桐生支部が設置される 11 月 1 日　対面交通（歩行者右側、車両左側）が実施される 11 月　ボーイスカウト桐生第一隊が結成される 12 月　寄席旭座（桐生映画劇場）が開業する（昭和 47 年廃業） ◇桐生花道協会が設立される	・1 月 26 日　法隆寺壁画焼失 ・北大西洋条約機構が成立 ・県内第 1 回成人式が行われる
1950	25	1 月　織物業者にとって永年の懸案であった織物消費税が廃止される 3 月 19 日　歌人の中野善次郎が没す（68） 4 月 1 日　中央・境野公民館が設置される ◇東群馬運送株式会社が開業する 4 月 24 日　群馬県盲人会桐生支部が設立される 5 月 8 日　桐生市歌と桐生市民の歌が制定される 5 月 29 日　宗教家の野口周善が没す（72） 7 月 7 日　婦人団体連絡協議会が結成される 8 月 21 日　青少年街頭補導が実施される 8 月　ネオン街頭照明設置が奨励される 9 月　繊維科学研究所桐生支所が設置される 10 月 9 日　桐生市民学校が開設される 10 月　小倉製作所（現小倉クラッチ）が設立される 11 月 14 日　日本レーヨン桐生製糸工場（ユニチカ桐生工場）が設立される 11 月 20 日　錦町ロータリー緑地化工事が完成する（昭和 32 年 10 月、交通信号機取付けのため撤去）	・1 月 1 日　千円札発行 ・2 月 13 日　レッド・パージ開始 ・4 月 5 日　公職選挙法公布 ・湯川秀樹がノーベル物理学賞を受賞 ・中ソ友好同盟条約

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1950	昭和 25	11 月 28 日　上野新聞（新群馬）が創刊する	・6 月 25 日　朝鮮戦争始まる
		12 月 1 日　善光寺出開帳	
		12 月 2 日　桐生ゴム工業株式会社の労働争議で煙突娘出現	
		12 月　『市役所から市民の皆さんへ』（現『広報きりゅう』）が創刊される	・7 月 2 日　金閣寺、放火で焼失
		◇桐生市立図書館に点字図書室が開設される	
		◇国勢調査	・8 月 10 日　警察予備隊令公布
		国総人口 83,199,637 人	
		県人口 1,601,380 人	
		世帯数 294,846 世帯	・12 月 13 日　地方公務員法公布
		桐生市人口 95,533 人	
		世帯数 19,524 世帯	・12 月 15 日　日本輸出入銀行法公布
1951	26	1 月 1 日　養老院松立寮が設置される	
		1 月 22 日　桐生市塵芥焼却場が設置される（境野町 3）	
		2 月 24 日　人絹糸獲得織物業者大会が開催される	
		3 月 1 日　市制施行 30 周年	
		3 月 29 日　桐生市社会福祉協議会が発足する	
		3 月　桐生中央信用組合（後の中央信用金庫、桐生信用金庫に合併）が開業する	・4 月 11 日　マッカーサー罷免
		◇新浜線道路が新設される	
		◇清水鋳工所（株式会社ソフィア）が設立される	・4 月 24 日　桜木町国電事故
		4 月 1 日　吾妻公園（原勢ガーデン）が開園する	
		4 月 12 日　元桐生市長の荻野欽司が没す（74）	・県花にレンゲツツジが指定される
		4 月 25 日　境野保育園が開園する	
		4 月　桐生小型映画協会が再組織される（昭和 9 年に木村健司作『蟻の一生』が全国コンクール第 1 位となる）	
		5 月 13 日　カスリーン台風により流失した美原橋が開通する	・9 月 8 日　サンフランシスコ講和会議
		※美原橋は新川に架けられていた橋で、昭和 29 年の新川暗渠化に伴い撤去された	
		5 月 15 日　桐生に県営住宅が建設される	
		5 月 20 日　桐生が岡公園に織姫平和像が建設される	・日米安全保障条約、自衛隊が発足
		6 月 14 日　桐生市公平委員会が発足する	
		7 月　桐生文化懇談会が設立される	
		10 月 1 日　桐生市福祉事務所が設置される	
		10 月 20 日　桐生観光協会が設立される	
		11 月 10 日　境野町に自動車練習場が開設される	
		12 月 20 日　桐生市屠場が建設される	
		◇俳人の長谷川かな女が来桐する	
		◇岩崎楽石の句碑が建立される	
1952	27	1 月 1 日　桐生市母子寮が開設（昭和 42 年 3 月 31 日廃止）	・児童憲章成立
		1 月 13 日　桐生電報電話局が電話自動改式となる	
		1 月 25 日　桐生専門店会が設立される	・1 月 19 日　李承晩ライン宣言
		2 月 21 日　双葉山一行の相撲興行が行われる	
		2 月 29 日　作家坂口安吾が静岡県伊東市から書上文左衛門旧本宅（本町 2）へ移住する（桐生で 3 年間創作活動を続け、昭和 30 年 2 月 17 日没す）	
		4 月 5 日　境野町に国鉄両毛線東桐生駅が新設される	
		4 月 20 日　天満宮開帳（～5 月 11 日）	
		4 月 20 日　天満宮開帳に「四丁目鉾」が出る（～5 月 11 日）	
		4 月　樹徳幼稚園が開園する	
		5 月 8 日　キティ台風襲来以来不通だった錦桜橋が開通する	・5 月 1 日　血のメーデー事件
		5 月 18 日　桐生市戦没者追悼慰霊祭が実施される	
		6 月 5 日　商業高校の脇にテニスコートが 4 面設置される	
		6 月 17 日　上野動物園の移動動物園が新川球場ほかに来桐	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1952	昭和 27	6 月 23 日　桐生着尺・帯地の両組合、桐生織物協同組合に合併し、組合が一本化する 7 月 1 日　住民登録制度が実施される 7 月 19 日　桐生市栄養学園が開園する 9 月 1 日　桐生市政研究会が設立される ◇桐生市愛市公債が発行される 9 月 5 日　『桐生商工時報』が創刊される 10 月 20 日　立正保育園が開園する 10 月　桐生織物戦後最高の売上高となる ◇桐丘幼稚園が開園する 11 月 1 日　桐生市教育委員会が設置される ◇桐生市地図が作成される	･7 月 19 日　オリンピックヘルシンキ大会（日本復帰） ・アメリカ、水爆実験 ・国立近代美術館開館
1953	28	1 月 26 日　西田博太郎が没す（75：旧桐生工専校長） 1 月　輸出不振のため桐生織物の操業が短縮される 2 月 1 日　テレビジョン放送が開始される 3 月 9 日　桐生ロータリークラブが設立される 3 月 24 日　山手線道路が新設される 4 月 1 日　桐生が岡動物園が開園する 4 月 2 日　桐生市防火地域が決定される ◇相生保育園が開園する 5 月 1 日　菱公民館が設置される 5 月 5 日　新川児童遊園地が開園する 5 月 18 日　重要府県道前橋・水戸線が二級国道へ昇格する 5 月　桐生市移動図書館が開設される（平成 25 年 3 月廃止） 7 月 28 日　群馬大学工学短期大学部が開学する 7 月　桐生市学校保健会が設立される 8 月 20 日　作家の坂口安吾が酒に酔って暴れ、警察で一晩保護される 9 月 15 日　桐生市立教育研究所が設置される	・日本放送協会（ＮＨＫ）東京テレビ局本放送を開始 ・朝鮮戦争の休戦協定が成立 ・ソ連首相スターリン没 ・民間テレビ放送開始 ・奄美群島返還日米協定調印 ・大胡町に「少年の家」が落成する
1954	29	1 月 10 日　ひばり英語会（桐生外語学院）が創立される 3 月 20 日　西極寺で無縁仏慰霊祭が執行される 3 月 31 日　桐生市都市計画基本調査が実施される 5 月 1 日　境野幼稚園が開園する 5 月 21 日　関東ブロック織物振興対策協議会が開催される 7 月 1 日　桐生社会保険出張所が設置される 7 月 13 日　国際劇場が開業する（昭和 62 年廃館） 8 月 1 日　皇太子殿下が来桐 ◇境野町間ノ島が区域変更により広沢町へ編入され広沢町間ノ島となる 8 月 9 日　桐生市満州開拓団合同慰霊祭が執行される 8 月 10 日　府県道に前橋・大間々・桐生線、桐生・熊谷線が認定される 9 月 2 日　桐生市立診療所が開設される 10 月 1 日　山田郡梅田村・相生村・川内村が合併する。梅田・相生・川内の各出張所が設置される 10 月 10 日　織物製造業の森口唯八が没す（74：桐生商工会議所会頭） 12 月 23 日　桐生輸出織物振興会が結成される 12 月 30 日　米穀商の増山作次郎が没す（77：桐生信用金庫・関東無尽株式会社設立） ◇稲川東一郎が野球道場を自宅につくる このころ、連発式パチンコが流行する（昭和 30 年 6 月 1 日禁止）	･3 月 1 日　アメリカがビキニで水爆実験 ･7 月 21 日　ジュネーブ会議 ・ベトナム休戦協定 ・ビキニで第五福竜丸が「死の灰」を浴びる ･50 銭以下の小銭を廃止 ・防衛庁設置法、自衛隊法公布（7.1 施行） ・洞爺丸転覆，旅客 1,011 人死亡

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1955	30	1月5日　機業家の堀祐平が没す（78） 1月　南公民館が設置される 2月17日　坂口安吾が脳溢血のため没す（48） 4月8日　全国選抜高等学校野球大会において桐生高等学校が準優勝する（決勝戦：浪華商4－3桐生高） 4月10日　桐生商店連盟主宰のめちゃくちゃ市が開催される 4月13日　高橋清吉が市議会議長に就任する（5月1日退任） 4月　水道山公園開設 5月14日　伊藤秀一が市議会議長に就任する（昭和34年4月8日退任） 5月20日　実業家の3代森宗作が没す（72） 5月25日　朝鮮総連合会桐生支部が設立される 6月1日　前橋測候所桐生水理気象通報所（桐生気象通報所）が設置される ◇毛里田村大字吉沢小字唐沢の一部を編入する（広沢町7） 8月10日　桐生市監査委員会が発足する 8月11日　桐生内地織物業者、桐生織物協同組合から脱退し桐生内地織物協同組合を設立する 8月16日　桐生市子供会育成団体連絡協議会が設立される 9月17日　桐生気候観測所が廃止される 9月22日　作家の南川潤が没す（42：大正2年東京生まれ） 8月23日　桐生市子供育成団体連絡協議会が発足する 9月28日　雷電山忠霊塔の参道が新設される 10月4日　桐生に「黙想の家」聖フランシスコ修道院が開院する 12月26日　桐生市小口資金融資促進条例が実施される ◇桐生織物が不況 ◇桐生で婦人服地の生産が始まる ◇神武景気が始まる ◇国勢調査 国総人口 89,275,529人 県人口　1,613,549人 世帯数　301,500世帯 桐生市人口 116,935人 世帯数 23,647世帯	・映画『ここに泉あり』前橋オリオン座、高崎国際劇場で封切られる ・初の原水爆禁止世界大会（広島） ・赤城山観光道路が完成する ・アジア・アフリカ会議 ・ワルシャワ条約が成立
1956	31	1月　広沢幼稚園が開園する 1月13日　桐生郷土研究会が設立される 3月14日　新生活運動協議会桐生支部が設立される 3月28日　実業化の金子竹太郎が没す（82、桐生織物学校教頭、両毛整織合資会社社長、技術者の育成に尽力） 3月30日　高峰秀子一行が「妻の心」ロケーションのため来桐する 3月31日　梅田地区国有林が払下げとなる ◇元宿、梅田保育園が開園する 5月1日　桐生織物商業協同組合が設立される 5月10日　境野のし尿処理場が完成、運用開始する 6月22日　桐生織物協同組合縫製部会が設立される 6月30日　桐生市清肥処理場が新設される 8月15日　境野武夫が没す（52：両毛織産株式会社を設立しマフラーを製織する） 8月　観光桐生八勝が決定される ◇稲作にいもち病が発生する	・ソ連と国交を回復（日ソ共同宣言） ・国際連合に加盟 ・エジプトがスエズ運河の国有化宣言 ・週刊誌ブーム始まる

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1956	昭和 31	9 月 1 日　肢体不自由児施設両毛整肢療護園が開園する 9 月 15 日　『上毛大衆新聞』が創刊される 10 月 1 日　『北関新報』が創刊される 11 月 8 日　桐生競艇が始まる 12 月 1 日　梅田町国民健康保険組合が設立される ◇桐生青年会議所が設立される このころ、巴町 1 丁目特殊飲食店街が活況（昭和 33 年 2 月廃業） ◇桐生で不況打開策として第 1 回織機買い上げが行われる	・県内に大霜害がおこる ・安中の東邦亜鉛公害が問題となる ・第 16 回メルボルンオリンピック大会
1957	32	2 月 18 日　桐生市種豚管理委員会が設立される 2 月 25 日　桐生市立桜木小学校が開校する 2 月 28 日　常備消防部織姫町支部（桐生消防署）が開設する 3 月 19 日　川村奨学資金が設立される 4 月 19 日　桐生機械金属工業会が結成される ◇織物宣伝歌の桐生音頭を発表（作詞西沢爽、作曲服部逸郎、歌青木光一・島倉千代子） 5 月 15 日　群馬大学工学部応用化学科教室が焼失する 5 月 16 日　南原繁が来桐する 5 月 26 日　桐生茶道会が設立される 6 月 3 日　梅田簡易水道が布設される 6 月　インフルエンザが流行する 9 月 3 日　義宮様・清宮様、那須御用邸への途次、桐生にお立ち寄りになる 10 月 20 日　両毛政経ニュースが創刊される 10 月 1 日　錦町のロータリー撤去工事が始まる 11 月 1 日　桐生農政事務所が設立される 12 月 9 日　漢詩人の田村位岳が没す（78） ◇桐生音楽連盟が設立される	・1 月 29 日　南極観測隊、オングル島に上陸（昭和基地） ・ソ連で人工衛星第 1 号打ち上げ成功 ・「三種の神器」（洗濯機・白黒テレビ・冷蔵庫）の電化ブーム始まる
1958	33	3 月 5 日　市議会議場が完成し、落成式が開催される 3 月 16 日　元桐生市長の広瀬勝滋が没す（74） 3 月 19 日　宗教家の蜂屋真陽が没す（79） 3 月 20 日　『東毛毎夕新聞』が創刊される（昭和 56 年廃刊） 3 月 31 日　桜木保育園が開園する 5 月 1 日　桐生市学習サークル協議会が結成される 6 月　桐生カトリック教会が献堂式を行う 7 月 5 日　昭和通線の道路が新設される 8 月 15 日　『桐生市史』が発行される 8 月 16 日　渡良瀬川の錦桜橋－昭和橋間で花火大会が開催される 8 月 19 日　岡公園内に子供会館が開館する 9 月 6 日　皇太子殿下、義宮さま、清宮さまが来桐する 9 月 17 日　弓道場が桐生倶楽部内から産業文化開館敷地へ移転する 10 月 1 日　桐生市国民健康保険事業が始まる 11 月 3 日　桐生市産業文化会館が開館する 11 月　桐生市畜産共進会が開催される 12 月 2 日　北小学校で群馬県教職員組合桐生支部が勤務評定反対の争議を行う 12 月 14 日　自由民主党桐生支部が設立される ◇フラフープが流行する ◇「なべ底不況」に見舞われる 【刊行物】 桐生市『桐生の今昔』（前原悠一郎著）	・1 月 30 日　相馬が原演習場で米兵が日本人農婦を射殺 ・1 月 31 日　アメリカ人工衛生第 1 号打上げ成功 ・2 月 26 日　横山大観没す（89） ・3 月 9 日　関門国道トンネル開通 ・軽四輪乗用車スバル 360 発売される ・12 月 1 日　1 万円札発行 ・公立学校教員の「勤務評定」が実施される

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1959	昭和 34	1 月 1 日　足利郡菱村が越県合併。菱出張所が設置される 1 月 23 日　元代議士の松井豊吉が没す（64：元郵政政務次官） 2 月　下水道築造工事が開始される 3 月 11 日　長谷川文化賞が設定される 3 月 30 日　赤岩用水路が新宿用水路へ送水開始 ◇第三水源地が完成する 3 月 31 日　川内保育園が開園する（平成 3 年 3 月 31 日廃園） 4 月 1 日　相生公民館が設置される 5 月 1 日　群馬県働く婦人の家が開館する 5 月 11 日　吉田光夫が市議会議長に就任する（昭和 38 年 5 月 1 日退任） 6 月 28 日　桐生点訳文化会が設立される 7 月 22 日　織物製造業の田島覚太郎が没す（70） 8 月 18 日　高松宮殿下が来桐 10 月 1 日　梅田南幼稚園が開園する 11 月 1 日　国民年金制度が実施される 11 月 18 日　桐生輸出織物見本市が開催される 12 月 16 日　桐生市青少年愛育運動推進協議会が結成される	・1 月 1 日　メートル法施行 ・4 月 10 日　皇太子ご成婚 ・ソ連第 2 号宇宙ロケット発射（9.14 月面到着） ・9 月 26 日　伊勢湾台風死者行方不明 5200 余人 ・キューバで革命が起こる
1960	35	1 月 12 日　伊東滋夫が歌会始の御題「光」に入選する 1 月 18 日　危険物安全協会が設立される 1 月　特殊児童育成会が設立される 2 月 29 日　永楽町線の道路が新設される 3 月 31 日　中通り線の道路が新設される ◇新設菱保育園が開園する（平成 9 年 3 月 31 日廃園） 4 月 30 日　桐生ソフトボール協会が設立される 4 月　栃錦・朝潮一行の相撲が興行される ◇高沢川砂防ダム工事が完成する 5 月 12 日　桐生市小企業設備近代化資金融資促進条例が実施される 5 月 12 日　前橋・高崎・桐生などで約 600 の商店が安保条約改定反対で閉店する 6 月 1 日　桐生養護学校が開校する 6 月 17 日　桐生厚生総合病院が諏訪町から新築移転し、22 日から診療開始する 9 月　東和工業株式会社（後の平和工業株式会社）が設立される 10 月 1 日　広沢保育園が開園する 12 月 3 日　森喜作が西洋松茸栽培法の発明の功績により紫綬褒章を受章する 12 月 5 日　群馬新聞が創刊される 12 月 19 日　広見橋の架替工事が完成し渡り初めが行われる このころ、桐生織物業は労働力が不足してくる ◇インスタント食品県内に出まわり始める ◇国勢調査 国総人口 93,418,501 人 県人口　1,578,476 人 世帯数　321,441 世帯 桐生市人口 123,010 人 世帯数 26,870 世帯	・1 月 19 日　日米安全保障条約の改定 ・アフリカで 17 か国が独立 ・5 月 24 日　チリ地震により三陸地方大津波 ・尾瀬、国の特別天然記念物指定 ・9 月 10 日　カラーテレビ放送開始 ・第 17 回ローマオリンピック大会 ・10 月 12 日浅沼社会党委員長が立会演説中に刺殺される
1961	36	1 月 17 日　梅田町に桐生養豚センターが完成する 2 月 27 日　桐生市花いっぱい運動推進協議会が設立される 3 月 1 日　市制施行 40 周年 3 月 31 日　文化功労者の中曾根都太郎（くにたろう）が没す（79：初代桐生市立図書館長）	・ソ連、有人衛星船ボストーク 1 号打上げ成功

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1961	昭和 36	3 月　桐生川線の道路が新設される 4 月 1 日　市営弓道場・相撲道場が開設される ◇市立桜木中学校が開校する 4 月 20 日　日蓮正宗無量寺が建立される 4 月 25 日　天満宮御開帳（～5 月 8 日まで実施） ※これ以降、天満宮御開帳は開催されていない 5 月 22 日　県道桐生・新田線道路が開通する 7 月　桐生市産業開発協会が設立される 8 月 1 日　ゴルフ練習場が開業する 12 月 7 日　桐生市防火管理者協会が設立される	2 月 1 日　全国の医師・歯科医師一斉休診 ・5 月 3 日　三河島駅で二重衝突 ・8 月 26 日　三宅島で大噴火
1962	37	2 月 22 日　全国織物競技大会で小幅・広幅・帯地の三部門が団体優勝する 3 月 29 日　実業家で元市議会議長の前原悠一郎が没す（90） 4 月 1 日　第二養護学校が開校する ◇東幼稚園が開園する 4 月 30 日　桐生ライオンズクラブが結成される 5 月　ハイカークラブ山びこ会の協力で鳴神山～吾妻山のハイキングコースが完成する 6 月 16 日　東毛地区総合開発協議会が発足する 6 月 18 日　大雹害 7 月 7 日　観音橋が開通する 7 月 28 日　桐生交通安全協会により境野町浜の京の自動車運転試験場にバイク教習所が開設される 8 月 8 日　桐生給食センターが設置される 9 月 1 日　梅田町 3 丁目に高沢キャンプ村が開館する 9 月 20 日　駐日スペイン大使が親善目的で桐生市を公式訪問	・前橋気象台開設以来の最高気温 37.6 度を記録 ・9 月 12 日　国産第 1 号研究用原子炉に点火 ・10 月　キューバ事件、中ソ論争が表面化
1963	38	1 月 10 日　宮前町 2 丁目で 8 戸 17 棟が焼失する 1 月 25 日　俳人の高野素十が来桐する 2 月　連続放火事件が発生する 4 月 1 日　桐生市労働教育委員会が設立される ◇桐丘女子短期大学が開学する ◇たちばな保育園が開園する 4 月 6 日　群馬県立桐生南高等学校が開校する 4 月 24 日　突風による大被害 5 月 2 日　荒木歓一郎が市長に就任する 5 月 13 日　毒島恒太郎が市議会議長に就任する（昭和 41 年 12 月 31 日退任） 5 月　市内病医院が週休制を採用する ◇オノサトトシノブが日本国際美術展に「相似」を出品し最優秀賞を受賞する 6 月 3 日　ライシャワー駐日アメリカ大使が来桐する 7 月　長福寺（本町 5）が都市計画への協力で宮本町に移転 10 月 1 日　長崎屋が本町 6 丁目に開店する 10 月 12 日　イタリアのビエラ市と国際姉妹都市提携をする 10 月 19 日　桐生音楽文化協会が設立される 12 月 24 日　織姫町に建設される市役所の地鎮祭が行われる	・7 月 25 日　部分的核実験停止条約に調印 ・11 月 9 日　三井三池炭鉱で炭じん爆発死者 458 人 ・11 月 9 日　東海道線鶴見で二重衝突事故死者 161 人 ・11 月 22 日　ケネディ大統領暗殺
1964	39	1 月 10 日　高橋三郎が歌会始の御題「紙」に入選する 1 月 15 日　普門寺境内で桐生達磨市が開催される 1 月 22 日　桐生市立点字図書館が開館する 3 月 2 日　桐生高等学校が火災で全焼する 3 月 11 日　桐生交通協力会が設立される 3 月 29 日　桐生市老人福祉センターが開館する 4 月 1 日　桐生市行政協力委員制度が発足する ◇菱町郵便局が開局する ◇群馬大学工学部に大学院（修士課程）が設置される	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1964	昭和 39	4 月 22 日　桐生が岡動物園にアジアゾウのイズミが仲間入り 5 月 1 日　桐生市区長連絡協議会が設立される 5 月 28 日　桐生家畜保健衛生所が設置される 6 月 1 日　桐生市青少年センターが設置される 8 月 1 日　桐生ヘルス・センターが開館する 8 月 5 日　商工祭・桐生祭・七夕祭・祇園祭を統合した第 1 回桐生まつりが開催される（8 日まで実施） 8 月 14 日　元桐生市長の大沢菊太郎が没す（79） 9 月 1 日　川内南・北幼稚園が開園する 9 月 27 日　郷土史家の八木昌平が没す（88） 11 月 3 日　岡公園でプロ・レスリング国際試合が開催される 11 月 26 日　本町商店街防災建築街区造成協同組合が設立される 12 月 4 日　実業家の前原準一郎が没す（84） 12 月 25 日　群馬スポーツセンターが清水町に開館する ◇テレビの普及で映画館の閉鎖・休館が続出する	・6 月 16 日　新潟地震 ・9 月 17 日　東京モノレール開業 ・10 月 1 日　新幹線開通東海道新幹線営業開始 ・10 月 10 日　オリンピック東京大会
1965	40	2 月 1 日　諏訪保育園が開園する 2 月 9 日　桐生朗読奉仕会が設立される 2 月 25 日　書籍商の岸田勇作が没す（65） 3 月 16 日　梅田・川内公民館が設置される 4 月 1 日　北・昭和幼稚園が開園する 4 月 20 日　群馬地方発明センターが設置される 5 月 16 日　聖クララ会大修道院が開院する 5 月 26 日　桐生市役所新庁舎（織姫町）が落成（29・30 日で引っ越し、31 日から業務開始） 6 月 6 日　大雹害 6 月 14 日　臨海学校がとりもつ縁で、茨城県日立市と国内親善都市提携をする 10 月 15 日　桐生南ロータリークラブが設立される ◇境野町に桐生ボーリング・センターが開館する 11 月 1 日　皇太子殿下が行啓になる 11 月 3 日　市民憲章が制定される 11 月 5 日　民主音楽協会が設立される ◇ニットウェアブームとなる ◇国勢調査 国人口 98,274,961 人 県人口　1,605,584 人 世帯数　359,831 世帯 桐生市人口 127,880 人 世帯数 30,674 世帯	・日韓基本条約 ・アメリカが南ベトナムの内戦に軍事介入を強化 ・気象庁富士山頂気象レーダー活動開始 ・10 月 21 日　朝永振一郎博士ノーベル物理学賞受賞 ・11 月 10 日　営業用原子力発電に成功
1966	41	1 月 1 日　太子保育園が開園する 1 月 26 日　桐生市遺族会館（水道山公園会館）が設置される（平成 12 年 6 月廃止） 2 月 15 日　上菱・黒川線産業開発道路が新設される 2 月 16 日　琴平町郵便局が開業する 2 月 26 日　市営ヘリポートが境野町浜の京に開設される 3 月 1 日　住居表示が実施される 3 月 30 日　相生町 4 丁目に自動塵芥焼却場が完成する 4 月 1 日　広沢南部保育園が開園する 4 月 17 日　境野町産業開発道路が新設される 4 月 18 日　桐生交通センターが開設される 4 月　アメリカシロヒトリが発生する 7 月 30 日　バッティングセンターが開館する	・中国で文化大革命が起こる ・3 月　建国記念日制定 ・7 月 1 日　郵便料値上（はがき 7 円・封書 15 円）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1966	昭和 41	8 月 1 日　桐生市労使会館が開館する 8 月 20 日　市営陸上競技場が元宿町に完成する 9 月 5 日　郷土美化運動委員会が設立される 9 月 25 日　台風 26 号により大被害を受ける 9 月 28 日　画人の岡田晴峰が没す（71） 12 月 14 日　桐生女性ドライバー・クラブが結成される 12 月 3 日　自治功労者の毒島恒太郎が没す（57） ◇市立診療所が廃止される ◇桐生織物業、不況深刻化のため 3 割操短を実施する ◇いざなぎ景気始まる	・国民の祝日（9.15 敬老の日 10.10 体育の日）とする
1967	42	1 月 1 日　相生幼稚園が開園する 1 月 5 日　『東日本新聞』が創刊される（昭和 47 年頃廃刊） 1 月 14 日　市議会議長に小山利雄が就任する 2 月 14 日　桐生織物協業連合会が設立される 2 月 17 日　桐生川に自記水位観測塔が完成する 3 月 17 日　桐生高校体育館で NHK「ふるさとの歌まつり」実施。東海林太郎、デュークエイセス、宮田輝来桐 3 月 25 日　川内簡易水道が布設される 3 月　鶏のニューカッスル病が発生する 4 月 1 日　12 区公民館が設置される 4 月 14 日　八坂橋が開通する 4 月 18 日　野球功労者の稲川東一郎が没す（61、明治 38 年生桐生高校野球部監督） 5 月 5 日　今東光が来桐する 5 月 16 日　桐生相生五郵便局が開局する 5 月 22 日　心身故障者福祉作業所広愛園が開園する 6 月 3 日　日本ユネスコ運動全国大会が開催される 6 月　錦桜橋下に桜遊園（現さくら遊園）が完成する 7 月 1 日　足仲保育園が開園する 7 月 1 日梅田北小学校跡地に梅北山の家(うめきたやまのいえ)が開設される（平成 5 年 3 月まで使用、平成 19 年 3 月 31 日閉所） 8 月 6 日　桐生駅南口が完成する 8 月 24 日　桐生熔接業協会が設立される 10 月 15 日　勤労青少年ホームが開館する ◇鳴神山で群馬県民登山体育大会が開催される 11 月 1 日　読売ブック・クラブ桐生連絡協議会が設立される 11 月 12 日　桐生市肢体不自由児父母の会が結成される ◇日本将棋連盟桐生支部が結成される 12 月 8 日　桐生刺繍同業会が設立される ◇桐生スターレーンが開館する	・6 月 5 日　イスラエル、アラブ諸国と武力衝突 ・欧州共同体（EC）が発足 ・元首相の吉田茂没す（89 歳） ・8 月 8 日　東南アジア諸国連合結成
1968	43	1 月 2 日　教育家の小竹為吉が没す（83） 1 月 15 日　岡公園内に水族館が完成する ◇元桐生市長の前原一治が没す（67） 1 月　新生活推進連盟が発足する ◇インフルエンザが流行する 3 月 20 日　桐生消防署相生分署が開設される 4 月 1 日　栃木県田沼町入飛駒の一部を越県編入する ◇相生町 4 丁目に桐生清掃事務所が設置される 4 月 2 日　桐生中央ライオンズクラブが結成される 5 月 9 日　桐生市傷痍軍人妻の会が設立される	・4 月 5 日　小笠原諸島返還 ・ベトナム和平パリ会談始まる ・核兵器拡散防止条約調印 ・米国黒人運動指導者キング牧師暗殺 ・奥利根 3 大ダム湖（八木沢・藤原・須田貝）完成

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1968	昭和 43	5 月 13 日　桐生競艇場において騒動（舟券売場乱入） 5 月 18 日　桐生明治 100 年展が開催される（中央公民館） 6 月 1 日　市民交通災害共済制度が実施される 6 月 4 日　桐生消防署東分署が開設される 6 月 27 日　総理大臣の佐藤栄作が来桐する ◇新宿保育園が開園する 7 月 8 日　第 5 回桐生まつりを契機に、コンパニオンを募集 8 月 25 日　桐生山岳会員 4 人が谷川岳で遭難死する 10 月 1 日　国鉄両毛線が電化され、これに伴い境野町の東桐生駅（無人駅）が廃止される 10月 21 日　群馬大学工学部の学生が国際反戦デーに参加し全学ストを決行する 11 月 30 日　代議士の長谷川四郎が農林大臣に就任する（昭和 45 年 1 月 14 日辞職）	・ソ連チェコに侵入（チェコ事件） ・イラン北東部で大地震(死者 12,000 人) ・川端康成ノーベル文学賞受賞 ・第 19 回オリンピック大会メキシコで開催
1969	44	1 月 9 日　元全米フェンシング大会優勝の森寅雄が没す（54） 1 月 15 日　相沢忠洋著『岩宿の発見』が発行される 3 月 20 日　桐生市公害対策協議会が設立される 3 月　交通安全教育センターが設置される ◇丸山下水路が完成する 4 月 1 日　たかのす聖母保育園が開園する ◇桜木幼稚園が開園する ◇聖母カテキスタ会桐生ハイムが桐生市に開園し在俗の修道会として活動する 4 月 11 日　市内初の協業デパートとして中央デパートが開店（翌 45 年 6 月閉店） 6 月 30 日　境野下水処理場が完成する 7 月 25 日　市民体育館、桐生球場が完成する 8 月 1 日　全国高等学校総合体育大会（バトミントン）が桐生市で開催される 10 月 6 日　老人研修施設寿交館が完成する ◇松島正見著『桐生城物語』が発行される ◇桐生織物業が設備の近代化を開始する ◇老人福祉センターに寿交館を増設	・3 月 2 日　中ソ両軍が武力衝突 ・5 月 26 日　東名高速道路全通 ・6 月 12 日　原子力船むつ進水式 ・7 月 10 日　同和対策事業特別措置法が成立 ・7 月 20 日　米国の有人宇宙船アポロ 11 号月面着陸し人が初めて月面に下り立つ
1970	45	2 月 1 日　西公民館が設置される 2 月 20 日　『菱の郷土史』が発行される 3 月 18 日　万国博覧会において群馬県の日に八木節出演する（21 日まで実施） 3 月　養護老人ホーム松立寮建替え 3 月　桐生ローターアクト・クラブが設立される 4 月 1 日　つつみ保育園が開園する 4 月 9 日　桐生市交通指導員制度が発足する 4 月 27 日　桐生市中央駐車場が設置される 4 月　桐生単身者共同宿舎が完成する 5 月 22 日　上菱浄水場が完成する 5 月 24 日　桐生城をしのぶ市民のつどいが開催される 5 月　UHF 電波によるテレビジョン中継局が開局する 6 月　桐生南ローターアクト・クラブが設立される 7 月 9 日　上菱浄水場が完成する 7 月　ちびっこ道路が設定される 9 月 7 日　群馬県銃剣道連盟桐生支部が設立される 10 月 1 日　桐生市母子保護連盟が設立される 10 月 9 日　朝鮮会館が設置される	・3 月 5 日　核兵器拡散防止条約に調印 ・3 月 14 日　日本万国博覧会大阪千里丘陵で開会式 ・東大宇宙航空研究所国産初の人工衛星打上げ ・5 月 11 日　日本エベレスト登山隊登頂に成功 ・群馬テレビ(株)が設立 ・前橋ＦＭ放送（ＪＯＡＰ）が開始

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1970	昭和 45	11 月 24 日　両毛電子計算センターが設置される 12 月 7 日　桐生地区交通連絡協議会が設立される ◇国勢調査 国本土人口 103,720,060 人 沖縄人口 945,111 人 県人口　1,658,000 人 桐生市人口 133,141 人 世帯数 34,534 世帯	・11 月 25 日　三島由紀夫が市ヶ谷の自衛隊内で割腹自殺
1971	46	1 月 1 日　桐生消防署東分署の望楼が完成する 1 月 4 日　郷土史家の前原寛臣が没す（76） 1 月 21 日　献血の日が指定される 1 月 23 日　歌人の吉田緑泉が没す（75） 2 月 6 日　桐生桧杓山城跡が桐生市史跡に指定される 2 月 17 日　元桐生タイムス社社長の木村貞一が没す（73） 2 月 24 日　川内北幼稚園が焼失する ◇桐生商工会館が完成する 2 月 28 日　新川遊園地が閉園となる 3 月 1 日　桐生市制施行 50 周年記念式典が挙行される ◇『桐生市史別巻』が刊行される 4 月 1 日　桐生が岡遊園地が開園する ◇桐丘女子短期大学が桐丘短期大学と改称し男女共学となる 4 月 16 日　群馬テレビジョンが放送を開始する 4 月 19 日　新潟相互銀行桐生支店が開業する（平成 11 年経営破綻） 4 月 27 日　菱町 3 丁目の文昌寺が焼失する 5 月 2 日　小山利雄が市長に就任 5 月 13 日　遠藤俊一が市議会議長に就任 5 月 16 日　医師の岸直枝が吉岡弥生賞を受賞する 5 月 17 日　経済評論家の藤原弘達が来桐する 5 月 19 日　女優の小暮実千代が来桐する 8 月 1 日　市役所内に内線 500 番が発足する 8 月 2 日　高松宮殿下が来桐 8 月 16 日　アメリカのドル防衛策で市内の繊維業者に影響がでる 8 月 27 日　桐生米穀小売商業組合が設立される 9 月 18 日　元群馬県議会議員の蓮沼治郎が没す（56） ◇縄文土器研究家の新井司郎が没す（48） ◇桐生市企業防衛対策本部が設置される 9 月 30 日　野村証券株式会社桐生支店が閉店となる 10 月 3 日　実業家の前田勝利が没す（66） 10 月 17 日　梅田町 1 丁目と菱町上菱を結ぶ小松橋が開通する 10 月　市内の過剰織機 5690 台の破砕作業が開始される 11 月 6 日　桐生信用金庫新桐生支店が開業する 11 月 12 日　桐生西ロータリークラブが設立される 12 月 1 日　桐生織物商業協同組合で 2 割自主操短実施 12 月 3 日　社会教育関係婦人団体連絡協議会が設立される 12 月 5 日　作曲家の古賀政男が来桐する 12 月 15 日　元軍人の真尾源一郎が没す（90） 12 月 20 日　桐生繊維株式会社が廃業する	・国連総会は「中華人民共和国を招請、中華民国を追放」を決議 ・6 月 17 日　沖縄返還協定に調印 ・7 月 1 日　環境庁発足

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1972	昭和 47	1月6日　札幌オリンピック冬季大会における聖火が桐生市を通過する 1月 12 日　元軍人の稲村豊二郎が没す（81） 1月 17 日　桐生繊維製品協同組合が設立される 1月 19 日　長谷川四郎が衆議院副議長に就任する 2月 4 日　市内に 15 センチの積雪 2月 5 日　桐生服地協同組合が設立される 2月 12 日　桐生市教育委員会による千網谷戸遺跡の発掘調査が開始される 3月 1 日　前原勝樹が『うろ覚え明治大正』を発行する 3月 6 日　桐生市文化財管理者協議会が設立される 4月 1 日　飯米の自由販売が実施される 4月　市立商業高等学校に情報処理科が新設される 5月 18 日　機業家の森口順四郎が没す（70） 5月 25 日　荒海アキの歌集『万年青』が発行される 5月 31 日　桐生映画劇場が閉館する 6月 11 日　桐生八木節連合協議会が設立される 6月 16 日　桐生大型店協議会が設立される 7月 1 日　青柳武門の歌集『犀の如く』が発行される 7月 7 日　歌舞伎俳優の坂東三津五郎が来桐する 7月 11 日　末広町山口病院内に優生保護相談所が開設される 7月 13 日　映画監督の羽仁進が来桐する ◇桐生女子高等学校が梅田町の新校舎へ移転する ◇桐生織物組合が企業のグループ化事業を推進する ◇桐生市の衣服縫製業者が桐生繊維製品協同組合を結成する 7月 14 日　実業家の書上文左衛門が没す（81） ◇実業家の野間仁一が没す（72） 8月 1 日　国の広域市町村構想に基づき、桐生市外六か町村広域市町村圏振興整備組合が発足（平成 18 年 3 月 27 日、みどり市誕生に伴い自然解散） 8 月 2 日　大型移動図書館車による巡回が開始される（平成 25 年 3 月廃止） 9月 19 日　琴平会館が完成する 9月 24 日　元大蔵・外務大臣の福田赳夫が来桐する 9月 20 日　図書館のレコードコンサートが廃止される 10 月 18 日　桐生手話研究会が結成される 10 月 27 日　桐生意匠協同組合・桐生紋紙協同組合が設立される 11 月 1 日　桐生市施設管理協会が設立される 11 月 5 日　渡良瀬川サイクリングロードが開通する 11 月 10 日　桐生東スポーツセンターが開館する 11 月 11 日　ミドリ丘保育園が開園する 11 月 12 日　堀口宏・堀口玲子が全日本舞踏選手権大会アマチュアの部モダン・ラテンの 2 種目に優勝する 11 月 13 日　相生町と川内町を結ぶ相川橋が開通する 11 月 15 日　金子星零子の句集『機の音』が発行される 11 月 22 日　梅田町 2－上菱間の跳滝橋が開通する ◇桐生市緑化推進会議が結成される 11 月 25 日　パチンコ玉 1 個 3 円に値上げされる 11 月　松崎寛がフランスのパリのサロン・ド・オトンヌ展に「シャンティー城」を出品し入選する 12 月 3 日　市民オリエンテーリングが開催される	・1 月 24 日　グァム島密林で元軍人の横井庄一発見 ・第 11 回冬季オリンピック札幌大会開催 ・2 月 21 日　アメリカの大統領が中国を訪問 ・5 月 15 日　沖縄が日本に復帰する ・9 月 25 日　日中の国交正常化、中華民国と国交断絶 ・前橋地方検察庁が連合赤軍事件を一括起訴

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1972	昭和 47	12 月 6 日　歴史学者羽仁五郎の蔵書の一部が桐生市に寄贈される	
		12 月 22 日　福田良四郎が市議会議長に就任する	
		12 月 27 日　堤町にロイヤルプラザが開館する	
1973	昭和 48	1 月 6 日　斎藤長平が没す（81、図書館の建設に尽力）	
		2 月 1 日　豆腐 1 丁 50 円に値上げされる	
		2 月 6 日　浅間山噴火で降灰	
		2 月 22 日　桐生市教育委員会による川内町 4 丁目夫婦(めおと)塚古墳の発掘調査が開始される	
		2 月 27 日　桐生繊維団体連絡協議会が設立される	･3 月 29 日　ベトナム戦争の停戦協定成立
		3 月 10 日　教育者無著成恭が来桐する	
		3 月 29 日　梅田町 5 の不動穴遺跡の発掘調査が実施される	
		3 月 20 日　新井司郎著『縄文土器の技術』が発行される	
		3 月 31 日　桐生市立図書館後援会が廃止される	
		このころ、市内で建築資材が暴騰する	
		4 月 1 日　天沼小学校が開校する	
		◇桐生バイパスが開通する	
		4 月 10 日　渡良瀬川堤防バイパスが開通する	
		4 月 21 日　桐生ハイヤーセンターが開業する	
		4 月 23 日　三笠宮殿下が来桐する	
		4 月 28 日　桐生ファミリーゴルフクラブが開業する	
		4 月 30 日　日曜祝日重複による初の振替休日が実施される	
		このころ、市内に連続放火事件が発生する	
		5 月 1 日　うどん 120 円・ラーメン 150 円に値上げされる	
		5 月 15 日　桐生市外六か町村土地開発公社が設立される	
		5 月 16 日　草木ダム定礎式が実施される	
		5 月 26 日　群馬県が桐生川ダム建設を発表	
		6 月 18 日　桐生市民プールが開館する	
		6 月 23 日　腰塚治男が群馬県議会副議長に就任する	
		7 月 12 日　画家の深尾広道が没す（67）	
		7 月 15 日　桐生少年少女合唱団が結成される	
		7 月 27 日　高津戸ダムで発電が開始される	
		7 月 29 日　桐生中央商店街振興組合が設立される	
		8 月 1 日　桐生 LP ガス保安管理センターが設立される	
		8 月 4 日　イタリアのビエラ市長フランコ・ポツリ・ブルネットが来桐する	･9 月 21 日　ベトナム民主共和国と国交を結ぶ
		8 月 5 日　新川球場で初の子供八木節大会が開催される	
		8 月 6 日　茶臼山山頂に桐生テレビジョン中継塔が完成する	
		8月 9 日　全国高校総合体育大会女子卓球団体戦で桐丘高等学校チームが優勝する	・第四次中東戦争
		8 月 15 日　歌手の美空ひばりが来桐する	
		8 月　桐生市総合計画が策定される	・10 月 23 日　古河鉱業足尾銅山が閉山
		8 月　日照続きで水不足が深刻化する	
		9 月 30 日　本町通りで初の歩行者天国が実施される	
		10 月 1 日　桐生広域圏農業振興連絡協議会が設立される	
		10 月 9 日　小山市長が 17 日間のヨーロッパ視察に出発する	・10 月 23 日　江崎玲於奈がノーベル物理学賞受賞
		10 月 22 日　赤煉瓦の建物に代わり、第一勧業銀行桐生支店が新築になる	
		◇桐生タイムス新社屋が完成する	
		11 月 22 日　作家の吉村昭が来桐する	
		11 月　川内町 3 丁目の雲祥寺の梵鐘が東京で発見される	・オイルショック（紙・灯油が不足商品の買占めに拍車）
		◇インフルエンザが流行する	
		◇石油・トイレットペーパー不足が深刻化する	
		12 月 1 日　桐生市へ寄贈された本町 1 丁目の長沢家文書をまとめた『長沢家文書目録』が発行される	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1973	昭和 48	12 月 16 日　燃料不足で市内のタクシーが一斉休業となる 12 月 20 日　市営桐生東スポーツセンターが改装される ◇卸売物価が前年比 15.9%・消費者物価が 11.7%上昇する	
1974	昭和 49	1 月 1 日　市民生活安定緊急対策本部が設置される 1 月 25 日　小説家の曽野綾子が来桐する 1 月　コホーテク彗星が出現する 3 月 1 日　前原一治に初の名誉市民称号が追贈される 3 月 27 日　映画監督の五所平之助が来桐する 4 月 4 日　国際きのこ会館が完成する 4 月 5 日　沼の上保育園が開園する 4 月 9 日　桐生厚生総合病院内に病弱児学級が開設される 5 月 25 日　人形劇団プークが公演する 5 月 27 日　医師の山川忠雄が没す（87） 6 月 19 日　社会党委員長の成田知巳が来桐する 6 月 20 日　足利銀行桐生市場支店が開設される 6 月 28 日　西友ストア新桐生店が開店する 7 月 1 日　川内公民館が新築される 7月 2 日　全国家庭婦人会バレーボール大会群馬県予選会で桐生フレンドチームが優勝する 7 月 5 日　藪孝平著『森喜作伝記きのこの巨人』が発行される 7 月 6 日　内閣総理大臣の田中角栄が来桐する 7 月 15 日　国民金融公庫前橋支店桐生出張所が設置される 7 月 18 日　北関東初の桐生市公設地方卸売市場が開館する ◇梅田生産市場が廃止となる 7 月 24 日　境野町に国立有料老人ホーム厚生年金桐生白滝荘が完成する 8 月 3 日　桐生球場で初のプロ野球公式戦広島・大洋戦が開催される 8 月 12 日　市内の都市ガスが天然ガスに転換し供給を開始する 8 月 26 日　渡良瀬川が洪水 8 月 30 日　桐生盲人会が桐生視力障害者協会と名称を変更する 8 月 31 日　天沼幼稚園が完成する 9 月 1 日　渡良瀬川洪水 ◇『桐生駅のしんぶん』が創刊される 9 月 19 日　作家の畑山博が来桐する 10 月 1 日　桐生警察署へ初の婦人警官が配属される 10 月 5 日　作家の住井すゑが来桐する 10 月 6 日　桐生で初の仲通り朝市が始まる 10 月 13 日　桐生市指定文化財の栖松寺の石幢が盗難にあう（平成 7 年 9 月 25 日返戻） 11 月 8 日　桐生市で国際食用きのこ会議が開催される ◇石川一善編『川村佐助伝記　白南風』が発行される 11 月 9 日　佐鳥英雄が小説『白光院雑記』で群馬県文学賞を受賞する 11月 13日　繊維産業不況のためユニチカ桐生工場が廃止となる 11 月 18 日　大栄信用金庫桐生支店（現しののめ信用金庫）が開店する 12 月 1 日　松島武雄著『はた音 50 年』が発行される	・3 月 10 日　元陸軍少尉小野田寛郎がフィリピンのルバング島で救出 ・10 月 8 日　前首相佐藤栄作ノーベル平和賞受賞 ・群馬県立近代美術館が開館

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1974	昭和 49	12 月 22 日　桐生造園事業協同組合が設立される ◇卸売物価 31.3%・消費者物価 24.5%上昇（狂乱物価） ◇戦後初の実質マイナス経済成長を記録	
1975	昭和 50	1 月 10 日　久保田穣が詩集『日常』を発行する 1 月 22 日　市内に 18 センチの積雪 1 月 23 日　桐生大橋が開通する 2 月 8 日　作家の森敦が来桐する 2 月 21 日　市内に 19 センチの積雪 2 月 28 日　桐生スターレーンが廃業する 3月3日　青木真理子が日本教育テレビの全日本ちびっこものまね選手権で優勝する 3 月 7 日　機業家の飯塚癸巳三が没す（82） 3 月 30 日　萩原康次郎が歌集『風昏』を発行する 3 月 31 日　川内町 3 の天神橋が開通する 4 月 1 日　身体障害者福祉センターが開館する 4 月 2 日　作家の野坂昭如が来桐する 4 月 5 日　消費者行政推進協力員制度が発足する 4 月 8 日　市の木にモクセイ・市の花にサルビアが決定する 4 月 21 日　仲町 1 の桐生女子高校跡地に市立青年の家が開館する 4 月 27 日　中島数恵が女性で初の市議会議員に当選する 5 月 4 日　松島正見著『続桐生城物語』が発行される 5 月 12 日　元宿町に桐生メディカルセンターが完成する 5 月 15 日　大田兼吉が市議会議長に就任する ◇桐生地区公害防止連絡協議会が設立される 5 月 16 日　梅田町でキソコザクラの群生を発見する ◇労働教育会館が開館する ◇広沢公民館が開館する 6 月 8 日　桐生子どもと本の会が設立される 6 月 9 日　浩宮さまが来桐 6 月 16 日　社会主義運動家の鈴木正が没す（69） 6 月 22 日　桐生東ライオンズクラブが結成される 7 月 1 日　桐生ライスセンターが開業する ◇金子義蔵自叙伝『年輪』が発行される 7 月 11 日　農林業総合センターが設立される 9 月　錦町団地 11 階建市営住宅が完成する 10 月 1 日　グリーンフラワーバンクが発足する 10 月 8 日　森島秀が群馬県教育委員長に選任される ◇常祇稲荷神社が改築される 11 月 1 日　桐生市へ寄贈された『菱町村岡家・本町吉田家外諸家文書目録』が発行される 11 月 11 日　都市計画道路美原線が開通する 11 月 13 日　桐生地域救急医療対策協議会が設立される ◇作家の笹沢左保が来桐する 11 月 20 日　桐生視力障害者協会編『桐光句集』が刊行される 11 月 26 日　スト権回復ストで市内の交通機関が混乱する 12 月 10 日　東映プラザが完成する 12月17日　小林一郎が田山花袋研究で文学博士号を授与される ◇国勢調査 国人口　111,939,643 人 県人口　1,756,480 人 世帯数　472,727 世帯 桐生市人口　134,239 人 世帯数　37,112 世帯	・4 月 30 日　ベトナム戦争終結 ・5 月 16 日　田部井淳子らが女性として世界初のエベレスト登頂 ・インドシナ半島で戦争が終わる ・山陽新幹線岡山・博多間が開業し東京・博多間が全通する

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1976	昭和 51	2月3日　相生公民館及び相生出張所の建物が国指定の重要文化財に指定される（旧群馬県衛生所、現桐生明治館） 2月6日　桐生気象通報所アメダス四要素開局 3月　梅田町5丁目の星野増太郎が桐生和紙づくりを復活し市の無形民俗文化財として指定される（桐生和紙生産技術） 3月25日　小倉峠の全面拡幅工事が完了する 3月31日　公共下水道の普及率が46.2%となる 3月　上菱浄水場の排水処理施設が完成する 4月1日　上の台保育園（川内町3）ひまわり保育園（相生町3）が開園する 5月1日　桐生境野野球場が開設される 5月7日　彦部屋敷が県の史跡に指定される 5月　錦桜橋上流の渡良瀬川右岸にさくら遊園が開設される 8月　相生町3の渡良瀬川沿いの民有林に市民広場を開設 9月　女淵汚水処理場（相生町4）の運転が開始される 9月　市内の小・中・養護学校に米飯給食が導入される 10月7日　桐生市みどりと花の会が発足する 【刊行物】 桐生地区鉱毒対策委員会『渡良瀬川農業鉱毒解決史』 桐生市医師会『桐生市医師会史』	・周恩来中国首相死去（78） ・2月4日　ロッキード事件 ・4月5日　中国天安門事件 ・第21回オリンピックがモントリオールで開催され日本女子バレーボールが金メダル（12年ぶり） ・山形県酒田市で大火1200戸焼失 ・草木ダムが完成 ・福田赳夫内閣総理大臣に就任する（本県初） ・7月2日　ベトナム社会主義共和国成立
1977	52	2月8日　昭和中学校五室が全半焼する 4月1日　市民広場（相生町3）が開設される 4月1日　ひかり保育園（東4）が開園する 4月1日　県立特別養護老人ホーム菱風園が菱町黒川(菱町1)に開館する 5月17日　群馬県繊維工業試験場（相生町5）が完成する 5月19日　稲川陽輔が市議会議長に就任する 7月1日　相生町1丁目と相生町2丁目の一部が第15区から分かれ第18区となる 9月19日　鳳仙寺のカヤ外6樹が市の保存樹に指定される 9月19日　賀茂神社境内（広沢町6）および天満宮境内が市の自然緑地保護区に指定される 10月14日　桐生織が通産省から伝統工芸品に指定される 10月15日　蕪町会館（相生町4）が完成する 10月23日　森喜作が香港の病院で没す（69）名誉市民に推挙される 11月3日　第1回桐生きものの日開催される	・漁業水域暫定措置法公布（200海里） ・日航機が日本赤軍にハイジャックされる ・日本の平均寿命がスウェーデンを抜き世界1位となる（男72.6歳女77.9歳） ・日本初の静止気象衛生「ひまわり」の打ち上げに成功
1978	53	3月30日　崇禅寺の自然（川内町2）が県の緑地環境保全地域に指定される 4月1日　みつぼり保育園（境野町3）すみれ保育園（相生町3）が開園する 4月5日　桐生気象通報所が廃止となる 4月25日　米国ジョージア州コロンバス市と国際姉妹都市提携の調印式を行う	・日足トンネルが開通 ・新東京国際空港が開港

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1978	昭和 53	7 月 1 日　おおぞら保育園（広沢町 1）が開園する 10 月 17 日　国道 50 号線桐生バイパスが全線開通する 10 月 26 日　両毛線高架化のため旧桐生駅の駅舎を解体する（昭和 3 年 8 月以来 50 年間使用） 12 月 2 日　北公民館（東久方町 3）が開館する 12 月 6 日　田原屋桐生店が宮本町 1 に開店する	・宮城県沖地震が発生（死者 27 人、損壊家屋 2844 戸） ・英国で世界初の試験管ベビーが誕生 ・県内の電話がダイヤル化 100%となる ・各地で観測以来の酷暑となる ・香港ソ連型の集団風邪が大流行
1979	54	1 月 29 日　市内初のゲートボール専用の運動場（東 5）が完成する 1 月 31 日　電気館が閉館する 2 月 3 日　賀茂神社（広沢町 6）の火投げ神事が 30 年ぶりに復活する 3 月 29 日　忍山で山林火災が発生し 23.26ha が焼失する 3 月 30 日　根本山周辺の 26.53ha が県の自然環境保全地域に指定される 3 月　盛運橋が本町通り拡幅のため姿を消す 4 月 1 日　群馬大学工学部に建設工学科が設置される 4 月 1 日　神明小学校が開校、幼稚園（広沢町 3）が開園する 4 月 1 日　かんのん保育園（菱町 4）はなぞの保育園（川内町 5）が開園する 4 月 1 日　桐生市が障害者福祉推進都市に指定される 4 月　樹徳幼稚園が錦町 1 丁目から広沢町 3 丁目に移転する 8 月 4 日　環境衛生センターの屋上運動公園が開園する 8 月 10 日　千手寺庚申七面塔、法楽寺御正体、鳳仙寺輪蔵が市の重要文化財に指定される 10 月 2 日　浄運寺所蔵の「秋草花卉図」（酒井抱一筆）、「孔雀牡丹図」（谷文晁筆）が県の重要文化財に指定される 10 月 2 日　塚越平人が群馬県教育委員会委員長に選任（昭和 55 年 10 月 1 日退任） 11 月 6 日　文化センター（市立図書館、中央公民館）が総合的な社会教育施設として開館する 11 月　市立図書館が、講談社より自社出版図書の寄贈を受け、野間文庫を開設する	・初の共通一次学力試験が実施される ・第二次オイルショック ・岩宿遺跡が国の指定史跡となる ・県立歴史博物館が高崎市に開館する ・県立東毛少年自然の家が藪塚本町に開館する ・65 歳以上の老年人口が 1000 万人の大台にのる ・中国・ベトナム戦争 ・アメリカスリーマイル原子力発電所で事故
1980	55	1 月 1 日　（財）臨床眼科研究所（梅田町 1）が開設される 3 月 10 日　強風で市内の屋根破損が 56 件にのぼる 4 月 1 日　群馬県立桐生西高校（相生町 3）が開校する 5 月 3 日　荒木歓一郎、佐々木元吉が名誉市民に推挙される 7 月 1 日　市は公共施設での合成（有リン）洗剤の使用をやめ、無リン洗剤への転換を呼びかける	・救急医療情報システムが全県でスタート

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1980	昭和 55	7 月 7 日　聖眼寺タラヨウ外 3 樹が市の保存樹に指定される 9月 1 日　図書館は全国に先駆けて重度身体障害者への宅配サービスを始める 10 月 1 日　本町通りにパーキングメーターが 55 台設置される（平成 17 年 3 月 31 日撤去） 11 月 2 日　第 1 回自然保護観察会が行われる 11 月 15 日　桐生厚生総合病院でカルテの集中管理を実施する 11 月 12 日　鳴門市と国内親善都市提携をする 【刊行物】 商工会議所『桐生商工名鑑』 国勢調査 国の人口　117,060,396 人 世帯数　36,015,026 世帯 県の人口　1,848,562 人 世帯数　516,390 世帯 市の人口　132,889 人 市の世帯数　38,755 世帯	・県立女子大学が前橋市に開校 ・笹沢左保の小説『木枯らし紋次郎』に因んだ三日月村が藪塚本町に開館 ・義務教育学級 40 人編成改正法公布 ・オリンピックモスクワ大会に日本は不参加を決定（ソビエトのアフガニスタン侵攻に起因） ・大平正芳首相死去（70） ・イラン、イラク戦争が始まる ・全国的冷夏となる
1981	56	3 月 1 日　市制施行 60 周年 3 月 16 日　桐生郵便局に自動支払機が導入される 3 月 31 日　桐生高校・桐生女子高校の定時制が閉校となる 4 月 1 日　広沢老人憩の家が会館する 4 月 16 日　文化センター前に屋外彫刻が完成する（和南城孝志作品） 4 月 13 日　心身障害者授産施設、桐生みやま園（川内町 5）が開園する 4 月 19 日　桐生が岡遊園地にサイクルモノレールが設置される 4 月　東公民館（東 5）が設置される 5 月 1 日　広沢老人憩いの家（広沢町 6）が開館する 5 月 3 日　織物参考館「紫（ゆかり：東 4)」が開館する 5 月 15 日　峯岸康治が市議会議長に就任 5 月 8 日　南公園（広沢町 5）を開設する 6 月 1 日　桐生市緑化推進基金が設置される 7 月 19 日　北体育館が開設 8 月 5 日　市制 60 周年を記念する歌謡曲「桐生機街詩の街(きりゅうはたまちうたのまち)」（作詞岡野延夫、作曲千木良政明、歌島倉千代子)、「機場恋唄」（作詞古館多加志、作曲千木良政明、歌大川栄策）が発表される 9月 8 日　羽仁五郎氏から文化センターの前庭にブロンズ像が寄贈される 10 月 12 日　梅田大橋が完成する 11 月 3 日　市制施行 60 周年記念式典が行われる 11 月 21 日　国際親善都市のコロンバス市長夫妻が来桐 ◇公共下水道の普及率が 52.9％となる（3.31） 【刊行物】 桐生市『先覚の群像』 桐生市教育委員会『桐生市植物誌』	・「北方領土の日」が制定される ・ローマ法王が初来日 ・群馬の森（県立公園）が全面供用開始 ・中国残留日本人孤児 47 人が初の来日 ・神戸ポートアイランド博覧会が開催 ・福井謙一がノーベル化学賞を受賞

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1982	昭和 57	2 月 11 日　本町 4 丁目の高島屋ストアが閉店する 3 月 1 日　国道 122 号線の国鉄両毛線踏切立体交差(相生町 2)が完成する 3 月 14 日　桐生織物会館の新館が完成する 3 月 20 日　長崎屋が永楽町に移転し新装開店する 3 月　境野水処理センターの増設工事が終了する 3 月　県立働く婦人の家が閉館となる 4 月 1 日　相生出張所・相生公民館（相生町 2）が新築移転する 4 月 1 日　市立図書館で雑誌の貸し出しを開始する 4 月 16 日　新川北線（コロンバス通り）が開通する 6 月 2 日　南運動公園内の「少年の像」の除幕式が行われる 6 月 14 日　桐生山岳会のマッキンリー登山隊が登頂に成功 7 月 5 日　錦桜橋･昭和橋間のサイクリングロードが完成する 8 月 27 日　境野中学校が第 12 回全国中学校バスケットボール大会で優勝する 8 月 20 日　市役所庁舎（織姫町）の新館が完成する 10 月 16 日　桐生川ダム貯水開始 10 月 18 日　桐生市斎場（広沢町 5）が使用を開始する ◇インフルエンザの流行で市内小・中学校の学級閉鎖が相次ぐ 【刊行物】 水道局『桐生市水道 50 年史』 消防本部『桐生消防史』	・東京のホテルニュージャパンで火災（死者 32 人） ・日航機が羽田空港前の海に墜落（死者 24 人傷者 150 人） ・三ない運動（高校生の運転免許）がスタート ・フォークランド紛争が始まる ・東北新幹線が開業 ・九州北西部で豪雨（死者行方不明 299 人） ・中曽根康弘が本県 2 人目の内閣総理大臣に就任 ・上越新幹線が開業 ・500 円硬貨が発行される ・テレホンカードの使用開始
1983	58	3 月 1 日　未来への小包「21 世紀の桐生市民へ贈るメッセージ」発送式を行う 3 月 9 日　桐生市を中心とする市外局番が「0277」に統一される 3 月　桐生川ダム建設工事完了 3 月 31 日　桐生消防署で望楼からの目視による監視が終了 4 月 8 日　浅間山が噴火し、桐生でも降灰を確認する 5 月 29 日　ごみゼロの日（5.30）にちなんで市民一掃清掃が行われる 6 月 8 日　歴史学者の羽仁五郎が没す（82） 7 月 1 日　市は住民基本台帳をオンライン化する 7 月 1 日　勤労福祉会館（錦町 3）が開館する 9 月 10 日　赤城国体開会式にご臨席のため来県した皇太子殿下ご夫妻が来桐 9 月 12 日　テキスタイルプランナーの新井淳一が第 1 回毎日ファッション大賞特別賞を受賞 10 月 7 日　国鉄両毛線の鉄道高架が完成する 10 月 16 日　あかぎ国体（第 38 回国民体育大会）秋季大会が開催され（10 月 15 日～20 日)、桐生市でバトミントン・相撲・高校野球が行われる 11 月 1 日　桐生川ダム竣工祝賀会開催。ダム周辺が梅田鳥獣保護区に指定される	・日本初の実用通信衛星「さくら 2 号ａ」の打ち上げ成功 ・中国自動車道が全通 ・県立農林大学校が開校 ・県立赤城森林公園が開園 ・日本海中部地震が発生(死者 104 人)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1983	昭和 58	12 月 10 日　中里橋架け替え工事が完了し渡り初め（旧橋より約 270m上流側に架橋） 【刊行物】 桐生文化史談会『桐生の歴史』 浅田晃彦『考証岡上景能』	・第 13 回参議院選旧全国区は初の比例代表制となる ・山陰地方に集中豪雨（死者 119 人） ・ソ連空軍機が大韓航空機を撃墜（269 人全員死亡内日本人 28 人） ・三宅島の雄山が大噴火（400 戸焼失） ・ロッキード裁判一審で田中角栄元首相に実刑判決が下る ・東北大学で日本初の試験管ベビーが誕生する ・マドリード空港で旅客機が衝突（死者 93 人内日本人 34 人） ・東京ディズニーランドが開園
1984	59	1 月 4 日　昭和公民館（美原町）が設置される（旧勤労青少年ホーム跡） 4 月 1 日　12 区公民館を桜木公民館と改称し新築移転する（広沢町 2） 4 月 20 日　市役所前庭の桜並木をお花見会場として開放する 6 月 1 日　市役所八木節チームが米国ニューオリンズで開催の国際河川博覧会に参加出演する 6 月 2 日　桐生川ダム発電所が運転を開始する 6 月 6 日　川内町千網谷戸遺跡出土品（耳飾など 3,297 点）が国指定の重要文化財に指定される 6 月 17 日　第 1 回市民梅狩り（南公園）が行われる 6 月 29 日　（社）桐生市シルバー人材センターが設置される 8 月 23 日　桐生駅の新駅舎が完成する 12 月 9 日　市民有志からなる第 1 回第九合唱演奏会が行われる ◇異常寒波で水道管の破裂が 9,000 件発生する ◇渡良瀬川で異臭が発生する	・福岡県三井三池鉱業有明海底坑道で火災発生（死傷者 99 人） ・実用放送衛星「ゆり 2 号ａ」打上げ成功（5 月ＮＨＫ衛星テレビ放送開始） ・第 23 回オリンピックロサンゼルス大会が開催 ・日本銀行が 15 年ぶりに新札を発行（1 万・5 千・1 千円札）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1984	昭和 59	【刊行物】 桐生市『桐生が岡動物園開園 30 年の歩み』	・県人口 190 万人を突破 ・一人暮し老人 100 万人を突破平均寿命男女とも世界一(女 79.7 歳 男 74.2 歳)
1985	60	3 月 31 日　市が職員 60 歳定年制を実施する 3 月　新川球場隣にバラ園が完成する 4 月　広沢水処理センター運転開始 8 月 1 日　郷土資料展示ホールが中央ビル 5 階に開館する 8 月 22 日　桐生山岳会女子ヒマラヤ登山隊はメントーサ（6,443m）登頂に成功する 9 月 4 日　全日本還暦野球大会で桐生 OB 野球クラブが優勝 9 月 30 日　桐生川ダム湖の名称が梅田湖に決まる 10 月 16 日　桐生駅付近の鉄道高架化が完了、完成式典を開催 10 月　第 28 回全国花いっぱい桐生大会が開催される 国勢調査 国の人口　121,048,923 人 群馬県の人口　1,921,259 人 桐生市の人口　131,267 人 国の世帯数　38,133,297 世帯 群馬県の世帯数　556,268 世帯 桐生市の世帯数　39,903 世帯	・科学万博がつくば市で開催 ・ＮＴＴ，ＪＴが発足する ・中里村で全国初の恐竜の足跡を発見 ・北海道夕張市で三菱石炭鉱業の坑道でガス爆発（死者 62 人傷者 24 人） ・本州四国連絡橋の大鳴戸橋が開通 ・シートベルト着用が義務付けられる ・日航機が御巣鷹山に墜落（死者 520 人、生存者 4 人） ・メキシコ南西部で大地震(死傷者 1 万人以上) ・エフエム群馬が開局 ・関越自動車道が開通 ・コロンビアのネバドデルルイス火山が噴火(死者行方不明 25,000 人)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1985	昭和 60		・10 月 28 日　第 1 回県民の日と定める ・全国の小・中学校でいじめが社会問題となる ・ファミコンが爆発的な人気を集める
1986	61	3 月 31 日　市立桜木保育園が廃園となる 3 月　市内の住宅密集地で連続放火事件が起こる 4 月 1 日　市はシルバーテレフォン相談を開始する 4 月 19 日　桐生川源流林が森林浴の森日本 100 選に選ばれる 4 月 23 日　市は全国初の 4 歳児健康診査を開始する 5 月 1 日　国の重要文化財である旧群馬県衛生所の建物が「桐生明治館」として開館する 5 月 10 日　新川北線（コロンバス通り）が開通する 5 月 25 日　養護老人ホーム松立寮がディサービスを開始する 5 月 25 日　サッカー・ラグビーの専用競技場としてユーユー広場（相生町 3）が開設される 5 月 28 日　桐生出身の力士・起利錦の入幕が決まる（明治 45 年入幕の白梅文治郎以来） 6 月 19 日　長谷川四郎が名誉市民に推挙 7 月 10 日　境野水処理センター屋上運動公園が「手づくり郷土賞」に選ばれる 8 月 7 日　元代議士の長谷川四郎が没す（81） 8 月　日本初の女性写真師島隆(しまりゅう)の資料が島勝二宅（梅田町 1）で発見される 11 月 21 日　桐生厚生総合病院改築工事の地鎮祭実施 11 月　桐生信用金庫の本町支店（本町 4）が解体される 11 月 30 日　画家のオノサト・トシノブが没す（74） 12 月 2 日　加茂神社塚(境野町 3)出土の環頭太刀が市の重要文化財になる 12 月 2 日　皆沢地区（梅田町 4）の百万遍念仏が桐生市無形民俗文化財に指定される 12 月　県道・桐生田沼線のバイパスとなる市道菱町 1 号線が全線開通する ◇33ｃｍの積雪を記録する ◇公共下水道の普及率が 55.2％となる ◇急速な円高により景気が後退する 【刊行物】 桐生市歯科医師会『桐生市歯科医師会史』 浅田晃彦『安吾・潤・魚心』	・米国のスペースシャトル「チャレンジャー」が空中爆発 ・男女雇用機会均等法が施行 ・ソ連チェルノブイリ原子力発電所で原発事故 ・社会党に初の女性党首が誕生（土井たか子） ・群馬県は情報公開制度を開始 ・伊豆大島の三原山が大噴火、全島民が島外に船で脱出 ・イラク航空機がハイジャックされサウジアラビアに緊急着陸、爆発する（死者 62 人）
1987	62	1 月 21 日　桐生保健所はエイズ相談窓口を開設する 2 月 2 日　川村佐助が名誉市民に推挙される 2 月 27 日　菱町黒川の山林で山火事が発生し 22.5ha を焼失する 3 月 24 日　市内最長の松原橋（373.1m）が開通する 3 月 27 日　桐生大橋が 4 車線となる	・南極捕鯨が幕を閉じる ・国鉄が分割、民営化されＪＲグループが開業

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1987	昭和 62	4 月 1 日　（財）桐生地域地場産業振興センターが開館する 4 月 1 日　桐生織物、桐生内地織物、桐生服地の 3 協同組合が合同して桐生織物協同組合となる 4 月 1 日　身体障害者療養施設「桐花園」（広沢町 1）が開園する 4 月 1 日　水道山配水事務所を改修し水道山記念館として開館する 5 月 2 日　大澤善隆が市長に就任 5 月 20 日　加藤隆司が市議会議長に就任 9 月　末広町通りの電線地中化が完了 10 月 4 日　新川球場が公園になるため、そのお別れイベントとして「新川球場サヨナラ記念マラソン野球大会」が開催される ◇フェーン現象により気温 39 度を記録 ◇雷雨による被害が続出する 【刊行物】 桐生市教育委員会『桐生市動物誌』	・岸信介元首相死去（90） ・利根川進がノーベル医学生理学賞を受賞 ・ニューヨーク株式市場が大暴落する ・日米経済摩擦が深刻化する ・世界人口が 50 億人を突破
1988	63	1 月 4 日　まちづくりキャッチフレーズ「ハイテクとファッションのまち桐生」が発表される 3 月 22 日　市は観光名刺の無料配布を始める 3 月 31 日　市立つつみ保育園（堤町）が廃園となる 4 月 1 日　消防南分署が設置される 4 月 20 日　足尾線廃止に伴う第 3 セクター鉄道の正式名称が「わたらせ渓谷鐵道」となる 5 月 18 日　わたらせ渓谷鐵道の新駅が「運動公園」(相生地区)に決まる 7 月 15 日　市民から「まちづくりのアイディア」を募集 7 月 31 日　両毛地域東武鉄道沿線開発推進協議会が発足する 8 月　第 25 回桐生まつりが「桐生八木節まつり」と改められる 8 月 1 日　市内の出張所で戸籍謄・抄本や印鑑証明がとれるようにファクシミリが導入される 10 月 5 日　鳳仙寺（梅田町 1）の山門が市の重要文化財に指定される 10 月　地域活性化を目的に、「エイジアンクリエイション・フロム桐生'88」「ファッションコンペティション桐生」「桐生テキスタイル・プロモーションショー」など、複数のイベントを連続して行うイベントウイークを開催 11 月 1 日　桐生厚生総合病院の新病棟が完成、供用開始 12 月 27 日　新桐生駅の新駅舎が完成する ◇桐生市の面積が 137.47 ㎢と発表される 【刊行物】 桐生市『織物の設計（基礎と実例)』 桐生市教育委員会『桐生市教育史』(上巻)	・全日本実業団対抗駅伝大会が群馬県で開催される ・青函トンネルが開通し連絡船は 80 年の歴史に幕 ・東京ドームが完成 ・瀬戸大橋が開通 ・リクルート事件 ・第 24 回オリンピックソウル大会が開催 ・天皇陛下の御容体が悪化する ・自主流通米が 53.5%となり政府米を上回る
1989	64 平成元	1 月 30 日　桐生市国際交流協会が発足する 2 月 17 日　桐生女子高校で英語科が新設、受験者の人気が集まる 3 月 13 日　桐生木遣(きりゅうきやり)が市の無形民俗文化財に指定される 3 月 17 日　名誉市民の川村佐助の市民葬が行われる	・1 月 7 日　昭和天皇崩御 ・平成と改元(1 月 8 日)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1989	平成元	3月29日　わたらせ渓谷鐵道が開業する	
		4月1日　社会福祉協議会がホームヘルプサービス事業を始める	・消費税が導入される（税率3%）
		4月1日　桐生自然観察の森(川内町2)が開設、11月に鳥獣保護区に指定される	・県の魚にアユが選定される
		4月20日　(財)大川美術館（小曽根町）が開館する	
		5月22日　考古学者の相沢忠洋が没す（62）	
		6月4日　第1回金婚祝賀会が開催される（平成19年まで実施）	・ビルマ連邦は国名をミャンマー連邦に改称
		7月24日　30年ぶりに本町4丁目の祇園屋台が復活する	
		9月2日　情報ネットワーク「桐生広域情報デザイン研究会」と「渡良瀬ネット」が設立される	・サンフランシスコで大地震
		10月1日　群馬大学大学院工学研究科博士課程が設置される	・ベルリンの壁の一部取り壊しが始まる
		10月20日　東武鉄道の急行りょうもう号の相老駅停車が始まる	
		11月13日　鳳仙寺（梅田町1）梵鐘が市の重要文化財に指定される	・ルーマニアのチャウシェスク独裁政権が崩壊
		◇送電線のカラスの巣が原因で桐生市及び広域町村内で約8万世帯が停電する	
		◇外国人労働者が急増	
1990	2	1月10日　ボラントピア事業推進指定都市となる	・前橋市で氷点下6.2度を記録
		2月13日　桐生西高校がニュージーランド，パパトエトエ高校と国際交流姉妹校提携を結ぶ	・笠懸村が笠懸町となる
		2月20日　桜木中学校の新校舎が完成する	
		3月1日　南小学校新聞「南小だより」が内閣総理大臣賞を受賞する	・国際花と緑の博覧会が開催される
		3月3日　物づくりの心と技を伝え、人材ネットワークを作る目的で「桐生織塾」が梅田町1で発足する	
		3月31日　市営住宅織姫団地の10階建（高層棟）が完成する	・イラン北西部で大地震（死者4万人）
		3月31日　市立諏訪（東1）天神（天神町3）あかいわ保育園(相生町2)が廃園となる	
		4月1日　桐生市に隣接する新田郡笠懸村が笠懸町となる	
		4月　第三次総合計画が施行される	・礼宮文仁殿下と川嶋紀子さんが結婚（秋篠宮家を創設）
		4月29日　弓道場が運動公園内に新たに開館する	
		5月11日　中央ビル内に多目的ホールが完成し郷土資料展示ホールが移転開館する	
		5月23日　桐生厚生総合病院増改築工事落成する	・館林市で気温39.7度を記録
		5月24日　広域基幹林道「三境線」が完成する	
		6月1日　桐生明治館の展示室の無料開放がスタートする	・日系二世のフジモリ氏がペルー大統領に就任
		7月15日　桐生八木節キャンペーンレディーの第1回認定式が行われる	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1990	平成 2	7 月 23 日　桐生織塾が創作工房第 1 号に認定される 7 月 30 日　境野水処理センターで桐生広域圏のし尿全面受け入れが始まる 8 月 5 日　第 27 回桐生八木節まつりに「ふるさと創生事業」(1 億円)の一つである「こどもみこし」が初のパレードをする 8 月　桐生中央商店街でアーケードの撤去が始まる 9 月 25 日　天満宮の社殿が県の重要文化財に指定される 12 月 15 日　国道 50 号線桐生バイパスが全面 4 車線となる 【刊行物】 観光協会『桐生の一番』桐生版ギネス 老人クラブ連合会『あすへの遺産』 平塚貞作『日枝神社史』 桐生タイムス『桐生彩時記・ひと/出来事/暦』 国勢調査 国人口 123,611,167 人 群馬県人口 1,966,265 人 市の人口 126,446 人 国世帯数 41,035,777 世帯 群馬県世帯数 603,198 世帯 桐生市世帯数 4,962 世帯	・イラク軍がクェートに侵攻し全土を制圧 ・東西ドイツが統一される ・日本人初の宇宙飛行士搭乗 ・神戸市の高校で校門圧死事件が起こる
1991	3	2 月 4 日　菱町の黒川・上菱地区が自治省コミュニティ活動活性地区に指定される 3 月 1 日　市制施行 70 周年・水道創設 60 周年記念式典を行う 3 月 12 日　国の生涯学習モデル市町村事業の指定を受ける 3 月 31 日　市立川内(川内町 5)・新宿(新宿 2)保育園が廃園となる 4 月 1 日　県立桐生工業高校で染色デザイン科を新設する 4 月 7 日　市立図書館が利用者の図書自動検索を開始する 4 月 11 日　大雄院(広沢町 3)山門・観音寺(川内町 5)山門が市の重要文化財に指定される 4 月 11 日　賀茂神社(広沢町 6)の御籌神事が市の無形民俗文化財に指定される 4 月 28 日　新里村奥沢に相沢忠洋記念館が開館する 4 月 29 日　相撲場が運動公園内(相生町 4)に新たに開館する 5 月 2 日　日野茂市長就任 5 月 12 日　東村に富弘美術館が開館する 5 月 13 日　南公民館が新築移転する(新宿 3) 5 月 15 日　宮本道徳が市議会議長就任 5 月 21 日　消防庁舎が完成する(元宿町) 5 月 30 日　緑化推進全国シンポジウムが桐生市で開催される 7月9日　桐生が岡動物園の象が飼育員を踏み潰し死亡させる事故が起こる 7 月 25 日　年寄りと子どものふれあいの場として市立ふれあいホームが旧天神保育園跡に開館する 8 月 1 日　菱町黒川と菱町上菱が町名変更（菱町黒川→菱町 1～4 丁目、菱町上菱→菱町 5 丁目） 8 月 11 日　昭和中学校体育館が半焼する	・多国籍軍がイラクを攻撃（湾岸戦争） ・群馬県立シンフォニーホールが高崎市に開館 ・東京都庁が新宿に新築移転 ・相沢忠洋記念館が新里村に開館 ・村立富弘美術館が勢多郡東村に開館 ・滋賀県信楽町の信楽高原鉄道で衝突事故（死者 42 人傷者 500 人以上） ・6 月 12 日清水一郎知事が死去(72) ・長崎県雲仙普賢岳で火砕流が発生 (43 人死亡)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1991	平成3	8月29日　まちづくり懇談会がスタートする 9月3日　学校給食の食器を改善する 9月3日　国際交流協会は市役所内に「外国人向けインフォメーション窓口」を開設する 10月6日　市制施行70周年記念事業として、NHKのど自慢の公開生放送が行われる 10月16日　婦人団体連絡協議会主催によるガレージセールがさくら遊園で開催される 10月29日　第1回生涯学習市民の会が開催される 11月8日　桐生天満宮境内の末社春日社が市の重要文化財に指定される ◇市の公共下水道普及率が59.6%となる ◇バブル経済が崩れる	・フィリピンのピナツボ火山が大噴火(死者・行方不明600人以上、被災者60万人)
1992	4	1月　作家坂口安吾の未発表原稿「明日を待つべし1952年春桐生」が公開される 1月　バルセロナ･オリンピックへむけて桐生織物の出荷急増する 2月　桐生織伝統工芸士岩下順一が大間々町小平に染織工房「はたおと」を開設する 3月　桐生・桐生中央・上毛の3つの信用金庫が合併し、桐生信用金庫となる 3月　群馬大学工業短期大学部が閉部となる 3月14日　わたらせ渓谷鐵道に下新田駅が開設される 3月　相老駅に跨線橋が完成する 3月17日　近代化遺産拠点都市宣言が市議会で採択される 4月　県立に移管されたあさひ養護学校の第1回入学式が行われる 4月　市役所に外国人相談窓口が常設される 4月　21世紀カウントダウン残日表示板が中央公園に設置される 4月　小・中・養護学校に図書館補助員が配置される 5月　地区公民館に図書館補助員制度が導入される 5月　「広報きりゅう」が5月15日号で1000号を迎える（昭和25年12月創刊） 5月　市道新川南線完成する 5月　重要文化財千網谷戸遺跡出土品（耳飾り）が、アメリカ・スミソニアン博物館の研究機構の展示として出品される 6月　岩崎利彦選手（桐生南高校出身）がバルセロナ・オリンピック出場を決める（陸上110m障害） 6月　西方寺境内に十三重の石塔が建立される（高さ21mは日本一） 7月　錦町旧消防本部の望楼が取り壊される 7月　市内最後の木造校舎桜木小学校が取り壊される 8月1日　市役所が土曜閉庁になる	・ユーゴ解体「ユーゴスラビア連邦共和国」創設 ・山形新幹線が開通 ・中韓両国が国交樹立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1992	平成 4	8 月 10 日　彦部家住宅（広沢町 6、彦部敏郎所有）が国指定の重要文化財に指定される 9 月　渡良瀬川右岸清掃センター・相川橋間堤防に遊歩道を整備し桜 160 本が植樹される。 9 月　旧江原精錬のシンボル煙突が取り壊される 10 月 1 日　岩宿文化資料館が開館する 11 月 8 日　第 1 回図書館フェスティバルが開催される 11 月　オノサト美術館が開館する（平成 13 年 7 月休館） 11 月　生涯学習桐生市民の会が発足する 11 月　桐生織物検査機構が発足する 11 月　相川橋に自転車・歩行者専用道路が完成する 12 月　鳳仙寺の雨降り地蔵が桐生の観光名所となる 12 月　定期乗合バス（おりひめバス）梅田・川内の 2 路線が運行を始める 【刊行物】 粟田豊三郎『桐影鳳聲』 市老連『三十年のあゆみ』 市議会史編纂委員会『桐生市議会史、資料編Ⅰ』 マイケル・ブラストウ（英）『エクスブローリング、キリュウ・アシオ、アンドニッコウ』で桐生の山を世界に紹介	・8 月 4 日　推理小説作家の松本清張が死去(82) ・学校週五日制スタート（隔週） ・法隆寺地域の仏教建造物群・姫路城・白神山地・屋久島の 4 か所が世界遺産に登録 ・エイズ感染者拡大
1993	5	1 月　三島台遺跡（川内町 3）住居跡から、平安時代の墨書土器が出土する 1 月　県内企業の平成 4 年度の平均賃金が男 38 歳、34 万円であった（「平成 4 年度賃金事情調査結果」） 1 月　鳥類の希少種、オオタカ、ハヤブサが桐生自然観察の森（川内町 2）上空で確認される 1 月　建設省の景観モデル都市に桐生市が指定される（1 月 29 日付） 2 月　群馬大学工学部情報工学科の超小型地球局が開局し静止衛星を使い送受信を始める 2 月　南小 5 年生の井田登士が桐生川上流で 2 億 5,000 万年前の三葉虫の化石を発見する 3 月 31 日　（財）桐生市厚生福祉会館が 44 年の歴史の幕を閉じる 3 月　本町 4・5 丁目の中央商店街振興組合が毎月第 3 土曜日にナイトバザールを始める 3 月　梅北山の家が閉所される 4 月　日本輸出絹人繊糸布包装検査協会桐生検査所が 44 年の歴史に幕を閉じる 4 月　桐生ハンディキャブ友の会が発足する 4 月　桐生が岡動物園にキリン・シマウマ・カンガルー・ワラビーがお目見えする 4 月 27 日　梅田ふるさとセンター（梅田町 5）が開館する 4 月 27 日　県立桐生青少年野外活動センター（梅田町 5）が開館する 5 月　鷹林寺境内（梅田町 4）に、産婆の桑原伊勢子の業績をたたえる像が移設される	・プロサッカー「Ｊリーグ」発足

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1993	平成5	5 月　桐生人権擁護委員協議会が桐生市役所内に人権相談所を開設する 5 月　浄運寺境内（本町 6）に吉田清助（秋主）の顕彰碑が建立される	
		6 月 1 日　水道山記念館の夜間ライトアップが開始される 6 月　県立桐生女子高等学校内に県内の高校では始めてのオーケストラが誕生する 6 月 18 日　笠井秋夫が市議会議長に就任 6 月　旧日本絹撚事務所棟を桐生市が取得し文化財として活用を始める（名称は旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟）	・6 月皇太子・小和田雅子様ご成婚
		6 月　童子原遺跡（川内町 2）で奈良時代の貨幣が発見される（11 月には鍛冶跡を含む市内最大の集落跡が発見される）	・北海道南西沖大地震
		7 月　織姫神社（織姫町）の百年祭が行われる 7 月　自治省の「ふるさと市町村圏」モデル事業に桐生広域圏が選定される	・鹿児島で集中豪雨死者・行方不明 49 人
		9 月　国産米が不足し市民生活に影響を及ぼす 9 月　桐生・大間々の森林組合が合併する 10 月 1 日　印鑑登録・印鑑証明にオンライン導入 10 月 1 日　笠懸町に笠懸野文化ホールが開館する 10 月 2 日　桐生天満宮境内で古民具・骨董市が始まる（毎月第 1 土曜日開催） 10 月 13 日　大間々町にさくらモールが開店する 10 月　桐生市立図書館に国際交流コーナーが設置される 10 月　妙音寺内（西久方町 2）に桐生出身の日本初の女性医学者戸田邦仁の彰徳碑が建立される	・8 月今年最高気温 36℃
		10 月　国際姉妹都市提携 30 周年を記念してイタリアビエラ市長一行が来桐(21～24 日)	・11 月 1 日　欧州連合（EU）発足
		11 月 15 日　県内初の桐生社会保険健康センター（ペアーレ桐生、現ペアーレ Vie 桐生）が宮前町 2 に完成する 11 月　市道桐生駅西線が開通する	・12 月 16 日　田中角栄元首相が死去（75）
		12 月　桐生市老人福祉センターが閉館となる 12 月 20 日　桐生市美原長寿センター（美原町）が完成する 12 月　桐生商工会議所会館が落成する	・関西で大量のニセ 1 万円札見つかる
		【刊行物】 清水義男『河童とアメ玉』桐生の民話集 桐生織物協同組合『桐生織物協同組合四十年の歩み』 桐生市立図書館編『御用方日誌』第 2 集 川内郷土研究会『山田郡川内村郷土誌』 市議会史編さん委員会『桐生市議会史・資料編Ⅱ、Ⅲ』	・貿易黒字,過去最高に ・離婚は過去最高、出生数は過去最低
1994	6	3 月 31 日　桐生市産業文化会館が 35 年の歴史に幕を閉じる 3 月　西田博太郎の遺稿『独澄庵曼筆』『人間父を語る』が見つかる（未発表の手記）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1994	平成 6	4 月 1 日　桐生地域職業訓練センター（相生町 5）が完成する	・はがき 50 円封書 80 円に改定
		4 月 2　地元有志が根本山神社の釣鐘を半世紀ぶりに奉納	
		4 月 20 日　昭和公民館が完成する	・ロサンゼルスで大地震
		4 月　ナガバノスミレサイシンの群落が発見される（梅田町が北限）	
		5 月　土地区画整理事業によりカニ川マーケットが解体される	・南アフリカで初の黒人大統領ネルソン・マンデラ誕生
		6 月　桐生厚生総合病院でＭＲＩが稼働する	
		7 月　桐生親水公園が完成する	
		7 月　産業文化会館の本体の取り壊しが始まる	・松本サリン事件発生
		8 月 1 日　桐生都市計画道路「新川北線」（コロンバス通り）が全線開通する	
		8 月　新川球場跡地に新川公園が完成する	・向井千秋が日本女性初の宇宙飛行へ
		8 月　千網谷戸遺跡で縄文時代中期の敷石住居跡が発見される	
		8 月　矢野昭が有鄰館(本町 2)を市に寄贈する	・金日成主席死去（82）朝鮮民主主義人民共和国
		9 月 18 日　市場開設 20 周年記念事業「市場まつり」が開催される	
		10 月 1 日　桐生親水公園の名称が琴平緑地公園となる	
		10 月 14 日　「有鄰館」と「旧日本絹撚事務所棟」が市重要文化財に指定される	・関西国際空港が開港
		10 月　桐生ガスのガスタンクに装飾塗装した巨大サッカーボールが登場する	・大江健三郎がノーベル文学賞を受賞
		10 月 28 日　明治館入館者 10 万人を超える	
		【刊行物】 清水義男『上毛カルタのあゆみ』 中川勝義『桐生魚商の歩み』 桐生市立図書館『桐生老談記』 市議会史編纂委員会『桐生市議会史、年表編、記述編』	
		◆桐生市の日本版ギネス 広沢水処理センター（壁画の長さ 127m） 桐生明治館（国の重要文化財の中では珈琲館が最初に開館） 織物参考館（国内最大の木製高機） 水道山公園の石畳の坂道（一般道路で最も大きな勾配） 梅田湖周辺（日本でも有数の電波の難所）	
1995	7	1 月 18 日　阪神・淡路大震災桐生市救援本部が設置される	・1 月 17 日　阪神・淡路大震災 5 時 46 分ごろ発生（死亡者　6,308 人）
		1 月　富士銀行桐生支店が 80 年の歴史に幕を閉じる	
		3 月　交通安全協会の自動車練習場（境野町 3）が閉鎖となる	
		3 月 3 日　中央公園の正式名称が「新川公園」となる	・3 月 20 日　地下鉄サリン事件発生
		3 月　おりひめバス広沢線が開通する	
		4 月 3 日　桐生市保健福祉会館がＪＲ桐生駅北口に開館。会館内に桐生市ボランティアセンターも開設される	・福田赳夫元首相が死去(90)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1995	昭和 7	5 月　島霞谷の油絵「子供灰神樂之図」が桐生に戻る 5 月 15 日　前原正一が市議会議長に就任 6 月　東宿遺跡（川内町 3）から桐生佐野氏関係の中世の館跡が発見される 7 月 13 日　（財）桐生市市民文化事業団が発足する 7 月 18 日　笹川良一死去（96）日本船舶振興会会長 7 月 24 日　林野庁が「水源の森百選」に桐生川源流林を選定する 8 月　本町 4 丁目鉾が 104 年ぶりに町内巡行する 10 月 1 日　家庭用ごみ収集袋が黒色から白色及び白の半透明に変わる 10 月　桐生地方合同庁舎（末広町）が完成する（桐生税務署・前橋地方法務局桐生支局・桐生労働基準監督署） 10 月　琴平緑地公園が小梅琴平公園に改名される 11 月 14 日　元前頭 2 枚目の起利錦が引退する 【刊行物】 彦部家『彦部家の歴史』 桐生市老人クラブ連合会『球都桐生の歴史』 市立図書館『桐生新町、幕末の治安』 平塚貞作　『田中家概史』 国勢調査 桐生市人口　120,377 世帯数 41,496	・公定歩合が 0.5%となる ・5 月 16 日　麻原彰晃オウム真理教代表が逮捕 ・病原性大腸菌 O-157 猛威ふるう ・5 月 27 日　サハリン地震死者 1989 人 ・6 月 21 日　全日空機ハイジャック ・11 月 23 日　ウインドウズ 95 が日本で発売される
1996	8	3 月　上市場跡（本町 1）で「買場紗綾市」がスタートする（毎月第 1 土曜日） 3 月 14 日　桐生市重要文化財として下記の物件が指定される 賀茂神社（広沢町 6）の石灯籠 十王堂（川内町 5）の輪廻車付石幢 3 月 14 日　桐生市天然記念物として下記の樹木が指定される 白瀧神社（川内町 5）のケヤキ 諏訪神社（境野町 4）のハルニレ 藍原家住宅（相生町 3）のイロハカエデ 3 月 31 日　東武バス新桐生線が廃止となり、東武バスが桐生から完全撤退となる 4 月　桐生市近代化遺産絹撚記念館が開館する 4 月 11 日　桐生市在宅介護支援センター「のぞみの苑」が開館する 5 月 10 日　「桐生広域林業センター」（相生町 3）が開設される 5 月　近代化遺産の宮本町 2 丁目の森口家が解体される 5 月　西方寺沢（梅田町 1）の石灰岩層から 3 億年前のサンゴ化石が発見される 6 月　サッカー選手松田直樹（19）がアトランタ五輪代表となる 7 月　桐生広域清掃センター（新里村大字野）が完成する	・2 月 10 日北海道の国道トンネル崩落死者 20 人 ・2 月 14 日　将棋の羽生善治、史上初の七冠独占 ・水俣病訴訟 16 年ぶり終結 ・2002 年W杯の日韓共催決定

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1996	平成8	8月　アトランタ五輪で桐生出身の川島勝司監督率いる日本野球チームが銀メダルを獲得する 8月　全国学童野球大会で初出場の相小クラブが準優勝する 8月　水不足が深刻化し草木ダムで取水制限が過去最高の40%になる 9月　桐生川上流でペルム紀の葉の化石を小川紹（西小4年）が発見する 10月18日　厚生省が桐生市をクリーンリサイクルタウンに選定 11月1日　ファッションタウン桐生づくりを目指して、多くの団体が協力してイベントを行う「桐生ファッションウイーク」を開催 11月30日　小山利雄元市長が名誉市民となる 12月18日　境野長寿センターが開館する 【刊行物】 桐生市教育委員会・市教育史編さん委員会『桐生市教育史年表』 ◇市人口　119,920人（3月1日現在)。12万人を切り、伊勢崎市に抜かれる	・原爆ドームが世界遺産に ・ペルー日本大使館占拠される
1997	9	1月2日　岸会理事長の岸直枝が没す(87) 1月　西友新桐生店が23年の歴史に幕を閉じる 3月25日　カニ川通り線完成 3月31日　新宿南線完成 4月1日　私立菱保育園が開園する（市立の業務を引き継ぐ） 5月11日　桐生市市民文化会館が開館する 6月11日　中村清が市議会議長に就任 7月31日　桐生が岡動物園の長寿ペンギン、ミツボシミツコが死ぬ。飼育日数日本一(35年1か月) ◇本町4丁目の大幟2枚のうち1枚を復元 9月20日　桐生競艇場でナイターレースが開催される 10月30日　ファッションタウン・サミット桐生‘97開催(30、31日) 【刊行物】 高崎哲郎『洪水、天ニ漫ツ』カスリーン台風の惨状を記録 島田一郎『桐生市小字名索引』	・日本海福井沖でロシア船籍タンカーが座礁し重油が流出 ・消費税率が5%になる ・中国鄧小平死去(92)前中央軍事委員会主席 ・茨城県東海村の動燃再処理工場で爆発事故 ・イラン東部で大地震 ・神戸市で児童連続殺傷事件発生（中3男子逮捕） ・香港中国に返還 ・ダイアナ元英国皇太子妃事故死(36)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1997	平成 9		・マザーテレサ死去(87) ・北朝鮮から日本人妻里帰り ・アニメ「ポケモン」を見て全国で 1 万人以上が異常を訴える ・消費税率 5%に引き上げられる ・井深大死去(89) ソニー創業者 ・三船敏郎死去(77)国際的スター ・長野新幹線が開通 ・臓器移植法成立
1998	10	1 月　鳴神山に自生するカッコソウがオランダのシーボルト記念庭園に移植される 3 月　コミュニティーホール・トポス（本町 3）が完成する 3 月　桐生市栄養学園が閉校となる 3 月 30 日　ＪＲ桐生駅南口広場が完成する 4 月 1 日　広沢公民館(広沢町間ノ島)が新築開館する 4 月 1 日　桐生広域温水プール（カリビアンビーチ）が開館する 4 月　県立桐生高校で男女共学が始まる 4 月　多目的施設ジョイタウン広場（本町 5）が完成する 5 月 21 日　24 時間巡回型ホームヘルプサービス事業が開始される 7 月 21 日　(株)ミツバ会長の日野貞夫が没す(90) 8 月　桐生八木節まつりで本町 1 丁目の祇園屋台が 30 年ぶりに復活する(7～9 日) 9 月 1 日　南幼稚園の新園舎が開園する(新宿 1) 9 月　桐生うどん会が発足する（「うどんのまち桐生」） 10 月 16 日　登録文化財として下記の建築物を答申する 群馬大学工学部同窓記念会館(天神町 1) 同学部守衛所 同学部正門 金谷レース工業事務所（東久方町 1) 同社鋸屋根工場	・奈良天理の黒塚古墳から三角縁神獣鏡 32 枚出土 ・長野冬季五輪開幕 ・アフガニスタン東北部大地震 ・長野冬季パラリンピック開幕 ・山一證券 101 年の歴史に幕 ・明石海峡大橋が開通 ・奈良東大寺千手堂が全焼

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
1998	平成 10	10 月　国際姉妹都市 20 周年を記念し、コロンバス市長一行が来桐する(8～11 日) 11 月　講談社創立者野間清治の顕彰碑が図書館前庭に建立される 11 月　明治 22 年創業の佐々木織物精工(新宿 2)が幕を閉じる 【刊行物】 桐生市教育委員会『ふるさと桐生のあゆみ』 桐生市文化協会『桐生市文化祭史第三巻』	・織田幹雄死去(93)日本初の金メダリスト
1999	11	1 月 23 日　ＮＨＫ「小さな旅」で「夢のからくり機の町」として人形芝居が放映される 2 月　桐生からくり人形研究会がＮＨＫ地域放送文化賞を受賞する 3 月 4 日　天皇・皇后両陛下大川美術館ご鑑賞のためご来桐 3 月　桐生郵便局新局舎が落成する 3 月 30 日　架け替えされた赤岩橋が開通する 5 月 2 日　大澤善隆が市長に就任 5 月 13 日　飯山順一郎が市議会議長に就任 5 月 24 日　桐生信用金庫会長の増山作次郎が没す(76) 7 月 30 日　桐生駅南口から成田空港直行バス「サルビア号」が運行開始する 7 月　桐生川友禅流し、風物詩として復活 8 月　桐生八木節まつりで本町 2 丁目の屋台が 36 年ぶりに復活する 8 月 21 日　桐生第一高校野球部が第 81 回全国高校野球選手権大会で優勝する。市民栄誉賞を受賞する 9 月　70 歳以上の人に「おりひめバス」の無料パスが配布される 11 月　桐生市で第 1 回手づくり布の絵本全国コンクールを開催する(桐生市市民文化会館) 11 月 15 日　桐生市ホームページ開設 ◇老年人口比 20%に迫る。県内 11 市中トップ。年少人口比は最下位 【刊行物】 中嶋敏夫『桐生のことば』	・糸川英夫死去（86）国産ロケット生みの親 ・淡谷のり子死去（92）ブルースの女王 ・日本初の原発臨界事故（茨城県東海村核燃料工場） ・日光の社寺・東照宮・輪王寺・二荒山神社、世界遺産に登録される
2000	12	2 月 1 日　桜木西公民館（相生町 1）が開館する 2 月 13 日　長崎屋が会社更生法の適用を東京地裁に申請する 3 月 31 日　ＪＲ桐生駅北口広場が完成する 4 月 25 日　川嶋伸行が市議会議長に就任 4 月 28 日　あーとほーる鉾座（本町 4）が開館する(鉾と屋台を活用展示)。開館を記念してからくり人形芝居「曾我兄弟」を披露する	・北海道有珠山が噴火 ・小渕恵三前首相が死去（62） ・介護保険制度発足（4 月 1 日）

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2000	平成 12	6 月　旧遺族会館が解体。35 年の歴史に幕を下ろす 6 月 4 日　カジカ 3000 匹を桐生川へ放流する 6 月 30 日　梅田中学校体育館が完成する 7 月　桐生祇園祭とからくり人形が文化庁の伝統文化伝承推進事業に登録される 7 月 16 日　「桐生川の清流と森林を守る会」が発足する 8 月 5 日　桐生八木節まつりに本町 3 丁目の「翁鉾」と本町 4 丁目の「4 丁目鉾」の史上初の曳き違いが行われる 9 月 2 日　気温 38.8 度を記録する 9 月 18 日　荒川眞一郎が毎日ファッション大賞新人賞を受賞 11 月 3 日　織姫神社で白瀧姫（熊本出身の生人形師安本亀八の作、明治 20 年代後半の制作）が開帳される。御開帳は 3 回目 【刊行物】 県立桐生高校『桐生高校八十年史』 島田一郎『桐生市地名考』	・4 月 1 日　介護保険制度がスタート ・韓国の金大中大統領と朝鮮民主主義人民共和国の金正日総書記が歴史的な握手 ・良子皇太后崩御（97） ・竹下登元首相が死去（76） ・7 月　2 千円札発行 ・鳥取地方で大地震 ・白川英樹（64）ノーベル化学賞受賞
2001	13	1 月 1 日　ニューイヤー駅伝、桐生市がコースに加わり実施される 3 月　梅田清流広場がボランティア基地として完成する 4 月　桐生織物会館旧館が「桐生織物記念館」と改称される 4 月　本町 5 のナトリパン店が閉店する 4 月　私立樹徳中学校が開校する 4 月　ミス桐生まつり中止決定（33 代続いた） 5 月 1 日　　おりひめバスが新たに上菱線（菱町 5 丁目と新桐生駅を結ぶ）を追加運行する 5 月　IT 講習始まる 5 月 13 日　市制施行 80 周年記念・水道創設 70 周年記念式典が行われる 6 月　NPO 桐生地域情報ネットワークが設立される 7 月　オノサトトシノブ美術館が長期休館となる 7 月　八坂神社の御輿（みこし）が 129 年振りに新調される 7 月　NPO 法人北関東産官学研究会が設立される 8 月　市制 80 周年記念事業として鉾 2 台（本町 3・4 丁目）の曳き違い、本町 1・2・6 丁目の屋台を出し、舞台での催しを開催する ◇本町 4 丁目の大幟 2 本とも復元。祭に華をそえる 8 月　桐生厚生総合病院で眼科入院患者に録音図書貸出し始まる	・1 府 12 省庁スタート ・ハワイ沖で愛媛丸が米原潜に衝突され、9 人死亡 ・バーミアンの石窟仏破壊される ・サッカーくじ「ｔｏｔｏ」発売開始 ・アメリカが京都議定書を離脱 ・家電リサイクル法スタート ・大阪・池田小事件(児童 8 人死亡)

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2001	平成 13	8 月　梅田町浅部地区農村歌舞伎舞台道具が公開される 9 月 12 日　デザイナーの高橋盾が毎日ファッション大賞で大賞を受賞する 9 月　2 学期から小・中学校週 3 回の米飯給食が実施される 9 月　野間家が桐生倶楽部に野間清治の胸像を寄贈する 9 月　桐生市財政のバランスシートを初作成。正味資産は 1,244 億円 9 月　渡辺崋山を偲んで毛武ウォークが開催される 10 月　NTT 桐生営業所が閉店する 10 月　桐生内地織物協同組合商事部が 46 年の歴史に幕を閉じ、桐生織物商事株式会社が設立される 10 月 1 日　桐生ファミリーサポートセンターが開所される 12 月 16 日　市制施行 80 周年記念事業として、NHK のど自慢の公開生放送が行われる 12 月　桐生が岡動物園に子ライオンが仲間入りする 【刊行物】 市老人クラブ連合会『二十一世紀へのメッセージ、2001 年のことばの広場』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 1 集・日本の雑誌王・野間清治伝』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 2 集・白球に捧げた青春・稲川東一郎伝』 星野義二『友情の人形ウォヘロちゃん』	・明石市の花火大会で死者 11 人・負傷者 247 人 ・9 月 11 日　ニューヨークの世界貿易センタービルが同時多発テロにより崩壊。死者数千人に及ぶ ・狂牛病（BSE）が日本でも確認される ・アメリカで炭疽菌事件 ・しし座流星群 ・敬宮愛子さま誕生 ・イチロー米大リーグで大活躍
2002	14	1 月 5 日　新春浮世絵展が開催される（市民文化会館、20 日まで） 1 月 9 日　西方寺住職・元桐生文化史談会会長の天利秀雄が没す（92） 3 月 12 日　桐生市重要文化財として下記物件が指定される 鳳仙寺本堂（梅田町 1） 長泉寺本堂（梅田町 4） 4 月 1 日　高齢者の中心市街地活動拠点「おたっしゃ停留所」開設（20 年 3 月 31 日閉所） 5 月 5 日　小倉クラッチ㈱社長の小倉一郎が没す（65） 5 月 17 日　桐生山岳会チョモランマ登山隊 2002、宮崎副隊長が登頂成功 5 月 17 日　サッカーワールドカップ日本代表に松田直樹選手が選ばれる 5 月 25 日　きりゅう市民活動推進ネットワーク発足 5 月 28 日　テロ警戒で水道まつり中止を決定 7 月 1 日　桐生市民活動推進センター「ゆい」桐生駅北口に開設 7 月 17 日　インキュベーションオフィス「ＷＩＮＤ」本町 5 丁目に開設	・1 月 23 日　雪印食品国産牛偽装事件 ・1 月 29 日　田中真紀子外相更迭 ・ソルトレーク・オリンピックが開催される ・ブッシュ米大統領来日 ・5 月 31 日　日韓共催のワールドカップ開催

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2002	平成 14	7 月 31 日　酒類卸売業の矢野本店廃業、250 年の歴史に幕。 8 月 3 日　からくり人形シンポジウム開催 8 月 5 日　桐生市、住基ネットに接続開始 8 月 4 日　桐生八木節まつりのジャンボパレード、初めて南下コースで実施 8 月 13 日　桐商野球部、甲子園に初出場（初戦敗退） 8 月 22 日　市内の自主防災会が情報交換などを目的に桐生市自主防災組織連絡協議会を発足 9 月 6 日　わたらせフィルム・コミッション設立 9 月 30 日　厚生年金施設ハートピア桐生閉館 11 月 2 日　桐生広域圏を枠組みとする任意合併協議会に 5 町村が不参加を表明。広域圏の合併構想が白紙に 11 月 3 日　全国高等学校ロボット競技大会に桐工が出場 11 月 30 日　のこぎり屋根シンポジウム開催 12 月 3 日　大間々町と勢多郡東村を結ぶ基幹林道小平座間線が工事着工から 22 年ぶりに供用開始 12 月 7 日　中央商店街振興組合のナイトバザール終了。約 10 年の歴史に幕 12 月 8 日　サッカーワールドカップ日本代表の松田直樹選手に市民栄誉賞が贈られる 12 月 12 日　桐生・太田合併研究会発足 【刊行物】 国立歴史民俗博物館『在郷町の成立と展開－桐生新町の分析－』 図書館ボランティアの会『桐生市歴史年表』 桐生市教育委員会『桐生市の文化財』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 3 集・桐生織物全盛期のリーダー・彦部駒雄伝』	・9 月 17 日　小泉首相が訪朝し金正日総書記と会談
2003	15	1 月 28 日　錦桜橋旧橋の撤去工事始まる 1 月 28 日　第 58 回国体冬季大会のスケートショートトラック少年男子 1000 メートルで桐高の石関祐樹選手が優勝 2 月 1 日　大澤市長、市議会に桐生・太田合併構想説明 2 月 8 日　(株)キリウ（前身は明治 39 年創業）の子会社、キリウテクノ（相生町 1）が年内で桐生撤退を決定 2 月 13 日　桐生市、笠懸町が太田市と藪塚本町、尾島町、新田町で構成する任意合併協議会に加入申し入れ 3 月 21 日　商工会議所会頭の岸田英作が没す（72） 3 月 27 日　桐生商工会議所第 11 代会頭に佐藤富三が選出される 3 月 30 日　都市計画道路桐生大橋線が全面開通 4 月 27 日　桐生市長選で大澤善隆が 3 選 4 月 29 日　オリオン座が閉館 5 月 15 日　蛭間利雄が市議会議長就任 5 月 17 日　87 年ぶりに水車を動力としたからくり人形芝居が天満宮で始まる 5 月 25 日　市内に最後まで残っていた映画館「能楽館」が閉館、約 80 年の歴史に幕 5 月 30 日　太田市、藪塚本町、尾島町、新田町で構成する任意合併協議会が桐生市と笠懸町の参加を承認 6 月 5 日　ファッションタウン桐生推進協議会設立 6 月 18 日　新里村、黒保根村、東村が任意合併協議会を設立桐生広域圏の合併を目指す 6 月 20 日　桐生市住民投票条例可決（7 月 1 日施行）	・5 月 23 日　個人情報保護法成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2003	平成 15	7 月 2 日　群馬県公安員会委員長に森喜美男が就任 7 月 9 日　桐生麺類商組合が毎日 22 日を「桐生うどんの日」と制定 7 月 14 日　桐生市、市内全世帯に合併の枠組みと競艇事業の存廃を問う住民アンケートを実施 8 月 4 日　合併枠組みアンケートの回答を議会に提示。最多回答は「桐生・太田を中心とした市町村で中核市を目指す」で 45%、競艇存続アンケートでは、最多回答は「廃止すべき」で 59% 8 月 12 日　桐生、太田両市と新田郡 4 町で構成する任意合併協で、2 市 2 町が法定協へ参加表明。笠懸町は不参加、藪塚本町は保留 8 月 21 日　桐生市議会、2 市 2 町で構成する法定合併協議会の設置議案を 14 対 11 の賛成多数で可決 8 月 22 日　桐生第一高校、夏の甲子園でベスト 4 に 8 月 29 日　藪塚本町、笠懸町、大間々町が 3 町で構成する任意合併協議会設立総会を開催 8 月 31 日　大間々町長が新里、黒保根、東の 3 村に合併申し入れ 9 月 5 日　新里、黒保根、東の 3 村任意合併協議会、無期限休止を決める 9 月 12 日　桐生、太田、尾島、新田の 2 市 2 町で構成する法定合併協議会の設立総会開催。新里、黒保根両村が参加希望を表明 9 月 12 日　みずほ銀行桐生支店、営業終了、第四十銀行から数えて 123 年の歴史に幕 9 月 15 日　間ノ島公園開設 9 月 16 日　桐生市長、競艇事業廃止を市議会に正式表明 10 月 1 日　桐生明治館が新装開館 10 月 3 日東毛地域合併協構成の桐生、太田、尾島、新田の首長、新里村、黒保根村、東村、藪塚本町の追加参加受け入れで合意 10 月 5 日　桐生が岡動物園、開園 50 周年記念式典を開催 10月 10 日　株式会社平和が本社機能の一部を東京に移転することを決める 10 月 10 日　名誉市民で元桐生市長の小山利雄が没す（85） 12 月 1 日　桐生市指定金融機関の足利銀行が破たん。一時国有化 12 月 1 日　桐生厚生総合病院で女性専用外来スタート 12 月 6 日　東毛地域合併協議会が合併協議の無期限休止を決める。二段階合併を確認 12 月 16 日　桐生広域 7 市町村長らが合併協議。6 市町村は広域合併を望むが、大同団結は先送り 12 月 17 日　桐生市、新里村、黒保根村が年明けに法定合併協議会設置議案提案で合意 【刊行物】 老人クラブ連合会『新・あすへの遺産－桐生織物と撚糸用水車の記憶－』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 4 集・初の公選市長名誉市民第 1 号・前原一治伝』 野間清治顕彰会『郷土文芸読本第 1 巻』 桐生市みどりと花の会『野外植物レッドデータブック』 片山弘美『虹の飛沫』	・7 月 26 日　イラク復興支援特別措置法成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2004	平成 16	2 月 6 日　桐生・新里・黒保根の 1 市 2 村法定合併協議会を設立 2 月 8 日　第 50 回桐生市堀マラソン大会開催 2 月 17 日　笠懸、大間々、東の各議会は 2 町 1 村法定合併協議会の設置を可決 2 月 23 日　笠懸、大間々、東の 2 町 1 村法定合併協議会の設立総会開催 2 月 27 日　吾妻公園新温室完成 3 月 15 日　アテネ五輪マラソン日本代表に桐工出身の諏訪利成選手が選出される 3 月 24 日　桐生市立学校適正数・適正配置検討委員会が中学校数を 12 から 8 に統合する案を柱とした報告書を提出 3 月 31 日　桐生市、競艇事業を休止 3 月 31 日　桐生市交通災害共済を廃止 3 月 31 日　川内北幼稚園廃園、40 年の歴史に幕 4 月 1 日　市役所庁舎全面禁煙に 4 月 1 日　大間々町の住民団体が桐生、新里、黒保根に大間々を加えた法定合併協議会設置を近藤町長に本請求 4 月 17 日　図書館ボランティアの会、解散決定。10 年の活動に終止符 5 月 22 日　桐生が岡動物園の新ペンギン舎落成記念式典 5 月 30 日　わたらせ農協総代会、9 月 1 日に組合の解散を承認 6 月 5 日　本町 1 丁目の買場紗綾市、100 回目の開催 7月1日　群馬県若者就職支援センター東毛サテライトが本町 5 丁目のジョイタウンに開設される 7 月 22 日　新しい錦桜橋、車道部分暫定開通 7 月 26 日　桐生地域合併協議会、合併期日を平成 17 年 6 月 13 日と決定 7 月 28 日　本町 5 丁目のみずほ銀行跡に「桐生ガスプラザ」が開館 8 月 2 日　桐生川のコイからコイヘルペスウィルス検出。桐生地区では初 8 月 26 日　桐生広域圏議会開催、各団体の負担割合見直し議案を可決 8 月 29 日　アテネ五輪男子マラソンで桐工卒の諏訪利成が 6 位入賞 8 月 31 日　わたらせ農協解散。事業は群馬みどり農協が引き継ぐ 9 月 28 日　アテネ・パラリンピックのゴールボール女子で、桐生市の熊川恵利子らの日本チームが銅メダル獲得 10 月 11 日　桐生市、新里村、黒保根村との合併協議会設置を問う大間々町の住民投票、500 票差で賛成多数 10 月 16 日　「ねんりんピックぐんま」卓球交流大会開催。桐生では卓球交流大会開催（～18 日） 10 月 19 日　大間々町の全課長 15 人が、連名で町長に対し合併問題に対し早期に明確な方向付けをするよう具申 10 月 23 日　新潟県中越地震発生。桐生地区では震度 4 を 3 回観測。各所で被害 11 月 4 日　桐生広域で対等合併を目指す住民の会が 1 市 2 町 3 村合併協議会設置の請求書を提出 11月11日　桐生市行財政改革推進委員会から行革の提言書が提出される 11 月 19 日　西宮神社の大ちょうちん、48 年ぶりに新調 11 月 14 日　浅間山が中規模噴火。桐生地区でも降灰	・1 月 16 日　陸上自衛隊イラク派遣 ・6 月 5 日　年金制度改革関連法成立 ・10 月 23 日　新潟中越地震 ・11 月 1 日　新紙幣発行

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2004	平成 16	11 月 25 日　桐生、大間々、新里、黒保根の 4 市町村による法定合併協議会が発足 11 月 30 日　ホテルきのこの森営業休止、30 年の歴史に幕 12 月 3 日　桐生市入札監視委員会発足（県内初） 12 月 18 日　桐生、大間々、新里、黒保根の 4 市町村による法定合併協議会、設立総会で休止に 12 月 19 日　桐生市、新里村、黒保根村の 3 市村、合併特例法期限内の合併方針を正式に表明 12 月 22 日　笠懸、大間々、東の 3 町村でつくる合併協、新市の名称を「みどり市」に、合併期日を平成 18 年 3 月 27 日に決定 【刊行物】 桐生市教育委員会『明日へ伝えたい桐生の人と心』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 5 集・高等工業教育に尽力し、桐生を愛した名校長・西田博太郎伝』 野間清治顕彰会『郷土文芸読本第 2 巻』	
2005	17	1 月 5 日　桐生市、新里村、黒保根村が合併協定に調印 1 月 18 日　笠懸、大間々、東の 3 町村が合併協定に調印 1 月 20 日　市立中学校の適正規模。適正配置実施計画を作成 1 月 20 日　桐生市議会、新里村、黒保根村を編入する議案を可決 1 月 21 日　笠懸、大間々、東の 3 町村議会が合併議案を可決 2 月 1 日　桐生、新里、黒保根の各首長、知事に合併申請 2 月 15 日　桐生市営競艇事業の 3 月末廃止を国へ届け出 2 月 21 日　桐生市、新里村、黒保根村の社会福祉協議会が合併調印 2 月 25 日　「室内楽の四季」12 年の歴史に幕 3 月 6 日　「桐生投げ銭落語会」15 年の歴史に幕 3 月 13 日　初代のつり橋から数えて 3 代目となる錦桜橋が完成。記念式典開催 3 月 18 日　県議会が桐生市、みどり市の合併議案を議決 3 月 19 日　桐生が岡遊園地で新大型遊具「アドベンチャーシップ」が運転開始 3 月 25 日　小寺群馬県知事、桐生市とみどり市に合併決定書を交付 3 月 30 日　川内町の渡良瀬川左岸の自転車・歩行者道が全面開通 3 月 31 日　本町通りのパーキングメーター廃止 3 月 31 日　納税組合廃止 4 月 26 日　桐生市、新里村、黒保根村のシルバー人材センター、統合協定に調印 4 月 27 日　桐生市国際交流協会がコロンバス州立大学サマースクールの打ち切りを決定。12 年の歴史に幕 4 月 29 日　野間清治の生誕碑除幕式が行われる 5 月 12 日　新里村、黒保根村で最後の村議会開かれる 5 月 20 日　市立保育園の民営化計画で、民間に委譲する園と時期を市議会に提示 6 月 5 日　新里村と黒保根村で閉村式 6 月 13 日　新里村と黒保根村を編入合併。合併式典開催。新里支所、黒保根支所開所式 6 月 19 日　文化審議会、有形文化財に下記 4 か所 16 件の建造物を答申 寺内家旧別荘（宮本町 3） 旧松岡商店事務所（永楽町） 無鄰館（本町 1）	・3 月 25 日　愛知万博開幕（～9 月 25 日） ・4 月 25 日　JR 福知山線脱線事故

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2005	平成 17	中村弥市商店（本町 1） 7 月 11 日　営業休止していたホテルきのこの森、那須塩原市の企業が営業開始 8 月 1 日　ぐんま昆虫の森が新里町に開園 8 月 5 日　桐生八木節まつり、本町 2 丁目の祇園屋台が 114 年ぶりに町内巡行 8 月 27 日　第 1 回桐生市マーチングフェスティバル開催 9 月 16 日　新里町と黒保根町に合併特例法に基づく地域審議会が発足 9 月 16 日　文化審議会、有形文化財に上電・西桐生駅を答申 10 月 3 日　市営住宅本町 6 丁目団地の 1 階に「WIND インキュベーションオフィス 2」開設 10 月 8 日　群馬大学工学部 90 周年記念式典。同窓記念会館リニューアル 10 月 16 日　崇禅寺（川内町 2）が開創 800 年 10 月 17 日　自動車部品メーカーのキリウが桐生から完全撤退 10 月 22 日　平成 16 年 1 月から行われてきた天満宮大修理完成 11 月 7 日　元卓球世界チャンピオンの長谷川信彦が没す (58) 11 月 15 日　ヤオコーマーケットシティ桐生が株式会社キリウ跡地に開設される 11 月 20 日　ぐんま昆虫の森が入場者 10 万人を達成 11 月 26 日　中通り大橋建設工事着工 12 月 14 日　市議会が「こども安全都市宣言」を可決 12 月 22 日　桐生市外六か町村広域市町村圏振興整備組合（広域圏組合）最後の議会開催 【刊行物】 大瀬祐太『桐生六郎の周辺―『吾妻鏡』における或る逆臣の正当性について―』 経済産業省『ノコギリ屋根工場群の活用による都市再生モデル調査報告書』 野間清治顕彰会『郷土文芸読本第 3 巻』 国勢調査 国人口　127,767,994 人 県人口　2,024,135 人 桐生市　人口 128,037 人 国世帯数　49,566,305 世帯 群馬県世帯数　726,203 世帯 桐生市世帯数　46,647 世帯	
2006	18	1 月 21 日　文化審議会、登録文化財に金善ビル（本町 5）と後藤織物（東 1）を答申 1 月 31 日　梅田町 4 丁目皆沢地区、土砂災害防止法の特別警戒区域に指定 3 月 17 日　文化審議会、登録文化財に森秀織物工場（東 4）を答申 3 月 26 日　パシオス田原屋桐生店閉店。27 年の歴史に幕。 3 月 27 日　笠懸町、大間々町、東村が合併し、群馬県内 12 番目の市みどり市誕生 3 月 27 日　みどり市誕生で、桐生市外六か町村広域市町村圏振興整備組合が自然消滅	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2006	平成 18	4 月 1 日　遊園地など 24 の市有施設に指定管理者制度を導入 4 月 1 日　市立保育園 4 園（元宿、沼の上、東、おおぞら）を民営化 4 月 1 日　長寿センターなどを民営化 4 月 1 日　社会福祉事業団・みやま園を社会福祉協議会に統合 4 月 5 日　群馬大学工学部が大学院拡充重点に大規模改組・再編。太田に新学科設置 4 月 6 日　相生町 4 丁目から大間々町までの渡良瀬川右岸に新道開通 4 月 18 日　平和、5 月から生産拠点を伊勢崎市に移転。パチンコ 3 社の主要拠点がすべて市外に 4 月 24 日　みどり市長選挙、石原条が初代市長就任 5 月 12 日　桐生専門店会、6 月末で日専連カード事業から撤退 5 月 16 日　日本料理の老舗、三楽が閉店 5 月 27 日　桐生走ろう会の 100 キロウォーク、30 回を区切りに閉幕（27・28 日） 6 月 5 日　カリビアンビーチの入場者が 200 万人達成 6 月 16 日　文化審議会、登録文化財に曽我家住宅（本町 1）と須藤家住宅（堤町 1）を答申 6 月 23 日　県立高校入試、平成 19 年度から全県 1 区に。科別の定員を発表 6 月　本町 5 丁目から錦町 3 丁目までの電柱撤去工事が 6 月末で完了 7 月 1 日　桐生地区の税務署管轄、一本化 7 月 3 日　買場紗綾市が 10 周年 7 月 7 日　中通り大橋線、左岸側 120m区間を供用開始 7 月 12 日　皇太子殿下、ぐんま昆虫の森を視察 7 月 13 日　桐生市水道局、「桐生川の源流水」販売 7 月 22 日　本町 3 丁目の鉾展示蔵「翁蔵」完成 8 月 7 日　桐生八木節まつりで 5 年ぶりの鉾の曳き違い 8 月 15 日　桐生第一高校野球部、甲子園大会 3 回戦で敗退 8 月 26 日　全国高校お笑い選手権「M-1 甲子園」で、商業高校 3 年の山田愛美・藤本友美のコンビが優勝 9 月 11 日　広沢町 2 丁目の富士見ヶ丘 2 遺跡で旧石器時代の遺物を確認 9 月 14 日　中学校統合推進委員会、東・菱・北統合中の校名を「清流中」に 9 月 16 日　中学校統合推進委員会、西・南・昭和統合中の校名を「中央中」に 9 月 16 日　文化審議会、登録文化財に平田家住宅旧店舗（本町 1）と島田商店（巴町 1）を答申 9 月 17 日　桐生青年会議所が 50 周年記念式典 10 月 1 日　郵政民営化に伴い、梅田局が無集配局に 10 月 1 日　上毛電鉄新駅「桐生球場前」が開業 10 月 12 日　平成 20 年度から市立幼稚園を 4 園に。少子化時代における幼児教育を考える会が答申 10 月 23 日　わたらせ渓谷鐵道市民協議会設立 11 月 5 日　群馬大学工学部キャンパスを会場とする第 1 回クラシックカーフェスティバル開催 12 月 9 日　文化審議会、登録文化財に藤生家住宅（広沢町 5）と荻原家住宅（新宿 2）を答申 12 月 22 日　競艇場使用料訴訟で東京地裁、桐生市に支払い命じる判決（12 月 28 日桐生市が控訴）	・7 月 17 日　イラク派遣陸上自衛隊撤収 ・12 月 15 日　改正教育基本法及び防衛省昇格関連法成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2006	平成 18	【刊行物】 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 6 集・わたらせ養護園の創立者・ガールスカウト日本連盟会長・岸直枝伝』 桐生市婦人団体連絡協議会『消えゆく風習～桐婦連が語る昭和の生活風景～』 片山弘美『湖海の人―寺子屋師匠・田村梶子』 野間清治顕彰会『郷土文芸読本第 4 巻』	
2007	19	1 月 9 日　境野のシンボル「養老の松」立ち枯れのため惜しまれ伐採 2 月 2 日　教育委員会、幼稚園統廃合を 2009 年度に先送り表明 3 月 16 日　文化審議会、国重文に青蓮寺の本尊「銅造阿弥陀如来及両脇侍立像」を答申 3 月 27 日　桐生第一高校野球部甲子園選抜大会出場（初戦敗退） 4 月 4 日　黒保根高齢者生活支援施設つつじの家開館 5 月 1 日　亀山豊文、桐生市長に就任 5 月 17 日　佐藤光好が市議会議長就任 7 月 1 日　FM 桐生開局。県内で 5 局目 7 月 16 日　新潟で震度 6 強の地震。桐生地区でも被害発生 8 月 6 日　桐生市区長会の諮問機関・自治会移行検討委員会が行政協力委員制度廃止後の組織のあり方などを答申 8 月 10 日　株式会社平和、桐生から完全撤退。本社閉鎖、従業員 410 人解雇 8 月 16 日　最高気温 39.0 度。観測史上最高タイを記録 8 月 31 日　きのこの森桐生国際ホテル撤退 9 月 6 日　桐生市立幼稚園 7 園に統合。市教委が整備計画作成 9 月 29 日　江戸天下祭で四丁目鉾巡行 10 月 9 日　桐生専門店会すべての業務を終了、破産整理へ 11 月 1 日　第 1 回桐生・みどり連携推進市長会議開催 11 月 3 日　きものサミット in 桐生開催 11 月 15 日　桐生からくり人形保存会、国土交通省の全国地域づくり推進協議会会長賞を受賞 11 月 30 日　桐生のノコギリ屋根工場群など含む「両毛の絹織物」、経産省の近代化産業遺産群に認定 11 月 30 日　両毛市場構想で桐生、みどり、佐野の 3 市が離脱表明 12 月 14 日　東日本高速道路、北関東自動車道の IC 名「太田藪塚」、「太田桐生」に決定 12 月 21 日　桐生市と関東開発、競艇場使用料訴訟で和解 12 月 20 日　桐生地域で地上デジタル放送の本放送開始 【刊行物】 加藤正義『在野の考古学者相沢忠洋』 桐生文化史談会『桐生佐野氏と戦国社会』 買場紗綾市実行委員会『伝建群を目指して～桐生・買場紗綾市の試み～』 野間清治顕彰会『郷土文芸読本第 5 巻』	・5 月 14 日　国民投票法成立 ・7 月 16 日　新潟県中越沖地震 ・10 月 14 日　郵政民営化関連法案成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2008	平成 20	1 月 1 日　桐生市、地震防災マップ作成 2 月 12 日　県文化財保護審議会、県指定文化財に「崇禅寺のイトヒバ」(川内町 2) と「賀茂神社のモミ群」(広沢町 6) を答申 2 月 15 日　桐生市地域新エネルギービジョン作成 2 月 19 日　桐生織物協同組合、「桐生織」を商標登録 3 月 8 日　北関東自動車道の伊勢崎－太田・桐生間が開通 3 月 13 日　わたらせフィルム・コミッションが地域づくり総務大臣表彰受賞 3 月 13 日　桐生市立西、南、昭和中で最後の卒業式 3 月 17 日　桐生市議会、「CO2 排出削減都市」宣言を決議 3 月 25 日　老人クラブ連合会で運営していた「おたっしゃ停留所」廃止 3 月 30 日　郷土資料収集家の河原井源次が没す (90) 3 月 31 日　行政協力委員制度廃止 4 月 1 日　桐生市新生総合計画スタート 4 月 1 日　広報きりゅうの発行を月 1 回に 4 月 1 日　みどり市に桐生大学開学 4 月 7 日　西、南、昭和中が統合した桐生市立中央中学校が開校 4 月 11 日　観光滞在施設「黒保根町ふるさと探訪ふれあい館」開館 4 月 13 日　桐生自然観察の森、開園 20 年 4 月 22 日　本町 4 丁目の鉾人形装束が 133 年ぶりに新調へ 4 月 22 日　桐生川に架かる両国橋が下流側に架け替えになる 5 月 2 日　ホテル国際きのこ会館の解体に着手 5 月 3 日　境野養老会が 100 周年 5 月 27 日　パチンコ遊技機製造の三共、本社を東京に移転することを決定 5 月 29 日　腰塚誠県議、県議会議長に就任 6 月 2 日　JR 桐生駅南口に東横イン開業 6 月 18 日　日本サーボ、本社を桐生に移転 (10 月 1 日に社名を日本電産サーボに変更) 7 月 31 日　県文化財保護審議会、県指定文化財に「島霞谷・隆夫妻の資料」を答申 8 月 7 日　桐生第一高校野球部、甲子園大会出場 (初戦敗退) 9 月 3 日　桐生市水道局が水質検査優良試験所規範(水道 GLP) の認定を受ける 9 月 18 日　芭蕉 (本町 5) の棟方志功壁画、半世紀ぶりに出現 10 月 20 日　群馬大学工学部、脱温暖化社会実験スタート 10 月 31 日　桐生市、「ふれあいメール」配信開始 12 月 5 日　大川美術館館長の大川栄二が没す (84) 12 月 6 日　桐生市で初のノコギリ屋根博覧会開催 【刊行物】 佐々木正純『きりゅう百景』 桐生文化史談会『桐生織物と買継商』 小野崎敏、川島伸之他『足尾鐵道の一世紀』 野間清治顕彰会『剣に生きた森寅雄・フェンシングにかけた剣道家』	・4 月 1 日　後期高齢者医療制度開始 ・6 月 14 日　岩手・宮城内陸地震

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2009	平成 21	1 月 15 日　桐生みどり消防署業務開始 1 月 25 日　西武ライオンズ監督渡辺久信（新里町出身）、市民栄誉賞受賞 2 月 1 日　桐生市総合福祉センター開館 3 月 2 日　桐生市出身ジャズピアニストの山中千尋、日本ゴールドディスク大賞受賞 3 月 8 日　菱町で桐生市合併 50 周年記念式典 3 月 15 日　桐生が岡動物園開園 55 年式典、クモザル舎完成 3 月 23 日　桐生市立幼稚園 6 園（南・北・昭和・梅田南・天沼・神明）で閉園式 3 月 26 日　東中、菱中で閉校式 3 月 28 日　桐生警察署本町交番が閉所 3 月 31 日　郷土資料展示ホール閉館 4 月 1 日　JR 桐生駅内に桐生観光物産館「わたらせ」開設。ゆいも桐生駅に移設 4 月 1 日　子育て支援センター、保健福祉会館へ拡充移転 4 月 7 日　東中、北中、菱中を統合した桐生市立清流中学校開校 4 月 13 日　堤町 2 丁目の住宅火災で山林に延焼 4 月 26 日　民間活力で水沼駅温泉センター営業再開 5 月 15 日　幾井俊雄が市議会議長就任 5 月 22 日　西日本分布の魚「ムギツク」桐生川で繁殖 7 月 1 日　本町 1 丁目に伝建まちなか交流館開館 7 月 1 日　桐生地方卸売市場、民営で再スタート 7 月 22 日　日本で 46 年ぶりの皆既日食、桐生でも部分日食を観測 8 月 20 日　桐生高校、第 1 回ロケット甲子園で優勝 9 月 10 日　自然観察の森、関東・水と緑のネットワーク拠点 100 選に選出 9 月 14 日　桐生織物協同組合、10 年ぶりにパリ繊維見本市に出展 9 月 26 日　文化審議会、国有形文化財にわたらせ渓谷鐵道 37 施設を答申 10 月 2 日　桐生中央ビル、桐生ガスに売却へ 10 月 4 日　桐生からくり人形芝居、浅草で公演 10 月 26 日　新しくなった高津戸橋開通式典 11 月 3 日　織姫神社の白瀧姫 9 年ぶりに公開 12 月 24 日　新里総合センター開所 【刊行物】 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 7 集・われ農夫の祈りに開眼す・森喜作伝』	・8 月 3 日　裁判員制度始まる ・9 月 16 日　鳩山民主党内閣成立
2010	22	1 月 26 日　山浦麻葉（群馬大学工学部卒）カーリング女子日本代表でバンクーバー五輪出場 3 月 26 日　川内北小学校で閉校式、135 年の歴史に幕 3 月 27 日　中通り大橋開通（片側 1 車線） 3 月 29 日　動物園さる山改装 4 月 6 日　統合新設の川内小学校で開校式 4 月 8 日　身体障害者福祉センター跡（仲町 1）に観光駐車場開設 6 月 16 日　長崎屋跡にメガ・ドン・キホーテ桐生店開店 6 月 1 日　統一指定ごみ袋の使用を試行 8 月 7 日　祇園祭神輿渡御、女人禁制解禁 9 月 1 日　8 月の日最高気温の平均が 33.3℃で、観測史上最高	・3 月　宮崎県で家畜伝染病口蹄疫感染拡大 ・9 月　尖閣諸島をめぐり日中間緊張

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2010	平成 22	9 月 1 日　桐生市、環境省の補助事業「チャレンジ 25 地域づくり事業」で低炭素社会実証実験開始 9 月 17 日　本町 4 丁目鉾人形 135 年ぶりに整髪 9 月 27 日　桐生観光大使に「四丁目鉾人形」（スサノオノミコト） 9 月 29 日　第 40 回桐生市敬老列車実施（～10 月 1 日） ※10 月 31 日の事業仕分けで不要と判断され、第 40 回が最後となる 10 月 31 日　桐生市事務事業評価の一環として「桐生市版事業仕分け」実施 11 月 1 日　桐生商工会議所会頭に日野茂・前桐生市長が選出される 【刊行物】 川池三男『黒保根の民話』 野間清治顕彰会米山稔『ふるさとの風会員双書 1・絹撚糸業界の先駆け・日本絹撚株式会社と前原悠一郎』 桐生南ロータリークラブ『桐生の歴史を語る－佐羽秀夫・卓話集－』 国勢調査 国人口　128,057,352 人 県人口　2,008,068 人 桐生市人口　121,704 人 国世帯数　51,950,504 世帯 群馬県世帯数　755,756 世帯 桐生市世帯数　46,688 世帯	
2011	23	1 月 17 日　桐生市マスコットキャラクターを「キノピー」に決定 3 月 1 日　市制施行 90 周年 3 月 1 日　群馬みどり農協と新田郡農協が合併し、新田みどり農協が発足 3 月 5 日　桐生市制施行 90 周年・水道創設 80 周年記念式典開催 3 月 11 日　東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生、桐生市で震度 6 弱を観測 ※桐生市被害状況 ・軽傷者・・・1 人 ・建物一部破損・・・1,651 件 ・ブロック塀の破損・・・37 件 ・道路の陥没等・・・15 件 ・漏水等・・・6 件 ※自主避難者・・・8 人（2 か所） 3 月 12 日　市職員による市内被害調査及び要援護者安否調査を実施 3 月 13 日　国内親善都市の茨城県日立市に救援物資の提供及び給水活動を実施 3 月 15 日　東京電力による計画停電で鉄道、信号など停止。市民生活に大きな影響が出る 3 月 15 日　市外からの避難者受け入れを開始 3 月 19 日　北関東自動車道の太田桐生 IC～佐野田沼 IC が開通し、北関東自動車道が全線開通 3 月 28 日　水道水の放射性物質検査を開始 3 月 31 日　黒保根町に光回線整備	・1 月　霧島山の新燃岳噴火 ・3 月 11 日　東日本大震災。東電福島第一原発事故

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2011	平成 23	4 月 1 日　桐生市、7 幼稚園で 3 歳児保育開始 4 月 7 日　菱中跡に移転した特別支援学校の入学式を開催 4 月 24 日　桐生市長選で亀山豊文が二選 4 月 29 日　桐生が岡遊園地の新観覧車運行開始 5 月 9 日　元地場産業振興センター専務の森山亨が没す（79） 5 月 17 日　荒木恵司が市議会議長就任 5 月 24 日　「桐生の一押し商品」94 点を認定 6 月 1 日　桐生商工会議所､プレミアム付き商品券を 1 億 2000 万円分発売 6 月 2 日　学校施設、保育園施設 41 か所で放射線量の定点観測を開始 6 月 24 日　6 月の観測史上最高の 36.9 度を観測（32 年ぶりに更新） 6 月 30 日　電力不足対策で企業の「木金休業」スタート 7 月 1 日　JR 東日本による群馬デスティネーションキャンペーン開始（～9 月 30 日） 7 月 4 日　テキスタイルデザイナーの新井淳一､英国王立芸術大学から名誉博士号を授与される 7 月 24 日　第 1 回桐生映画祭を開催 7 月 30 日　桐生市議会初の議会報告会開催 8 月 19 日　小学校適正配置推進委員会、昭和小を南小に編入で合意 8 月 22 日　学校給食食材の放射能測定開始 9 月 27 日　文部科学省と群馬県、県内の放射性物質汚染マップ公表 10 月 1 日　樹徳中・高校生が第 4 回全国数学選手権大会団体戦で優勝 10 月 1 日　統一指定ごみ袋完全実施 10 月 1 日　桐生市施設管理協会、桐生市体育協会、桐生市文化事業団が統合し、桐生市スポーツ文化事業団発足 10 月 3 日　桐生市、パスポートの申請受付・交付業務を開始 10 月 11 日　市内全域 679 か所の空間放射線量分布状況調査を開始 10 月 19 日　元宿浄水場の放射線測定装置稼働 11 月 10 日　「シルク・サミット 2011in 桐生」開催 【刊行物】 亀田光三『桐生織物史と産業遺産』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 8 集・塚越平人の半世紀・桐生のガス事業』	･7 月 17 日　サッカー女子ワールドカップ大会で日本が優勝 ･7 月 24 日　被災 3 県を除く 44 都道府県、地上アナログテレビ波停止
2012	24	1 月 17 日　本町 1･2 丁目と天神町 1 丁目の一部を桐生新町重要伝統的建造物群保存地区に決定 1 月 30 日　黒保根町における放射線量個別調査開始（～2 月 24 日） 3 月 21 日　桐生市空間放射線量分布マップ作成 3 月 26 日　商工会議所会頭で､元桐生市長の日野茂が没す(73) 4 月 1 日　新里町デマンドタクシー実証実験運行開始 4 月 1 日　きりゅうファンクラブ発足 4 月 1 日　わたらせ渓谷鐵道トロッコ列車が桐生駅発着に 5 月 1 日　鳴神山のカッコソウが種の保存法の国内希少野生動植物種に指定される 6 月 11 日　市民ギャラリー開館（勤労福祉会館内） 6 月 20 日　桐生市議会で庭山由紀議員が除名される 6 月 22 日　桐生市長、岩手県宮古市の震災がれき受け入れを正式表明	･5 月 22 日　東京スカイツリー開業

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2012	平成 24	7 月 9 日　桐生新町重要伝統的建造物群保存地区に選定（官報告示） 8 月 1 日　桐生織物記念館、新装開館 9 月 1 日　「ぐんま VS とちぎウマいもん合戦 in 桐生」新川公園で開催 11 月 15 日　桐生南高校、開校 50 周年記念式典 11 月 25 日　元桐生市体育協会会長の山田嵓が没す（90） 12 月 10 日　天満宮に渡辺崋山の碑を建立 12 月 13 日　(株)平和創業者の中島健吉が没す（91） 【刊行物】 大瀬祐太『大久保長安と大野八右衛門』 桐生市立図書館『桐生市ことがら事典』	・9 月 11 日　尖閣諸島国有化 ・12 月 16 日　衆院選、自民党圧勝
2013	25	1 月 31 日　桐生・みどり地区の高校再編検討スタート 3 月 9 日　図書館で「新居家文書の世界」展開催 3 月 26　昭和小学校閉校、84 年の歴史に幕（南小に編入） 3 月 30 日　中通大橋 4 車線供用開始 4 月 1 日　群馬大学に理工学部を設置（工学部の学生がいる間は工学部も存続） 4 月 1 日　新里町デマンドタクシー本格運行開始、黒保根町では実証実験を開始 4 月 6 日　本町 3 丁目のフリーマーケット、名称を「楽市蔵座」から「桐生楽市」に変更 4 月 8 日　強風で伝・桐生大炊介手植のヤナギ（県指定天然記念物）が折れる 4 月 18 日　本町 5 丁目のからくり時計撤去 4 月 20 日　桐生が岡動物園開園 60 周年記念イベント開催 4 月 27 日　絹撚記念館を郷土資料展示施設として改装 5 月 9 日　相沢崇文が市議会議長就任 5 月 23 日　特殊切手「自然との共生シリーズ～日本の希少野生動植物～」にカッコソウが採用される 5 月 31 日　創業 264 年の大間々・奥村酒造が廃業 6 月 3 日　小倉クラッチ、米フォード社の世界最優秀サプライヤー金賞受賞 7 月 1 日　桐生市、ツイッター及びユーチューブによる情報発信を開始 7 月 2 日　朝倉染布の超撥水風呂敷、国際的なデザイン賞「レッド・ドット・デザイン賞」を受賞 7 月 5 日　きりゅう映画祭開幕 7 月 11 日　群馬大学理工学部の大学院生が、市内の中学生を対象に科学を教える「サイエンスドクター事業」開始 7 月 17 日　市内にある全防犯灯を LED に 7 月 23 日　本町 6 丁目商店街が映画製作 7 月 30 日　心臓病の新井駿介くんを救おうと米国での心臓移植に向け募金開始 8 月 1 日　タレントの篠原涼子、桐生市観光大使に就任 8 月 2 日　第 50 回桐生八木節まつり開催（～4 日） 8 月 5 日　岩手県宮古市からの災害廃棄物受け入れ終了 9 月 4 日　桐生出身の画家・山口晃、第 12 回小林秀雄賞受賞 9 月 16 日　台風 18 号が桐生地方を直撃、相生町 5 丁目とみどり市の境付近で竜巻が発生、家屋やビニールハウスなど被害 9 月 26 日　桐生市出身のファッションデザイナー・高橋盾、毎日ファッション大賞受賞 10 月 4 日　錦町のアーケード 6 割撤去へ 10 月 7 日　防災ラジオ有償頒布開始	・5 月 24 日　共通番号制度関連法成立

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2013	平成 25	10 月 7 日　いちご ECO エナジーが新里町に建設を進めていたメガソーラー奥沢発電所開所	
		10 月 12 日　観測史上最も遅い真夏日を記録	・12 月 6 日　特定秘密保護法が成立
		12 月 27 日　共立織物が破産申請	
2014	26	2 月 8 日　数十年ぶりの大雪、市役所周辺でも 30 センチの積雪	
		2 月 9 日　第 60 回堀マラソン大会、8 日の大雪のために初の中止	
		2 月 14 日　前週に続く大雪で、関東地方などで記録的な積雪。市街地でも 40 センチ以上の積雪になり、倒木やカーポートの倒壊など被害多数（14・15 日）	
		3 月 6 日　桐生出身の写真家・石内都、日本人女性初となるハッセルブラッド国際写真賞受賞	
		3 月 18 日　文化審議会、登録文化財に金子織物（東久方町 2）と旧小武織物（広沢町 5）を答申	
		4 月 1 日　黒保根町デマンドタクシー本格運行開始	・4 月 1 日　消費税が 5%から 8%に
		4 月 15 日　菱町 2 丁目で大規模な山火事発生（5 月 2 日鎮火、桐生市分 191、足利市分 72、合計 263ha の山林を消失）	
		4 月 28 日　桐生が岡動物園開園 60 周年記念式典	
		5 月 22 日　天皇皇后両陛下来桐	・6 月 21 日　富岡製糸場と絹産業遺産群、世界遺産に登録
		8 月 1 日　本町 5 丁目祇園屋台、53 年ぶりに復活	
		8 月 18 日　園田恵三が市議会議長就任	
		8 月 31 日　ミスズヤ書店閉店	
		9 月 10 日　織物協同組合などが織都 1300 年イベントを開催	・8 月 20 日　広島市北部豪雨
		9 月 16 日　茨城県南部を震源とする地震で震度 4	
		9 月 26 日　桐生歴史文化資料館で「白瀧姫展」開催	
		9 月　市内全小学校で織物体験授業を実施	・9 月 29 日　木曽・御嶽山噴火
		10 月 1 日　桐生商工会議所第 14 代会頭に山口正夫が選出される	
		10 月 24 日　織都 1300 年記念式典開催	
		10 月 27 日　ミノリ文化服装学院、織都を支えた歴史に幕	
		12 月 5 日　テキスタイルデザインの新井淳一、文化庁長官表彰	・12 月 14 日　衆議院議員総選挙
		【刊行物】 関口芙沙恵『玻璃の橋』	
2015	平成 27	1 月 13 日　県教委が高校再編方針案提示（桐生市及びみどり市で公立高校を 7 校から 5 校に）	
		3 月 13 日　文化審議会、登録文化財に「旧金谷家住宅主屋、蔵及び染織場」（東久方町 1）と「旧堀家住宅主屋及び蔵」（巴町）を答申	
		3 月 17 日　笹川堯が名誉市民に推挙される	
		4 月 1 日　桐生市、空き家対策室を設置	
		4 月 5 日　桐生球場改修・ナイター照明設置を記念してプロ野球イースタンリーグ公式戦（埼玉西武対東京ヤクルト）を開催	
		4 月 14 日　桐生倶楽部会館（仲町 2）、沢入観音のイボ石(黒保根町上田沢)及び彦部家の合体木（広沢町 6）が市重要文化財に指定される	
		4 月 24 日　初の日本遺産に「かかあ天下−ぐんまの絹物語−」が認定される（構成文化財 12 件中 6 件が絹撚記念館をはじめとした桐生市の文化財）	
		4 月 26 日　桐生市長選で亀山豊文が三選	
		5 月 19 日　森山亨大が議長に就任する	・6 月 5 日　公職選挙法改正で 18 歳から選挙権
		6 月 29 日　塚越平人（桐生ガス㈱第 5 代社長）が名誉市民となる（追贈）	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2015	平成 27	7 月 24 日　日立市・桐生市親善都市提携 50 周年記念式典 10 月 10 日　群馬大学工学部創立 100 周年記念式典 10 月 10 日　刺繍商組合、初めて東京で刺繍展を開催	・9 月 19 日　安全保障関連法が成立 ・9 月 19 日　ラグビーワールドカップで日本が南アフリカに勝利
		11 月 1 日　第 3 区、織姫神社で「抜魂の儀」を執行	・10 月 5 日　マイナンバー制度開始
		12 月 4 日　樹徳中・清流中合同チーム、科学の甲子園ジュニア全国大会に群馬県代表として出場	・11 月 13 日　パリで同時多発テロ
		国勢調査 国人口　127,110,047 人 県人口　1,973,476 人 桐生市人口　114,760 人 国世帯数　53,403,226 世帯 群馬県世帯数　773,186 世帯 桐生市世帯数　46,021 世帯	
		【刊行物】 桐生タイムス『晦魄環照』 巻島隆『江戸の飛脚』 野間清治顕彰会『ふるさとの風第 9 集・桐生地域の発展を願って・増山作次郎と桐生信用金庫』 青木修『十二の物語』	
2016	平成 28	2 月 1 日　群馬県文化財保護審議会、枯死した境野町の県天然記念物「三ツ堀加茂神社のサキカ」の指定解除を答申（平成 27 年 10 月に伐採）	
		4 月 9 日　桐生祇園祭保存会が発足	・4 月 14・16 日　熊本で震度 7 の地震
		4 月　桐生織物観光センターが閉店（昭和 54 年開館）	
		5 月 26 日　桐生市の任意合併協議会設置申し入れに対し、みどり市から見送りの回答を受ける	・5 月 27 日　オバマ米大統領が現職大統領で初めての広島訪問
		5 月 30 日　（仮称）梅田浄水場本体工事着工	
		6 月 6 日　重伝建の「買場ふれあい館」（本町 1）が全焼する	
		6 月 22 日　群馬県企業局が黒保根町田沢発電所の運転を開始する	・8 月 8 日　天皇陛下が象徴としての務めに関しおことばを表明
		9 月 4 日　桐生球場改修完了に合わせ、プロ野球 2 軍イースタンリーグ公式戦を開催する（日本ハム対西武）	
		10 月 9 日　崋山と歩く会が水道山に渡辺崋山記念碑を建立	・12 月　政府、高速増殖炉もんじゅの廃炉を決定
		【刊行物】 安吾を語る会『安吾と桐生』 清水義男『桐生の民話』（市街地・境野町編） 清水義男『桐生の民話』（広沢・相生・川内・菱町編） 清水義男『桐生の民話』（梅田町編） 清水義男『桐生の民話』（新里町編） 清水義男『桐生の民話』（黒保根町編 1） 清水義男『桐生の民話』（黒保根町編 2・資料編） 巻島隆『桐生新町の時代』 野間清治顕彰会『野間清治紙芝居』第 3 部	

西暦	元号	桐生市の出来事	世の中の出来事
2017	平成 29	2 月 19 日　みどり市のアピタ笠懸店が閉店 3 月　桐生市が、今後 35 年間で市有施設の延床面積を 45%削減する「桐生市公共施設等総合管理計画」を策定 3 月 30 日　前橋地裁桐生支部、飯塚機業の会社再生手続廃止を決定 4 月 4 日　動物園一の人気者、国内最高齢のアジアゾウの雌・イズミが死ぬ 5 月 22 日　わたらせ渓谷鐵道で検査車両が脱線、大間々ー間藤間で運転見合わせ（～6 月 9 日） 6 月 13 日　護国神社（梅田町）が放火により全焼。 7 月　JR、桐生駅のキオスクを閉店する 9 月 2 日　桐生市、桐生市出身の芸術家山口晃を「藝術大使」に任命 7 月 29 日　水道局、広沢水源地跡地を住宅用地として売却決定 9 月 25 日　テキスタイルプランナーの新井淳一が没す（85） 10 月 28 日　全国の道の駅のご当地グルメ日本一を競う「道ー1 グランプリ」を北関東 3 県ウマいもん合戦 in 桐生 2017 と同時に開催 11 月 2 日　桐生高校創立 100 周年で記念式典を開催 11 月 28 日　本町四丁目商店街振興組合が自己破産申請（一度取り消し後、平成 30 年 2 月 20 日に再申立て、3 月 8 日に破産開始決定） 【刊行物】 株式会社矢野『矢野三百年のあゆみ』	・7 月 5 日　九州北部豪雨 ・9 月 9 日　陸上男子 100ｍで、桐生祥秀選手が 9 秒台を記録 ・6 月 17 日　岩宿遺跡 F 地点、国史跡に追加指定
2018	平成 30	1 月 4 日　武井西工業団地申込受付開始 1 月 16 日　桐生市出身の門井慶喜が「銀河鉄道の父」で直木賞を受賞 1 月 23 日　桐生市歴史的風致維持向上計画が国に認定される 3 月 9 日　文化審議会が赤城山の山頂駅などを「旧赤城山鋼索鉄道赤城山頂駅駅舎及びプラットフォーム」として登録有形文化財に答申 4 月 24 日　第 84 回関東市議会議長会総会が桐生市で開催される 7 月 23 日　午後 2 時 56 分、元宿町のアメダス観測点で過去最高気温となる摂氏 39.9 度を記録 8 月 4 日　桐生八木節まつりのジャンボパレード中止を決定（パレード実施予定は 5 日） 8 月 4 日　桐生八木節まつりに合わせて、ブルーインパルス（航空自衛隊第 11 飛行隊）が祭り会場上空を展示飛行する（県内初飛行） 11 月 25 日　きもの装いコンテスト関東大会が 38 年ぶりに桐生市で開催される	全国的に記録的な猛暑となる 8 月 10 日　群馬県防災ヘリコプター「はるな」が中之条町山中で墜落。9 人死亡 9 月 6 日　北海道胆振地方で震度 6 強の地震が発生

参　考　資　料

干支順位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・140
年代表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・140
方位・時刻図〈近世の不定時法〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
旧度量衡・通貨表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
桐生地域町村名変遷図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
桐生市江戸時代町村図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
荒戸新町「字」推定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
江戸期村別石高・領主表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
大字表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
桐生市指定文化財一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167
国登録有形文化財一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
人口・世帯数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・185
歴代市長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187
歴代市議会議長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・188
桐生地方郷土史関係出版物一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
略系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198

干支順位

甲　子 きのえね カッシ コウシ	**乙　丑** きのとうし イッチュウ	**丙　寅** ひのえとら ヘイイン	**丁　卯** ひのとう テイボウ	**戊　辰** つちのえたつ ボシン	**己　巳** つちのとみ キシ	**庚　午** かのえうま コウゴ	**辛　未** かのとひつじ シンビ	**壬　申** みずのえさる ジンシン	**癸　酉** みずのととり キユウ
甲　戌 きのえいぬ コウジュツ	**乙　亥** きのとい イツガイ	**丙　子** ひのえね ヘイシ	**丁　丑** ひのとうし テイチュウ	**戊　寅** つちのえとら ボイン	**己　卯** つちのとう キボウ	**庚　辰** かのえたつ コウシン	**辛　巳** かのとみ シンシ	**壬　午** みずのえうま ジンゴ	**癸　未** みずのとひつじ キビ
甲　申 きのえさる コウシン	**乙　酉** きのととり イツユウ	**丙　戌** ひのえいぬ ヘイジュツ	**丁　亥** ひのとい テイガイ	**戊　子** つちのえね ボシ	**己　丑** つちのとうし キチュウ	**庚　寅** かのえとら コウイン	**辛　卯** かのとう シンボウ	**壬　辰** みずのえたつ ジンシン	**癸　巳** みずのとみ キシ
甲　午 きのえうま コウゴ	**乙　未** きのとひつじ イツビ	**丙　申** ひのえさる ヘイシン	**丁　酉** ひのととり テイユウ	**戊　戌** つちのえいぬ ボジュツ	**己　亥** つちのとい キガイ	**庚　子** かのえね コウシ	**辛　丑** かのとうし シンチュウ	**壬　寅** みずのえとら ジンイン	**癸　卯** みずのとう キボウ
甲　辰 きのえたつ コウシン	**乙　巳** きのとみ イツシ	**丙　午** ひのえうま ヘイゴ	**丁　未** ひのとひつじ テイビ	**戊　申** つちのえさる ボシン	**己　酉** つちのととり キユウ	**庚　戌** かのえいぬ コウジュツ	**辛　亥** かのとい シンガイ	**壬　子** みずのえね ジンシ	**癸　丑** みずのとうし キチュウ
甲　寅 きのえとら コウイン	**乙　卯** きのとう イツボウ	**丙　辰** ひのえたつ ヘイシン	**丁　巳** ひのとみ テイシ	**戊　午** つちのえうま ボゴ	**己　未** つちのとひつじ キビ	**庚　申** かのえさる コウシン	**辛　酉** かのととり シンユウ	**壬　戌** みずのえいぬ ジンジュツ	**癸　亥** みずのとい キガイ

（山川出版社『日本史小辞典』より作成）

※ 干支（かんし）とは俗にいう“えと”で、十干・十二支の略である。干は日の記号で、1か月を上中下の3旬に割り、1旬10日の毎日につけ、支は歳月の記号で、1年12か月につけた記号なので十二支にある。この両者を組み合わせると上記のような60の順序となり、一巡するとまたもとにもどる。60歳をむかえて還暦の祝いをする理由である。（「図解文化財の見方」ほか）

年　代　表

1　西暦は、1582年10月4日までユリウス暦、その翌日からグレゴリオ暦である。

2　年号（元号）は、645年の「大化」が最初の年号（元号）である。その後、断絶があったが「大宝」以後は,連続して現在の平成に至る。括弧で囲んだものは天皇名であり、年号(元号)が用いられなかった時代である。【例】（推古8）（天智元）

3　閏月は、干支の後に丸数字で示した。【例】⑧は8月が閏月

4　明治5年（1872）の太陽暦採用以前の改元月日は太陽暦を用いた。

5　天皇即位は、践祚（せんそ）年を用いたが桓武天皇以前は実質的な即位の年となった。

6　南北朝期（1331～1392）については次ぎのように表記した。　【例】㊥は北朝、㊦は南朝

西暦	干支	年号	改元	天皇
593	癸丑	(推古元)		推古
594	甲寅⑧	(2)		
595	乙卯	(3)		
596	丙辰	(4)		
597	丁巳④	(5)		
598	戊午	(6)		
599	己未	(7)		
600	庚申①	(8)		
601	辛酉	(9)		
602	壬戌⑩	(10)		
603	癸亥	(11)		
604	甲子	(12)		
605	乙丑⑦	(13)		
606	丙寅	(14)		
607	丁卯	(15)		
608	戊辰③	(16)		
609	己巳	(17)		
610	庚午⑪	(18)		
611	辛未	(19)		
612	壬申	(20)		
613	癸酉⑧	(21)		
614	甲戌	(22)		
615	乙亥	(23)		
616	丙子⑤	(24)		
617	丁丑	(25)		
618	戊寅	(26)		
619	己卯①	(27)		
620	庚辰	(28)		
621	辛巳⑩	(29)		
622	壬午	(30)		
623	癸未	(31)		
624	甲申⑦	(32)		
625	乙酉	(33)		
626	丙戌	(34)		
627	丁亥③	(35)		
628	戊子	(36)		
629	己丑⑪	(舒明 元)		舒明
630	庚寅	(2)		
631	辛卯	(3)		
632	壬辰⑧	(4)		
633	癸巳	(5)		
634	甲午	(6)		
635	乙未⑤	(7)		
636	丙申	(8)		
637	丁酉	(9)		
638	戊戌②	(10)		
639	己亥	(11)		
640	庚子⑩	(12)		
641	辛丑	(13)		

西暦	干支	年号	改元	天皇
642	壬寅	(皇極 元)		皇極
643	癸卯⑦	(2)		
644	甲辰	(3)		
645	乙巳	大化 元	6.19	孝徳
646	丙午③	2		
647	丁未	3		
648	戊申⑫	4		
649	己酉	5		
650	庚戌	白雉 元	2.15	
651	辛亥⑨	2		
652	壬子	3		
653	癸丑	4		
654	甲寅⑤	5		
655	乙卯	(斉明 元)		斉明
656	丙辰	(2)		
657	丁巳①	(3)		
658	戊午	(4)		
659	己未⑩	(5)		
660	庚申	(6)		
661	辛酉	(7)		天智
662	壬戌⑦	(天智 元)		
663	癸亥	(2)		
664	甲子	(3)		
665	乙丑③	(4)		
666	丙寅	(5)		
667	丁卯⑪	(6)		
668	戊辰	(7)		
669	己巳	(8)		
670	庚午⑨	(9)		
671	辛未	(10)		弘文
672	壬申	(弘文 元)		
		(天武 元)		
673	癸酉⑥	(2)		天武
674	甲戌	(3)		
675	乙亥	(4)		
676	丙子②	(5)		
677	丁丑	(6)		
678	戊寅⑩	(7)		
679	己卯	(8)		
680	庚辰	(9)		
681	辛巳⑦	(10)		
682	壬午	(11)		
683	癸未	(12)		
684	甲申④	(13)		
685	乙酉	(14)		
686	丙戌⑫	朱鳥 元	7.20	持統
687	丁亥	(持統 元)		
688	戊子	(2)		
689	己丑⑧	(3)		
690	庚寅	(4)		

西暦	干支	年号	改元	天皇
691	辛卯	(持統　5)		持統
692	壬辰⑤	(　　6)		
693	癸巳	(　　7)		
694	甲午	(　　8)		
695	乙未②	(　　9)		
696	丙申	(　　10)		
697	丁酉⑫	(文武　元)		文武 8.1
698	戊戌	(　　2)		
699	己亥	(　　3)		
700	庚子⑦	(　　4)		
701	辛丑	大宝　元	3.21	
702	壬寅	2		
703	癸卯④	3		
704	甲辰	慶雲　元	5.10	
705	乙巳	2		
706	丙午①	3		
707	丁未	4		元明 7.11
708	戊申⑧	和銅　元	1.11	
709	己酉	2		
710	庚戌	3		
711	辛亥⑥	4		
712	壬子	5		
713	癸丑	6		
714	甲②	7		
715	乙卯	霊亀　元	9.2	
716	丙辰⑪	2		元正 9.2
717	丁巳	養老　元	11.17	
718	戊午	2		
719	己未⑦	3		
720	庚申	4		
721	辛酉	5		
722	壬戌④	6		
723	癸亥	7		
724	甲子	神亀　元	2.4	
725	乙丑①	2		聖武 2.4
726	丙寅	3		
727	丁卯⑨	4		
728	戊辰	5		
729	己巳	天平　元	8.5	
730	庚午⑥	2		
731	辛未	3		
732	壬申	4		
733	癸酉③	5		
734	甲戌	6		
735	乙亥⑪	7		
736	丙子	8		
737	丁丑	9		
738	戊寅⑦	10		
739	己卯	11		
740	庚辰	12		

西暦	干支	年号	改元	天皇
741	辛巳③	天平　13		聖武
742	壬午	14		
743	癸未	15		
744	甲申①	16		
745	乙酉	17		
746	丙戌⑨	18		
747	丁亥	19		
748	戊子	20		
749	己丑⑤	天平感宝元	4.14	孝謙 7.2
		天平勝宝元	7.2	
750	庚寅	2		
751	辛卯	3		
752	壬辰③	4		
753	癸巳	5		
754	甲午⑩	6		
755	乙未	7		
756	丙申	8		
757	丁酉⑧	天平宝字元	8.18	
758	戊戌	2		淳仁 8.1
759	己亥	3		
760	庚子④	4		
761	辛丑	5		
762	壬寅⑫	6		
763	癸卯	7		
764	甲辰	8		称徳 10.9
765	乙巳⑩	天平神護元	1.　7	
766	丙午	2		
767	丁未	神護景雲元	8.16	
768	戊申⑥	2		
769	己酉	3		
770	庚戌	宝亀　元	10.1	光仁 10.1
771	辛亥③	2		
772	壬子	3		
773	癸丑⑪	4		
774	甲寅	5		
775	乙卯	6		
776	丙辰⑧	7		
777	丁巳	8		
778	戊午	9		
779	己未⑤	10		
780	庚申	11		
781	辛酉	天応　元	1.1	桓武 4.3
782	壬戌①	延暦　元	8.19	
783	癸亥	2		
784	甲子⑨	3		
785	乙丑	4		
786	丙寅	5		
787	丁卯	6		
788	戊辰	7		
789	己巳	8		

西暦	干支	年号	改元	天皇
790	庚午③	延暦 9		桓武
791	辛未	10		
792	壬申⑪	11		
793	癸酉	12		
794	甲戌	13		
795	乙亥⑦	14		
796	丙子	15		
797	丁丑	16		
798	戊寅⑤	17		
799	己卯	18		
800	庚辰	19		
801	辛巳①	20		
802	壬午	21		
803	癸未⑩	22		
804	甲申	23		
805	乙酉	24		
806	丙戌⑥	大同 元	5.18	平城 3.17
807	丁亥	2		
808	戊子	3		
809	己丑②	4		嵯峨 4.1
810	庚寅	弘仁 元	9.19	
811	辛卯⑫	2		
812	壬辰	3		
813	癸巳	4		
814	甲午⑦	5		
815	乙未	6		
816	丙申	7		
817	丁酉④	8		
818	戊戌	9		
819	己亥	10		
820	庚子①	11		
821	辛丑	12		
822	壬寅⑨	13		
823	癸卯	14		淳和 4.16
824	甲辰	天長 元	1. 5	
825	乙巳⑦	2		
826	丙午	3		
827	丁未	4		
828	戊申③	5		
829	己酉	6		
830	庚戌⑫	7		
831	辛亥	8		
832	壬子	9		
833	癸丑⑦	10		仁明 2.28
834	甲寅	承和 元	1.3	
835	乙卯	2		
836	丙辰⑤	3		
837	丁巳	4		
838	戊午	5		
839	己未①	6		

西暦	干支	年号	改元	天皇
840	庚申	承和 7		仁明
841	辛酉⑨	8		
842	壬戌	9		
843	癸亥	10		
844	甲子⑦	11		
845	乙丑	12		
846	丙寅	13		
847	丁卯③	14		
848	戊辰	嘉祥 元	6.13	
849	己巳⑫	2		
850	庚午	3		文徳 3.21
851	辛未	仁寿 元	4.28	
852	壬申⑧	2		
853	癸酉	3		
854	甲戌	斉衡 元	11.30	
855	乙亥④	2		
856	丙子	3		
857	丁丑	天安 元	2.21	
858	戊寅②	2		清和 8.27
859	己卯	貞観 元	4.15	
860	庚辰⑩	2		
861	辛巳	3		
862	壬午	4		
863	癸未⑥	5		
864	甲申	6		
865	乙酉	7		
866	丙戌③	8		
867	丁亥	9		
868	戊子⑫	10		
869	己丑	11		
870	庚寅	12		
871	辛卯⑧	13		
872	壬辰	14		
873	癸巳	15		
874	甲午④	16		
875	乙未	17		
876	丙申	18		陽成
877	丁酉②	元慶 元	4.16	11.29
878	戊戌	2		
879	己亥⑩	3		
880	庚子	4		
881	辛丑	5		
882	壬寅⑦	6		
883	癸卯	7		
884	甲辰	8		
885	乙巳③	仁和 元	2.21	光孝 3.23
886	丙午	2		
887	丁未⑪	3		
888	戊申	4		宇多 8.26
889	己酉	寛平 元	4.27	

西暦	干支	年号		改元	天皇
890	庚戌⑨	寛平	2		宇多
891	辛亥		3		
892	壬子		4		
893	癸丑⑤		5		
894	孝寅		6		
895	乙卯		7		
896	丙辰①		8		
897	丁巳		9		醍醐 7.3
898	戊午⑩	昌泰	元	4.26	
899	己未		2		
900	庚申		3		
901	辛酉⑥	延喜	元	7.15	
902	壬戌		2		
903	癸亥		3		
904	孝子③		4		
905	乙丑		5		
906	丙寅⑫		6		
907	丁卯		7		
908	戊辰		8		
909	己巳⑧		9		
910	庚午		10		
911	辛未		11		
912	壬申⑤		12		
913	癸酉		13		
914	甲戌		14		
915	乙亥②		15		
916	丙子		16		
917	丁丑⑩		17		
918	戊寅		18		
919	己卯		19		
920	庚辰⑥		20		
921	辛巳		21		
922	壬午		22		
923	癸未④	延長	元	④.11	
924	甲申		2		
925	乙酉⑫		3		
926	丙戌		4		
927	丁亥		5		
928	戊子⑧		6		
929	己丑		7		
930	庚寅		8		朱雀 9.22
931	辛卯⑤	承平	元	4.26	
932	壬辰		2		
933	癸巳		3		
934	甲午①		4		
935	乙未		5		
936	丙申⑪		6		
937	丁酉		7		
938	戊戌	天慶	元	5.22	
939	己亥⑦		2		

西暦	干支	年号		改元	天皇
940	庚子	天慶	3		朱雀
941	辛丑		4		
942	壬寅③		5		
943	癸卯		6		
944	甲辰⑫		7		
945	乙巳		8		
946	丙午		9		村上 4.20
947	丁未⑦	天暦	元	4.22	
948	戊申		2		
949	己酉		3		
950	庚戌⑤		4		
951	辛亥		5		
952	壬子		6		
953	癸丑①		7		
954	甲寅		8		
955	乙卯⑨		9		
956	平辰		10		
957	丁巳	天徳	元	10.27	
958	戊午⑦		2		
959	己未		3		
960	庚申		4		
961	辛酉③	応和	元	2.16	
962	壬戌		2		
963	亥⑫		3		
964	甲子	康保	元	7.10	
965	乙丑		2		
966	丙寅⑧		3		
967	丁卯		4		冷泉 5.25
968	戊辰	安和	元	8.13	
969	己巳⑤		2		円融 8.13
970	庚午	天禄	元	3.25	
971	辛未		2		
972	壬申②		3		
973	癸酉	天延	元	12.20	
974	甲戌⑩		2		
975	乙亥		3		
976	丙子	貞元	元	7.13	
977	丁丑⑦		2		
978	戊寅	天元	元	11.29	
979	己卯		2		
980	庚辰③		3		
981	辛巳		4		
982	壬午⑫		5		
983	癸未	永観	元	4.15	
984	甲申		2		花山 8.27
985	乙酉⑧	寛和	元	4.27	
986	丙戌		2		一条 6.23
987	丁亥	永延	元	4.5	
988	戊子⑤		2		
989	己丑	永祚	元	8.8	

西暦	干支	年号	改元	天皇
990	庚寅	正暦 元	11.7	一条
991	辛卯②	2		
992	壬辰	3		
993	癸巳⑩	4		
994	甲午	5		
995	乙未	長徳 元	2.22	
996	丙申⑦	2		
997	丁酉	3		
998	戊戌	4		
999	己亥③	長保 元	1.13	
1000	庚子	2		
1001	辛丑⑫	3		
1002	壬寅	4		
1003	癸卯	5		
1004	甲辰⑨	寛弘 元	7.20	
1005	乙巳	2		
1006	丙午	3		
1007	丁未⑤	4		
1008	戊申	5		
1009	己酉	6		
1010	庚戌②	7		
1011	辛亥	8		三条 6.13
1012	壬子⑩	長和 元	12.25	
1013	癸丑	2		
1014	甲寅	3		
1015	乙卯⑥	4		
1016	丙辰	5		
1017	丁巳	寛仁 元	4.23	後一条
1018	戊午④	2		1.29
1019	己未	3		
1020	庚申⑫	4		
1021	辛酉	治安 元	2.2	
1022	壬戌	2		
1023	癸亥⑨	3		
1024	甲子	万寿 元	7.13	
1025	乙丑	2		
1026	丙寅⑤	3		
1027	丁卯	4		
1028	戊辰	長元 元	7.25	
1029	己巳②	2		
1030	庚午	3		
1031	辛未⑩	4		
1032	壬申	5		
1033	癸酉	6		
1034	甲戌⑥	7		
1035	乙亥	8		
1036	丙子	9		
1037	丁丑④	長暦 元	4.21	後朱雀
1038	戊寅	2		4.17
1039	己卯⑫	3		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1040	庚辰	長久 元	11.10	後朱雀
1041	辛巳	2		
1042	壬午⑨	3		
1043	癸未	4		
1044	甲申	寛徳 元	11.24	
1045	乙酉⑤	2		後冷泉
1046	丙戌	永承 元	4.14	1.16
1047	丁亥	2		
1048	戊子①	3		
1049	己丑	4		
1050	庚寅⑩	5		
1051	辛卯	6		
1052	壬辰	7		
1053	癸巳⑦	天喜 元	1.11	
1054	甲午	2		
1055	乙未	3		
1056	丙申③	4		
1057	丁酉	5		
1058	戊戌⑫	康平 元	8.29	
1059	己亥	2		
1060	庚子	3		
1061	辛丑⑧	4		
1062	壬寅	5		
1063	癸卯	6		
1064	甲辰⑤	7		
1065	乙巳	治暦 元	8.2	
1066	丙午	2		
1067	丁未①	3		
1068	戊申	4		
1069	乙酉⑩	延久 元	4.13	後三条 4.19
1070	庚戌	2		
1071	辛亥	3		
1072	壬子⑦	4		
1073	癸丑	5		白河 12.8
1074	甲寅	承保 元	8.23	
1075	乙卯④	2		
1076	乙辰丁	3		
1077	巳⑫	承暦 元	11.17	
1078	戊午	2		
1079	己未	3		
1080	庚申⑧	4		
1081	辛酉	永保 元	2.10	
1082	壬戌	2		
1083	癸亥⑥	3		
1084	甲子	応徳 元	2.7	
1085	乙丑	2		
1086	丙寅②	3		
1087	丁卯	寛治 元	4.7	堀河
1088	戊辰⑩	2		11.26
1089	己巳	3		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1090	庚午	寛治 4		堀河
1091	辛未⑦	5		
1092	壬申	6		
1093	癸酉	7		
1094	甲戌③	嘉保 元	12.15	
1095	乙亥	2		
1096	丙子	永長 元	12.17	
1097	丁丑①	承徳 元	11.21	
1098	戊寅	2		
1099	己卯⑨	康和 元	8.28	
1100	庚辰	2		
1101	辛巳	3		
1102	壬午⑤	4		
1103	癸未	5		
1104	甲申	長治 元	2.10	
1105	乙酉②	2		
1106	丙戌	嘉承 元	4.9	
1107	丁亥⑩	2		鳥羽 7.19
1108	戊子	天仁 元	8.3	
1109	己丑	2		
1110	庚寅⑦	天永 元	7.13	
1111	辛卯	2		
1112	壬辰	3		
1113	癸巳③	永久 元	7.13	
1114	甲午	2		
1115	乙未	3		
1116	丙申①	4		
1117	丁酉	5		
1118	戊戌⑨	元永 元	4.3	
1119	己亥	2		
1120	庚子	保安 元	4.10	
1121	辛丑⑤	2		
1122	壬寅	3		
1123	癸卯	4		崇徳 1.28
1124	甲辰②	天治 元	4.3	
1125	乙巳	2		
1126	丙午⑩	大治 元	1. 22	
1127	丁未	2		
1128	戊申	3		
1129	己酉⑦	4		
1130	庚戌	5		
1131	辛亥	天承 元	1.29	
1132	壬子④	長承 元	8.11	
1133	癸丑	2		
1134	甲寅⑫	3		
1135	乙卯	保延 元	4.27	
1136	丙辰	2		
1137	丁巳⑨	3		
1138	戊午	4		
1139	己未	5		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1140	庚申⑤	保延 6		崇徳
1141	辛鳥	永治 元	7.10	近衛 12.7
1142	壬戌	康治 元	4.28	
1143	癸亥②	2		
1144	甲子	天養 元	2.23	
1145	乙丑⑩	久安 元	7.22	
1146	丙寅	2		
1147	丁卯	3		
1148	戊辰⑥	4		
1149	己巳	5		
1150	庚午	6		
1151	辛未④	仁平 元	1.26	
1152	壬申	2		
1153	癸酉⑫	3		
1154	甲戌	久寿 元	10.28	
1155	乙亥	2		後白河
1156	丙子⑨	保元 元	4.27	7.24
1157	丁丑	2		
1158	戊寅	3		三条 8.11
1159	己卯⑤	平治 元	4.20	
1160	庚辰	永暦 元	1.10	
1161	辛巳	応保 元	9.4	
1162	壬午②	2		
1163	癸未	長寛 元	3.29	
1164	甲申⑩	2		
1165	乙酉	永万 元	6.5	六条 6.25
1166	丙戌	仁安 元	8.27	
1167	丁亥⑦	2		
1168	戊子	3		
1169	己丑	嘉応 元	4.8	高倉 2.19
1170	庚寅④	2		
1171	辛卯	承安 元	4.21	
1172	壬辰⑫	2		
1173	癸巳	3		
1174	甲午	4		
1175	乙未⑨	安元 元	7.28	
1176	丙申	2		
1177	丁酉	治承 元	8.4	
1178	戊戌⑥	2		
1179	己亥	3		
1180	庚子	4		安徳 2.21
1181	辛丑②	養和 元	7.14	
1182	壬寅	寿永 元	5.27	
1183	癸卯⑩	2		
1184	甲辰	元暦 元	4.16	
1185	乙巳	文治 元	8.14	
1186	丙午⑦	2		後鳥羽 8.20
1187	丁未	3		
1188	戊申	4		
1189	己酉④	5		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1190	庚戌	建久　元	4.11	後鳥羽
1191	辛亥⑫	2		
1192	壬子	3		
1193	癸丑	4		
1194	甲寅⑧	5		
1195	乙卯	6		
1196	丙辰	7		
1197	丁巳⑥	8		
1198	戊午	9		土御門
1199	己未	正治　元	4.27	1.11
1200	庚申②	2		
1201	辛酉	建仁　元	2.13	
1202	壬戌⑩	2		
1203	癸亥	3		
1204	甲子	元久　元	2.20	
1205	乙丑⑦	2		
1206	丙寅	建永　元	4.27	
1207	丁卯	承元　元	10.25	
1208	戊辰④	2		
1209	己巳	3		
1210	庚午	4		順徳
1211	辛未①	建暦　元	3.9	11.25
1212	壬申	2		
1213	癸亥⑨	建保　元	12.6	
1214	甲戌	2		
1215	乙亥	3		
1216	丙子⑥	4		
1217	丁丑	5		
1218	戊寅	6		
1219	己卯②	承久　元	4.12	
1220	庚辰	2		
1221	辛巳⑩	3		仲恭4.20
				後堀河
1222	壬午	貞応　元	4.13	7.9
1223	癸未	2		
1224	甲申⑦	元仁　元	11.20	
1225	乙酉	嘉禄　元	4.20	
1226	丙戌	2		
1227	丁亥③	安貞　元	12.10	
1228	戊子	2		
1229	己丑	寛喜　元	3.5	
1230	庚寅①	2		
1231	辛卯	3		
1232	壬辰⑨	貞永　元	4.2	四条
1233	癸巳	天福　元	4.15	
1234	甲午	文暦　元	11.5	
1235	乙未⑥	嘉禎　元	9.19	
1236	丙申	2		
1237	丁酉	3		
1238	戊戌②	暦仁　元	11.23	

西暦	干支	年号	改元	天皇
1239	己亥	延応　元	2.7	四条
1240	庚子⑩	仁治　元	7.16	
1241	市丑	2		
1242	壬寅	3		後嵯峨
1243	癸卯⑦	寛元　元	2.26	1.20
1244	甲辰	2		
1245	乙巳	3		
1246	丙午④	4		後深草
1247	貞未	宝治　元	2.28	1.29
1248	戊申⑫	2		
1249	己酉	建長　元	3.18	
1250	庚戌	2		
1251	辛亥⑨	3		
1252	壬子	4		
1253	癸丑	5		
1254	甲寅⑤	6		
1255	乙卯	7		
1256	丙辰	康元　元	10.5	
1257	丁巳③	正嘉　元	3.14	
1258	戊午	2		亀山
1259	己未⑩	正元　元	3.26	11.26
1260	庚申	文応　元	4.13	
1261	史酉	弘長　元	2.20	
1262	壬戌⑦	2		
1263	癸亥	3		
1264	甲子	文永　元	2.28	
1265	乙丑④	2		
1266	丙寅	3		
1267	丁卯	4		
1268	戊辰①	5		
1269	己巳	6		
1270	庚午⑨	7		
1271	辛未	8		
1272	壬申	9		
1273	癸酉⑤	10		後宇多
1274	甲戌	11		1026
1275	乙亥	建治　元	4.25	
1276	丙子③	2		
1277	丁丑	3		
1278	戊寅⑩	弘安　元	2.29	
1279	己卯	2		
1280	庚辰	3		
1281	辛巳⑦	4		
1282	壬午	5		
1283	癸未	6		
1284	甲申④	7		
1285	乙酉	8		
1286	丙戌⑫	9		伏見
1287	丁亥	10		10.21

西暦	干支	年号	改元	天皇
1288	戊子	正応　元	4.28	伏見
1289	己丑⑩	2		
1290	庚寅	3		
1291	辛卯	4		
1292	壬辰⑥	5		
1293	癸巳	永仁　元	8.5	
1294	甲午	2		
1295	乙未②	3		
1296	丙申	4		
1297	丁酉⑩	5		
1298	戊戌	6		後伏見
1299	己亥	正安　元	4.25	7.22
1300	庚子⑦	2		
1301	辛丑	3		後二条
1302	壬寅	乾元　元	11.21	1.21
1303	癸卯④	嘉元　元	8.5	
1304	甲辰	2		
1305	乙巳⑫	3		
1306	丙午	徳治　元	12.14	
1307	丁未	2		
1308	戊申⑧	延慶　元	10.9	花園
1309	己酉	2		8.26

西暦	干支	年号	改元	天皇
1310	庚戌	延慶　3		花園
1311	辛亥⑥	応長　元	4.28	
1312	壬子	正和　元	3.20	
1313	癸丑	2		
1314	甲寅③	3		
1315	乙卯	4		
1316	丙辰⑩	5		
1317	丁巳	文保　元	2.3	
1318	戊午	2		後醍醐
1319	己未⑦	元応　元	4.28	2.26
1320	庚申	2		
1321	辛酉	元享　元	2.23	
1322	壬戌⑤	2		
1323	癸亥	3		
1324	甲子	正中　元	12.9	
1325	乙丑①	2		
1326	丙寅	嘉暦　元	4.26	
1327	丁卯⑨	2		
1328	戊辰	3		
1329	己巳	元徳　元	8.29	
1330	庚午⑥	2		

西暦	干支	㊂年号	改元	㊃年号	改元	㊂天皇	㊃天皇
1331	辛未	元徳　3		元弘　元	8.9	光厳	後醍醐
1332	壬申	正慶　元	4.28	2		9.20	
1333	癸酉②	2		3			
1334	甲戌	建武　元	1.29	建武　元	1.29		
1335	乙亥⑩	2		2			
1336	丙子	3		延元　元	2.29	光明	
1337	丁丑	4		2		8015	
1338	戊寅⑦	暦応　元	8.28	3			
1339	己卯	2		4			後村上
1340	庚辰	3		興国　元	4.28		8.15
1341	辛巳④	4		2			
1342	壬午	康永　元	4.27	3			
1343	癸未	2		4			
1344	甲申②	3		5			
1345	乙酉	貞和　元	10.21	6			
1346	丙戌⑨	2		正平　元	12.8		
1347	丁亥	3		2			
1348	戊子	4		3		崇光	
1349	己丑⑥	5		4		10.27	
1350	庚寅	観応　元	2.27	5			
1351	辛卯	2		6		後光厳	
1352	壬辰②	文和　元	9.27	7		8.17	
1353	癸巳	2		8			
1354	甲午⑩	3		9			

西暦	干支	㊂年号	改元	㊄年号	改元	㊂天皇	㊄天皇
1355	乙未	文和 4		正平 10		後光厳	後村上
1356	丙申	延文 元	3.28	11			
1357	丁酉⑦	2		12			
1358	戊戌	3		13			
1359	己亥	4		14			
1360	庚子④	5		15			
1361	辛丑	康安 元	3.29	16			
1362	壬寅	貞治 元	9.23	17			
1363	癸卯①	2		18			
1364	甲辰	3		19			
1365	乙巳⑨	4		20			
1366	丙午	5		21			
1367	丁未	6		22			
1368	戊申⑥	応安 元	2.18	23			長慶
1369	己酉	2		24			3.11
1370	庚戌	3		建徳 元	7.24		
1371	辛亥③	4		2		後円融	
1372	壬子	5		文中 元	4.？	3.23	
1373	癸丑⑩	6		2			
1374	甲寅	7		3			
1375	乙卯	永和 元	2.27	天授 元	5.27		
1376	丙辰⑦	2		2			
1377	丁巳	3		3			
1378	戊午	4		4			
1379	己未④	康暦 元	3.22	5			
1380	庚申	2		6			
1381	辛酉	永徳 元	2.24	弘和 元	2.10		
1382	壬戌①	2		2		後小松	
1383	癸亥	3		3		4.11	後亀山
1384	甲子⑨	至徳 元	2.27	元中 元	4.28		
1385	乙丑	2		2			
1386	丙寅	3		3			
1387	丁卯⑤	嘉慶 元	8.23	4			
1388	戊辰	2		5			
1389	己巳	康応 元	2.9	6			
1390	庚午③	明徳 元	3.26	7			
1391	辛未	2		8			
1392	壬申⑩	3		9			

西暦	干支	年号	改元	天皇
1393	癸酉	明徳 4		後小松
1394	甲戌	応永 元	7.5	
1395	乙亥⑦	2		
1396	丙子	3		
1397	丁丑	4		
1398	戊寅④	5		
1399	己卯	6		
1400	庚辰	7		
1401	辛巳①	8		
1402	壬午	9		
1403	癸未⑩	10		
1404	甲申	11		
1405	乙酉	12		
1406	丙戌⑥	13		
1407	丁亥	14		
1408	戊子	15		
1409	己丑③	16		
1410	庚寅	17		
1411	辛卯⑩	18		
1412	壬辰	19		称光
1413	癸巳	20		8.29
1414	甲午⑦	21		
1415	乙未	22		
1416	丙申	23		
1417	丁酉⑤	24		
1418	戊戌	25		
1419	己亥	26		
1420	庚子①	27		
1421	辛丑	28		
1422	壬寅⑩	29		
1423	癸卯	30		
1424	甲辰	31		
1425	乙巳⑥	32		
1426	丙午	33		
1427	丁未	34		
1428	戊申③	正長 元	4.27	後花園
1429	己酉	永享 元	9.5	7.28
1430	庚戌⑪	2		
1431	辛亥	3		
1432	壬子	4		
1433	癸丑⑦	5		
1434	甲寅	6		
1435	乙卯	7		
1436	丙辰⑤	8		
1437	丁巳	9		
1438	戊午	10		
1439	己未①	11		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1440	庚申	永享 12		後花園
1441	辛酉⑨	嘉吉 元	2.17	
1442	壬戌	2		
1443	癸亥	3		
1444	甲子⑥	文安 元	2.5	
1445	乙丑	2		
1446	丙寅	3		
1447	丁卯②	4		
1448	戊辰	5		
1449	己巳⑩	宝徳 元	7.28	
1450	庚午	2		
1451	辛未	3		
1452	壬申⑧	享徳 元	7.25	
1453	癸酉	2		
1454	甲戌	3		
1455	乙亥④	康正 元	7.25	
1456	丙子	2		
1457	丁丑	長禄 元	9.28	
1458	戊寅①	2		
1459	己卯	3		
1460	庚辰⑨	寛正 元	12.21	
1461	辛巳	2		
1462	壬午	3		
1463	癸未⑥	4		
1464	甲申	5		後土御門
1465	乙酉	6		7.19
1466	丙戌②	文正 元	2.28	
1467	丁亥	応仁 元	3.5	
1468	戊子⑩	2		
1469	己丑	文明 元	4.28	
1470	庚寅	2		
1471	辛卯⑧	3		
1472	壬辰	4		
1473	癸巳	5		
1474	甲午⑤	6		
1475	乙未	7		
1476	丙申	8		
1477	丁酉①	9		
1478	戊戌	10		
1479	己亥⑨	11		
1480	庚子	12		
1481	辛丑	13		
1482	壬寅⑦	14		
1483	癸卯	15		
1484	甲辰	16		
1485	乙巳③	17		
1486	丙午	18		
1487	丁未⑪	長享 元	7.20	
1488	戊申	2		
1489	己酉	延徳 元	8.21	

西暦	干支	年号		改元	天皇
1490	庚戌⑧	延徳	2		後土御門
1491	辛亥		3		
1492	壬子	明応	元	7.19	
1493	癸丑④		2		
1494	甲寅		3		
1495	乙卯		4		
1496	丙辰②		5		
1497	丁巳		6		
1498	戊午⑩		7		
1499	己未		8		
1500	庚申		9		後柏原
1501	辛酉⑥	文亀	元	2.29	10.25
1502	壬戌		2		
1503	癸亥		3		
1504	甲子③	永正	元	2.30	
1505	乙丑		2		
1506	丙寅⑪		3		
1507	丁卯		4		
1508	戊辰		5		
1509	己巳⑧		6		
1510	庚午		7		
1511	辛未		8		
1512	壬申④		9		
1513	癸酉		10		
1514	甲戌		11		
1515	乙亥②		12		
1516	丙子		13		
1517	丁丑⑩		14		
1518	戊寅		15		
1519	己卯		16		
1520	庚辰⑥		17		
1521	辛巳	大永	元	8.23	
1522	壬午		2		
1523	癸未③		3		
1524	甲申		4		
1525	乙酉⑪		5		
1526	丙戌		6		後奈良
1527	丁亥		7		4.29
1528	戊子⑨	享禄	元	8.20	
1529	己丑		2		
1530	庚寅		3		
1531	辛卯⑤		4		
1532	壬辰	天文	元	7.29	
1533	癸巳		2		
1534	甲午①		3		
1535	乙未		4		
1536	丙申⑩		5		
1537	丁酉		6		
1538	戊戌		7		
1539	己亥⑥		8		

西暦	干支	年号		改元	天皇
1540	庚子	天文	9		後奈良
1541	辛丑		10		
1542	壬寅③		11		
1543	癸卯		12		
1544	甲辰⑪		13		
1545	乙巳		14		
1546	丙午		15		
1547	丁未⑦		16		
1548	戊申		17		
1549	己酉		18		
1550	庚戌⑤		19		
1551	辛亥		20		
1552	壬子		21		
1553	癸丑①		22		
1554	甲寅		23		
1555	乙卯⑩	弘治	元	10.23	
1556	丙辰		2		
1557	丁巳		3		正親町
1558	戊午⑥	永禄	元	2.28	10.27
1559	己未		2		
1560	庚申		3		
1561	辛酉③		4		
1562	壬戌		5		
1563	癸亥⑫		6		
1564	甲子		7		
1565	乙丑		8		
1566	丙寅⑧		9		
1567	丁卯		10		
1568	戊辰		11		
1569	己巳⑤		12		
1570	庚午	元亀	元	4.23	
1571	辛未		2		
1572	壬申①		3		
1573	癸酉	天正	元	7.28	
1574	甲戌⑪		2		
1575	乙亥		3		
1576	丙子		4		
1577	丁丑⑦		5		
1578	戊寅		6		
1579	己卯		7		
1580	庚辰③		8		
1581	辛巳		9		
1582	壬午		10		
1583	癸未①		11		
1584	甲申		12		
1585	乙酉⑧		13		
1586	丙戌		14		後陽成
1587	丁亥		15		11.7
1588	戊子⑤		16		
1589	己丑		17		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1590	庚寅	天正 18		後陽成
1591	辛卯①	19		
1592	壬辰	文禄 元	12.8	
1593	癸巳⑨	2		
1594	甲午	3		
1595	乙未	4		
1596	丙申⑦	慶長 元	10.27	
1597	丁酉	2		
1598	戊戌	3		
1599	己亥③	4		
1600	庚子	5		
1601	辛丑⑪	6		
1602	壬寅	7		
1603	癸卯	8		
1604	甲辰⑧	9		
1605	乙巳	10		
1606	丙午	11		
1607	丁未④	12		
1608	戊申	13		
1609	己酉	14		
1610	庚戌②	15		
1611	辛亥	16		後水尾
1612	壬子⑩	17		3.27
1613	癸丑	18		
1614	甲寅	19		
1615	乙卯⑥	元和 元	7.13	
1616	丙辰	2		
1617	丁巳	3		
1618	戊午③	4		
1619	己未	5		
1620	庚申⑫	6		
1621	辛酉	7		
1622	壬戌	8		
1623	癸亥⑧	9		
1624	甲子	寛永 元	2.30	
1625	乙丑	2		
1626	丙寅④	3		
1627	丁卯	4		
1628	戊辰	5		
1629	己巳②	6		明正 11.8
1630	庚午	7		
1631	辛未⑩	8		
1632	壬申	9		
1633	癸酉	10		
1634	甲戌⑦	11		
1635	乙亥	12		
1636	丙子	13		
1637	丁丑③	14		
1638	戊寅	15		
1639	己卯⑪	16		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1640	庚辰	寛永 17		明正
1641	辛巳	18		
1642	壬午⑨	19		
1643	癸未	20		後光明
1644	甲申	正保 元	12.16	10.3
1645	乙酉⑤	2		
1646	丙戌	3		
1647	丁亥	4		
1648	戊子①	慶安 元	2.15	
1649	己丑	2		
1650	庚寅⑩	3		
1651	辛卯	4		
1652	壬辰	承応 元	9.18	
1653	癸巳⑥	2		
1654	甲午	3		後西
1655	乙未	明暦 元	4.13	11.28
1656	丙申④	2		
1657	丁酉	3		
1658	戊戌⑫	万治 元	7.23	
1659	己亥	2		
1660	庚子	3		
1661	辛丑⑧	寛文 元	4.25	
1662	壬寅	2		
1663	癸卯	3		霊元
1664	甲辰⑤	4		
1665	乙巳	5		
1666	丙午	6		
1667	丁未②	7		
1668	戊申	8		
1669	己酉⑩	9		
1670	庚戌	10		
1671	辛亥	11		
1672	壬子⑥	12		
1673	癸丑	延宝 元	9.21	
1674	甲寅	2		
1675	乙卯④	3		
1676	丙辰	4		
1677	丁巳⑫	5		
1678	戊午	6		
1679	己未	7		
1680	庚申⑧	8		
1681	辛酉	天和 元	9.29	
1682	壬戌	2		
1683	癸亥⑤	3		
1684	甲子	貞享 元	2.21	
1685	乙丑	2		
1686	丙寅③	3		
1687	丁卯	4		東山
1688	戊辰	元禄 元	9.30	3.21
1689	己巳①	2		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1690	庚午	元禄 3		東山
1691	辛未⑧	4		
1692	壬申	5		
1693	癸酉	6		
1694	甲戌⑤	7		
1695	乙亥	8		
1696	丙子	9		
1697	丁丑②	10		
1698	戊寅	11		
1699	己卯⑨	12		
1700	庚辰	13		
1701	辛巳	14		
1702	壬午⑧	15		
1703	癸未	16		
1704	甲申	宝永 元	3.13	
1705	乙酉④	2		
1706	丙戌	3		
1707	丁亥	4		
1708	戊子①	5		
1709	己丑	6		中御門 6.21
1710	庚寅⑧	7		
1711	辛卯	正徳 元	4.25	
1712	壬辰	2		
1713	癸巳⑤	3		
1714	甲午	4		
1715	乙未	5		
1716	丙申②	享保 元	6.22	
1717	丁酉	2		
1718	戊戌⑩	3		
1719	己亥	4		
1720	庚子	5		
1721	辛丑⑦	6		
1722	壬寅	7		
1723	癸卯	8		
1724	甲辰④	9		
1725	乙巳	10		
1726	丙午	11		
1727	丁未①	12		
1728	戊申	13		
1729	己酉⑨	14		
1730	庚戌	15		
1731	辛亥	16		
1732	壬子⑤	17		
1733	癸丑	18		
1734	甲寅	19		
1735	乙卯③	20		桜町
1736	丙辰	元文 元	4.28	3.21
1737	丁巳⑪	2		
1738	戊午	3		
1739	己未	4		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1740	庚申⑦	元文 5		桜町
1741	辛酉	寛保 元	2.27	
1742	壬戌	2		
1743	癸亥④	3		
1744	甲子	延享 元	2.21	
1745	乙丑⑫	2		
1746	丙寅	3		
1747	丁卯	4		桃園
1748	戊辰⑩	寛延 元	7.12	5.2
1749	己巳	2		
1750	庚午	3		
1751	辛未⑥	宝暦 元	10.27	
1752	壬申	2		
1753	癸酉	3		
1754	甲戌②	4		
1755	乙亥	5		
1756	丙子⑪	6		
1757	丁丑	7		
1758	戊寅	8		
1759	己卯⑦	9		
1760	庚辰	10		
1761	辛巳	11		
1762	壬午④	12		後桜町
1763	癸未	13		7.27
1764	甲申⑫	明和 元	6.2	
1765	乙酉	2		
1766	丙戌	3		
1767	丁亥⑨	4		
1768	戊子	5		
1769	己丑	6		
1770	庚寅⑥	7		後桃園
1771	辛卯	8		11.27
1772	壬辰	安永 元	11.16	
1773	癸巳③	2		
1774	甲午	3		
1775	乙未⑫	4		
1776	丙申	5		
1777	丁酉	6		
1778	戊戌⑦	7		
1779	己亥	8		光格 11.25
1780	庚子	9		
1781	辛丑⑤	天明 元	4.2	
1782	壬寅	2		
1783	癸卯	3		
1784	甲辰①	4		
1785	乙巳	5		
1786	丙午⑩	6		
1787	丁未	7		
1788	戊申	8		
1789	己酉⑥	寛政 元	1.25	

西暦	干支	年号		改元	天皇
1790	庚戌	寛政	2		光格
1791	辛亥		3		
1792	壬子②		4		
1793	癸丑		5		
1794	甲寅⑪		6		
1795	乙卯		7		
1796	丙辰		8		
1797	丁巳⑦		9		
1798	戊午		10		
1799	己未		11		
1800	庚申④		12		
1801	辛酉	享和	元	2.5	
1802	壬戌		2		
1803	癸亥①		3		
1804	甲子	文化	元	2.11	
1805	乙丑⑧		2		
1806	丙寅		3		
1807	丁卯		4		
1808	戊辰⑥		5		
1809	己巳		6		
1810	庚午		7		
1811	辛未②		8		
1812	壬申		9		
1813	癸酉⑪		10		
1814	甲戌		11		
1815	乙亥		12		
1816	丙子⑧		13		
1817	丁丑		14		仁孝
1818	戊寅	文政	元	4.22	
1819	己卯④		2		
1820	庚辰		3		
1821	辛巳		4		
1822	壬午①		5		
1823	癸未		6		
1824	甲申⑧		7		
1825	乙酉		8		
1826	丙戌		9		
1827	丁亥⑥		10		
1828	戊子		11		
1829	己丑		12		
1830	庚寅③	天保	元	12.10	
1831	辛卯		2		
1832	壬辰⑪		3		
1833	癸巳		4		
1834	甲午		5		
1835	乙未⑦		6		
1836	丙申		7		
1837	丁酉		8		
1838	戊戌④		9		
1839	己亥		10		

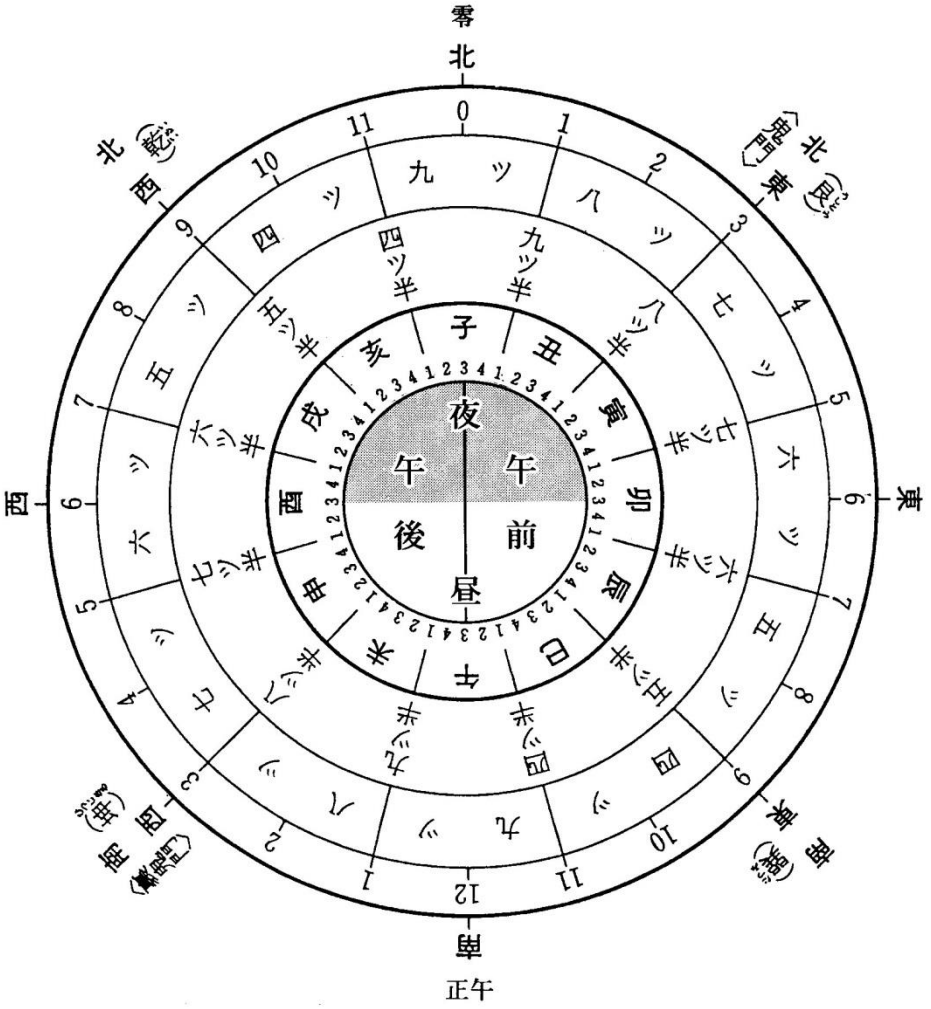
西暦	干支	年号		改元	天皇
1840	庚子	天保	11		仁孝
1841	辛丑①		12		
1842	壬寅		13		
1843	癸卯⑨		14		
1844	甲辰	弘化	元	12.2	
1845	乙巳		2		
1846	丙午⑤		3		孝明
1847	丁未		4		2.13
1848	戊申	嘉永	元	2.28	
1849	己酉④		2		
1850	庚戌		3		
1851	辛亥		4		
1852	壬子②		5		
1853	癸丑		6		
1854	甲寅⑦	安政	元	11.27	
1855	乙卯		2		
1856	丙辰		3		
1857	丁巳⑤		4		
1858	戊午		5		
1859	己未		6		
1860	庚申③	万延	元	3.18	
1861	辛酉	文久	元	2.19	
1862	壬戌⑧		2		
1863	癸亥		3		
1864	甲子	元治	元	2.20	
1865	乙丑⑤	慶応	元	4.7	
1866	丙寅		2		
1867	丁卯		3		明治1.9
1868	戊辰④	明治	元	9.8	
1869	己巳		2		
1870	庚午⑩		3		
1871	辛未		4		
1872	壬申		5		
1873	癸酉		6		
1874	甲戌		7		
1875	乙亥		8		
1876	丙子		9		
1877	丁丑		10		
1878	戊寅		11		
1879	己卯		12		
1880	庚辰		13		
1881	辛巳		14		
1882	壬午		15		
1883	癸未		16		
1884	甲申		17		
1885	乙酉		18		
1886	丙戌		19		
1887	丁亥		20		
1888	戊子		21		
1889	己丑		22		

西暦	干支	年号	改元	天皇
1890	庚寅	明治 23		明治
1891	辛卯	24		
1892	壬辰	25		
1893	癸巳	26		
1894	孝午	27		
1895	乙未	28		
1896	丙申	29		
1897	丁酉	30		
1898	戊戌	31		
1899	己亥	32		
1900	庚子	33		
1901	辛丑	34		
1902	壬寅	35		
1903	癸卯	36		
1904	甲辰	37		
1905	乙巳	38		
1906	丙午	39		
1907	丁未	40		
1908	戊申	41		
1909	己酉	42		
1910	庚戌	43		
1911	辛亥	44		
1912	壬子	大正 元	7.30	大正
1913	癸丑	2		
1914	甲寅	3		
1915	乙卯	4		
1916	丙辰	5		
1917	丁巳	6		
1918	戊午	7		
1919	己未	8		
1920	庚申	9		
1921	辛酉	10		
1922	壬戌	11		
1923	癸亥	12		
1924	甲子	13		
1925	乙丑	14		
1926	丙寅	昭和 元	12.25	昭和
1927	丁卯	2		
1928	戊辰	3		
1929	己巳	4		
1930	庚午	5		
1931	辛未	6		
1932	壬申	7		
1933	癸酉	8		
1934	甲戌	9		
1935	乙亥	10		
1936	丙子	11		
1937	丁丑	12		
1938	戊寅	13		
1939	己卯	14		

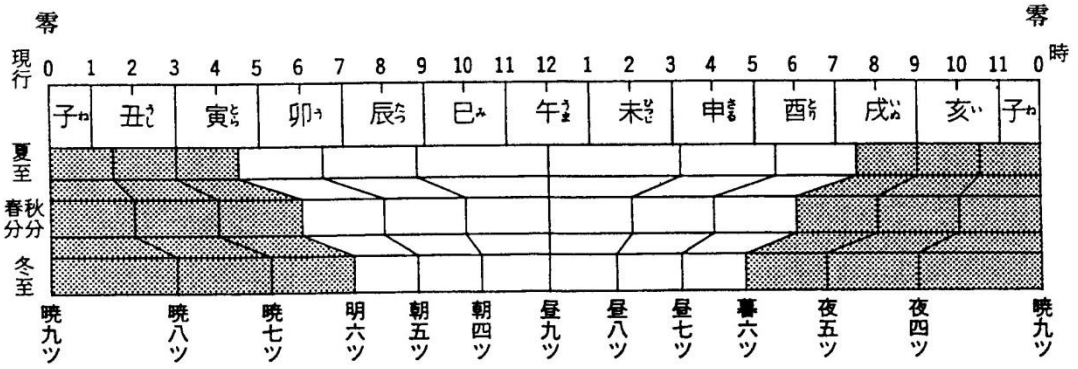
西暦	干支	年号	改元	天皇
1940	庚辰	昭和 15		昭和
1941	辛巳	16		
1942	壬午	17		
1943	癸未	18		
1944	甲申	19		
1945	乙酉	20		
1946	丙戌	21		
1947	丁亥	22		
1948	戊子	23		
1949	己丑	24		
1950	庚寅	25		
1951	辛卯	26		
1952	壬辰	27		
1953	癸巳	28		
1954	甲午	29		
1955	乙未	30		
1956	丙申	31		
1957	丁酉	32		
1958	戊戌	33		
1959	己亥	34		
1960	庚子	35		
1961	辛丑	36		
1962	壬寅	37		
1963	癸卯	38		
1964	甲辰	39		
1965	乙巳	40		
1966	丙午	41		
1967	丁未	42		
1968	戊申	43		
1969	己酉	44		
1970	庚戌	45		
1971	辛亥	46		
1972	壬子	47		
1973	癸丑	48		
1974	甲寅	49		
1975	乙卯	50		
1976	丙辰	51		
1977	丁巳	52		
1978	戊午	53		
1979	己未	54		
1980	庚申	55		
1981	辛酉	56		
1982	壬戌	57		
1983	癸亥	58		
1984	甲子	59		
1985	乙丑	60		
1986	丙寅	61		
1987	丁卯	62		
1988	戊辰	63		
1989	己巳	平成 元	1.8	今上

西暦	干　支	年　号	改　元	天　皇
1990	庚午	平成　2		今上
1991	辛未	3		
1992	壬申	4		
1993	癸酉	5		
1994	甲戌	6		
1995	乙亥	7		
1996	丙子	8		
1997	丁丑	9		
1998	戊寅	10		
1999	己卯	11		
2000	庚辰	12		
2001	辛巳	13		
2002	壬午	14		
2003	癸未	15		
2004	甲申	16		
2005	乙酉	17		
2006	丙戌	18		
2007	丁亥	19		
2008	戊子	20		
2009	己丑	21		
2010	庚寅	22		
2011	辛卯	23		
2012	壬辰	24		
2013	癸巳	25		
2014	甲午	26		
2015	乙未	27		
2016	丙申	28		
2017	丁酉	29		
2018	戊戌	30		
2019	己亥	31	5.1	

方位・時刻表



〈近世の不定時法〉



（『群馬県史』通史編５より作成）

旧度量衡・通貨表

度 (長さ)		1丈（じょう）	10尺	３．０３０メートル
		1尺（しゃく）	10寸	０．３０３メートル
		1寸（すん）	10分	３０．３０センチメートル
		1分（ぶ）	10厘（りん）	０．３０３センチメートル
量 (容量)		1石（こく）	10斗	180.39リットル
		1斗（と）	10升	18.039リットル
		1升（しょう）	10合	1.8039リットル
		1合（ごう）	10勺	0.18039リットル
		1勺（しゃく）	10才（さい）	0.018039リットル
衡 (重さ)		1貫（かん）	1000匁	3.75キログラム
		1匁（もんめ）	10分	3.75グラム
		1分（ぶん）	10厘（りん）	0.375グラム
地積		1町（ちょう）	10反	9.917.36平方メートル
		1反（たん）	10畝	991.736平方メートル
		1畝（せ）	30歩（坪）	99.173平方メートル
		1歩（坪）（ぶ）	10合	3.3058平方メートル
距離		1里（り）	36町	3.927キロメートル
		1町（ちょう）	60間	109.09メートル
		1間（けん）	6尺（しゃく）	1.818メートル
通貨	金	1両（りょう）	4分（歩）	
		1分（ぶ）	4朱	
		1朱（しゅ）		
	銀	1貫目（かんめ）	1,000匁	
		1匁（もんめ）	10分	
		1分（ぶん）	10厘	
		1厘（りん）	10毛（もう）	
	銭	1貫文（かんもん）	1000文	
		1疋（ひき）	10文	

（『群馬県史』通史編５（付録）より作成）

桐生地域町村名変遷図

天正18年(1590)
高橋英元が開拓
サカイノハラ
境野原

寛文年間
サカイノムラ
境野村

天正年間
シンシュクムラ
新宿村

観応元年
(1350)
アラトノ
荒戸野

アラトムラ
荒戸村

慶長3年(1598)
(荒戸連合村)イマイズミムラ
荒戸今泉村
モトジュクムラ
荒戸本宿村
ツツミムラ
荒戸堤村
ムラマツムラ
荒戸村松村

寛文13年(1673)
今泉村
本宿村
堤村
村松村

天和2年(1682)

明治6年(1873)1月10日
アラトムラ
安楽土村

明治22年(1889)
4月１日
桐生町

大正10年(1921)3月1日
桐生市

昭和12年4月1日
(1937)

昭和8年4月1日
(1933)

昭和29年
10月1日
(1954)

昭和30年
6月1日
(1955)

昭和34年
1月1日
(1959)

昭和43年
4月1日
(1968)

桐生市

久安年間
(1150)
キリフムラ
桐生村

寛正3年
(1462)
クボウムラ
久方村

天正14年
(1586)
新町
1・2丁目分

アラトシンマチ
荒戸新町(荒戸村の分3～6丁目ができる)

天和２年(1682)
キリフシンマチ
桐生新町(1～6丁目・横町ができる、番号町になる)

シモヒサカタムラ
下久方村

カミヒサカタムラ
上久方村
慶長3年(1598)

承応年間(1652~1655)
上久方村
アサベムラ
浅部村
コウザワムラ
高沢村

ヒライ
平井ほか6字

明治22年(1889)4月1日
梅田村

久安年間
(1150)
オシヤマムラ
忍山村(押山村)

フタワタリムラ
二渡村

天正以前
二渡村

カミフタワタリムラ
上二渡村

シモフタワタリムラ
下二渡村

フタワタリムラ
二渡村

ヤマチムラ
山地村

ヨシザワアザカラサワ
毛里田村大字吉沢字唐沢の一部

イッポンギムラ
一本木村
天正以前
(1573)

明治22年(1889)4月1日
広沢村

延暦15年
(796)
ヒロサワ
広沢

年代不明
ヒロサワムラ
広沢村

カミヒロサワムラ
上広沢村
天正19年
(1591)
シモヒロサワムラ
下広沢村

慶長3年(1598)
ナカヒロサワムラ
中広沢村

明治9年(1876)
ヒロサワムラ
広沢村

天正以前
(1573)
ニョライドウムラ
如来堂村

慶長10年(1605)
カミシンデンムラ
上新田村

寛永19年(1642)
オオママシンデン
大間々新田

オオママムラ
大間々村

延享2年(1745)
アマヌマシンデン
天沼新田

相生村
明治22年(1889)4月1日

フキハライノ
吹払野

シンデンハラ
新田原

シモシンデンムラ
下新田村

カブッチョムラ
蕪町村

テンノウジュクムラ
天王宿村

慶長3年(1598)
ヒガシオグラムラ
東小倉村
寛文9年(1669)
ニシオグラムラ
西小倉村

オグラ
小倉

オグラムラ
小倉村

スナガ
須永

スナガムラ
須永村

タカツド
高津戸

タカツドムラ
高津戸村
永正9年以前(1512)

明治22年(1889)4月1日
川内村

大間々町(旧高津戸村の約半分)

シモニタヤマムラ
下仁田山村
天正3年(1575)

慶長3年(1598)
ナカニタヤマムラ
中仁田山村
カミニタヤマムラ
上仁田山村

ナグキムラ
名久木村

ニタヤマムラ
仁田山村

上仁田山村

明治9年(1876)
ヤマダムラ
山田村

弘治2年以前(1556)
カミビシムラ
上菱村

応永19年以前
(1412)
ヒシムラ
(下野国梁田郡)菱村

シモビシムラ
下菱村

天正18年以前(1590)
下菱村

下菱村
慶長3年(1598)
(下菱村内中里)
ナカザト

(足利郡)下菱村
元禄14年(1701)11月

明治8年(1875)1月23日
クロカワムラ
黒川村

明治22年(1889)4月1日
菱村

オトモムラ
小友村

小友村
(小友村内一色)
イシキ

安政頃分村(1854)
(米沢川右岸)
(米沢川左岸)

ヨネザワムラ
(下野国足利郡)米沢村

オマタムラ
(下野国足利郡)小俣村

寛永10年(1633)4月
彦根藩領となり改名
カミヒコマムラ
上彦間村
シモヒコマムラ
下彦間村

明治22年(1889)4月1日
飛駒村

昭和31年(1956)9月30日
田沼町大字飛駒
(内)

※入飛駒のみ桐生市に合併
イリヒコマ
入飛駒
カミヒコマ
上飛駒
ナカヒコマ
中飛駒
シモヒコマ
下飛駒

新合村(田沼町に合併)

アソゲントオバラゴウ
(下野国安蘇郡)遠原郷

カミトオバラゴウ
上遠原郷

シモトオバラゴウ
下遠原郷

治承3年(1179)改名
ヒコマムラ
飛駒村

カンマムラ
閑馬村

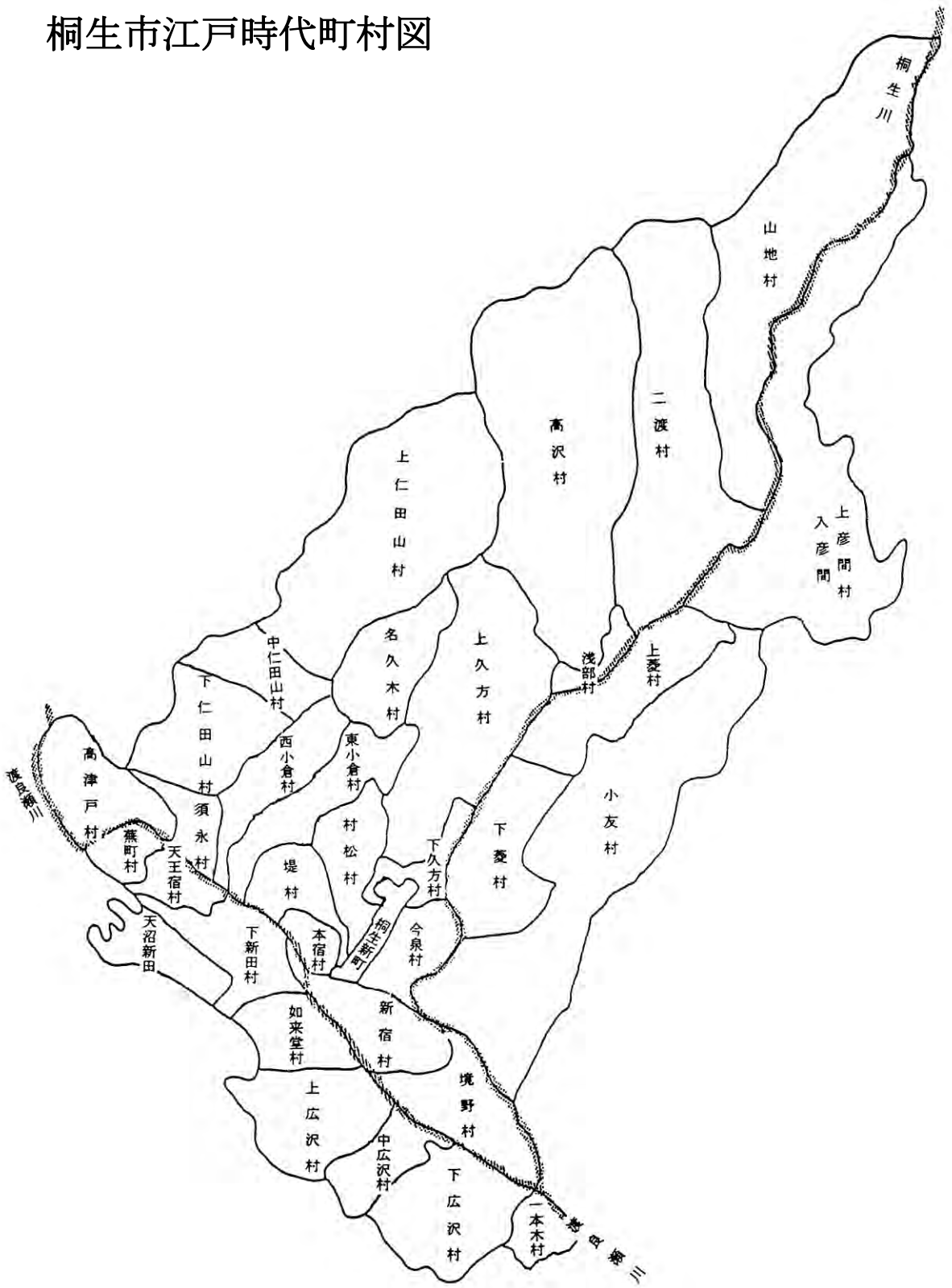
慶長4年(1599)
カミヒコマムラ
上飛駒村

シモヒコマムラ
下飛駒村

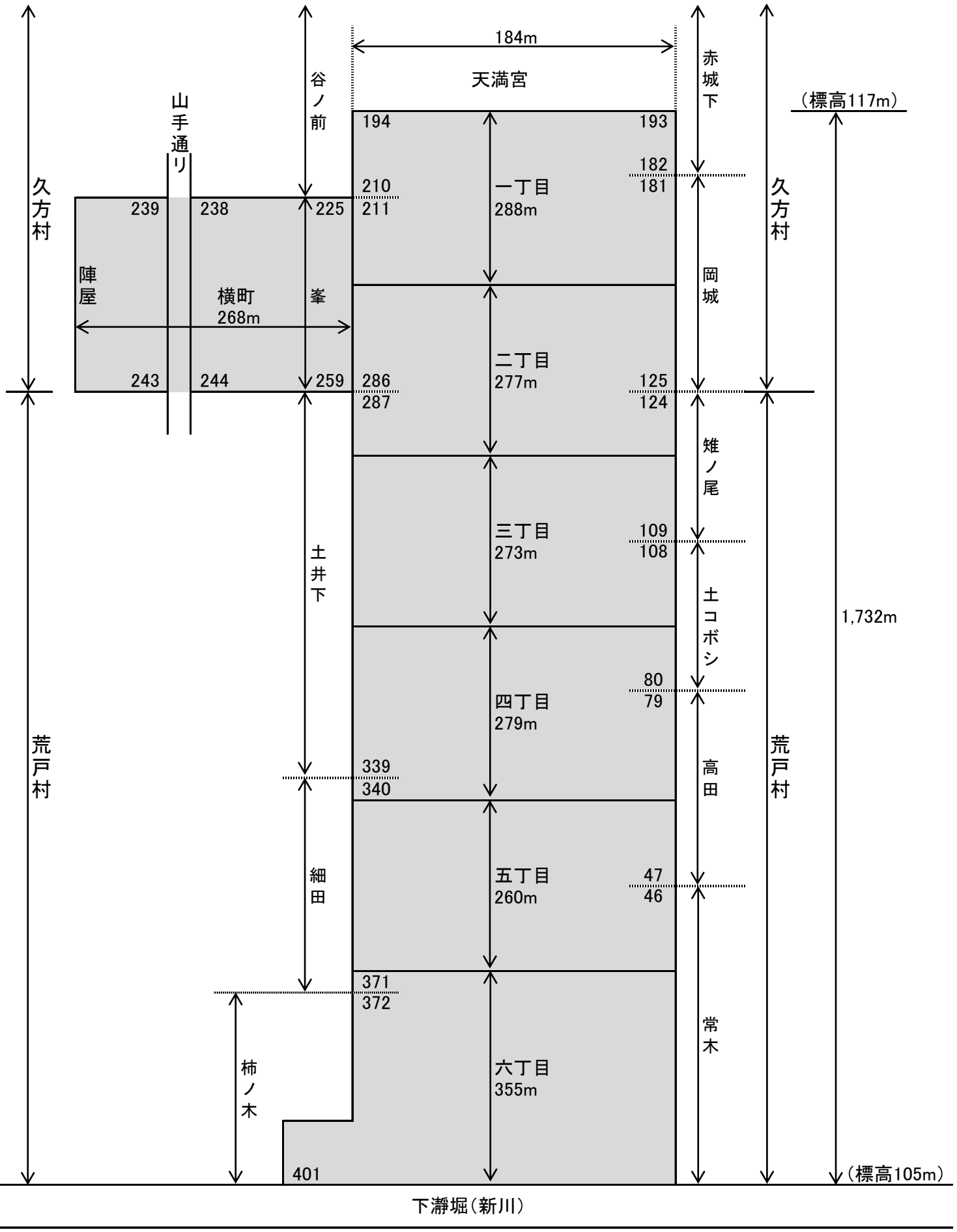
(島田一郎　作成)

PDF版桐生市歴史年表（2019年6月）

桐生市江戸時代町村図


桐生川
山地村
二渡村
高沢村
上仁田山村
上彦間村
入彦間
中仁田山村
名久木村
上久方村
浅部村
上菱村
下仁田山村
西小倉村
東小倉村
高津戸村
燕町村
須永村
天王宿村
堤村
村松村
下久方村
下菱村
小友村
天沼新田
下新田村
本宿村
桐生新町
今泉村
如来堂村
新宿村
境野村
上広沢村
中広沢村
下広沢村
一本木村

荒戸新町「字」推定図



※数字は地番

江戸期 村別 石高・領主表

1．この表は『関東甲豆郷帳』（近藤出版社刊）より本市に関係するものを掲載した。

2．元禄郷帳は、村名・領主名・村高の順で記し、天保郷帳は、村名・村高の順とした。ただし、領主名のうち、必ずしも元禄期に該当する領主とはおもわれない者も含まれるが、原史料通りとした。

【元禄郷帳】

上野国　山田郡

		石
一本木村	大久保玄蕃頭知行	69.69.300
上広沢村	御料所	902.17350
	神谷与七郎知行	
	岩瀬吉左衛門知行	
	能勢惣十郎知行	
	布施孫兵衛知行	
	大雄院領	
中広沢村	金田左平次知行	414.38500
	日根野伝八郎知行	
下広沢村	石尾伊織知行	674.23400
	榊原采女知行	
	石尾又次郎知行	
境野村	中根大隈守知行	686.40600
	小出和泉守知行	
	坂本小左衛門知行	
新宿村	安藤伝右衛門知行	586.07000
	落合源右衛門知行	
	浄運寺領	
(古)荒戸村		
桐生新町		
今泉村		
本宿村		
堤村		
村松村		
	神尾備前守知行	2778.49900
	伏見主水知行	
	太田修理知行	
	河野権九郎知行	
	大久保喜六郎知行	
	渡辺孫助知行	
	阿部喜三郎知行	
	水野与左衛門知行	
	布施孫兵衛知行	
	聖眼寺領	
	浄運寺領	
上久方村	小田切土佐守知行	783.25000
	佐野内蔵丞知行	
	松平左門知行	
	溝口十大夫知行	
	近藤十兵衛知行	
	鳳仙寺領	
	渭雲寺領	

上久方村之枝郷		石
高沢村	河野源太郎知行	179.51000
	曲淵市大夫知行	
	高薗寺領	
上久方村之枝郷		
浅部村	森川下総守知行	261.11600
下久方村	内藤式部少輔知行	708.54500
	夏目杢左衛門知行	
	松平新蔵知行	
	大蔵院領	
	西方寺領	
	天神社領	
如来堂村	中根大隈守知行	169.05500
下新田村	御料所	273.31700
天王宿村	〃	213.16100
西小倉村	池田帯刀知行	383.43700
	崇禅寺領	
東小倉村	大久保玄蕃頭知行	284.55200
	東禅寺領	
蕪町村	御料所	73.07100
高津戸村	甲斐庄喜右衛門知行	288.04100
須永村	太田修理知行	332.04100
	野々山彦右衛門知行	
	阿部喜三郎知行	
	雲祥寺領	
名久木村	内藤新五郎知行	166.80700
上仁田山村	太田修理知行	390.53600
	河野善左衛門知行	
	酒井三右衛門知行	
	阿部喜三郎知行	
中仁田山村	中嶋彦右衛門知行	152.37500
下仁田山村	仙石主水知行	390.53600
	遠山又四郎知行	
	中嶋彦右衛門知行	
	観音寺領	
二渡村	河野善左衛門知行	539.61400
	酒井三右衛門知行	
	野々山彦右衛門知行	
	酒井小平次知行	
山地村	内藤式部少輔知行	216.03200

下野国　足利

		石
上菱村	御料所	346.82400
下菱村	大久保玄蕃頭知行	593.93000
	横瀬美濃守知行	
下菱村枝郷		
小友村	池田筑後守知行	974.13500
	加藤勘右衛門知行	
	岡野権之助知行	

下野国　安蘇郡

		石
上彦間村	井伊掃部頭知行	2142.46900
下彦間村	〃	1412(朱書,22).86500

【天保郷帳】

上野国　山田郡

	石
一本木村	69.95.300
上広沢村	902.40400
中広沢村	414.38500
下広沢村	674.23400
境野村	686.40600
新宿村	598.38580
古(荒戸村	
今泉村	1144.49860
桐生新町	321.67720
堤村	750.00000
本宿村	392.50000
村松村	181.73500
上久方村	780.96854
上久方村枝郷	
高沢村	179.51000

	石
上久方村枝郷	
浅部村	261.53500
下久方村	708.54500
如来堂村	169.05500
下新田村	274.17500
天王宿村	224.33700
西小倉村	383.43700
東小倉村	284.55200
蕪町村	78.13000
高津戸村	288.04100
須永村	330.09550
名久木村	166.80700

	石
上仁田山村	295.30460
中仁田山村	150.00000
下仁田山村	390.53800
二渡村	709.07100
山地村	214.48200
天沼新田	361.68700
足利郡	
上菱村	347.91900
下菱村	603.23000
下菱村枝郷	
小友村	973.72900
安蘇郡	
上彦間村	2347.11200

『旧高旧領取調帳』による村別石高表

1．この表は、木村礎校訂『旧高旧領取調帳　関東編』（近藤出版社、昭和 44.9 刊）より本市に関係するものを抜粋し掲載した。

上野国　山田郡

		石	
桐生新町	松嶺蕃領分	321.0950	岩鼻県
〃	浄運寺領	3.6720	〃
今泉村	岩鼻支配所	1134.7055	〃
村松村	〃	181.7350	〃
堤村	〃	750.0000	〃
本宿村	〃	375.0000	〃
〃	聖眼寺領	17.5000	〃
上久方村	岩鼻支配所	667.52854	〃
〃	鳳仙寺領	10.0000	〃
〃	西方寺領	15.7000	〃
〃	渭雲寺領	5.7000	〃
〃	前橋蕃領分	97.7400	前場県
下久方村	岩鼻支配所	618.2020	岩鼻県
〃	内藤甚郎知行	49.2740	〃
〃	天満宮領	20 石 3 石 (3 の単位不明)	〃
〃	大蔵院領	5.0000	〃
浅部村	岩鼻支配所	261.5350	〃
高沢村	〃	170.3100	〃
〃	高園寺領	9.2000	〃
二渡村	岩鼻支配所	708.9960	〃
山地村	〃	214.4820	〃
境野村	〃	686.4060	〃
新宿村	安藤左京知行	344.2000	〃
〃	落合　三郎知行	247.0720	〃
〃	浄運寺領	7.7280	〃
下新田村	岡部日向守知行	247.1750	〃
如来堂村	岩鼻支配所	169.0730	〃
上広沢村	〃	892.1040	〃
〃	大雄院領	10.3000	〃
中広沢村	岩鼻支配所	414.3650	〃
下広沢村	〃	674.2340	〃
一本木村	〃	69.9530	〃
下仁田山村	仙石政雄知行	95.7980	〃
〃	中島内蔵允知行	200.0000	〃
〃	遠山録三郎知行	80.0000	〃
〃	観音寺領	14.2650	〃
上仁田山村	岩鼻支配所	54.7855	〃
〃	太田主税知行	93.0000	〃
〃	小笠原三之丞知行	27.2600	〃
〃	河野鉱次郎知行	27.2600	〃
〃	田村駒次郎知行	93.0000	〃
中仁田山村	中島内蔵允知行	152.3750	岩鼻県
蕪町村	岡部日向守知行	78.1300	〃
天王宿村	〃	222.0120	〃
〃	雲祥寺領	2.6590	〃
天沼新田	大久保紀伊守知行	361.6870	〃
東小倉村	〃	271.0520	〃
〃	東禅寺領	11.0320	〃
〃	崇禅寺領	1.3390	〃
西小倉村	池田大隈守知行	367.9370	〃
〃	崇禅寺領	14.1610	〃
〃	東禅寺領	2.4700	〃
高津戸村	甲斐庄源五知行	287.4560	〃
名久木村	内蔵甚郎知行	166.8070	〃
須永村	野々山丞五郎知行	129.2800	〃
〃	近藤作右衛門知行	96.4410	〃
〃	太田主税知行	96.6260	〃
〃	雲祥寺領	8.8410	〃

下野国　足利郡

		石	
上菱村	松平侶之允知行	117.1800	足利県
〃	前橋蕃領分	230.7390	前橋県
下菱村	大久保四郎左衛門知行	121.9550	足利県
〃	横瀬従四位知行	472.7440	〃
〃	泉竜院領	9.3000	同管下
小友村	前橋蕃領分	131.72367	前橋県
〃	加藤下総知行	370.0000	足利県
〃	岡野房太郎知行	224.1420	〃
〃	中山錦之助知行	237.8703	〃

下野国　安蘇郡

		石	
上彦間村	彦根蕃領分	2347.1120	彦根県

大字表

	明治22年4月1日全国で一斉に合併が行われた	大正6年1月1日町村と大字との混乱を防ぐため大字から「町・村」の字を抹消した	大正10年3月1日市制を執行するが大字制度は継続した	昭和4年8月1日大字を廃し町を設けた(61町を設置)
桐生新町	桐生町大字桐生新町	桐生町大字桐生	桐生市大字桐生	桐生市〃町
安楽土村	〃 〃安楽土村	〃 〃 安楽土	〃 〃 安楽土	〃 〃
新宿村	〃 〃新宿村	〃 〃 新宿	〃 〃 新宿	〃 〃
下久方村	〃 〃下久方村	〃 〃 下久方	〃 〃 下久方	〃 〃
広沢村	広沢村大字広沢村	広沢村大字広沢	昭和12年4月Ｉ日桐生市に合併し大字を廃し7町を設けた 桐生市広沢町一～六丁目	昭和30年6月1日山田郡毛里田村大字吉沢字唐沢の一部を編入（広沢町七丁目）
一本木村	〃 〃 一本木村	〃 〃 一本木	〃 〃 七丁目	
東小倉村	川内村大字東小倉村	川内村大字東小倉	昭和29年10月1日桐生市に合併し大字を廃し町を設けた 桐生市川内町一丁目	
西小倉村	〃 〃 西小倉村	〃 〃 西小倉	〃 〃 二丁目	
須永村	〃 〃 須永村	〃 〃 須永	〃 〃 三丁目	
高津戸村	〃 〃 高津戸村	〃 〃 高津戸	〃 〃 四丁目	
山田村	〃 〃 山田村	〃 〃 山田	〃 〃 五丁目	
上久方村	梅田村大字上久方村	梅田村大字上久方	桐生市梅田町一丁目	昭和43年4月1日栃木県安蘇郡田沼町大字飛駒の一部を編入（梅田町四・五丁目）
浅部村	〃 〃 浅部村	〃 〃 浅部	〃 〃 二丁目	
高沢村	〃 〃 高沢村	〃 〃 高沢	〃 〃 三丁目	
二渡村	〃 〃 二渡村	〃 〃 二渡	〃 〃 四丁目	
山地村	〃 〃 山地村	〃 〃 山地	〃 〃 五丁目	
如来堂村	相生村大字如来堂村	相生村大字上久方	桐生市相生町一丁目	
下新田村	〃 〃 下新田村	〃 〃 下新田	〃 〃 二丁目	
天王宿村	〃 〃 天王宿村	〃 〃 天王宿	〃 〃 三丁目	
蕪町村	〃 〃 蕪町村	〃 〃 蕪町	〃 〃 四丁目	
天沼新田	〃 〃 天沼新田	〃 〃 天沼新田	〃 〃 五丁目	
黒川村	菱村大字黒川村	菱村大字黒川	昭和34年1月1日桐生市に合併し大字を廃し町を設けた 桐生市菱町黒川	平成3年8月1日2町制を 5 町制に改めた 桐生市菱町一～四丁目
上菱村	〃 〃 上菱村	〃 〃 上菱	〃 〃 上菱	〃 〃 五丁目

※境野村は明治22年4月1日以後昭和8年4月1日桐生市に合併するまで、合併がなかったので唯一大字のない村だった。

指定文化財一覧

国指定文化財一覧（6 件）

No	指定種別	名称	所在地	指定日	施設名称等
1	重要文化財	旧群馬県衛生所	桐生市相生町二丁目 414-6	昭和 51 年 2 月 3 日	桐生明治館
2	重要文化財	上野千網谷戸遺跡出土品	群馬県立歴史博物館に寄託中	昭和 59 年 6 月 6 日	県立歴史博物館
3	重要文化財	銅造阿弥陀如来及両脇侍立像	桐生市西久方町一丁目 10-11	平成 19 年 6 月 8 日	宗教法人青蓮寺
4	重要文化財	彦部家住宅	桐生市広沢町六丁目 877	平成 4 年 8 月 10 日	彦部家住宅
5	重要文化財	塔婆石造三重塔＝山上多重塔＝	桐生市新里町山上 2555	昭和 18 年 6 月 9 日	
6	史跡	武井廃寺塔跡	桐生市新里町武井 598	昭和 16 年 1 月 27 日	

県指定文化財一覧（24 件）

No	指定種別	名称	所在地	指定日	施設名称等
1	有形文化財	西方寺木彫阿弥陀如来	桐生市梅田町一丁目 266	昭和 33 年 3 月 22 日	西方寺
2	有形文化財	崇禅寺木彫阿弥陀如来	桐生市川内町二丁目 651	昭和 33 年 8 月 1 日	崇禅寺
3	有形文化財	刀銘一竿子忠綱雕同作	桐生市稲荷町 2-9	昭和 37 年 2 月 21 日	
4	有形文化財	刀銘（巴紋刻印） 於東武藤枝太郎英義作之	桐生市相生町一丁目	昭和 38 年 9 月 4 日	
5	有形文化財	大雄院刺繍涅槃図	桐生市広沢町三丁目 3580	昭和 38 年 1 月 8 日	大雄院
6	有形文化財	紙本金地著色秋草花弁図酒井抱一筆 紙本金地著色孔雀牡丹図谷文晁筆	群馬県立歴史博物館に寄託中	昭和 54 年 10 月 2 日	浄運寺
7	有形文化財	天満宮社殿（本殿・幣殿・拝殿）	桐生市天神町一丁目 218-1	平成 2 年 9 月 25 日	桐生天満宮
8	有形文化財	関の磨崖仏	桐生市新里町関 67-1	昭和 47 年 11 月 15 日	
9	有形文化財	虚空蔵菩薩像	桐生市黒保根町上田沢 326	昭和 48 年 8 月 21 日	医光寺

10	有形文化財	紺紙金泥虚空蔵菩薩経	桐生市黒保根町上田沢 326	昭和 48 年 8 月 21 日	医光寺
11	有形文化財	常鑑寺の梵鐘	桐生市黒保根町水沼 325	昭和 48 年 8 月 21 日	常鑑寺
12	有形文化財	栗生神社本殿　附 棟札	桐生市黒保根町上田沢 2238	平成 11 年 4 月 30 日	栗生神社
13	有形文化財	島霞谷･隆夫妻関係資料	桐生市県立歴史博物館及び印刷博物館（東京）に寄託中	平成 20 年 9 月 12 日	
14	天然記念物	「伝承」桐生大炊介手植えのヤナギ	桐生市東七丁目 7-2	昭和 27 年 11 月 11 日	清水町児童公園
15	天然記念物	相生のマツ	桐生市相生町二丁目 919-1	昭和 30 年 11 月 8 日	
16	天然記念物	桐生城跡日枝神社のクスノキ群	桐生市梅田町一丁目 481	昭和 33 年 3 月 22 日	日枝神社
17	天然記念物	野の大クスノキ	桐生市新里町野 311	昭和 36 年 9 月 15 日	
18	天然記念物	新里のサクラソウ群落	桐生市新里町赤城山畑平、舟平	平成 8 年 3 月 29 日	
19	天然記念物	黒保根栗生神社の大スギ	桐生市黒保根村上田沢 2238	平成 9 年 3 月 28 日	栗生神社
20	天然記念物	崇禅寺のイトヒバ	桐生市川内町二丁目 651	平成 20 年 3 月 27 日	崇禅寺
21	天然記念物	賀茂神社のモミ群	桐生市広沢町六丁目 833	平成 20 年 3 月 27 日	賀茂神社
22	史跡	彦部氏屋敷	桐生市広沢町六丁目 877	昭和 51 年 5 月 7 日	彦部家住宅
23	史跡	山上城跡	桐生市新里町山上 282	昭和 23 年 11 月 26 日	
24	史跡	中塚古墳	桐生市新里町新川 2592－3	昭和 54 年 10 月 2 日	
	天然記念物	三ツ堀加茂神社のサカキ	桐生市境野町三丁目 1380	平成 28 年 3 月 29 日	指定解除

市指定文化財一覧（102 件）

No	指定種別	名称	所在地	指定日	備考
1	有形文化財	光性寺木彫不動明王像	桐生市東四丁目 1-13	昭和 37 年 3 月 14 日	

2	有形文化財	前田利家新田老母宛書状	桐生市宮本町一丁目 4-18	昭和 38 年 3 月 26 日	
3	有形文化財	浄運寺安土宗論記録	桐生市本町六丁目 398	昭和 38 年 3 月 26 日	
4	有形文化財	彦部家文書仁田山紬注文書	桐生市広沢町六丁目 877	昭和 38 年 3 月 26 日	
5	有形文化財	東禅寺角塔	桐生市川内町一丁目 44	昭和 41 年 2 月 9 日	
6	有形文化財	須永の地蔵菩薩像	桐生市川内町三丁目 586-1	昭和 41 年 2 月 9 日	
7	有形文化財	須永の弥陀三尊像	桐生市川内町三丁目 653	昭和 41 年 2 月 9 日	
8	有形文化財	観音寺石幢	桐生市川内町五丁目 584	昭和 41 年 2 月 9 日	
9	有形文化財	小倉の石幢	桐生市川内町一丁目 265	昭和 41 年 2 月 9 日	
10	有形文化財	重足寺の石幢	桐生市天神町三丁目 838	昭和 41 年 2 月 9 日	
11	有形文化財	栖松寺石幢	桐生市梅田町一丁目 705	昭和 41 年 2 月 9 日	
12	有形文化財	石鴨の道祖神	桐生市梅田町五丁目 1097	昭和 41 年 2 月 9 日	
13	有形文化財	観音院涅槃図	桐生市東二丁目 13-18	昭和 45 年 1 月 12 日	
14	有形文化財	千手寺石幢	桐生市川内町一丁目 331	昭和 54 年 8 月 10 日	
15	有形文化財	法楽寺御正体	桐生市広沢町六丁目 825	昭和 54 年 8 月 10 日	
16	有形文化財	鳳仙寺輪蔵	桐生市梅田町一丁目 58	昭和 54 年 8 月 10 日	
17	有形文化財	加茂神社塚出土の環頭の太刀	桐生市	昭和 61 年 12 月 2 日	
18	有形文化財	鳳仙寺山門	桐生市梅田町一丁目 58	昭和 63 年 10 月 5 日	
19	有形文化財	鳳仙寺梵鐘	桐生市梅田町一丁目 58	平成元年 11 月 13 日	
20	有形文化財	大雄院山門	桐生市広沢町三丁目 3580	平成 3 年 4 月 11 日	
21	有形文化財	観音寺山門	桐生市川内町五丁目 584	平成 3 年 4 月 11 日	

22	有形文化財	天満宮末社春日社	桐生市天神町一丁目 218-1	平成 3 年 11 月 8 日	
23	有形文化財	矢野本店店舗及び店蔵	桐生市本町二丁目 6-30	平成 6 年 10 月 14 日	
24	有形文化財	旧矢野蔵群	桐生市本町二丁目 6-32	平成 6 年 10 月 14 日	桐生市有鄰館
25	有形文化財	旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟	桐生市巴町二丁目 1832-13	平成 6 年 10 月 14 日	絹燃記念館
26	有形文化財	賀茂神社の石灯籠	桐生市広沢町六丁目 833	平成 8 年 3 月 14 日	
27	有形文化財	十王堂輪廻車付石幢	桐生市川内町五丁目 1907	平成 8 年 3 月 14 日	
28	有形文化財	皆沢八幡宮本殿	桐生市梅田町四丁目 6914-1	平成 11 年 8 月 10 日	
29	有形文化財	鷹林寺山門	桐生市梅田町四丁目 528	平成 11 年 8 月 10 日	
30	有形文化財	浄運寺本堂	桐生市本町六丁目 398	平成 11 年 8 月 10 日	
31	有形文化財	鳳仙寺本堂	桐生市梅田町一丁目 58	平成 14 年 3 月 22 日	
32	有形文化財	長泉寺本堂	桐生市梅田町四丁目 21	平成 14 年 3 月 22 日	
33	有形文化財	桐生倶楽部会館	桐生市仲町二丁目 9-36	平成 27 年 4 月 14 日	平成 27 年度新指定
34	有形文化財	常広寺の弁財天堂	桐生市新里町山上 291－1	昭和 29 年 1 月 14 日	
35	有形文化財	赤城の百足鳥居	桐生市新里町板橋 969－1	昭和 46 年 10 月 1 日	
36	有形文化財	大梨子の磨崖仏	桐生市新里町関 340	昭和 46 年 10 月 1 日	
37	有形文化財	奥沢の石造大日如来坐像	桐生市新里町奥沢 546	昭和 46 年 10 月 1 日	
38	有形文化財	奥沢の木造大日如来	桐生市新里町奥沢 511－1	昭和 46 年 10 月 1 日	
39	有形文化財	元町橋供養塔	桐生市新里町山上 302－1	昭和 46 年 10 月 1 日	
40	有形文化財	野の六地蔵幢	桐生市新里町野 409	昭和 46 年 10 月 1 日	
41	有形文化財	雷電山の笠塔婆	桐生市新里町新川 1899	昭和 46 年 10 月 1 日	

42	有形文化財	善昌寺の五輪塔群	桐生市新里町新川 2728	昭和 46 年 10 月 1 日	
43	有形文化財	瀧興寺の虚空蔵菩薩	桐生市新里町関 463－1	昭和 48 年 3 月 1 日	
44	有形文化財	善龍寺山門	桐生市新里町武井 741	昭和 48 年 3 月 1 日	
45	有形文化財	善寵寺宝篋印塔	桐生市新里町武井 741	昭和 48 年 3 月 1 日	
46	有形文化財	高縄の磨崖仏	桐生市新里町山上 1443－1	昭和 49 年 5 月 1 日	
47	有形文化財	小林の大日堂	桐生市新里町小林 436	昭和 52 年 3 月 1 日	
48	有形文化財	祥雲寺の延命地蔵	桐生市新里小林 436	昭和 52 年 3 月 1 日	
49	有形文化財	後閑の五輪塔	桐生市新里町山上乙 1357－2	昭和 55 年 4 月 11 日	
50	有形文化財	大久保の石造大日堂	桐生市新里町大久保 323	昭和 57 年 10 月 1 日	
51	有形文化財	龍真寺の石造地蔵菩薩坐像（鶴亀地蔵）	桐生市新里町新川 1051	昭和 57 年 10 月 1 日	
52	有形文化財	瀧興寺の宝篋印塔	桐生市新里町関 463－1	平成 4 年 2 月 20 日	
53	有形文化財	山上塚越の道祖神	桐生市新里町山上 1093	平成 4 年 2 月 20 日	
54	有形文化財	吉田家の古文書	桐生市新里町山上 2054	平成 4 年 2 月 20 日	
55	有形文化財	鏑木の木造虚空蔵菩薩	桐生市新里町新川 2376	平成 4 年 2 月 20 日	
56	有形文化財	鏑木の木造大日如来	桐生市新里町新川 2376	平成 4 年 2 月 20 日	
57	有形文化財	広間地の石造薬師如来	桐生市新里町新川 273	平成 4 年 2 月 20 日	
58	有形文化財	広間地の観音菩薩	桐生市新里町新川 273	平成 4 年 2 月 20 日	
59	有形文化財	新川の歌舞伎舞台下座	桐生市新里町武井 693	平成 7 年 10 月 2 日	
60	有形文化財	新川の八坂神社神輿	桐生市新里町新川 2146	平成 7 年 10 月 2 日	
61	有形文化財	赤城型民家	桐生市新里町鶴ケ谷 453-1	平成 14 年 4 月 1 日	

62	有形文化財	北条氏直の古文書（感状）目黒家	桐生市黒保根上水沼 185	昭和 52 年 4 月 1 日	
63	有形文化財	北条氏直の古文書（感状）松井家	桐生市黒保根宿廻 30	昭和 52 年 4 月 1 日	
64	有形文化財	板碑	桐生市黒保根下田沢 1550	昭和 52 年 4 月 1 日	
65	有形文化財	八木原龍禅寺の喚鍾	桐生市黒保根八木原 173-1	平成 11 年 3 月 30 日	
66	有形文化財	医光寺本堂の彫刻欄間	桐生市黒保根上田沢 326	平成 15 年 3 月 19 日	
67	有形文化財	関口文治郎の墓	桐生市黒保根上田沢 326	平成 17 年 3 月 31 日	
68	有形文化財	関口文治郎の半鐘	桐生市黒保根上田沢沢入地内	平成 17 年 3 月 31 日	
69	天然記念物	椿森のツバキ群	桐生市広沢町六丁目 571	昭和 42 年 2 月 15 日	私有墓地内
70	天然記念物	二渡のカヤ	桐生市梅田町四丁目 455	昭和 42 年 2 月 15 日	
71	天然記念物	泉龍院のシホウチク群	桐生市菱町二丁目 1767-1	昭和 42 年 2 月 15 日	
72	天然記念物	白髭神社のシラカシ	桐生市堤町二丁目 2-41	昭和 47 年 11 月 7 日	
73	天然記念物	白瀧神社のケヤキ	桐生市川内町五丁目 3288	平成 8 年 3 月 14 日	
74	天然記念物	藍原家住宅のイロハカエデ	桐生市相生町三丁目 3-1	平成 8 年 3 月 14 日	
75	天然記念物	諏訪神社のハルニレ	桐生市境野町四丁目 875	平成 8 年 3 月 14 日	
76	天然記念物	彦部家の合体木	桐生市広沢町六丁目 877	平成 27 年 4 月 14 日	平成 27 年度新指定
77	天然記念物	瀧興寺法印のカヤ	桐生市新里町関 463－1	昭和 48 年 3 月 1 日	
78	天然記念物	薮塚家の大ツゲ	桐生市新里町新川 2339	昭和 49 年 5 月 1 日	
79	天然記念物	鏑木のアラカシ	桐生市新里町新川 2291－1	昭和 50 年 9 月 5 日	
80	天然記念物	サクラソウ	桐生市新里町赤城山・板橋	昭和 51 年 9 月 5 日	
81	天然記念物	土橋のおかめサクラ	桐生市新里町鶴ケ谷 539	昭和 52 年 3 月 1 日	

82	天然記念物	板橋のヤエツバキ	桐生市新里町板橋 478	昭和 55 年 4 月 11 日	
83	天然記念物	藤生沢のお角サクラ	桐生市新里町新川 3253	昭和 55 年 4 月 11 日	
84	天然記念物	沢入観音のイボ石	桐生市黒保根町上田沢甲 2121、乙 2121	平成 27 年 4 月 14 日	平成 27 年度新指定
85	無形民俗文化財	賀茂神社太々神楽	桐生市広沢町六丁目 833	昭和 49 年 1 月 21 日	
86	無形民俗文化財	白瀧神社太々神楽	桐生市川内町五丁目 3288	昭和 49 年 1 月 21 日	
87	無形民俗文化財	桐生和紙生産技術	桐生市梅田町五丁目 7348	昭和 49 年 1 月 21 日	星野光子宅
88	無形民俗文化財	皆沢地区の百万遍念仏	桐生市梅田町四丁目地内	昭和 49 年 1 月 21 日	
89	無形民俗文化財	桐生木遣	桐生市東五丁目 9-36	平成元年 3 月 13 日	
90	無形民俗文化財	賀茂神社御籌神事	桐生市広沢町六丁目 833	平成 3 年 4 月 11 日	
91	無形民俗文化財	地蔵盆百万遍念仏	桐生市菱町四丁目地内	平成 11 年 8 月 10 日	共同墓地内
92	無形民俗文化財	涌丸獅子舞「ささら舞」	桐生市黒保根上田沢 326	平成 11 月 3 月 30 日	
93	無形民俗文化財	前田原獅子舞	桐生市黒保根下田沢 403	平成 11 年 3 月 30 日	
94	史跡	桐生氏累代の墓	桐生市梅田町一丁目 266	昭和 37 年 3 月 14 日	西方寺内
95	史跡	梅原館跡	桐生市梅田町一丁目 25	昭和 37 年 3 月 14 日	梅原薬師堂
96	史跡	日本織物株式会社発電所跡及び煉瓦積遺構	桐生市織姫町 6-1	昭和 44 年 7 月 17 日	
97	史跡	桐生桧杓山城跡	桐生市梅田町一丁目地内	昭和 46 年 2 月 6 日	
98	史跡	由良成繁の墓	桐生市梅田町一丁目 1173	昭和 46 年 2 月 6 日	鳳仙寺内
99	史跡	小林の天神古墳	桐生市新里町小林 60－1	昭和 46 年 10 月 1 日	
100	史跡	桃井塚	桐生市新里町新川 1268－2	昭和 48 年 3 月 1 日	

101	史跡	谷津館跡	桐生市新里町新川 2340	昭和 49 年 5 月 1 日	
102	史跡	長者塚古墳	桐生市新里町関 194	昭和 57 年 10 月 1 日	

国登録文化財等一覧

国登録文化財一覧（33 か所 132 件）

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
1	建築物	桐生織物会館旧館	桐生市永楽町1184-4	平成 9 年 5 月 7 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
2	建築物	水道資料館（元宿浄水場旧事務所）	桐生市元宿町14-37	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市水道局元宿浄水場内
	建築物	元宿浄水場喞筒室	桐生市元宿町14-37	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市水道局元宿浄水場内
	工作物	元宿浄水場急速濾過場	桐生市元宿町14-37	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市水道局元宿浄水場内
	工作物	元宿浄水場調整池	桐生市元宿町14-37	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市水道局元宿浄水場内
	工作物	元宿浄水場接合井	桐生市元宿町14-37	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市水道局元宿浄水場内

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
3	建築物	水道山記念館（旧配水事務所）	桐生市堤町一丁目 5-7	平成 9 年 11 月 5 日	水道山地内

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
4	工作物	桐生市水道局高区配水池	桐生市堤町一丁目 2816-11	平成 9 年 11 月 5 日	水道山地内
	工作物	桐生市水道局低区配水池	桐生市堤町一丁目 2816-11	平成 9 年 11 月 5 日	水道山地内
	建築物	桐生市水道局高区量水室	桐生市堤町一丁目 2816-11	平成 9 年 11 月 5 日	水道山地内
	建築物	桐生市水道局低区量水室	桐生市堤町一丁目 2816-11	平成 9 年 11 月 5 日	水道山地内

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
5	建築物	桐生市西公民館本館（旧水道事務所）	桐生市永楽町2-16	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市西公民館
	建築物	桐生市西公民館機械室（旧水道倉庫）	桐生市永楽町2-16	平成 9 年 11 月 5 日	桐生市西公民館

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
6	建築物	群馬大学工学部同窓記念会館（旧桐生高等染織学校本館・講堂）	桐生市天神町一丁目 5-1	平成 10 年 12 月 11 日	群馬大学工学部内
	建築物	群馬大学工学部守衛所（旧桐生高等染織学校門衛所）	桐生市天神町一丁目 5-1	平成 10 年 12 月 11 日	群馬大学工学部内
	工作物	桐生高等染織学校正門	桐生市天神町一丁目 5-1	平成 10 年 12 月 11 日	群馬大学工学部内

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
7	建築物	金谷レース工業株式会社事務所	桐生市東久方町一丁目 1-55	平成 10 年 12 月 11 日	金谷レース工業
	建築物	金谷レース工業株式会社鋸屋根工場	桐生市東久方町一丁目 1-55	平成 10 年 12 月 11 日	金谷レース工業

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
8	建築物	森合資会社事務所	桐生市本町一丁目 3-11	平成 17 年 7 月 12 日	森家住宅及び合資会社
	建築物	森合資会社店蔵	桐生市本町一丁目 3-11	平成 17 年 7 月 12 日	森家住宅及び合資会社
	建築物	森家住宅石蔵（旧穀蔵）	桐生市本町一丁目 3-9	平成 17 年 7 月 12 日	森家住宅及び合資会社

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
9	建築物	MAEHARA 20th（旧合名会社飯塚織物工場）	桐生市広沢町六丁目 850-5	平成 17 年 7 月 12 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
10	建築物	寺内家住宅旧別荘	桐生市宮本町三丁目 7-15	平成 17 年 11 月 10 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
11	建築物	旧松岡商店事務所	桐生市永楽町 6-7	平成 17 年 11 月 10 日	旧松岡商店及び寺内家住宅
	建築物	旧松岡商店蔵	桐生市永楽町 6-7	平成 17 年 11 月 10 日	旧松岡商店及び寺内家住宅
	建築物	寺内家住宅主屋	桐生市永楽町 6-7	平成 17 年 11 月 10 日	旧松岡商店及び寺内家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
12	建築物	無鄰館（旧北川織物工場主屋）	桐生市本町一丁目 5-5	平成 17 年 11 月 10 日	無鄰館
	建築物	無鄰館（旧北川織物工場事務所）	桐生市本町一丁目 5-5	平成 17 年 11 月 10 日	無鄰館
	建築物	無鄰館（旧北川織物工場蔵）	桐生市本町一丁目 5-5	平成 17 年 11 月 10 日	無鄰館
	工作物	無鄰館（旧北川織物工場女工宿舎煉瓦造外壁）	桐生市本町一丁目 5-5	平成 17 年 11 月 10 日	無鄰館
	工作物	無鄰館（旧北川織物工場煉瓦塀）	桐生市本町一丁目 5-5	平成 17 年 11 月 10 日	無鄰館

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
13	建築物	中村弥市商店店舗	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅
	建築物	中村弥市商店文庫蔵	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅
	建築物	中村弥市商店新座敷	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅
	建築物	中村弥市商店石蔵	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅
	建築物	中村家住宅奥座敷	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅
	建築物	中村家住宅浴場	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅
	工作物	中村家住宅門	桐生市本町一丁目 6-33	平成 17 年 11 月 10 日	中村弥市商店及び中村家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
14	建築物	上毛電気鉄道西桐生駅舎	桐生市宮前町二丁目 1-33	平成 17 年 12 月 27 日	上毛電気鉄道
	建築物	上毛電気鉄道西桐生駅プラットホーム上屋	桐生市宮前町二丁目 1-33	平成 17 年 12 月 27 日	上毛電気鉄道

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
15	建築物	旧尾関家住宅主屋	桐生市宮本町二丁目 3-27	平成 18 年 3 月 2 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
16	建築物	旧曽我織物工場	桐生市本町一丁	平成 18 年 3 月	

			目 7-15	2 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
17	建築物	旧堀祐織物工場（美容室アッシュ）	桐生市巴町一丁目 1126	平成 18 年 3 月 2 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
18	建築物	金善ビル	桐生市本町五丁目 345	平成 18 年 3 月 27 日	旧金善織物関連施設

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
19	建築物	後藤織物主屋	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物奥座敷	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物工場便所付	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物東蔵	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物西蔵	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物旧釜場	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	工作物	後藤織物井戸屋形	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	工作物	後藤織物給水塔	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物倉庫	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	建築物	後藤織物物置	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物
	工作物	後藤織物門及び板塀	桐生市東一丁目 11-35	平成 18 年 3 月 27 日	後藤織物

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
20	建築物	森秀織物工場	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧現場事務所（経糸整経工場）	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧物置（八丁撚糸	桐生市東四丁目	平成 18 年 8 月	森秀織物

		場）	2-24	3 日	
	建築物	森秀織物旧寄宿舎 1（製品加工場）	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧寄宿舎 2	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧撚糸場	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧土蔵	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧工場	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧整経場	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森秀織物旧釜場	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森秀織物
	建築物	森島家住宅主屋	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森島家住宅
	建築物	森島家住宅東蔵	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森島家住宅
	建築物	森島家住宅西蔵	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森島家住宅
	工作物	森島家住宅門	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森島家住宅
	工作物	森島家住宅内塀	桐生市東四丁目 2-24	平成 18 年 8 月 3 日	森島家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
21	建築物	曽我家住宅主屋	桐生市本町一丁目 7-7	平成 18 年 10 月 18 日	曽我家住宅
	建築物	曽我家住宅土蔵	桐生市本町一丁目 7-7	平成 18 年 10 月 18 日	曽我家住宅
	建築物	曽我家住宅新座敷	桐生市本町一丁目 7-7	平成 18 年 10 月 18 日	曽我家住宅
	工作物	曽我家住宅稲荷社	桐生市本町一丁目 7-7	平成 18 年 10 月 18 日	曽我家住宅
	工作物	曽我家住宅門	桐生市本町一丁目 7-7	平成 18 年 10 月 18 日	曽我家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
22	建築物	須藤家住宅主屋	桐生市堤町一丁	平成 18 年 10	旧金善織物創業

			目 14-32	月 18 日	者住宅
	建築物	須藤家住宅奥座敷	桐生市堤町一丁目 14-32	平成 18 年 10 月 18 日	旧金善織物創業者住宅
	建築物	須藤家住宅土蔵	桐生市堤町一丁目 14-32	平成 18 年 10 月 18 日	旧金善織物創業者住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
23	建築物	平田家住宅旧店舗	桐生市本町一丁目 6-28	平成 18 年 11 月 29 日	平田家住宅
	建築物	平田家住宅旧店蔵	桐生市本町一丁目 6-28	平成 18 年 11 月 29 日	平田家住宅
	建築物	平田家住宅主屋	桐生市本町一丁目 6-28	平成 18 年 11 月 29 日	平田家住宅
	建築物	平田家住宅土蔵	桐生市本町一丁目 6-28	平成 18 年 11 月 29 日	平田家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
24	建築物	島田商店店舗	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅
	建築物	島田商店旧事務所	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅
	建築物	島田商店旧石蔵	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅
	建築物	島田商店旧倉庫	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅
	建築物	島田家住宅主屋	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅
	工作物	島田家住宅中門	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅
	工作物	島田家住宅鳥居	桐生市巴町一丁目 1121-8	平成 18 年 11 月 29 日	島田商店及び島田家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
25	建築物	藤生家住宅　主屋	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　隠居屋	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　茶室	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　内蔵	桐生市広沢町五	平成 19 年 5 月	藤生家住宅

			丁目 1179	15 日	
	建築物	藤生家住宅　土蔵	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　味噌蔵	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　物置	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　水車小屋及び物置	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　盆栽小屋	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　薪小屋	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　浴室	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	建築物	藤生家住宅　稲荷社　覆屋	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	工作物	藤生家住宅　表門	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	工作物	藤生家住宅　中門	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	工作物	藤生家住宅　外塀	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	工作物	藤生家住宅　東井戸	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅
	工作物	藤生家住宅　西井戸	桐生市広沢町五丁目 1179	平成 19 年 5 月 15 日	藤生家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
26	建築物	荻原家住宅　主屋	桐生市新宿 2-9-7	平成 19 年 5 月 15 日	荻原家住宅
	建築物	荻原家住宅　土蔵	桐生市新宿 2-9-7	平成 19 年 5 月 15 日	荻原家住宅
	工作物	荻原家住宅　門及び塀	桐生市新宿 2-9-7	平成 19 年 5 月 15 日	荻原家住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
27	土木・構造物	上毛電気鉄道 渡良瀬川橋梁	桐生市相生町～桐生間	平成 19 年 10 月 2 日	上毛電気鉄道

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
28	土木・構造物	わたらせ渓谷鐵道 小黒川橋梁	桐生市黒保根町水沼	平成 21 年 11 月 2 日	わたらせ渓谷鐵道
	土木・構造物	わたらせ渓谷鐵道 水沼沢橋梁	桐生市黒保根町水沼	平成 21 年 11 月 2 日	わたらせ渓谷鐵道
	土木・構造物	わたらせ渓谷鐵道 不動沢橋梁	桐生市黒保根町水沼	平成 21 年 11 月 2 日	わたらせ渓谷鐵道
	土木・構造物	わたらせ渓谷鐵道 江戸川橋梁	桐生市黒保根町下田沢	平成 21 年 11 月 2 日	わたらせ渓谷鐵道
	土木・構造物	わたらせ渓谷鐵道 城下トンネル	桐生市黒保根町宿廻	平成 21 年 11 月 2 日	わたらせ渓谷鐵道
	土木・構造物	わたらせ渓谷鐵道 城下橋梁	桐生市黒保根町宿廻	平成 21 年 11 月 2 日	わたらせ渓谷鐵道

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
29	建築物	金子家住宅　蔵	桐生市東久方町 2-73-1（他）	平成 26 年 10 月 7 日	
	建築物	金子家住宅　倉庫及び旧染場	桐生市東久方町 2-90	平成 26 年 10 月 7 日	
	建築物	金子織物株式会社旧鋸屋根工場	桐生市東久方町 2-73-1	平成 26 年 10 月 7 日	
	建築物	金子織物株式会社旧従業員宿舎	桐生市東久方町 2-90	平成 26 年 10 月 7 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
30	建築物	小林家住宅（旧小武織物有限会社） 主屋	桐生市広沢町 5 字福島 1111-3 他	平成 26 年 10 月 7 日	
	建築物	小林家住宅　（旧小武織物有限会社） 工場	桐生市広沢町 5 字福島 1111-6 他	平成 26 年 10 月 7 日	
	建築物	小林家住宅（旧小武織物有限会社） 倉庫一	桐生市広沢町 5 字福島 1111-9 他	平成 26 年 10 月 7 日	
	建築物	小林家住宅（旧小武織物有限会社） 倉庫二	桐生市広沢町 5 字福島 1111-9 他	平成 26 年 10 月 7 日	
	工作物	小林家住宅（旧小武織物有限会社） 石垣	桐生市広沢町 5 字福島 1111-9 他	平成 26 年 10 月 7 日	

	工作物	小林家住宅（旧小武織物有限会社）　塀	桐生市広沢町 5 字福島 1111-9 他	平成 26 年 10 月 7 日	

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
31	建築物	旧金谷家住宅主屋	桐生市東久方町 1-96-3 他	平成 27 年 8 月 4 日	旧金谷レース工場株式会社関連施及び創業者住宅
	建築物	旧金谷家住宅蔵	桐生市東久方町 1-96-3 他	平成 27 年 8 月 4 日	旧金谷レース工場株式会社関連施及び創業者住宅
	建築物	旧金芳織物工場染色場	桐生市東久方町 1-96-2 他	平成 27 年 8 月 4 日	旧金谷レース工場株式会社関連施及び創業者住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
32	建築物	旧堀家住宅主屋	桐生市巴町 1 丁目字柿木 1117-1	平成 27 年 8 月 4 日	旧堀祐織物工場創業者住宅
	建築物	旧堀家住宅蔵	桐生市巴町 1 丁目字柿木 1117-1	平成 27 年 8 月 4 日	旧堀祐織物工場創業者住宅

No	種別	名称	所在地	登録日	施設名称等
33	建築物	旧赤城山鋼索鉄道赤城山頂駅駅舎及びプラットホーム	桐生市黒保根町下田沢字赤面国有林 413 イ林小班	平成 30 年 5 月 10 日	

需要伝統的建造物群保存地区（1 か所）

名称	所在地	重伝建地区答申日	面積
桐生新町重要伝統的建造物群保存地区	本町一丁目及び二丁目の全域並びに天神町一丁目の一部	平成 24 年 5 月 18 日	13.4 ヘクタール

選択無形文化財（1 件）

名称	種別 1	種別 2	継承者	選択年月日
紋章上絵（もんしょううわえ）	工芸技術	染織	紋章上絵保存会会員 小林芳夫	昭和 50 年 4 月 23 日

人口・世帯数の推移

年次	世帯数	人　口	備　　考
大正９年	7,160	37,674	第１回国勢調査　7,162 世帯　37,674 人
10	6,701	43,155	市制施行(３月１日現在)
11	6,957	38,957	
12	7,591	44,139	
13	7,867	42,557	
14	8,374	42,553	第２回国勢調査　8,374 世帯　42,553 人
昭和元年	8,325	44,126	
2	8,722	46,370	
3	9,003	47,908	
4	9,501	49,844	
5	10,255	52,906	第３回国勢調査　10,255 世帯　52,906 人
6	10,942	55,316	
7	10,641	57,085	
8	12,425	65,076	境野村合併（４月１日）
9	12,961	67,492	
10	13,478	76,145	第４回国勢調査　13,478 世帯　76,145 人
11	14,366	80,460	
12	16,309	92,899	広沢村合併(４月１日)
13	17,634	100,469	
14	18,039	102,457	
15	15,819	86,086	第５回国勢調査　15,819 世帯　86,086 人
16	16,595	90,491	
17	16,778	92,358	
18	16,682	93,152	
19	15,910	77,277	人口調査（２月２２日現在)
20	17,836	85,180	人口調査（１１月１日現在)
21	18,421	86,836	人口調査（４月２６日現在)
22	19,309	91,482	第６回国勢調査　19,39 世帯　91,482 人
23	19,521	94,167	常住人口調査（８月１日現在)
24	19,694	95,232	１０月末日現在
25	19,525	95,533	第７回国勢調査　19,524 世帯　95,533 人
26	19,449	96,794	１０月末日現在
27	19,480	97,333	４月末日現在
28	19,508	98,569	
29	19,548	99,020	梅田・相生・川内合併（１０月１日）
30	23,647	116,935	毛里田村の一部合併（６月１日）
			第８回国勢調査　23,647 世帯　116,935 人
31	23,235	117,118	
32	23,698	117,081	
33	23,746	117,155	
34	25,234	123,147	菱村合併(１月１日)
35	26,870	123,010	第９回国勢調査　26,870 世帯　123,010 人
36	26,899	123,371	常住人口調査
37	27,306	124,485	常住人口調査
38	28,055	126,811	常住人口調査
39	29,047	127,029	住登一斉調査
40	30,674	127,880	第 10 回国勢調査　30,674 世帯　127,880 人
41	31,042	129,071	移動人口推計調査
42	32,153	129,790	
43	32,785	131,536	田沼町の一部合併（4 月 1 日）
44	33,759	132,618	
45	34,534	133,141	第 11 回国勢調査　34,534 世帯　133,141 人
46	35,274	134,032	
47	35,852	134,674	
48	36,192	134,976	

年次	世帯数	人　口	備　　考
49	36,553	134,838	
50	37,112	134,239	第12回国勢調査　37,112世帯　134,239人
51	37,304	134,091	
52	37,589	133,933	
53	37,814	133,431	
54	37,816	132,862	
55	38,755	132,889	第13回国勢調査　38,755世帯　132,889人
56	39,563	134,082	
57	39,872	133,880	
58	40,140	133,573	
59	40,411	133,343	
60	40,613	132,993	第14回国勢調査　39,903 世帯　131,267人
61	40,724	131,963	
62	40,855	130,952	
63	41,053	130,052	
平成元年	41,314	128,995	
2	41,627	128,138	第15回国勢調査　40,968世帯　126,446人
3	42,138	127,478	
4	42,219	126,115	
5	42,394	124,937	
6	42,408	123,610	
7	42,474	122,493	第16回国勢調査　41,496 世帯 120,377人
8	42,650	121,533	
9	42,795	120,504	
10	43,146	119,467	
11	43,412	118,623	
12	43,747	117,933	第17回国勢調査　41,868世帯　115,434人
13	43,921	116,890	
14	44,064	115,958	
15	44,159	114,805	
16	44,212	113,640	
17	49,973	131,733	新里村及び黒保根村合併 第18回国勢調査　46,647世帯　128,037人
18	50,105	130,386	
19	50,170	129,026	
20	50,139	127,508	
21	50,245	126,248	
22	50,283	124,858	第19回国勢調査　46,688世帯　121,704人
23	50,213	123,368	
24	50,097	121,748	
25	50,039	120,204	
26	49,882	118,525	
27	49,875	116,934	第20回国勢調査　46,034世帯　114,714人
28	50,020	115,440	
29	49,947	113,745	
30	49,867	112,032	

１．この資料は、桐生市役所情報処理課作成の資料から引用した。

２．基準日は大正９年から昭和５５年までは１０月１日現在（一部年によっては異なる月がある)、昭和５６年以降は１２月末日現在とした。

３．国勢調査の実施された年は、世帯数、当該人口を記した。

歴代市長（桐生町長を参考までに記した）

町長（氏名）	（就任年月日）	（退任年月日）
小内孫一郎	明治２２年　４月　１日就任	明治２４年　４月　　退任
加藤　義質	明治２４年　４月　　就任	明治２６年　６月　　退任
小島春比古	明治２６年　６月　　就任	明治３０年　６月　　退任
山下　篤愛	明治３０年　６月２０日就任	明治３４年　６月１９日退任
甲斐　信夫	明治３４年　６月２８日就任	明治４２年　６月２７日退任
前原良太郎	明治４２年　７月１２日就任	大正　８年　８月２０日退任
沢田荘太郎	大正　８年１１月　８日就任	大正１０年　２月２８日退任

市長（氏名）	（就任年月日）	（退任年月日）
（沢田荘太郎）	大正１０年　３月　１日就任	大正１０年　７月　２日退任
前原良太郎	大正１０年　７月　２日就任	大正１４年　７月　１日退任
（沢田荘太郎）	大正１４年　７月　２日就任	大正１４年　７月２２日退任
（荻野　欽司）	大正１４年　７月２３日就任	大正１４年　８月１１日退任
関口義慶二	大正１４年　８月１２日就任	昭和　８年　４月２８日退任
（松山銑一郎）	昭和　８年　４月２８日就任	昭和　８年　５月　２日退任
（関口　　保）	昭和　８年　５月　２日就任	昭和　８年　６月　３日退任
関口義慶二	昭和　８年　６月　３日就任	昭和１５年　５月１５日退任
荻野　欽司	昭和１５年　５月１６日就任	昭和１９年　５月１５日退任
広瀬　勝滋	昭和１９年　５月１６日就任	昭和２０年１１月　２日退任
大沢菊太郎	昭和２０年１１月　８日就任	昭和２１年１１月２０日退任
（荻野　逸二）	昭和２１年１１月２０日就任	昭和２２年　４月　４日退任
前原　一冶	昭和２２年　４月　６日就任	昭和２６年　４月　４日退任
（角田　省三）	昭和２６年　４月　５日就任	昭和２６年　４月２３日退任
前原　一冶	昭和２６年　４月２３日就任	昭和３０年　４月１３日退任
（井上　良民）	昭和３０年　４月１４日就任	昭和３０年　５月　１日退任
前原　一冶	昭和３０年　５月　２日就任	昭和３８年　５月　１日退任
荒木歓一郎	昭和３８年　５月　２日就任	昭和４６年　５月　１日退任
小山　利雄	昭和４６年　５月　２日就任	昭和６２年　５月　１日退任
大沢　善隆	昭和６２年　５月　２日就任	平成　３年　５月　１日退任
日野　　茂	平成　３年　５月　２日就任	平成１１年　５月　１日退任
大沢　善隆	平成１１年　５月　２日就任	平成１９年　５月　１日退任
亀山　豊文	平成１９年　５月　２日就任	令和　元年　５月　１日退任
荒木　恵司	令和　元年　５月　２日就任	～現在

（注）括弧書きの氏名は、臨時代理、職務管掌、職務代理を表わす

歴代市議会議長

（氏　名）	（就任年月日）	（退任年月日）
前原悠一郎	大正１０年　５月２３日就任	大正１４年　５月　９日退任
増山作次郎	大正１４年　５月２４日就任	昭和　８年　５月　９日退任
田島覚太郎	昭和　８年　５月２２日就任	昭和１７年　５月２０日退任
佐々木元吉	昭和１７年　６月１６日就任	昭和２２年　４月２９日退任
森口順四郎	昭和２２年　５月２３日就任	昭和３０年　４月　３日退任
高橋　清吉	昭和３０年　４月１３日就任	昭和３０年　５月　１日退任
伊藤　秀一	昭和３０年　５月１４日就任	昭和３４年　４月　８日退任
吉田　光夫	昭和３４年　５月１１日就任	昭和３８年　５月　１日退任
毒島恒太郎	昭和３８年　５月１３日就任	昭和４１年１２月３１日退任
小山　利雄	昭和４２年　１月１４日就任	昭和４６年　４月１５日退任
遠藤　俊一	昭和４６年　５月１３日就任	昭和４７年１２月２２日退任
福田良四郎	昭和４７年１２月２２日就任	昭和５０年　５月　１日退任
大田　兼吉	昭和５０年　５月１５日就任	昭和５２年　５月１９日退任
稲川　陽輔	昭和５２年　５月１９日就任	昭和５６年　５月１５日退任
峯岸　康治	昭和５６年　５月１５日就任	昭和６２年　４月１９日退任
加藤　隆司	昭和６２年　５月２０日就任	平成　３年　５月　１日退任
宮元　道徳	平成　３年　５月１５日就任	平成　５年　６月１８日退任
笠井　秋夫	平成　５年　６月１８日就任	平成　７年　５月　１日退任
前原　正一	平成　７年　５月１５日就任	平成　９年　６月１１日退任
中村　　清	平成　９年　６月１１日就任	平成１１年　５月　１日退任
飯山順一郎	平成１１年　５月１３日就任	平成１２年　４月２５日退任
川嶋伸行	平成１２年　４月２５日就任	平成１５年　５月　１日退任
蛭間　利雄	平成１５年　５月１５日就任	平成１９年　５月　１日退任
佐藤　光好	平成１９年　５月１７日就任	平成２１年　５月１５日退任
幾井　俊雄	平成２１年　５月１５日就任	平成２３年　５月　１日退任
荒木　恵司	平成２３年　５月１７日就任	平成２５年　５月　９日退任
相沢　崇文	平成２５年　５月　９日就任	平成２６年　８月１８日退任
園田　恵三	平成２６年　８月１８日就任	平成２７年　５月　１日退任
森山　享大	平成２７年　５月１９日就任	令和　元年　５月　１日退任
北川　久人	令和　元年　５月２１日就任	～現在

桐生地方郷土史関係出版物一覧

平成 30 年 12 月 31 日現在

1　この一覧は、現在、確認済みの範囲のものを収録した。未収録のものや考証を必要とするものがある可能性がある。
2　分類は、大雑把な区分とし、統計書・私小説の類は省略した。
3　K 数字は桐生市立図書館の所蔵分類番号を表す。

■　史料

○『日本後紀』延暦 15 年（796）8 月 16 日条　　上野国山田郡賀茂神,美和神の官社昇格
○『続日本後紀』承和 2 年（835）7 月 21 日条　　空閑地上野国山田郡八十町下賜
○『神宮雑書』久寿 3 年（1156）薗田御厨立券
○『玉葉（別称玉海)』承安 2 年（1172）11 月　源義重の薗田御厨への侵入
○『源平盛衰記』治承 4 年（1180）5 月　足利忠綱の宇治川渡河
○『吾妻鏡』桐生六郎や薗田一族の巓末（てんまつ）
○『関東庭軍記』観応 2 年（1351）下瀞堀の開削
○『神鳳抄』延文 5 年（1360）広沢御厨立券
○『上野国志』/毛呂権蔵/　永享 8 年（1436）9 月　西方寺万古梵旦没
○『上杉家文書』永禄 7 年（1564）2 月　桐生祐（助）綱上杉輝虎に降状
○駒谷発人『関八州古戦録』/近藤瓶城写　明治 15 年 12 月/関東史料研究会/昭和 48 年 7 月復刻
○『上野人物志』/岡部福蔵/上毛郷土史研究會/大正 14 年 5 月
○『上野名跡考』/豊国義孝/上毛郷土史研究會/大正 15 年 5 月
○『上野名跡志』/富田永世/萬巻堂　明治 34 年 8 月/歴史図書社　1976 年復刻 K291
○『新田老談記』/近藤圭造/明治 35 年 4 月/関東資料研究会　昭和 51 年 7 月復刻
○『上州坪弓老談記』/黒川真道『戦記資料　上州治乱記』/歴史図書社　昭和 52.10
○『由良盛衰記』/個人蔵
○『由良軍記』/個人蔵
○『新田正傳記』/黒川真道『戦記資料　上州治乱記』/昭和 52 年 10 月復刻　K214
○『新田正傳或問』/黒川真道『戦記資料　上州治乱記』/昭和 52 年 10 月復刻　K214
○「桐生絹市故事」(『桐生史苑（第 8 号)』) /桐生文化史談会/昭和 44 年 3 月
○「天正年中桐生故事」(『桐生史苑（第 9 号)』) /桐生文化史談会/昭和 45 年 3 月
〔付記〕
①新居宝氏所蔵本に筆者不明の稿本「天正年中桐生故事」があり、これは著者の初稿本か、それに近い形態をもつ未定稿である。これを定本としたと例言にある。
②粟田富士雄氏所蔵本。これは、田村春荘筆写本によって写したもの
③前原寛臣氏が『葵園雑記』に収めたもので、原本は石原泉村筆写本で、泉村の押紙、書入、補註などがある。
④天利秀峰氏所蔵本で荒戸村の川瀬氏蔵本。新居本に類似しているが、若干の訂正追補がある。
○「今泉村古事談」(『桐生史苑（第 10 号)』) /桐生文化史談会/昭和 46 年 3 月
〔付記〕
①金谷一郎氏所蔵本。2 種類ある。金谷本Ａ及び金谷本Ｂと分類。金谷本Ａは「桐生荒戸古跡録」とある。
②桐生市立図書館所蔵本。田村春荘筆写本で「高橋五大夫蔵、石原泉村写」とある。
○新居峯章「桐生故事」(『桐生史苑（第 11 号)』) /桐生文化史談会/昭和 47 年 3 月
○小林一好写本「地誌編輯材料取調書（黒川村・上菱村)」(『桐生史苑（第 11 号)』) /桐生文化史談会/昭和 47 年 3 月
○森口重郎右衛門「文久二年日記」(『桐生史苑（第 14 号)』) /桐生文化史談会/昭和 50 年 3 月
〔付記〕
①著者森口重郎右衛門から四代目の金谷一郎氏所蔵本。
②本稿は、周東隆一が筆写し、木本政雄の合稿により成る。解題は、周東隆一。
○桐生市立図書館蔵写本「金子太郎兵衛覚書」(『桐生史苑（第 15 号)』) /桐生文化史談会/昭和 51 年 3 月

〔内容〕
①宝暦三年桐生新町差出帳（下書）
②桐生領温故録
③名久木村秣場（まぐさば）論所御裁許書之写
④享和二年覚書帳
○桐生市立図書館蔵写本「岩下氏旧記之写」(『桐生史苑（第 15 号)』) /桐生文化史談会/昭和 51 年 3 月
〔付記〕
①桐生岩下三郎右衛門伝来之旧記紛失スル事数年今幸ニ是ヲ得ル然レドモ年久敷埋有之ニ依テ始之帳数廃失シテ無之依テ形有所ヲ以テ写之本書者猥ニ他見不許　嘉永四年亥歳七月書之
②周東隆一氏・解題
○「桐生記由来『葵園雑記』巻二より」(『桐生史苑（第 17 号)』) /桐生文化史談会/昭和 53 年 3 月
○「桐生家本末『葵園雑記』巻二より」(『桐生史苑（第 17 号』) /桐生文化史談会/昭和 53 年 3 月
○「桐生市濫觴及織物由来記」校注・西川幸治 (『桐生史苑（第 18 号)』) /桐生文化史談会/昭和 54 年 3 月
〔付記〕
濫觴（らんしょう）は、さかずきの意味。杯を浮かべるほど微量であることをたとえ、転じて、事の初めの意。
○「天明三～文化四年下野国足利郡小友村下山政右衛門日記」解題・堀越靖久 (『桐生史苑（第 26 号)』) /桐生文化史談会/昭和 62 年 3 月
○「文政五年上野国山田郡薗田庄桐生郷新町名主役順列の記」解題・堀越靖久 (『桐生史苑（第 26 号)』) /桐生文化史談会/昭和 62 年 3 月
○「藤生日記」解説・西沢博 (『桐生史苑（第 27 号)』) /桐生文化史談会/昭和 63 年 3 月
○『桐生老談記』(藤生雄作氏所蔵本) /桐生市立図書館写/平成 6 年 3 月
○『葵園雑記』桐生市立図書館写/昭和 11 年 (1936)
「桐生正伝録」・「助合御旗絹之事」・「関東行軍録抄」・「桐生新居氏系図」・「山越氏先祖書」・「桐生騒動実記」・「上毛桐生市機之地」・「新田旧記抄」・「金竜寺略通俗誌」・「桐生記由来」・「桐生家本末」・「金山記補記」・「金山実城伝記」・「新田金山軍記」・「新田記」
○『根本山参詣飛渡里案内』(復刻) /桐生市末広町/平成 10 年 11 月　K293
○『毛野』(復刻) /岩澤正作編奈良書店/1985

■　市町村史・郷土誌

○『桐生市史　上巻』/桐生市史編纂委員会/昭和 33 年 8 月　K234
○『桐生市史　中巻』/桐生市史編纂委員会/昭和 34 年 3 月　K234
○『桐生市史　下巻』/桐生市史編纂委員会/昭和 36 年 12 月　K234
○『桐生市史　別巻』/桐生市史別巻編集委員会/昭和 46 年 3 月　K234
○『桐生織物史　上巻』/桐生織物史編纂会（桐生織物協同組合　彦部駒雄）/昭和 10 年 3 月　K586
○『桐生織物史　中巻』/桐生織物史編纂会(桐生織物協同組合　丹羽平助)/昭和 13 年 12 月　K586
○『桐生織物史　下巻』/桐生織物史編纂会（桐生織物協同組合　丹羽平助）/昭和 15 年 6 月　K586
○『桐生織物史　続巻』/桐生織物史続巻編纂会/昭和 39 年 10 月　K586
○『桐生市教育史　上巻』/桐生市教育史編さん委員会/昭和 63 年 8 月　K376
○『桐生市教育史　下巻』/桐生市教育史編さん委員会/平成 5 年 3 月　K372
○『桐生市議会史　記述編』/桐生市議会史編さん委員会/平成 6 年 3 月　K318
○『桐生市議会史　資料編Ⅰ』/桐生市議会史編さん委員会/平成 3 年 12 月　K318
○『桐生市議会史　資料編Ⅱ』/桐生市議会史編さん委員会/平成 4 年 12 月　K318
○『桐生市議会史　資料編Ⅲ』/桐生市議会史編さん委員会/平成 5 年 3 月　K318
○『群馬県史』/群馬県(資料編 15 近世 7 東毛地区 1)/昭和 63 年 2 月　K211
○『山田郡誌』/山田郡教育会/昭和 14 年 3 月　K233
○『山田郡誌』(復刻版)/桐生文化史談会/昭和 48 年 8 月　K233
○『市制施行五十周年記念　桐生市立図書館校合群馬県山田郡村志』(復刻版) /桐生文化史談会/昭和 46 年 3 月　K233
○岡部赤峰『桐生地方史』〈附・渡良瀬沿岸地方史蹟〉(復刻版) 歴史図書社/昭和 53 年 9 月　K234

○『桐生市略史』/桐生市役所/昭和９年 11 月　K234
○『桐生市略史』(復刻版) /桐生文化史談会/昭和 51 年９月　K234
○前原悠一郎『桐生の今昔』/群馬県桐生市役所/昭和 33 年 11 月　K234
○『桐生の歴史』/桐生文化史談会/昭和 58 年 10 月　K234
○『桐生の水道　50 年史』/桐生市水道局/昭和 57 年３月　K519
○『菱の郷土史』/菱町郷土史編纂委員会/昭和 45 年２月　K234
○大河内利彦『桐生　境野の歴史』/昭和 57 年６月　K234
○『浜松町概史』/永寿会編集委員/昭和 54 年５月　K234
○『山田郡川内村郷土誌』(復刻) /川内郷土研究会/平成５年４月　K234
○清水義男『梅田村郷土誌』(復刻) /平成８年９月　K234
○清水義男『足利郡菱村郷土誌』(復刻) /平成８年 10 月　K234
○粟田豊三郎『桐生旧記物語初編　楽里華観』/昭和 55 年 10 月　初編（‘80）　K386
○粟田豊三郎『桐生地方伝承史話　桐影楽事』/昭和 58 年 11 月　（私家版）　K388
○粟田豊三郎『桐生民俗史話資料　桐里残照』/昭和 60 年 11 月　K388
○粟田豊三郎『桐生民俗史話資料　桐里残照　後編』/昭和 62 年５月　K388
○『新居喜左衛門日記』　K289
○『御用方日誌』/桐生新町史話会/平成元年８月　K234
○『御用方日誌　第二集』/桐生市立図書館/平成５年３月　K234
○『桐生新町幕末の治安』/桐生市立図書館/平成７年３月　K234
○『桐生新町幕末の治安(第２集)』/桐生市立図書館/平成８年３月　K234
○『桐生新町役用日記』自文化十一年甲戌年三月至文化十四年丁丑年九月/添田美信/解読桐生古文書同好会 2000・3/書上家文書　K008
○『自文政六癸未年五月　至文政七甲申年三月　桐生新町役用日記』/桐生古文書同好会/平成９年３月　K234
○前原悠一郎『日本絹撚株式会社創立四十年史』/日本絹撚株式会社創立四十年史編纂会/昭和 18 年 11 月
○『桐生織物協同組合史』/桐生織物協同組合/1998 年（平成 10 年）６月　K586
○木村一蔵『桐生の歩みの中で（その１)』/1984 年　K940
○木村一蔵『桐生の歩みの中で（その 2)』/1985 年　K940
○木村一蔵『桐生の歩みの中で（その 3)』/平成５年３月　K940
○『球都桐生の歴史（上巻)』/桐生市老人クラブ連合会/平成７年３月　K783
○『球都桐生の歴史（下巻)』/桐生市老人クラブ連合会/平成７年３月　K783
○『あすへの遺産　明治･大正･昭和を語る(第一集)』/桐生市老人クラブ連合会/平成２年６月　K283
○『あすへの遺産　明治･大正･昭和を語る(第二集)』/桐生市老人クラブ連合会/平成２年７月　K283
○『あすへの遺産　明治・大正・昭和を語る（第三集)』/桐生市老人クラブ連合会/平成２年 10 月　K283
○『桐生市文化祭史』/桐生市文化懇談会/昭和 45 年４月　K706
○『桐生市文化祭史（第２巻)』/桐生市文化懇談会/昭和 56 年 11 月　K706
○『桐生市文化祭史（第３巻)』/桐生市文化協会/平成 10 年 11 月　K706
○『ふるさと桐生のあゆみ』/桐生市教育委員会/平成 10 年２月
○『金山城と由良氏』/太田市教育委員会/平成８年３月
○『新・あすへの遺産－桐生織物と撚糸用水車の記憶－』/老人クラブ連合会/平成 15 年３月　K586
○『消えゆく風習～桐婦連が語る昭和の生活風景～』/桐生市婦人団体連絡協議会/平成 18 年 12 月　K384

■　組合史・行・社史

○『群馬銀行五十年史』/株式会社群馬銀行/昭和 58 年６月　K338
○『大生相互銀行七十年史』/株式会社大生相互銀行/昭和 62 年 12 月　K338
○『桐生信用金庫五十五年史』/桐生信用金庫/昭和 56 年７月　K335
○『最近十年の歩み-桐生信用金庫六十五周年記念』/桐生信用金庫/平成４年４月　K338.7
○『足利銀行創立四十年誌』/足利銀行/1986　K338

○『足利銀行史』/足利銀行調査部/1985　K338
○『三ツ葉電機製作所五０年史』/株式会社ミツバ/平成８年 12 月　K335.2
○『桐生工業株式会社三十五年史』/桐生工業株式会社/1995 年１月　K335.2
○『両毛ガス事業協同組合二十年史』/両毛ガス事業協同組合/平成６年６月　K335.2
○『桐生商工会議所五十年誌-しらたき-』/桐生商工会議所 50 周年記念誌編篇委員会/平成２年 11 月　K670
○『帯地青年会 20 年』/桐生内地織物協同組合帯地青年会外/昭和 54 年３月　K586
○『日本絹撚株式會社沿革誌』/日本絹撚株式會社/昭和 15 年 8 月　K586
○『日本絹撚株式會社創立四十年史』/日本絹撚株式會社/昭和 18 年 11 月　K586
○『わたらせ渓谷鐵道の 10 年』/わたらせ渓谷鐵道 10 年史編集委員会/平成 12 年２月　K686
○『足尾線存続運動の歴史』/わたらせ渓谷鐵道連絡協議会/平成 2 年 3 月　K686
○『富士紡績百年史　上巻』/富士紡績株式会社/平成９年 5 月　K586
○『富士紡績百年史　下巻』/富士紡績株式会社/平成９年 5 月　K586
○『桐生織物四十年の歩み』/桐生織物 40 年の歩み編纂委員会/平成５年６月　K586
○『桐生織物協同組合史-統合１０年昭和から平成へ-』/桐生織物協同組合/平成 10 年６月　K586
○『桐生氷雪組合小史』/桐生氷雪組合/昭和 59 年２月　K588
○『戦後の桐生輸出織物　1960 年』/桐生織物協同組合/昭和 35 年 11 月　K586
○『近代桐生輸出織物の歩み』/桐生織物協同組合/昭和 40 年 10 月　K586
○『サンウェーブ誕生 30 周年記念誌』/サンウェーブ工業株式会社/昭和 60 年３月　K581
○『桐生機械金属工業のあゆみ』/桐生機械金属工業協同組合/昭和 57 年 12 月　K530
○『桐生機械株式会社の回顧と感謝』/桐生機械株式会社/昭和 17 年 3 月　K530
○『桐生機械史』/*桐生機械株式会社/昭和 56 年 5 月　K530
○『３０年史』/桐生電気工事協同組合/昭和 51 年１月　K540
○『十年一糸（内地織物協同組合史)』/桐生内地織物協同組合/昭和 40 年 10 月　K586
○『続十年一糸（昭和 40 年～50 年)』/桐生内地織物協同組合/昭和 50 年 10 月　K586
○『続々十年一糸（昭和 56 年～60 年)』/桐生内地織物協同組合/昭和 60 年 9 月　K586
○『桐生市歯科医師会史』/（社）桐生市歯科医師会/昭和 61 年７月　K490
○『桐生市医師会史』/桐生市医師会史編集委員会/昭和 51 年 12 月　K490
○『矢野三百年のあゆみ』/株式会社矢野/平成 29 年 3 月/K335
○『桐生倶楽部百年史』/桐生倶楽部/平成 30 年 10 月

■　校史
○『山紫に』/桐生高校野球史/桐生タイムス社/1978 年６月　K783
○『全国制覇』/学校法人　桐丘学園/2000 年３月　K783
○『桐工五十年史』（上巻）/県立桐生工業高等学校五十年史編集委員会/昭和 59 年 10 月　K376
○『桐工五十年史』（下巻）/県立桐生工業高等学校五十年史編集委員会/平成元年 12 月　K376
○『桐生高校八十年史』/校史編纂委員会/2000 年　K376.8
○『百年目の初心』/学校法人桐丘学園/2001
○『明照学園樹徳高等学校 80 年史』/明照学園樹徳高等学校校史編纂委員会/1995　K376.3
○『定時制三十年（群馬県立桐生女子高等学校定時制 30 周年記念記念誌)』/群馬県立桐生女子高等学校/1978.12　K376
○『北中十年のあゆみ』/北中学校/昭和 32 年 11 月　K376
○『南校 10 年』/桐生南高校/昭和 47 年 10 月　K376
○『桐商のあゆみ』/創立 35 周年記念行事実行委員会/昭和 51 年 3 月　K376
○『相中ＰＴＡ三十年の歩み』/相中ＰＴＡ三十年の歩み刊行委員会/昭和 53 年 3 月　K376
○『相生小のあゆみ（創立百周年記念誌)』/相生小創立百周年記念誌事業実行委員会/昭和 60 年 2 月 K376
○『桐高 70 年』/桐生高校/1988.9　K376
○清水義男/『桜木小学校のあゆみ　桜樹（上)』/平成 5 年 8 月　K376
○清水義男/『桜木小学校のあゆみ　桜樹（下)』/平成 5 年 9 月　K376
○『北小百二十年のあゆみ』/北小百二十周年のあゆみ事業推進委員会/平成 5 年 10 月　K376
○『心のふるさと（創立 50 周年記念)』/広沢中学校/平成 9 年 11 月　K376

○『創立八十周年記念　西小』/桐生市立西小学校/昭和 30 年 1 月　K376
○『桐女九十年史』/群馬県立桐生女子高等学校/平成 9 年 10 月　K376
○『桐工十五周年誌』/桐生工業高等学校同窓会/昭和 24 年 5 月

■　年表
○堀越靖久『桐生市年表』（注：昭和 50 年 12 まで）/昭和 51 年２月）　K234
○『桐生市教育史　年表』/桐生市教育史編さん委員会/平成８年 10 月　K372
○『桐生市議会市　年表』/桐生市議会史編さん委員会/平成６年３月　K318
○『太田市歴史年表』/太田市/平成 10 年 1 月
○『桐生市歴史年表』/図書館ボランティアの会/平成 14 年 3 月/K234

■　辞典・事典・辞書
○竹本弘幸・久保誠二『群馬の火山灰』/みやま文庫/平成７年９月　K453
○『日本城郭体系 4 茨城・栃木・群馬』/新人物住来社/　Ｒ521
○『群馬県地名大辞典』/角川書店/昭和 63 年７月
○『上野名蹟図誌（佐波・新田・山田・邑楽)』/歴史図書社/昭和 55 年 10 月　K291
○丑木幸男『上野国寺院明細帳 5 利根郡・山田郡』/群馬県文化事業振興会/平成８年６月
○小林一好『桐生市外二町四村郷土誌人名索引』/平成元年８月
○小林一好『桐生市外二町四村郷土誌社寺人名索引』/平成元年 12 月
○小林一好『桐生市地名索引』/平成 2 年 2 月
○島田一郎『桐生市内の地名』/平成 7 年 8 月
○島田一郎『桐生市地名考』/桐生市立図書館/平成 12 年 2 月 29 日　K293
○島田一郎『桐生市小字名索引』/桐生市立図書館/平成 9 年 3 月
○『積善　桐生のお寺』/桐生仏教会/平成 7 年 4 月
○『桐生郷土先哲偉人列傳（写)』/桐生市立図書館所蔵/昭和 20 年 8 月
○『桐生新人物地図　昭和 40 年度版』/北関新報社/昭和 40 年 1 月
○『桐生官民職員録』/桐生官民職員録刊行会/昭和 24 年 3 月
○『桐生彩時記　人/できごと/暦』/桐生タイムス社/1990（平成 2 年 9 月）
○『桐生市長沢家文書目録』/桐生市立図書館/昭和 48 年 12 月
○『桐生市村岡家・吉田家外諸家文書目録』/桐生市立図書館/昭和 50 年 11 月
○『郷土資料目録』/桐生市立図書館/昭和 52 年 1 月
○『和書・漢籍・書画・拓本・古地図・染織資料目録』/桐生市立図書館/昭和 53 年 1 月
○『桐生市史料目録第 3 集　桐生市本町 2 丁目書上家史料目録』/桐生市立図書館/1982（昭和 57 年 3 月）中嶋敏夫『桐生のことば』/1999 年 5 月　K810
○『収蔵資料目録・教科用図書』/桐生市教育資料室/2001 年 3 月
○『桐生市ことがら事典』/桐生市立図書館/平成 24 年 3 月/K234

■　報告書・概説
○群馬県桐生市役所『桐生市制施行誌』/大正 13 年 4 月
○瀧秀三『桐生市制　十五年誌』/昭和 11 年 12 月
○桐生市役所『桐生市制　十五年誌　前編』/昭和 12 年 3 月
○桐生市役所『桐生市制　十五年誌　後編』/昭和 12 年 5 月
○桐生市教育会『桐生市郷土読本』/昭和 14 年 3 月
○『紀元二千六百年奉祝　桐生市記念事業誌　昭和 15 年』/桐生市役所/昭和 18 年 4 月
○薗田芳雄『先史時代に於ける桐生川沿岸』/昭和 23 年 8 月
○酒詰仲男・渡辺仁『栃木県菱村普門寺遺跡発掘概報（写)』/桐生市立図書館所蔵/昭和 25 年 6 月
○薗田芳雄『群馬県川内村千網谷戸石塚調査豫報』/1950 年
○斎藤芳雄『昭和 34 年度　桐生市相生町足仲遺跡調査報告』桐生中央公民館内足仲遺跡調査団/昭和 35 年 4 月
○桐生高校地歴部「大門遺跡調査報告書」/昭和 36 年 8 月
○薗田芳雄『桐生市およびその周辺における弥生式文化』/昭和 41 年 10 月
○群馬県立桐生女子高校『昭和 41 年度　群馬県桐生市千網谷戸遺跡調査報告』/昭和 42 年 1 月

○桐生高校『桐生市菱町大門遺跡概報』/昭和 43 年 7 月
○埼玉大学地理学研究会（佐藤文泰）『桐生周域調査報告書　昭和 43 年度調査』（あらり 5 号）/昭和 43 年 12 月
○桐生女子高校『群馬県桐生市菱町大門遺跡調査概報』/1969 年
○『群馬県桐生市　山腰（包含地）および宿ノ島（窯跡）遺跡調査報告』/山腰遺跡発掘調査会/1974（昭和 49 年 6 月）/薗田芳雄・阿久津義雄
○『桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査報告書（赤城神社前遺跡/北山遺跡)』/桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査委員会/1974 年 3 月/伊藤晋祐
○『台遺跡発掘調査報告書』/台遺跡調査委員会/1976（昭和 52 年 3 月）
○境野史話会『境野町内水車跡調査』/昭和 55 年
○『群馬県桐生市　十貫山遺跡発掘調査報告書』/十貫山遺跡発掘調査会 1981（昭和 58 年）
○『群馬県桐生市　千網谷戸遺跡東南地点発掘調査報告』/桐生市教育委員会/1973 年（昭和 48 年 8 月）/※（桐生市文化財報告第 1 集）
○『桐生市文化財調査報告第 2 集　群馬県桐生市　千網谷戸遺跡発掘調査概報』/桐生市教育委員会/1977 年（昭和 52 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 3 集　群馬県桐生市　千網谷戸遺跡発掘調査報告書』/桐生市教育委員会/1978（昭和 54 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 4 集　群馬県桐生市　千網谷戸遺跡発掘調査報告』/桐生市教育委員会/1980（昭和 55 年 12 月）
○『桐生市文化財調査報告第 5 集　群馬県桐生市川内町　三島台遺跡発掘調査概報』/桐生市教育委員会/1981（昭和 56 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 6 集　三島台遺跡発掘調査概報Ⅱ』/桐生市教育委員会/1984.1～3 月（昭和 59 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 7 集』/桐生市教育委員会
○『桐生市文化財調査報告第 8 集　千網谷戸遺跡発掘調査概報 1985』/桐生市教育委員会 1985.2~3 月（昭和 60 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 9 集　昭和 60・61 年　発掘調査概要　Ⅰ三島台遺跡Ⅲ（‘85)、Ⅳ（‘86）Ⅱ千網谷戸遺跡‘86　Ⅲ富士見丘遺跡‘85』/桐生市教育委員会　昭和 62 年 3 月
○『桐生市文化財調査報告第 10 集　昭和 62 年度　発掘調査報告　Ⅰ桐生市菱町大門遺跡‘87（昭和 62 年 7 月~8 月）　Ⅱ桐生市梅田町後沢台遺跡範囲確認調査(昭和 62 年 11 月～昭和 63 年 2 月)』/桐生市教育委員会/1987（昭和 63 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 11 集　桐生市梅田町梅原館跡　発掘調査報告』/桐生市教育委員会/1989（平成元年 3 月）/（昭和 63 年発掘調査報告）
○『桐生市文化財調査報告第 12 集　桐生市指定史跡「日本織物株式会社発電所跡」隣接地煉瓦（れんが）積遺構調査報告』/桐生市教育委員会/1989（平成元年 3 月）
○『桐生市梅田町の民俗』/群馬県教育委員会/昭和 45 年 3 月　K382.3
山鹿英助・新井昭雄「島家所蔵資料について」(『群馬県立歴史博物館調査報告書　第 5 号』)/1989 年 3 月
○『桐生市文化財調査報告第 13 集　三島台遺跡‘90 発掘調査概報』/桐生市教育委員会/1990（平成 3 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 14 集　群馬県桐生市川内町　千網谷戸遺跡‘91 発掘調査概報』/桐生市教育委員会/1991（平成 4 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 15 集　群馬県桐生市相生町　清水西遺跡‘92 発掘調査概報』/桐生市教育委員会/1992（平成 5 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 16 集　群馬県桐生市川内町　三島台遺跡‘93 発掘調査概報』/桐生市教育委員会/1993（平成 6 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 17 集　平成 6 年度発掘調査概報』/桐生市教育委員会
○『桐生市文化財調査報告第 18 集　平成 7 年度発掘調査報告
Ⅰ桐生市菱町　伊豆田遺跡（平成 7 年 8 月 30 日～9 月 19 日）
Ⅱ桐生市菱町　大門遺跡（平成 7 年 9 月 11 日～9 月 25 日）
Ⅲ市内遺跡範囲確認調査』/桐生市教育委員会/1996（平成 9 年 3 月）
○『桐生市文化財調査報告第 19 集　平成 8 年度発掘調査概報

Ⅰ桐生市川内町　童子原遺跡‘96（平成 8 年 9 月 4 日～10 月 12 日）
Ⅱ桐生市川内町　三島台‘96（平成 9 年 2 月 18 日～3 月 31 日)』/桐生市教育委員会/1997（平成 10 年 3 月）
○『重要文化財彦部家住宅主屋発掘調査報告書』/桐生市教育委員会/彦部敏郎/平成 11 年 3 月
○『桐生市埋蔵文化財分布地図・地名表』/桐生市教育委員会/平成 6 年 3 月
○『群馬県無形文化財緊急調査報告書　手描き紋章』群馬県教育委員会/昭和 58 年 9 月
○『桐生川ダム工事誌』/群馬県/昭和 58 年 3 月　K517
○『在郷町の成立と展開－桐生新町の分析－』/国立歴史民俗博物館/平成 14 年 3 月/K234
○『桐生市の文化財』/桐生市教育委員会/平成 14 年 3 月/K709
○『野外植物レッドデータブック』/桐生市みどりと花の会/平成 15 年 3 月/K472
○『ノコギリ屋根工場群の活用による都市再生モデル調査報告書』/経済産業省/平成 17 年 3 月/K318
○『桐生佐野氏と戦国社会』/桐生文化史談会/平成 19 年 3 月/K234
○『伝建群を目指して～桐生・買場紗綾市の試み～』/買場紗綾市実行委員会/平成 19 年 11 月/K521

■　**古文書**（平成 9 年 3 月末日現在）
○長沢家古文書（4,224 点　ほか未整理史料　約 2,000 点）
○書上家古文書（3,016 点）
○吉田家古文書（617 点）
○村岡家古文書（609 点）
○浅海家古文書（133 点）
○旧相生村役場関係文書（89 点）
○粟田家古文書（54 点）
○旧川内村役場関係文書（45 点）
○岩崎家古文書（42 点）
○石原家古文書（28 点）
○小野里家古文書（26 点）
○川村家古文書（25 点）
○横山家古文書（14 点）
○大出家古文書（10 点）
○星野家古文書（8 点）
○田村家古文書（6 点）
○境野家古文書（6 点）
○真尾家古文書（2 点）
○ほか（3 点）

■　**論文・論考・自伝・その他**
○相沢忠洋『旧石器の発見』/相沢忠洋記念館/平成 5 年 7 月
○飯島義男『桐生の古社の配置関係についての試論』/平成 5 年 12 月
○山崎一『群馬県古城塁址の研究　上巻』/群馬県文化事業振興会/昭和 53 年 10 月
○山崎一『上毛古戦記』/あかぎ出版/平成 7 年 7 月
○周東隆一『歴史探訪　桐生とその周辺』/あかぎ出版/昭和 58 年 5 月
○大瀬祐太『桐生氏論考』/昭和 51 年
○黒田基樹「桐生佐野氏と阿久沢氏の研究」(『戦国大名と外様国衆』/平成 9 年 1 月）
○『ふるさとの話（1）桐生城』
○平塚貞作『史跡　梅原館』(桐生発祥地遷座梅原薬師）/梅原薬師堂保存会/昭和 59 年 12 月
○平塚貞作『桐生城守護　日枝神社史』/平成 2 年 12 月
○鳥海俊光『中世の城と戦国武将　桐生周辺の古城とその秘話』/中世の城と戦国武将編纂委員会/平成 7 年
○青木裕『根本山参詣ひとり案内』(附　上毛温泉遊記）/みやま文庫/平成 10 年 6 月
○木本政雄『近世桐生夜話』/桐生文化史談会/昭和 45 年 12 月
○高井浩（解説・高橋敏)『天保期、少年少女の教養形成過程の研究』/河出書房新社/1991 年 8 月
○高橋敏「在郷町桐生の子供、吉田元次郎」(朝日百科・日本の歴史別冊『歴史を読みなおす 20　村

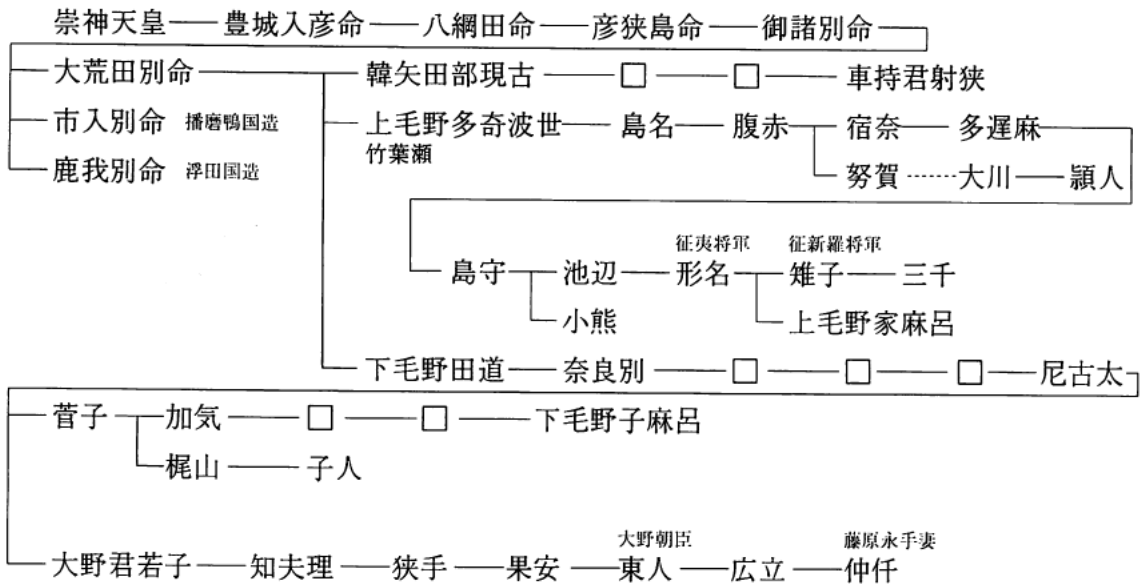
の手習塾　家族と子供の発見』）/朝日新聞社/1995 年 4 月
○岩城卓二「在郷町における「行政」と担い手」（『歴博共同研究　在郷町の成立と展開』/1995 年 11 月
○蓼沼綾子「桐生新町の奉公人と奉公人宿」（卒業論文写）
○『桐生岩本家系図』/桐生市立図書館写/昭和 27 年 11 月写
○清水義男『桐生の寺社―静閑の旅・寺社 100 箇所巡り』/桐生観光協会/1991 年
○清水義男『桐生町太子講連名簿』/平成 5 年
○清水義男『賀茂のあかり　浜の京・賀茂神社』/平成 6 年
○清水義男『境野の石仏』/平成 6 年 12 月
○清水義男『桐生山鳳仙寺』/平成 8 年 3 月
○清水義男『黒川真頼資料集』/平成 10 年 1 月
○清水義男『好きです境野！再探訪』/平成 9 年 4 月
○八木昌平『桐生佐羽家家定』/昭和 14 年 1 月
○飯塚正雄『飯塚姓の家紋分布』/1988 年 7 月
○彦部家『彦部家の歴史』/群馬出版センター/平成 7 年 2 月
○平塚貞作『田中家概史』/平成 7 年 11 月
○『未来への遺産　桐生新町 401 年からの出発のために』/桐生産業デザイン振興会/1994 年 3 月
○『江戸時代　人づくり風土記　⑩ふるさとの人と知恵　群馬』/（社）農山漁村文化協会/1997 年 6 月
○二渡金作『菱ふるさと探訪』/平成 3 年 3 月
○小林一好・今村和昭『桐生大間々史帖』/みやま文庫/平成 8 年 9 月
○天利秀雄監修『思い出のアルバム　桐生』/あかぎ出版/1982 年 9 月
○松嶋俊光『桐生の川と橋』/平成 6 年
○中川勝義『桐生魚商の歩み』/平成 5 年 10 月
○大貫一雄『鉄路に燃ゆ（上巻)』/平成 9 年 8 月
○大貫一雄『鉄路に燃ゆ（下巻)』/平成 9 年 8 月
○「桐生本町一・二丁目路地裏の遠近（おちこち)」（『上州風　第 3 号』）/上毛新聞社/2000 年 6 月
○小林公子「越後屋事件と桐生絹取引―幕末期における二つの対立―」（神奈川大学『歴史民俗資料学研究第 4 号』抜刷/1999 年 2 月　K586
○『変わりゆく桐生駅周辺　21 世紀をめざして』/桐生市教育委員会/平成 6 年 7 月
○橋野知子「力織機化＝工場かー1910 年代桐生織物業における生産組織と技術選択―」（社会経済学　第 63 巻抜刷）/1997 年 10・11 月　K586
○服部修『我が愛する郷土　桐生百景』/昭和 52 年 10 月
○亀田光三『桐生織物と森山芳平』/みやま文庫/平成 13 年 10 月　K080
○『二十一世紀へのメッセージ、2001 年のことばの広場』/市老人クラブ連合会/平成 13 年 1 月/K369
○『ふるさとの風第 1 集・日本の雑誌王・野間清治伝』/野間清治顕彰会/平成 13 年 4 月/K289
○『ふるさとの風第 2 集・白球に捧げた青春・稲川東一郎伝』/野間清治顕彰会/平成 13 年 12 月/K289
○『友情の人形ウォヘロちゃん』/星野義二/平成 13 年 12 月/K319
○『ふるさとの風第 3 集・桐生織物全盛期のリーダー・彦部駒雄伝』/野間清治顕彰会/平成 14 年 12 月/K289
○『ふるさとの風第 4 集・初の公選市長名誉市民第 1 号・前原一治伝』/野間清治顕彰会/平成 15 年 12 月/K289
○『郷土文芸読本第 1 巻』/野間清治顕彰会/平成 15 年 10 月/K912
○『明日へ伝えたい桐生の人と心（上)』/桐生市教育委員会/平成 15 年 3 月/K289
○『明日へ伝えたい桐生の人と心（下)』/桐生市教育委員会/平成 16 年 3 月/K289
○『ふるさとの風第 5 集・高等工業教育に尽力し、桐生を愛した名校長・西田博太郎伝』/野間清治顕彰会/平成 16 年 12 月/K289
○『郷土文芸読本第 2 巻』/野間清治顕彰会/平成 16 年 10 月/K912
○『桐生六郎の周辺―『吾妻鏡』における或る逆臣の正当性について―』/大瀬祐太/平成 17 年 11 月/K214
○『郷土文芸読本第 3 巻』/野間清治顕彰会/平成 17 年 12 月/K912
○『ふるさとの風第 6 集・わたらせ養護園の創立者・ガールスカウト日本連盟会長・岸直枝伝』/

野間清治顕彰会/平成 18 年 5 月/K289
○『湖海の人―寺子屋師匠・田村梶子』/片山弘美/平成 18 年 6 月/K936
○『郷土文芸読本第 4 巻』/野間清治顕彰会/平成 18 年 10 月/K912
○『在野の考古学者相沢忠洋』/加藤正義/平成 19 年 3 月/K289
○『郷土文芸読本第 5 巻』/野間清治顕彰会/平成 19 年 10 月/K912
○『きりゅう百景』/佐々木正純/平成 20 年 5 月/K521
○『桐生織物と買継商』/桐生文化史談会/平成 20 年 6 月/K586
○『足尾鐵道の一世紀』/小野崎敏、川島伸之他/平成 20 年 8 月/K686
○『剣に生きた森寅雄・フェンシングにかけた剣道家』/野間清治顕彰会/平成 20 年 10 月/K789
○『ふるさとの風第 7 集・われ農夫の祈りに開眼す・森喜作伝』/野間清治顕彰会/平成 21 年 12 月/K289
○『黒保根の民話』/川池三男/平成 22 年 10 月/K388
○『ふるさとの風会員双書 1・絹撚糸業界の先駆け・日本絹撚株式会社と前原悠一郎』/野間清治顕彰会米山稔/平成 22 年 5 月/K289
○『桐生の歴史を語るー佐羽秀夫・卓話集ー』/桐生南ロータリークラブ/平成 22 年 3 月/K234
○『桐生織物史と産業遺産』/亀田光三/平成 23 年 12 月/K586
○『ふるさとの風第 8 集･塚越平人の半世紀･桐生のガス事業』/野間清治顕彰会/平成 23 年 3 月/K289
○『大久保長安と大野八右衛門』/大瀬祐太/平成 24 年 9 月/K215
○『玻璃の橋』/関口芙沙恵/平成 26 年 5 月/K936
○『晦魄環照』/桐生タイムス/平成 27 年 1 月/K234
○『江戸の飛脚』/巻島隆/平成 27 年 2 月/K693
○『ふるさとの風第 9 集・桐生地域の発展を願って・増山作次郎と桐生信用金庫』/野間清治顕彰会/平成 27 年 5 月/K289
○『十二の物語』/青木修/平成 27 年 12 月/K234
○『安吾と桐生』/安吾を語る会/平成 28 年 2 月/K902
○『桐生の民話』(市街地・境野町編) /清水義男/平成 28 年 4 月/K388
○『桐生の民話』(広沢・相生・川内・菱町編) /清水義男/平成 28 年 4 月/K388
○『桐生の民話』(梅田町編) /清水義男/平成 28 年 4 月/K388
○『桐生の民話』(新里町編) /清水義男/平成 28 年 4 月/K388
○『桐生の民話』(黒保根町編 1) /清水義男/平成 28 年 4 月/K388
○『桐生の民話』(黒保根町編 2・資料編) /清水義男/平成 28 年 4 月/K388
○『桐生新町の時代』/巻島隆/平成 28 年 3 月/K234
○『野間清治紙芝居』第 3 部/野間清治顕彰会/平成

略　系　図

1　上毛野（かみつけぬ）・下毛野（しもつけぬ）・大野（おおの）氏（『古代豪族事典』）

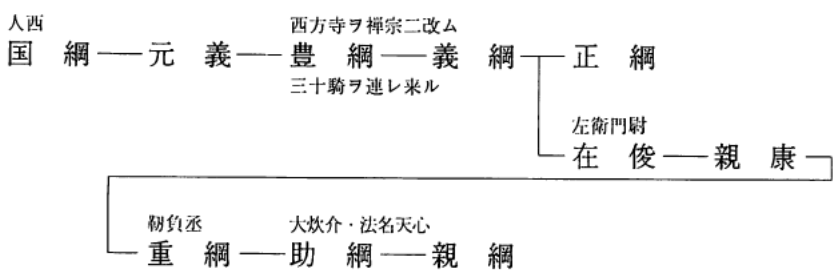
古代、豊城入彦命や子孫の大野東人は上毛野国（後の上野国）を拠点に東国経営にあたった。桐生地方にも大野朝臣東人の伝承が残る。



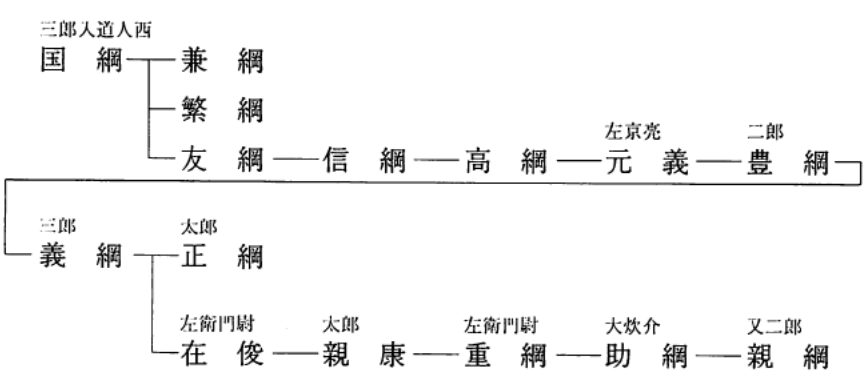
2　桐生氏

桐生氏に関する系図については、数種のものが今日まで伝わっているが、ここでは下記の３種を引用し掲載する。いずれも『桐生市史（上巻）』から引用した。

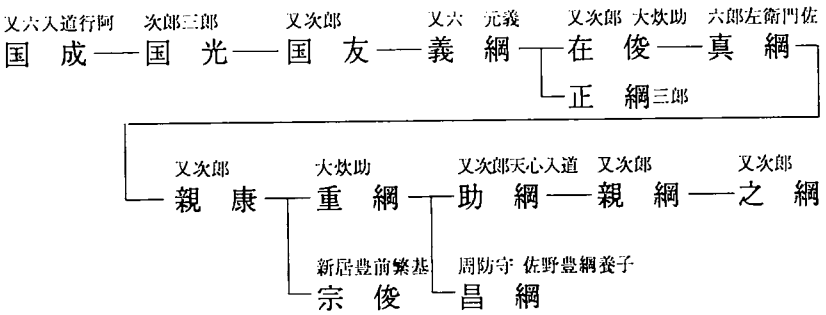
【桐生老談記】



【田原族譜】

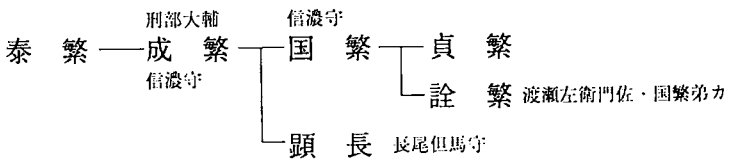


【新居家旧蔵東京大学史料編纂所本】



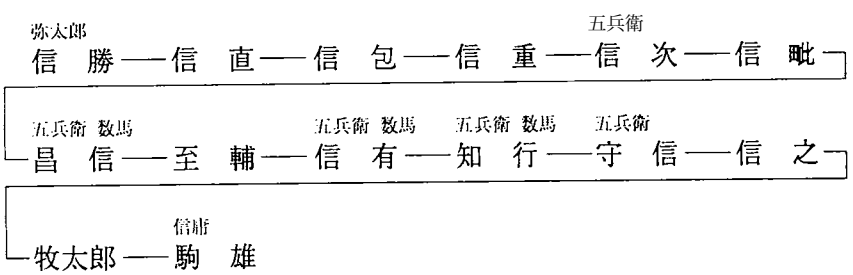
3　由良氏（小野姓）

新田義貞の第３子義宗の子と言われている横瀬貞氏を祖とし、金山城主であった岩松氏を下剋上で追放し、新田地方を支配した。桐生には天正２年に入部した成繁の隠居所として町立てをしている。その後、由良氏は天正１８年常陸国牛久へ移封となった。



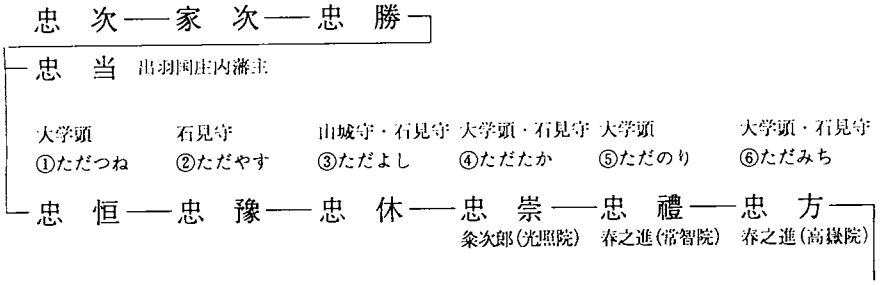
4　彦部氏

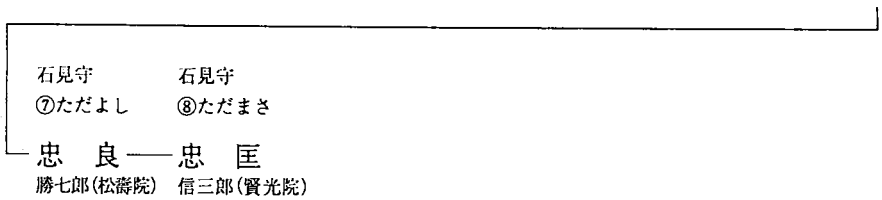
信勝は、足利１３代将軍義輝の近習として仕えた彦部晴直の子で、戦火を逃れて関白近衛前嗣（後に前久）に追従して金山城主の由良氏を訪ね、広沢の地（千疋）を与えられた。以後、子孫は今日まで１６代連綿としてこの地で名主や医者、織物業に従事した。



5　出羽国松山藩酒井氏

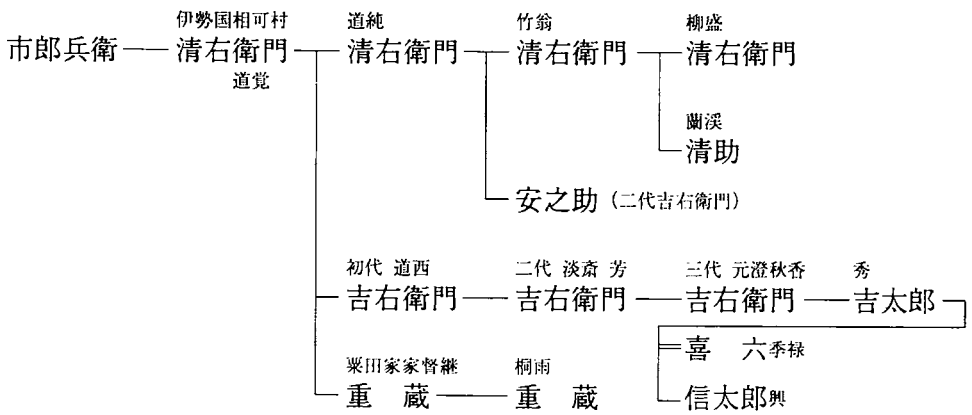
徳川家康の四天王の一人、酒井忠次を輩出した俗に言う左衛門尉家の流れで、出羽国鶴岡藩の支藩である。明治初期、一時松嶺藩になった。桐生新町を始め大間々、勢多郡の一部の地域を安永年間から大政奉還まで領有した。





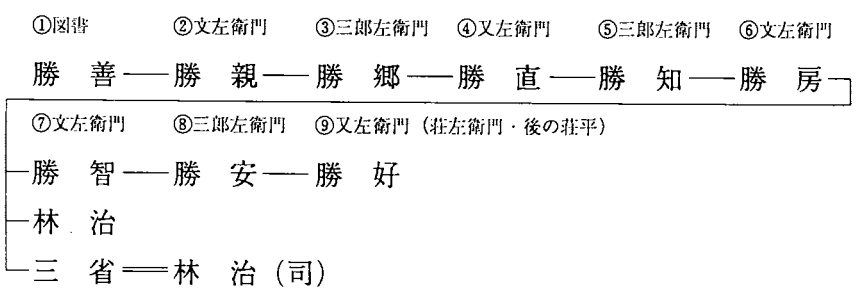
6　佐羽家

桐生新町３丁目で織物買継商を営む。その営業販路は江戸だけでなく、東日本や関西方面まで拡大し、上州において一佐羽、二加部、三鈴木といわれた富豪としての地位を獲得する。代々の当主が理財家で経営手腕に勝れ、明治期まで繁栄を極めた（『桐生史苑』）。



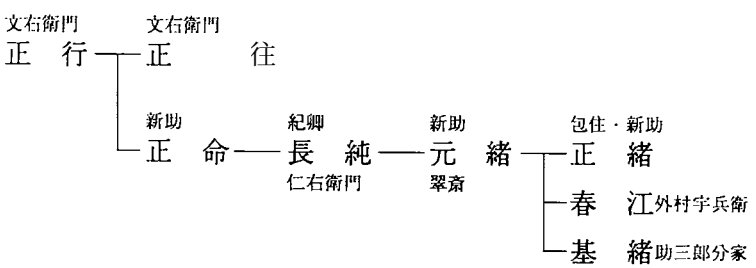
7　書上家

桐生新町２丁目で代々、織物買継を主とし営業をした。歴代当主は経済の道に勝れ、相当の富を蓄積していく一方で、文化面でも多くの業績を残している（『桐生市史』）。



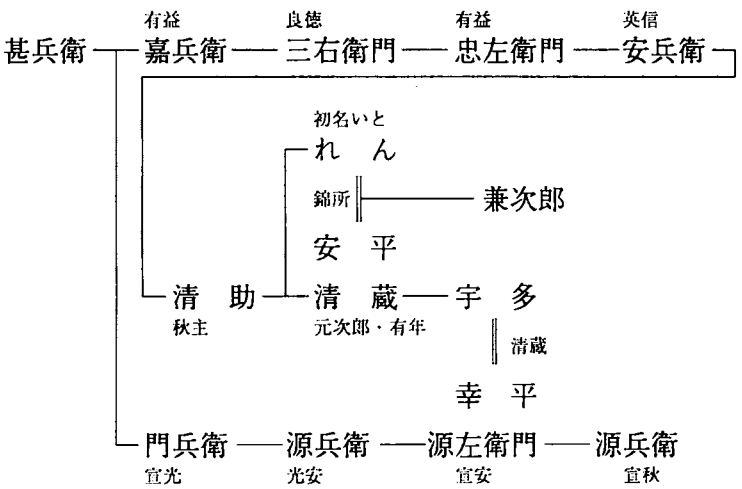
8　長沢家

桐生氏滅亡後、由良氏に仕え、その由良氏が常陸国へ移封した時、帰農した。その後、新助正命（まさなが）が桐生新町１丁目で酒造業を営み、織物買継など商売拡張する。特に仁右衛門の代には隆盛を極め、文化面でも天満宮境内に潺湲舎（せんかんしゃ：今日でいう私設図書館）を建てるなど尽力したが、子孫の代で倒産していく（『桐生市史』）。



9　吉田家

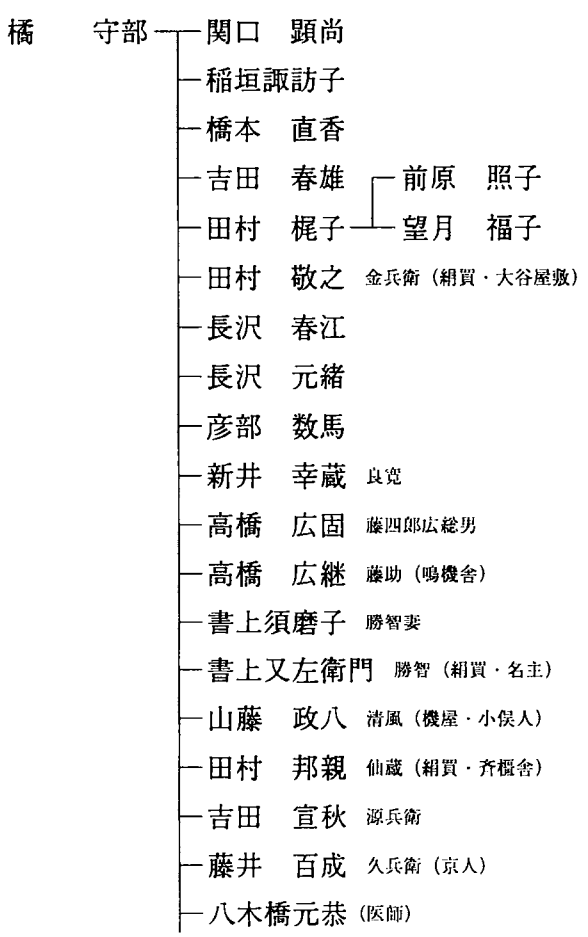
桐生新町５丁目で機屋を営む。一時家業は衰微したが挽回した。秋主は学者であり、清助は京から織物の技法を学び当地に伝える。宣秋は桐生絹の販路を蝦夷松前まで拡大した（「吉田家文書」）。

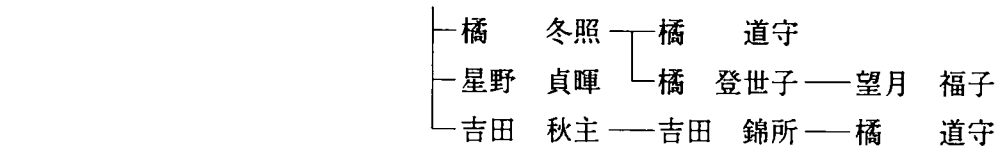


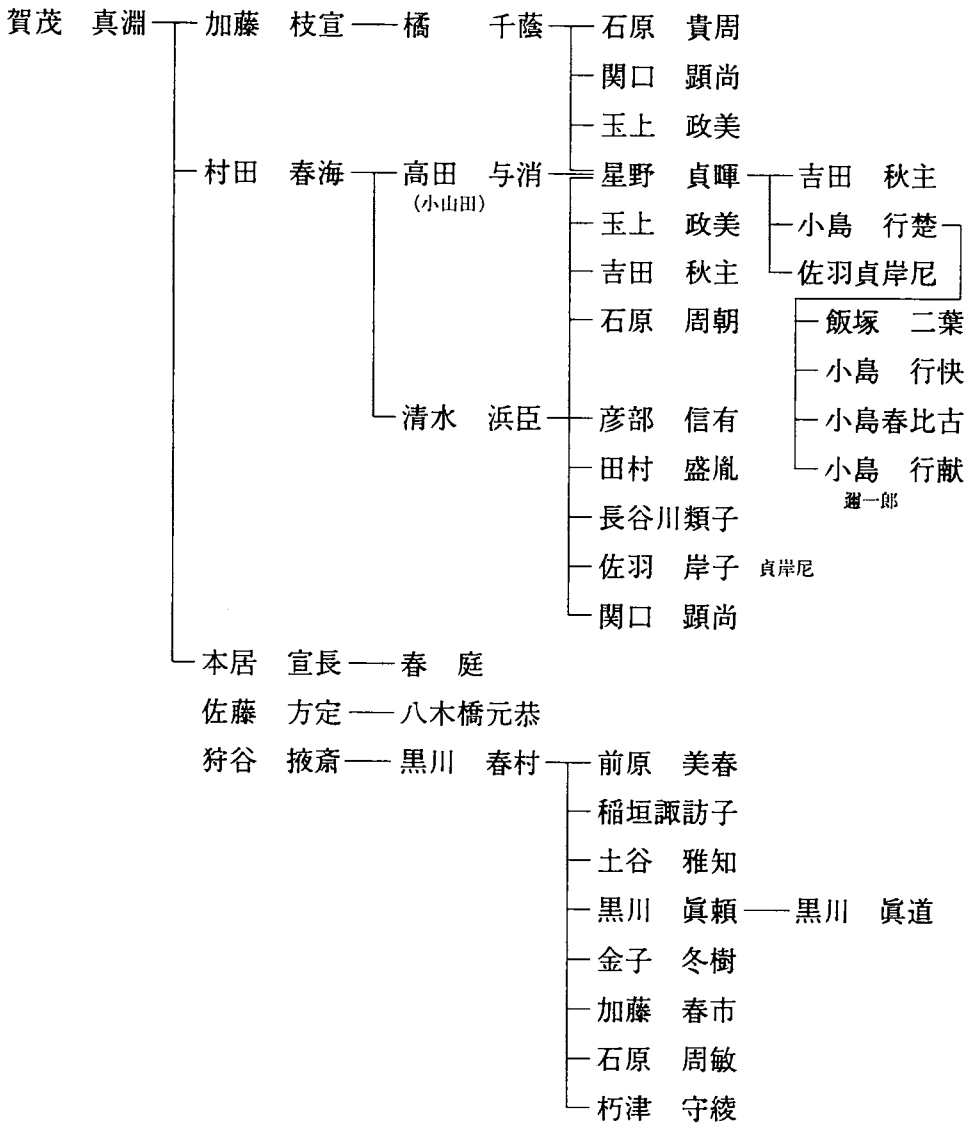
10　その他略系図

桐生新町は絹織物の生産・流通を通して繁栄し、とりわけ多くの文人を輩出していく。特に江戸の文人たちとの交友も深く、文化年中（1804～1818）には絶頂期をむかえる。

【国学者歌人学統表】



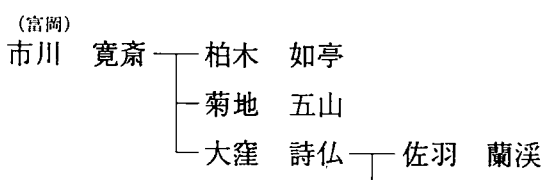




【漢学・漢詩】

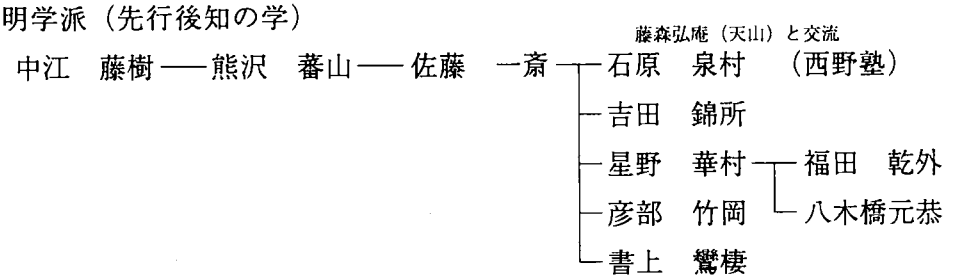
江戸期における学術思想については、幕府の正学一辺の朱子学に対抗して、学問の自由を叫び私学興隆の時期でもあった。特に庶民に影響を与えたのが次の三派であった。

○ 朱子学派（先知後行の学）

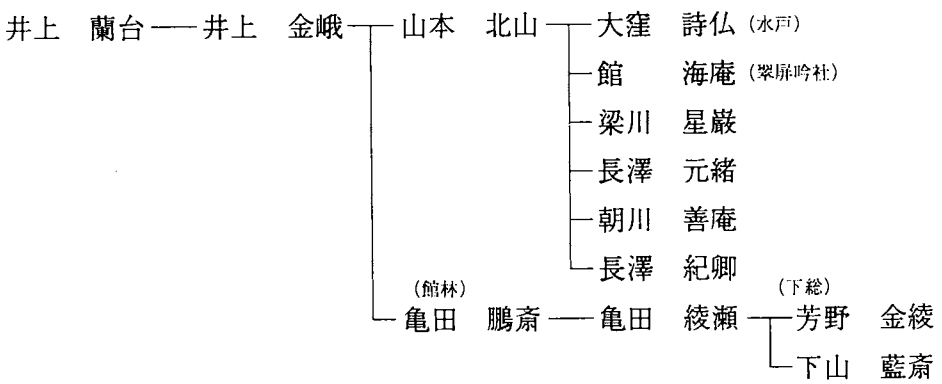


佐羽　淡斎
下山　藍斎
粟田　逸斎

○ 陽明学派（先行後知の学）



○ 折衷学派（採長補短の学）



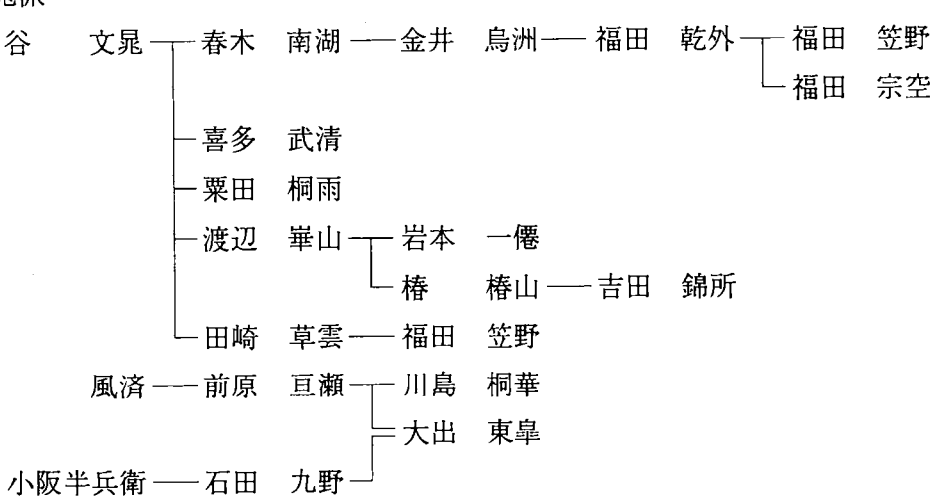
【絵　画】

桐生における絵画は文化・文政期に爛熟期をむかえ、狩野派・土佐派・南宋画・浮世絵・西洋画など画人も多く輩出した（『桐生市史』）。

○ 土佐派

土佐　経隆 …… 堀越養拙斎

○ 文晁派



【書　家】

桐生新町においても江戸期において何人かの書家を輩出した（『桐生市史』）。

○唐様（武士・詩家・儒者・僧侶の間で流行）

①広沢流

北島　雪山 ── 細井　広沢 ┬ 三井　親和 ┬ 長沢　紀卿
　　└ 沢田　東江 ┬ 長沢　是水
　　（東江源鱗）　└ 八木橋元恭

②菱湖流

亀田　鵬斎 ── 巻　　菱湖 ┬ 大竹　将塘 ── 望月　快三
　　└ 中沢　雪城 ── 大出　東皐

○和様（歌人・公卿・国学者の間で流行）

御　家　流 ── 尊　朝　流 ── 滝　本　流 ── 千　蔭　流 ┬ 吉田　秋主
（尊円法親王）　　└ 小島　行楚

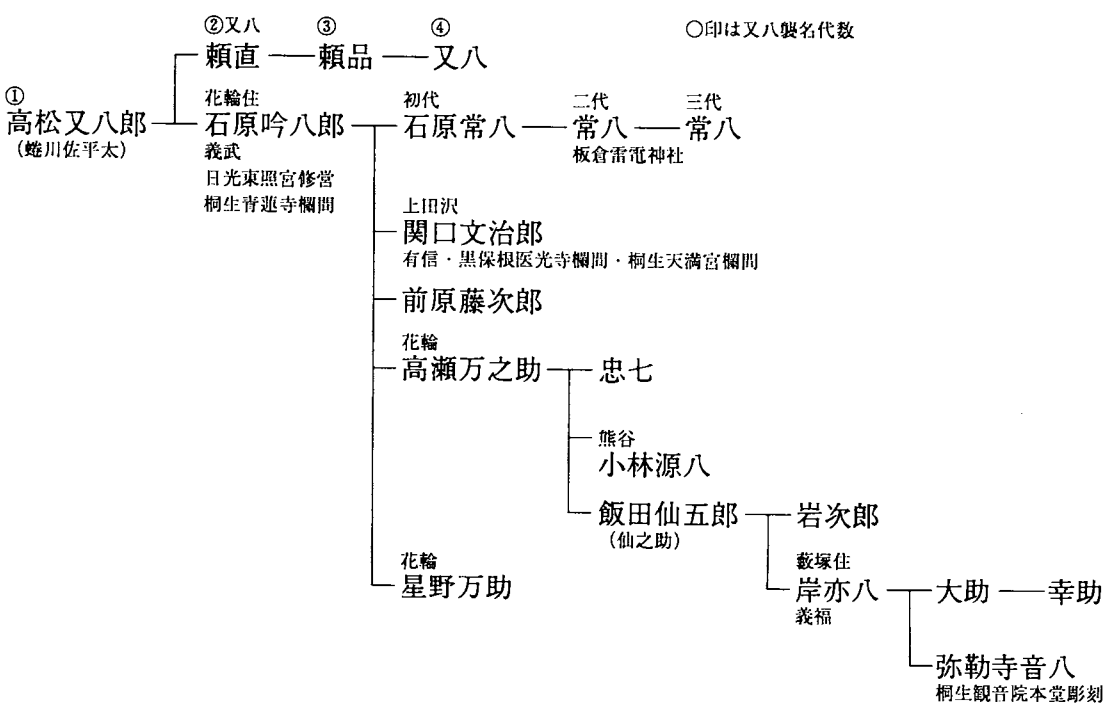
【織紋・図案】

京都西陣織師　　花本を制作　　村松

小阪半兵衛 ┬ 石田　九野 ┬ 岡島　梅痴 ── 彦部忠吉郎
　　└ 笠原　吉郎 ┘ 荻　　圃　　（後の九野）

【彫　刻】

桐生地方における近世社寺の彫刻は、日光東照宮造営後、勢多郡花輪に住した石原吟八の流れが中心である。



（眞下和雄「江戸期北関東の彫刻御系図」より）

後　記

この度、桐生市制施行 80 周年・水道創設 70 周年記念事業の一環として、『桐生市歴史年表』を発行する事が出来ました。私たち図書館ボランティアの資料部会では,以前『桐生織物史年表』を作成した経験があり、今回も安易な気持ちでお受けし、平成 12 年 9 月から年表部会として会合を重ね準備に入りましたところ、思いもよらず大変な作業となってしまいました。

まず、この歴史年表が活用する人にとって親しみやすく、わかりやすく、また使いやすくすることを念頭に置きながら、『群馬県史年表』をベースに元桐生市立図書館長の故堀越靖久氏が編集されたか『桐生市史別巻年表』から引用し、最近の事項については、地元新聞である上毛新聞および桐生タイムスの記事から抜き出し、項目ごとに検討を加えてまいりました。これが意外と時間がかかりましたが、今となっては楽しい一時でもありました。

記載にあたっては、私たちの持てる力を駆使し、家事の合間をぬって、また、余暇を楽しみながらパソコン入力をしました。新たに追加する事項も多くあり、また訂正する個所もあり充実したものとなりました。力不足や不備な点も多々あるかと思いますが、出きるだけ他の年表類との照合をしながらようやく作業を終えることができました。桐生市立図書館の職員をはじめ、多くの先生のご指導とご協力をいただき、本当に有難うございました。

終わりに、この年表が多くの市民に活用されることを望んで後記とします。

平成 14 年 3 月

図書館ボランティアの会　年表部会

相川和子・磯　栄子・沢井英子・周東優子・早川忠雄

資料協力／新居　宝・島田一郎・奈良彰一・堀越久美子

編集協力／大里仁一・島田一郎・清水照治・眞下和雄・山本輝通

写真協力／沢井信太郎

桐生市制施行 80 周年・水道創設 70 周年記念事業

桐　生　市　歴　史　年　表

2002（平成 14）年 3 月　発行

編　集　図書館ボランティアの会　年表部会

発　行　桐生市教育委員会（桐生市立図書館）

〒376-0022

桐生市稲荷町 6 番 2 号

TEL　0277-47-4341

FAX　0277-40-1070

印刷　　オグラ印刷

〒376-0002　桐生市境野町 6 丁目 1540-2

TEL(0277)44-1669　FAX(0277)44-1680

織姫神社の白瀧姫像

『PDF 版桐生市歴史年表』について

市制施行 80 周年を記念して平成 14 年 3 月に発行した『桐生市歴史年表』は、好評のうちに完売となり、その後購入を希望する方にご不便をおかけしていました。このため、図書館では多くの皆さんのご利用に供するため、『桐生市歴史年表』を電子化した『PDF 版桐生市歴史年表』を作成しました。

『PDF 版桐生市歴史年表』のご利用にあたりまして、下記事項をご確認ください。

記

・『桐生市歴史年表』は、年表中の事項の掲載時期を平成 13 年度末（2002 年 3 月）までとしていましたが、その後の出来事を追加し、平成 30 年までの出来事を掲載しました。
・『桐生市歴史年表』発行後に判明しました誤記等は、その後に発行した正誤表に記載してあるものを含め訂正しましたが、内容について誤謬等と思われるものがありましたら、図書館までご教示をお願いします。
・今後、加除訂正が必要であると判断した場合は、その時点で随時に修正を行います。
・参考資料中、更新できるものについては最新の内容に改めました。

以上

◆　　◆　　◆

≪凡例の追加≫

PDF 版作成にあたり以下の凡例を追加します。

・「丁目」の前の数字について、数字を含めて固有名詞と考えられるため本来であれば漢数字を使うべきところですが、スペースの都合上アラビア数字を使用しました。
・「○○番日記」は「書上家文書・○○番日記」の省略です。
・「長沢日記」は「長沢家文書・長沢日記」の省略です。
・「佐羽日記」は「佐羽家文書・佐羽日記」の省略です。
・「森口日記」は「森口家文書・森口日記」の省略です。

PDF 版桐生市歴史年表

発　行　日　令和元年 6 月 1 日
編集・発行　桐生市立図書館
桐生市稲荷町 1-4
(0277)47-4341